

# 研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係



# 第1章 研究抄録関係

## 1. 病院における研究

### <研究課題1>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

### <研究者氏名>

所属部 乳腺科部

研究者氏名 岩田広治

共同研究者 澤木正孝、服部正也、吉村章代、権藤なおみ、小谷はるる、安立弥生

### 【1年間の総括】

2019年度は、乳癌の周術期薬物療法について、あまり大きな進展はなかった。しかし転移再発乳癌で効果を示した免疫チェックポイント阻害剤やCDK4/6阻害剤などの、周術期での効果を検証したエビデンスが次年度以降期待される。

### 1：術後内分泌療法

報告：閉経前乳癌に対してはTAMの5年投与、リスクの高い方や年齢の若い方（35歳以下）にはLH-RHa+TAMの併用が標準治療として定着し、カンファレンスでも議論になることは少ない。内分泌療法の投与期間については、閉経前・後に関わらず、リンパ節転移陽性など再発リスクの高い方へは長期投与が標準治療と位置づけられるようになった。また、2019年度には当院で経験した症例を使った研究で、リンパ転移陰性で浸潤径の大きさが5mm以下の方は、内分泌療法を行っても無治療と長期予後に変わりがないことが明確になった。このことから再発リスクの少ないER陽性乳癌では、無治療経過観察が標準と位置付けている。2020年度には再発リスクの高い方へのCDK4/6阻害剤の位置づけが明確になることが期待されている。

### 2：術後化学療法に関する研究

報告：“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんにおける化学療法の適応を判断するOncotypeDXが世界標準として広く行われる時代に、2019年度時点で今だ日本での保険承認が得られず普及に至っていないのは残念である。High risk患者に対して術前化学療法を施行後non pCRであった方へのゼロダ投与が、既に標準治療と位置付けられるにいたっている。G-CSF併用によるdose-dense therapyが日本の中でもハイリスクの方への標準治療となりつつあるが、当院では有害事象とのバランスが悪く、現時点では標準治療としての導入は見合わせている。2019年度、術後化学療法の副作用によるQOL低下を予防する目的で、paclitaxelの末梢神経障害を軽減するためのsurgical gloveの有用性を検証する臨床試験や、脱毛予防のためのCool capの有用性を検証する臨床試験をin houseで実施した

が、いずれも科学的な有用性を示すことができなかった。

### 3：術後分子標的治療に関する研究

報告：術後Trastuzumab (T)1年投与が標準治療であることに変わりはないが、2019年度はリンパ節転移陽性の方では、術後Pertuzumab併用が標準治療として広く実施された。逆に再発リスクの低い方へのweekly Paclitaxel+Tレジメンが標準治療として確立した。2019年度は高齢者HER2陽性乳癌を対象に実施されたRESPECT試験（当院の澤木が試験責任医師）で、T単独治療が標準治療の化学療法+Tと比べて大きく劣ることはないと検証された。患者さんの全身状態などを鑑みて治療選択をすることが必要である。また2020年度には術前薬物療法後non pCRの方に対して、術後T-DM1が標準治療として保険適応になることが期待されている。

### 4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：2019年度も継続していくつかの試験が実施されている。

JBCRGでは術前内分泌療法+CDK4/6阻害剤(palbociclib)併用の医師主導試験を実施、JCOGではHER2陽性乳癌に対して化学療法+抗HER2療法でcCRになった症例での手術省略試験が開始された。免疫チェックポイント阻害剤(Pembrisumab)を化学療法と併用することで、TN乳癌のpCR率が改善して、18か月での再発抑制効果も検証されたKEYNOTE522試験が発表された。周術期治療に免疫チェックポイント阻害剤が導入される時代に入ったといえる。

今後は手術可能な乳癌に対しても、サブタイプに応じた術前薬物療法を積極的に実施して、効果による治療選択(response guide therapy：術後治療選択、非切除など)が標準治療となるような時代の流れを感じる。

### <研究課題2>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

### <研究者氏名>

所属部 臨床検査部

研究者氏名 谷田部 恭、細田和貴

共同研究者 長谷川かおり、尾関順子、徳升富美、村上裕美、薄木久進、藤田奈央、柴田典子

### 【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学検査部門では、検査所要時間(TAT)短縮のために高速凝固採血管(トロンビン添加)が有効であるかを検証した。

現在採用しているテルモ社製普通採血管は、採血してから15分静置して凝固させた後、3500rpm・6分遠心し、得られた上清で生化学項目を分析している。対象として、積水メディカル社製、及びニプロ社製の高速凝固採血管を使用し、20～50代の健常者10名の血液について、①血液を凝固させる性能、②測定項目への影響を比較した。①積水高速管は平均1.5分で凝固したが遠心後の血清に少量の赤血球を認めた。ニプロ高速管は凝固までに平均5分を要したが遠心後の血清にフィブリン析出や赤血球残渣を認めなかった。②高速凝固採血管と現行の採血管と比較し、当検査室で測定している全項目で有意差を認めなかった。以上より、高速凝固採血管は検査値に影響を与えることなく、現行より検体の前処理時間を約10分短縮することができ、TAT短縮に有効であることが確認できた。

血液検査部門では、EDTA-2K採血管を現行のゴム栓のものから、開栓時の血液の飛散を防止するためオーバーキャップに変更するための検討を行った。30名の被検者で、現行および2社メーカーの採血管で院内測定項目の結果相関、コスト面での検討を行った。ほとんどの院内測定項目について相関は良好であったが、A社でpro GRPが現行品よりやや高値を示した。また、2名の健常者から10本連続採血を行い各種項目の結果の検討をした。A社の採血管ではコストは低下するが、3件/10件中PLT Clump? (血小板凝集?)のフラグが付きやすい傾向があることが示された。やや大型の血小板を有する検体でこのフラグが付きやすく、血小板数もわずかに低値を示した。また、この採血管でpro GRPの測定も行うが、現行品よりやや高値を示したため、導入は難しいと考えられた。B社の採血管では、現行品との相関は良好でコストも低下する。今回の検討でB社のオーバーキャップのEDTA-2K採血管の導入を決めることができた。

生理検査部門では、2019年4月から12月に術前検査で乳腺USを行った114例において、腋窩リンパ節のエコー所見と手術後の病理結果を比較した。

114例中、①エコー所見なし・病理陽性(転移あり)が10.5% (12例) ②エコー所見あり・病理陽性が7.9% (9例) ③エコー所見なし・病理陰性(転移なし)が72.8% (83例) ④エコー所見あり・病理陰性が8.8% (10例)であった。このうち、術前化学療法を行っていない85症例についてみると、①エコー所見なし・病理陽性が8.2% (7例) ②エコー所見あり・病理陽性が7.1% (6例) ③エコー所見なし・病理陰性が82.4% (70例) ④エコー所見あり・病理陰性が2.4% (2例)であった。

エコー上で所見が見られなくても病理結果で微小転移を認めるものが少なからず存在する。微小転移をUSで見つけることは困難であるが、偽陰性が出るだけ少なくなるように注意深く観察し、エコーと病理結果がすべて同じでないことも念頭に今後も検査を実施していきたいと考える。

細菌検査部門では、2010年4月から2020年3月までの10年間に血液培養検体から分離された酵母様真菌107件を対象に、2010年から2014年の前期5年間62件と、2015年から2019年の後期5年間45件での菌種別検出状況についての検討を行った。

両期間ともCandida属の菌種別分離頻度は、Candida albicans、Candida parapsilosis、Candida glabrataの3菌種が

多く、この3菌種で約90% (両期間とも89%)を占めた。

前期5年間ではCandida albicansが最も多く29件(47%)、後期5年間ではCandida parapsilosisが15件(33%)で最も多かった。

前期5年間と後期5年間の比較では、Candida albicansの検出が29件から14件と検出の低下が認められたが、他の菌種では件数の差はほとんど認められなかった。

後期5年間での検出が最も多いCandida parapsilosisは、カテーテル感染の主要な原因菌になることが注目されており、MCFGなどのキャンディ系抗菌薬に低感受性との報告がある。

カンジダ血症は、がん患者など免疫不全者にとって重症感染症であり、早期に治療を開始することが重要であるが、各菌種に対する抗真菌活性が異なるため、起炎菌種に応じた抗真菌薬の選択が重要である。今後も抗真菌薬選択の一助となるよう血液培養の真菌分離状況を臨床側にフィードバックしていく必要があると考える。

病理検査部門では、パラフィンブロックを薄切する際、切片を浮かべる水槽に仕切り板を用い複数区画に分割し、その1区画に1ブロック2切片を浮かべていた。つまり複数の異なるブロックの薄切切片を同時にバッド内の水に浮かべた後にまとめてスライドグラスに貼付する方法で実施していた。効率の観点からは良い方法であったが、病理学会のガイドラインからは逸脱していたため、従前の方法を改めガイドラインを遵守した方法を検討した。結果、薄切切片を浮かべるバッドを切片が2～3枚しか浮かべることのできない小さなものに変更した。また、薄切装置や温浴槽、進展器の配置を変更し作業領域をコンパクトにした。現行法はガイドラインから逸脱せず、検体交差防止を保証でき、TATやコンタミネーション防止にも有用であった。病理部門は今後も常に検体交差防止に努め業務改善を継続していかなければならないと考える。

細胞診検査部門では、内部精度管理方法について検討した。細胞診検査は検査の性質、検査士の技量に依存する部分が多く、その精度を管理することは重要である。従来はフォトサーベイを用いた内部精度管理を行っていたが、実際のスクリーニング能力を反映した方法であるのか疑問が残る状態であった。そこで実際の婦人科標本を用いたブラインドチェックを内部精度管理として行った。その結果、すべての検査士が80%以上の正答率をしていることを確認でき、実際のスクリーニング能力を評価することが可能であった。また、見落としや判定の程度など検査士個人の傾向を認識でき、実際の検査業務に活かせる内容であったと考えられた。今後も、内部精度管理として、実際の検査能力を反映した力量評価方法について検討を行っていく。

遺伝子検査部門では、昨年度導入したマイクロサテライト不安定性検査、ユニバーサルスクリーニングについて大腸癌だけでなく他癌種での検査も要望があることから適応癌種の拡大と、体外診断薬として認可されている試薬キット導入について再度検討した。結果の再現性、従来法との比較では、ほぼ同等の結果が得られることを確認した。また、判定結果に大きな影響は見られなかったが、従来法より新試薬を使用したほうがPCRによる増幅が良いことが判明した。検査手順についての検討では、検体の状態により同じ濃度でもPCR増幅程度に

差があることが分かり、固定条件、臓器の状態が多様である多癌種の検査を実施するにあたり、新試薬キットの指示通り検体濃度を10ng/ $\mu$ Lではなく、10から20ng/ $\mu$ Lの範囲に調整したほうが検査結果を得られやすいことも判明した。これらの結果から、新キットの導入は臨床検査として有用であると判断し、2020年1月より導入している。年々開発される新規治療薬に対するコンパニオン診断としての遺伝子検査の重要性を常に認識し、情報を収集し、臨床側の要望に対応できるよう検討を続けている。

### <研究課題3>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Molecular diagnostics in the field of pathological diagnosis

### <研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部

研究代表者 谷田部恭、細田和貴

共同研究者 佐々木英一、村上善子、羽根田正隆、加藤省一、真砂勝泰、藤田史郎

### 【目的】

2019年9月より当院はがんゲノム医療拠点病院に認可され遺伝子パネル検査を開始した。324遺伝子を解析するFoundationOneCDx、あるいは114遺伝子を解析するNCCオンコパネルにより治療可能な遺伝子変異を検出し、速やかに患者に治療の提案を行うことががんゲノム医療の最大の目的である。次世代シーケンサーを用いた数百もの遺伝子のシーケンスの成功には病理組織の量と質の担保が最も重要である。当科ではこれまで、Foundation One Medicineにより解析された検体を用い病理学的な腫瘍細胞含有比率とシーケンスデータから推定される腫瘍細胞含有比率を照合することで、正確な形態学的腫瘍細胞含有比率の評価法について検討してきた(Mikubo et al., Journal of Thoracic Oncology 2019)。シーケンスの成功には腫瘍DNAの状態の評価が重要である。DNA品質は複数の要因により左右されるが、その状態を形態学的所見のみから推定するのは難しく、特に他病院から供与された組織標本を用いたシーケンスでは解析不成功に終わることも稀ではない。その際には遺伝子パネル検査を再提出することになり、最終的な結果を得るのに更に1か月かかることになる。DNAの品質と断片化を迅速かつ客観的に評価できる指標が望まれ、これに関する基礎的な検討を行った。

### 【方法】

MikuboらのFoundationOneMedicineに提出した検体を用い、DNA品質の解析を行った。検体は全て当院の症例で、日本病理学会が提示する最適なホルマリン固定条件を満たすものとした(ゲノム診療用病理組織検体取り扱い規程、2018)。ホルマリン固定パラフィン包埋組織よりDNAを抽出し、電気泳動法(Tape Station (Agilent))を用いDNAの断片化を検討した。

### 【結果】

解析に成功した92例の内訳は87例が外科切除材料、5例が生検・FNAであった。サンプルのシーケンスリード数中央値は1092で、サンプルより抽出したDIN値の範囲は1.7-6.2、中央値(四分位範囲)は2.8(2.3-3.2)であった。

### 【考察】

客観的な核酸の断片化評価を加えることでより正確な遺伝子パネル検査の成否の推定を可能にすると期待される。核酸の質判定の良い適応となるのは生検材料(少なからず不成功となることがある)、ホルマリン固定がやや長い手術症例(固定時間72時間以上)、および他院から供与された組織である。今後は遺伝子パネル検査に不成功な症例についても検討し、より正確な判定閾値の設定を行うことで検査としての有用性を検証する。

## 2. 研究所における研究

### がん情報・対策研究分野

#### < 研究課題 > 1

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究

(副題) 住民ベースのがん登録情報の活用したがんの相対生存率の経年変化の検討

#### < 研究者氏名 >

尾瀬 功、伊藤秀美、松尾恵太郎、伊藤ゆり<sup>1)</sup>

#### 【目的・概要・進捗状況】

肺がんは組織学的に、小細胞肺癌 (SCLC; small cell lung cancer) と非小細胞肺癌 (NSCLC; non-small cell lung cancer) に大別される。これらのがんは生物学的に異なるため、それぞれ治療法や予後が異なる。臨床研究において肺がん全体あるいは組織型別の生存率が報告されているが、対象者が状態の良い患者や特定の病院における患者に偏っていて、必ずしも一般集団における患者の予後を反映しているとは限らない。一方、地域がん登録から得られる情報は、その悉皆性の高さから一般集団をよく代表するとされており、このデータを活用することで、日本の一般集団における肺がん患者の予後の実態を把握することができる。

まず我々は、地域がん登録データを活用し、SCLC 患者の生存率の経年変化を評価した。1993年から2006年の間にSCLCと診断された患者の情報を、6府県(山形、宮城、福井、新潟、大阪、長崎)の地域がん登録より得た。2011年12月31日までの生存確認調査により、対象者は少なくとも診断から5年目までは追跡されている。SCLCの治療の変遷に従い、1993-1998年(期間1)、1999-2001年(期間2)、2002-2006年(期間3)の3期間の相対生存率(RS; Relative survival)の変遷を評価した。10年生存率はcohort法とperiod法を用いて計算した。がん登録情報が保有する臨床進行度のうち、限局と所属リンパ節転移を限局期(LD; limited disease)とし、遠隔転移を進展期(ED; extensive disease)とした。予後の変化を評価するためにExcess mortality modelによる多変量解析を行った。さらに、診断から1年から5年経った患者の条件付きの5年相対生存率(CS; Conditional survival)も算出した。

本研究の解析対象者は、10,911名のSCLC患者だった。期間1から3における限局期のSCLC患者(LD-SCLC)の5年RSは、それぞれ16.8%、21.1%、21.4%だった。また、期間1から3の進展期のSCLC患者(ED-SCLC)の5年RSは、それぞれ2.3%、2.8%、2.7%だった。期間1と比較した期間2および3の5年相対生存率の改善は、LDおよびED-SCLC患者ともに有意で( $P < 0.001$ )、期間1から2にかけてSCLC患者の予後は改善していた。

またCSを算出したところ、LD-SCLCの5年RSは、診断から0年の患者では21%であったが、診断から5年経過した患者では73%に増加していたが、ED-SCLC患者の5年RSは0

年で3%、5年で53%であった。

SCLC患者の予後は1999年から2001年にかけて改善し、2002年から2006年にかけてプラトーに達し、有意な改善は見られなかった。LD患者における改善は、新しい放射線化学療法導入時期と一致していた。また、ED患者における改善は、支持療法や緩和医療の発達によるものかもしれない。

#### 【今後の方向】

本研究のように、悉皆性の高い人口ベースの情報を活用し治療の変遷を軸に生存率の変化を評価する方法により、偏りのない一般集団において治療法の変遷が予後に与える効果や治療を観察することができることが分かった。よって、今後は非小細胞肺癌をはじめ、乳がんなど他の臓器のがんにおいて、同様の手法により、医療の発達による予後の改善を人口レベルで評価していく予定である。また、昨年度から取り組んでいるが、引き続き人口動態統計死亡情報を用いて、医療の変遷が死亡に与える影響を評価していく予定である。

<sup>1)</sup> 大阪医科大学

#### < 研究課題 > 2

(主題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信

(副題) Funnel plot法による医療レベル格差の視覚化

#### < 研究者氏名 >

山口通代<sup>1)</sup>、小柳友理子、谷山祐香里<sup>1)</sup>、伊藤秀美

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん医療の均てん化を進めるためには、がん患者生存率の医療圏間格差を正確に把握し、地域のがんの実態に即したがん対策を実施する必要がある。本研究では、胃がんを対象に、診断時年齢(以下、「年齢」という。)及び臨床進行度分布(以下、「進行度」という。)を調整因子ならびにとし、Funnel Plot法を用いて5年相対生存率の医療圏間格差を評価した。

愛知県がん登録に登録されている2005-2009年に診断された胃がん患者19,414名を解析対象とした。胃がん患者の住所に基づき医療圏別に層別し、ポワソン回帰モデルを用いて算出した相対生存率から、診断から5年以内の過剰死亡ハザード(EH: Excess hazard of death)を推計した。過剰死亡ハザードは、年齢分布と進行度分布を調整しない粗過剰死亡ハザードと、調整した調整過剰死亡ハザードを推計した。医療圏ごとの過剰死亡ハザードを、Funnel Plotを用いて散布図を描画して比較した。過剰死亡ハザードのばらつきを視覚的に評価するため、日本全国の平均過剰死亡ハザードを基準値とし、その95%及び99.8%信頼区間を描き、信頼区間から逸脱した医療圏の同定を行った。

男性の胃がん患者の粗過剰死亡ハザードは、7つの医療圏において、日本全国の胃がん患者に比べて高かったがその他の医

療圏では差がなく、愛知県在住の男性胃がん患者の生存率には医療圏ごとに格差があることが分かった。しかし、年齢と進行度で調整すると7つの医療圏において格差は消失したため、観察された過剰死亡ハザードの差は、早期発見・早期治療の差に起因するものと考えられた。また、女性においては、年齢・進行度を調整しても、Funnel Plot上、過剰死亡ハザードの格差は消失しなかったため、調整過剰死亡ハザードが高い医療圏においては、癌治療や受療動向に起因した生存率の格差が存在することが分かった。

#### 【今後の方向】

今後は以下の事に取り組む予定である。

- 1) Funnel Plotによる医療レベルの格差の視覚化は、その要因を探求するのに役立つ。よって、地域がん登録情報を用いFunnel Plot法により地域がん診療連携拠点病院の医療レベルの格差の視覚化を試みる。
- 2) 愛知県下の地域がん診療連携拠点病院における院内がん登録情報を軸として、医療レベルの格差の要因を探索し、成果を各医療機関に還元していく予定である。
- 3) 重点プロジェクトで整備しているがん情報基盤を活用して得られた成果を県民に発信する仕組みを開発する。

<sup>1)</sup> 研修生

### がん予防研究分野

#### <研究課題> 1-1

(主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

(副題) 消化管がんの飲酒発がんの背景メカニズムに迫る大規模分子疫学研究

#### <研究者氏名>

小柳友理子、鈴木越治<sup>1)</sup>、井本逸勢、春日井由美子、尾瀬 功、鶴飼知高、岩瀬まどか<sup>2)</sup>、碓井喜明<sup>2)</sup>、川勝雪乃<sup>2)</sup>、澤部 倫、平山 裕、田中 努、安部哲也、伊藤誠二、小森康司、花井信広、田近正洋、清水泰博、丹羽康正、伊藤秀美、松尾恵太郎

#### 【目的・概要・進捗状況】

アルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2 rs671、Glu504Lys) の遺伝的多型は、アルコール摂取後の発がんに寄与する事が知られる。一方、ALDH2 Lys アリルは、アセトアルデヒド関連の副作用によってアルコール消費を減らすことを通じて、アルコール誘発性発癌に対する保護効果をもたらす事が想定される。本検討では、媒介分析を頭頸部、食道、胃、小腸、および大腸癌の5つの臓器に関する症例対照研究に適用した。大規模病院疫学研究 HERPACC の第2期、第3期に参加した対象者より4,099名の症例と性・年齢適合した6,065名の非がん対照を用いて、アルコール摂取の、消化管の発癌に及ぼす影響の異質性

を検討した。具体的には、ALDH2 Lys アリルが消化管癌リスクに及ぼす全体的な影響を、発癌作用(直接作用)と保護作用(飲酒行動を介した間接作用)の2つの相反する作用に分解して評価を行った。

アルコールは小腸がんを除く消化管がんのリスクの増加と関連していた。統計学的に有意な直接効果は上部消化管がんのリスクについてのみ観察されたが、その効果の大きさは部位によって大幅に異なっていた。アルコール1日消費量10g当たりの発がんオッズ比(95%信頼区間)は頸部癌では1.83(1.43-2.36)、食道癌では21.15(9.11-49.12)、胃癌では1.65(1.38-1.96)であった。大腸がんでは直接効果が認められなかった事は特筆すべき結果であった。一方、間接効果に関しては、小腸がんを除くすべての部位のがんにおいて、統計学的に有意な保護的作用を認めた。

本研究結果は、アルコールが小腸がんを除く消化管がんの主要な危険因子であることを示す一方、アセトアルデヒド経路の発癌は部位によって大きく異なる事が明らかとなった。また、ALDH2 Lys アリルによる飲酒忌避行動により、小腸以外の何れの消化管がんもリスクが低下する事が明らかになった。

#### 【今後の方向】

大腸がんのアルコール発がんが、アセトアルデヒド以外のかかるメカニズムで起きているかを明らかにする事が必要である。また、ALDH2以外のアルコール代謝関連酵素に関して本研究同様媒介分析を適応することで、より詳細な個人のアルコール由来発がんリスクの差異を評価する研究を展開する必要がある。

<sup>1)</sup> 岡山大学医学部、<sup>2)</sup> リサーチレジデント

#### <研究課題> 1-2

(主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

(副題) PSCA 遺伝子多型の十二指腸潰瘍への影響の検討

#### <研究者氏名>

碓井喜明<sup>1)</sup>、尾瀬 功、鶴飼知高、小柳友理子、伊藤秀美、若井建志<sup>2)</sup>、松尾恵太郎

#### 【目的・概要・進捗状況】

十二指腸潰瘍と胃癌はどちらもピロリ菌感染症に関連する疾患である。臨床的にDU患者は胃がんのリスクが低いことが知られている。これまでの疫学研究において、PSCA rs2294008 (C>T) の T アレルが胃がんの危険因子である事を報告がなされている。機能解析により、PSCA 多型の C アレルにおいて短い PSCA が形成され、PSCA 分子の細胞内局在が変化する事が発がんにつながる事が判明している。興味深い事に、本多型の C アリルは、十二指腸潰瘍および胃潰瘍のリスクと関連する事が報告されたが、消化性潰瘍に関する検証研究はこれまでに無く、また、PSCA 多型が、喫煙、飲酒、ピロリ

菌感染などの環境要因と交互作用を持つかに関する検討もない。本研究は、本邦の大規模分子疫学コホートである日本多施設共同コホート (J-MICC) のデータを用い、前述の課題を検討した。J-MICC より、十二指腸潰瘍の既往を持つ 584 名、ga 胃潰瘍の既往のある 925 名、何れの既往もない 8,105 名を対象として、PSCA 多型の影響を検討した。PSCA rs2294008 C アレルは、十二指腸潰瘍のリスクと関連していた【オッズ比 1.34 (95% CI, 1.18-1.51; P = 2.28 × 10<sup>-6</sup>)】。この関連は、年齢、性別、研究場所、喫煙習慣、飲酒習慣、ピロリ菌の状態による修飾を受けなかった。一方、胃潰瘍のリスクと PSCA SNP との関連は認めなかった。本研究より、PSCA rs2294008 C アレルは、日本人集団における消化性潰瘍の独立した遺伝的リスク要因である事が明らかになった。

#### 【今後の方向】

がんの予防を考える上で、がんのリスク要因の周辺疾患への影響の大きさを知ることは、総合的な健康管理を目指す上で必要であり、今後も適宜必要な課題を設定し検討する必要がある。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 名古屋大学医学部

#### <研究課題> 1-3

- (主 題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明
- (副 題) ALDH2 多型の乳がんリスクへの影響：乳がん疫学国際コンソーシアムによる検討

#### <研究者氏名>

鶴飼知嵩、Roger Milne<sup>1)</sup>、Douglas Easton<sup>2)</sup>、松尾恵太郎

#### 【目的・概要・進捗状況】

数多くの疫学研究において、飲酒が女性の乳がんの独立した危険因子であることが一貫して示されてきた。アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2) 遺伝子多型 (rs671 : Glu> Lys) はアセトアルデヒド代謝に強い影響を及ぼすが、rs671 と乳がんリスクの関係およびそのアルコール摂取との相互作用は完全には解明されていない。本研究では、乳がん疫学国際コンソーシアムに参加のアジア人女性に関する個別データを用い、14 件の症例対照研究を統合的に解析した。浸潤性乳がん 12,595 症例並びに、12,884 名の非がん対照が解析対象集団であった。飲酒と rs671 の相互作用の解析に関しては、アルコール摂取情報が得られる浸潤性乳がん 2,849 症例と 3,680 名の非がん対照データを用いた。

rs671 の Lys / Lys 遺伝子型は、乳がんリスクと正の相関を示した (OR = 1.16, 95% CI 1.03-1.30, p = 0.014)。Lys / Lys 遺伝子型は特に、エストロゲン受容体 (ER) 陽性乳がん (OR = 1.19, 95% CI 1.05-1.36, p = 0.008)、プロゲステロン受容体 (PR) 陽性乳がん (OR = 1.19, 1.03-1.36, p = 0.015)、ヒト上皮成長因子受容体 2 (HER2) 陰性乳がん (OR = 1.25, 95% CI 1.05-1.48, p = 0.012) と関連を示した。rs671 とアルコール

摂取の間に遺伝子環境要因相互作用は認められなかった。本研究より、Lys / Lys 遺伝子型が、アジア系の女性の乳がん、特に ER 陽性、PR 陽性、および HER2 陰性の乳がんに対する感受性を高める事を示した。

#### 【今後の方向】

乳がんの飲酒発がんに関する国内のエビデンスは少なく、更なる検討を進める必要がある。

<sup>1)</sup> メルボルン大学、<sup>2)</sup> ケンブリッジ大学

#### <研究課題> 1-4

- (主 題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明
- (副 題) 喫煙と飲酒の食道がんリスクに対する交互作用の検討：国内 8 コホートのプール解析

#### <研究者氏名>

尾瀬 功、伊藤秀美、井上真奈美<sup>1)</sup>、松尾恵太郎

#### 【目的・概要・進捗状況】

喫煙と飲酒は食道がんの確立されたりリスク要因である。これまで、幾つかの症例対照研究において両曝露の間に疫学的な相互作用がある事が示されて来た一方、前向き研究による検討はなされていなかった。本研究では、日本で大規模な集団ベースのコホート研究のプール分析を実施し、この疑問点に迫った。対象者は、8 つのコホート研究の男性 162,826 人である。これらのうち、954 名に前向きに食道がんの発生が確認された。通常検討される相乗的な相互作用のみならず、相加的相互作用も併せて検討した。また、相互作用を考慮した人口寄与危険度 (PAF) m を併せて検討した。

喫煙歴の有無、飲酒歴の有無、およびそれらの組み合わせの HR は、それぞれ 2.92 (1.59-5.36)、2.73 (1.78-4.18)、および 8.86 (4.82-16.30) であった。喫煙と飲酒の相互作用は、相加的検討では統計学的有意に陽性であったが、相乗的な検討では無かった。喫煙、飲酒のそれぞれ 3 段階評価による、喫煙と飲酒の組み合わせ効果は、前記同様、相加的な場合のみ有意差を認めた。また、喫煙歴、飲酒歴、およびそれらの組み合わせによる PAF は、それぞれ 55.4%、61.2%、81.4% であった。

本研究は大規模な前向き研究の結果であり、そのデータにおいて喫煙・飲酒の間に明らかな相互作用がある事を示した事は、今後の食道がん予防を検討する上で意義がある。一方、PAF の値より、喫煙・飲酒の何れも、単独でやめた場合にもかなりの予防効果があることが明らかになった。

#### 【今後の方向】

単一の曝露要因のみならず、複数の曝露要因の組み合わせた発がんへの影響を明らかにする事は、現実的な予防を考える上で重要である。



1) 国立がん研究センター

## <研究課題> 2

(主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明研究の結果に基づく個別化予防プログラムの開発

## <研究者氏名>

松尾恵太郎、尾瀬 功、春日井由美子、岩瀬まどか、川勝雪乃、小柳友理子、伊藤秀美、井本逸勢

## 【目的・概要・進捗状況】

愛知県がんセンター大規模病院疫学研究 HERPACC をベースに、日本医療研究開発機構研究費、重点プロジェクト研究費による研究結果と連動させながら、頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・肺・造血器腫瘍に関して、環境要因、遺伝子多型、遺伝性腫瘍原因遺伝子変異の単独、あるいは組み合わせ効果の大きさと、人口寄与危険度の大きさを評価し、生涯リスクの推計などを通じた予防プログラムの開発に取り組んでいる。各評価において、がん情報・対策研究分野や分子遺伝学分野と連携し、より精度が高く、応用性の高いものを目指す。

## 【今後の方向】

現プロジェクトを継続していく。

## 分子遺伝学分野

### <研究課題> 1

(主題) 統合的ゲノム・エピゲノム・トランスクリプトーム解析による新規がん関連遺伝子の同定と機能解析  
(副題) 胃がんにおける新規がん促進遺伝子 *CLDN6* の同定と分子機序の解明

## <研究者氏名>

河本知大<sup>1) 2)</sup>、増田清士<sup>3)</sup>、大辻英吾<sup>4)</sup>、井本逸勢

## 【目的・概要・進捗状況】

胃がんは、未だ分子標的となるドライバー遺伝子異常に乏しい難治性がんであり、予後診断や治療法の開発には新たなドライバー遺伝子の同定が喫緊の課題である。われわれは、既に、公共データベース (TCGA) から入手した胃がんの RNA シーケンスによる網羅的遺伝子発現データの解析から、がん部で非がん部に比べて発現が高く、かつがんでの高発現が全生存期間の短縮と関連する遺伝子の抽出を行い、*Claudin-6*(*CLDN6*) をがん促進遺伝子候補として同定していた。*CLDN6* は、mRNA レベルで非がん部で多くの胃がんでは発現が極端に低いのに対して、主に intestinal type の胃がんで高発現する Subgroup を認めた。この Subgroup は極端に予後不良であるとともに、

多変量解析により独立した予後因子となっていた。同様の所見は、公共データベース (GEO) 中のマイクロアレイによる網羅的遺伝子発現データでも再現された。独自の胃がん検体を用い、蛋白発現を免疫染色で検討すると、intestinal type でのみ発現が認められ、かつ高発現例は予後不良であった。*CLDN6* 高発現細胞株に対して siRNA を用いて *CLDN6* をノックダウンすると、細胞の増殖、運動、浸潤が抑制された。同条件での網羅的遺伝子発現解析結果をエンリッチメント解析することで YAP/TAZ-TEAD 転写調節複合体の下流標的遺伝子群が有意に発現低下していることが見出され、これが YAP 遺伝子の転写レベルでの発現抑制によることが明らかになった。*CLDN6* は、細胞外からの介入の容易な細胞膜に局在する分子をコードし、少なくとも一部はがん遺伝子 YAP の下流のエフェクター遺伝子の活性化を介して特定の胃がん亜型の悪性化に促進的に働く新たな胃がん促進遺伝子であり、診断マーカーや治療標的となり得ると考えられた。この結果は、国際専門誌 Gastric Cancer に報告した。

## 【今後の方向】

公共データベースの遺伝子発現データを用いた重層的な解析と自験例を用いた蛋白発現解析、機能解析を組み合わせたことにより、効率よくがん関連遺伝子が同定できることが示された。また、*CLDN6* が YAP の転写活性化を引き起こす機序は不明であり、相互作用する蛋白のスクリーニングなどの手法でパスウェイを解明したい。

1) 研修生、2) 徳島大・医学部、3) 川崎医大、4) 京府医大

### <研究課題> 2

(主題) 生殖細胞系列変異のがん発症に及ぼす影響の解明と発がんリスクフィードバック法の開発・評価  
(副題) 日本人卵巣がんにおける BRCA1/2 遺伝子の病的バリエーションの検出

## <研究者氏名>

阿部彰子<sup>1)</sup>、河本知大<sup>1)2)</sup>、増田清士<sup>3)</sup>、井本逸勢

## 【目的・概要・進捗状況】

国内の遺伝性腫瘍の原因遺伝子の病的バリエーションの保持者頻度やがん発症の浸透率、病態などは、未だデータが少なく、診療やサーベイランスに関するガイドライン、ガイダンスも未整備のものが多い。われわれは既に慶應大学病院の婦人科がんのバイオバンクを用いた共同研究により、卵巣がん (卵管がん、腹膜がんを含む) 患者 230 例中の遺伝性卵巣がんの原因遺伝子の頻度 (BRCA1/2 で 27 例、11.8%) や病態との関連を報告してきた。徳島大学病院の婦人科においてフォローされる卵巣がん患者全例に説明の上、研究参加に同意が得られ適格基準を満たした患者 123 名を対象に *BRCA1/2* を含むパネルまたは *BRCA1/2* 単独での遺伝学的検査を実施した。*BRCA1/2* の病的バリエーションの検出率は 19 例 (15.2%) で、国内における新規診断を受けた上皮性卵巣がん、原発性腹膜がん、卵管がん症例の

BRCA 遺伝子変異の保有率を把握することを目的に行われた Japan CHARLOTTE study での 634 例の解析結果での *BRCA* 遺伝子の病的バリエーション陽性率 14.7% と同等であった。慶應大学病院症例では *BRCA1* が *BRCA2* に比べて多かった (19 例対 8 例) のに対し、徳島大学病院症例では逆の結果 (6 例対 13 例) であった。*BRCA* 病的バリエーション陽性例は、組織型では高異型度漿液性がん、進行度では Stage III 以上で多く、これらの特徴は Japan CHARLOTTE study での結果と一致していた。また *BRCA* の病的バリエーション陽性例の半数で明確な家族歴はなかった。

#### 【今後の方向】

日本でも人口集中地域である東京 (慶應大学病院) と人口減少地域である徳島 (徳島大学病院) の、サンプリングバイアスが比較的少ないと考えられる 2 つの卵巣癌患者コホートを対象にした生殖細胞系列の遺伝子バリエーション解析により、欧米での報告と変わらない頻度で *BRCA1/2* の病的バリエーションを検出した。今後、重点プロジェクト研究で行う愛知県がんセンターの病院コホート (HERPACC) を対象にした症例対象研究により、*BRCA1/2* を含めた遺伝性腫瘍症候群原因遺伝子の病的バリエーションの卵巣がん患者ならびに一般健常者での保持者頻度や臨床的特徴の解明を進めていきたい。

<sup>1)</sup> 徳島大・医学部、<sup>2)</sup> 研修生、<sup>3)</sup> 川崎医大

### がん病態生理学分野

#### < 研究課題 > 1-1

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副題) 腸管腫瘍形成における MyD88 経路の役割の解析

#### < 研究者氏名 >

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん抑制遺伝子である *Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス (以下 *Apc* 変異マウス) では、APC の機能欠損の結果 Wnt 経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長には Wnt 経路の活性化に加えて、JNK による mechanistic target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすことなどを報告してきた。その後、我々はこれまでに、JNK の活性化を引き起こす因子の一つとして IL-1 $\beta$  を見出し、マウス腸管組織由来オルガノイド培養とヒト大腸がん細胞株を用いた解析から、IL-1 $\beta$  による JNK の活性化は *Apc* に変異が生じた細胞においてより強く引き起こされることを明らかにした。また、IL-1 $\beta$  シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能を腸管上皮特異的に欠損させたところ、*Apc* 変異マウスにおける腸管ポリープ形成数が減少し、JNK-mTORC1 経路の活性化が減弱していた。そして、このポリープ数の減少は、細胞増殖の減少とアポトーシスの増加

によることを示唆する結果を得た。一方、MyD88 の機能欠損によるアポトーシスは、腫瘍上皮細胞では誘導されるが、正常腸管上皮細胞では誘導されず、MyD88 の機能欠損が *Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、合成致死を誘導する可能性が示唆された。この合成致死の分子機序について検討した結果、MyD88 の下流で NF- $\kappa$ B 経路が関与する可能性が示唆された。本年度は、合成致死の機序についてさらに詳細な解析を行うとともに、MyD88 の機能欠損による合成致死が *Apc* 変異以外の大腸がん関連遺伝子変異を併せ持つ腫瘍細胞でも誘導されるかどうか、マウス腸管組織由来オルガノイド培養を用いた検討を進めた。

#### < 今後の方向 >

進行中のマウス腸管組織由来オルガノイド培養を用いた合成致死性の検討を行う。ヒトの APC 遺伝子は家族性大腸腺腫症 (FAP) の原因遺伝子である。MyD88 の機能抑制による *Apc* 変異細胞の合成致死について、マウスの細胞だけでなくヒトの細胞でも同様の現象が見られるかどうか、FAP 患者の大腸正常およびポリープ組織より作成したヒトオルガノイド培養を用いて検討する。また、MyD88 の機能抑制による *Apc* 変異細胞の合成致死の分子機序についての解析を継続する。

<sup>1)</sup> 京大・先端医療研究開発機構

#### < 研究課題 > 1-2

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副題) 腸管腫瘍の悪性化における mTORC1 経路の役割の解析

#### < 研究者氏名 >

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、新聞秀一<sup>1)</sup>、曾我朋義<sup>2)</sup>、武藤 誠<sup>3)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである *Apc* 変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらに *Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ *cis-Apc/Smad4* マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤は mTORC1 阻害薬 everolimus および mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 に対して抵抗性である。前年度までに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンおよびその代謝産物である 1 メチルヒスタミンの蓄積を認め、mTOR 阻害薬とヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用投与により腺がん浸潤が抑制されることを見出した。本年度は、mTOR 経路阻害抵抗性大腸がんにおけるヒスタミン産生細胞を特定するため、質量顕微鏡を用いた解析を実施した。mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織において、ヒスタミンを含有する細胞集団が腺がん浸潤部に集積していることを確認した。これらの細胞集団は、腺がん上皮細胞とは異なる形態を呈していたことから、この先端部に集積する細胞を免疫染色により検

証した。その結果、c-Kit 陰性で F4/80 陽性であったことから、この細胞はマクロファージであることが明らかとなった。

#### 【今後の方向】

大腸がん臨床検体を用いてヒスタミンを産生するマクロファージを特定し、それらの集積度と大腸がんの悪性度との関連等を調査する予定である。

<sup>1)</sup> 大阪大・工学研究科、<sup>2)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所、

<sup>3)</sup> 京大・先端医療研究開発機構

#### < 研究課題 > 1-3

(主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副 題) 腸管腫瘍の成長における 2 型脱ヨード酵素 (DIO2) の役割の解析

#### < 研究者氏名 >

小島 康、今度ゆりこ、藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、  
武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症、および大腸がん初期段階のマウスモデルである *Apc* 変異マウスは、良性の腺腫性ポリープを発症する。トランスクリプトーム解析により、*Apc* 変異マウスの腸管腫瘍組織では、甲状腺ホルモンの局所活性化に重要な 2 型脱ヨード酵素 (DIO2) の発現が正常腸管組織に比べて上昇していることを見出した。そしてその発現上昇は、がん細胞ではなく、腫瘍組織の間質細胞で起きていることを明らかにした。脱ヨード酵素阻害剤であるイオパン酸を *Apc* 変異マウスに投与したところ、腫瘍の成長が抑制され、マウスの生存期間が延長した。また、甲状腺ホルモンの産生を抑える薬を投与した場合も腫瘍の成長は抑制されたことから、DIO2 による甲状腺ホルモンの活性化が腫瘍の成長を促進することが示唆された。イオパン酸を投与された *Apc* 変異マウスの腫瘍組織を解析したところ、腫瘍血管の密度が減少しており、甲状腺ホルモンが腫瘍血管の増生に関与する可能性が示された。大腸がんでは、COX-2 と呼ばれる炎症に関与する酵素が、腫瘍血管の増生に重要な役割を果たすことがすでに知られている。*Apc* 変異マウスに COX-2 の阻害薬を投与したところ、腫瘍組織での DIO2 の発現は抑制され、DIO2 が腫瘍血管の増生を促すこと、そして DIO2 の発現が COX-2 の制御を受けていることが示唆された。さらに臨床データを解析したところ、DIO2 は大腸がん組織で発現が上昇していること、そして腫瘍細胞ではなく腫瘍組織の間質細胞で発現していることがわかった。これらの結果から、大腸がんの微小環境において、間質細胞が強く発現する DIO2 が甲状腺ホルモンを活性化し、腫瘍血管の増生を促して腫瘍の成長に寄与することが明らかとなった。以上の成果を論文発表した。(Kojima Y, et al: *Cancer Science* 110 (8):2520-2528, 2019)

#### 【今後の方向】

DIO2 を特異的に阻害する化合物が開発されれば、大腸がんの腫瘍微小環境を標的とした新しい治療法の開発につながる事が期待される。

<sup>1)</sup> 京大・先端医療研究開発機構

#### < 研究課題 > 2-1

(主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副 題) 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニズムの解明と治療標的の同定

#### < 研究者氏名 >

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、小島 康、山口 類、  
青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを 100% の頻度で発症し、約 20% のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル (CKPS マウス) では、安定型  $\beta$ -catenin (Wnt 経路活性化) と活性型 *Kras* の発現、そして p53 と *Smad4* の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPS マウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。CKPS マウスの肝転移巣について全エクソームシーケンス解析を行ったところ、肝転移巣では上記 4 遺伝子以外に悪性化進展への関与が疑われる遺伝子変異は認められなかった。一方、CKPS マウスに由来するオルガノイド培養や細胞株は *in vitro* でスフェロイド形成能が強く、脾臓肝転移モデル (マウスの脾臓に細胞を注入して肝臓に転移させる) において非常に高い tumor initiating activity を持つことなど、がん幹細胞の性質を強く持つことが示唆された。

#### 【今後の方向】

現在、主に比較プロテオミクス的手法を用いて、転移・がん幹細胞性を制御する因子やシグナルの同定を進めている。同定された因子について、CKPS マウス由来オルガノイドや細胞株への過剰発現やノックアウトによる機能解析を行うとともに、大腸がん臨床検体での発現解析を実施する。

## <研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法の進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが20%の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス（CKPSマウス）の開発に成功した（前項）。このCKPSマウスは100%の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症するが、同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。このPiggyBacトランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入CKPSマウスと比較して、トランスポゾンを導入したCKPSマウスでは肝転移の頻度がおよそ2倍（約40%）に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法としてSemiquantitative transposon insertion site sequencing (Qiseq)を実施した。これまでに肝転移巣特異的な挿入部位が数百個同定されたので、それらの中から転移と関わりのある遺伝子を絞り込む作業を行なっている。

### 【今後の方向】

肝転移への関与が疑われる候補遺伝子についてアノテーション解析を実施し、オルガノイドや細胞株、大腸がん臨床検体を用いた検証作業を行う予定である。

## <研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子 HNRNPLL の機能解析

### <研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一<sup>1)</sup>、小森康司<sup>2)</sup>、清水泰博<sup>2)</sup>、細田和貴<sup>1)</sup>、谷田部 恭<sup>3)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

前年度に引き続き、新規大腸がん転移抑制遺伝子 HNRNPLL に関する以下のテーマに取り組んだ。

① HNRNPLL の新規同定スプライシング標的遺伝子 CTNND1

のアイソフォームの機能解析

前年度までに、HNRNPLL の発現低下によって p120-catenin をコードする CTNND1 pre-mRNA のエクソン B の skipping が促進することで、CTNND1 isoform 3AB の発現量が減少し、CTNND1 isoform 3A の発現量が増加することを見出した。エクソン B は核外移行シグナル配列を内包することから、これらのアイソフォームの局在から検討を開始した。それぞれのアイソフォームの C 末端に AcGFP を付加したものを DLD-1 細胞に強制発現したところ、予想通り isoform 3AB は核に局在せず、isoform 3A は核と細胞質の両方に局在した。上皮間葉転換 (EMT) に伴い発現が増加する isoform 3A の機能を解明するため、現在、核と細胞質にそれぞれ特異的な結合タンパクの同定を進めている。

② 大腸がん細胞の上皮間葉転換 (EMT) に伴う HNRNPLL の発現低下機序の解明

前年度までにおこなってきた HNRNPLL のプロモーター領域の解析に加え、今年度は、エンハンサー領域の解析を試みた。データベースから得た複数のエンハンサー候補領域の DNA 配列をクローニングし、レポーターコンストラクトを作成した。これまでに4つの候補についてルシフェラーゼアッセイをおこなったが、有意な転写活性は観察されなかった。HNRNPLL のプロモーター領域はエンハンサー活性も内包する可能性がある。

### 【今後の方向】

① 大腸がん細胞の浸潤転移における CTNND1 isoform 3A の機能を解明する。先述の結合タンパクからのアプローチと、遺伝学的手法によるアプローチによって解明を試みる。

② エンハンサー領域についての結論が得られ次第、論文投稿する。

<sup>1)</sup> 遺伝子病理診断部、<sup>2)</sup> 消化器外科部、

<sup>3)</sup> 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

## <研究課題> 2-4

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

### <研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一<sup>1)</sup>、細田和貴<sup>1)</sup>、谷田部 恭<sup>2)</sup>、青木正博

### 【目的・概要・進捗状況】

前年度同定した、肺腺がん細胞株 A549 の一次線毛発現制御候補分子 KATNAL2 についての解析を継続した。一次線毛と KATNAL2 の局在の関係を調べるため、C 末端に AcGFP を付加した KATNAL2 と C 末端に mCherry を付加した SMO を A549 に強制発現し、TGF- $\beta$  添加により一次線毛の発現を誘導した。結果、KATNAL2 は SMO-mCherry で描出され

る一次線毛の基底部、すなわち基底小体の付近に局在した。KATNAL2の同定時に用いた一次線毛の発現率が低いA549の亜株では、一次線毛の伸長が途中で停止した所見が電子顕微鏡で観察される。以上の所見はKATNAL2が一次線毛の伸長(elongation)に関与することを示唆するものである。

#### 【今後の方向】

次年度は、一次線毛発現におけるKATNAL2の役割や協調分子を詳細に解明する。また、肺腺がんの進展におけるKATNAL2や一次線毛の役割についても、臨床検体を用いた解明を進める。

<sup>1)</sup> 遺伝子病理診断部、

<sup>2)</sup> 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

#### <研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

#### <研究者氏名>

小島 康、三城恵美、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義<sup>1)</sup>、  
武藤 誠<sup>2)</sup>、青木正博

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルの解析に取り組んでいる。現在、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いている。1つは、cis-Apc/Smad4変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマSEKI細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2～3週間で著名な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。

前年度までに、我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して悪液質に関連性の高い変化をそれぞれ見出していた。令和元年度は、それらの解析結果を統合した解析を実施して悪液質の本態解明につながる可能性のある作業仮説を得た。また、前年度までに悪液質モデルマウス血漿から同定した因子に関しても、令和元年度は、臨床検体を用いたパイロット解析を実施して、その妥当性を確認することができた。

#### 【今後の方向】

メタボロミクスとプロテオミクスから導きだされた作業仮説について、より詳細な検証を実施する。悪液質発症に関連す

る可能性がある炎症関連因子について、臨床検体を用いた解析を本格化させる。

<sup>1)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所、

<sup>2)</sup> 京大・先端医療研究開発機構

#### 分子腫瘍学分野

##### <研究課題> 1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫細胞によるエントーチシス誘導はがん悪性化を促進する

##### <研究者氏名>

佐藤龍洋、関戸好孝

#### 【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫はアスベスト曝露を主な原因とする中皮細胞由来の希少がんであり、国内の年間死亡者数は1,500人を超え今もなお増加している。早期診断が難しいため診断時にはすでに病態が進行して外科的治療が困難なケースが多く、また既存の分子標的薬に対して耐性を示し、免疫チェックポイント阻害剤の奏効率も20-30%程度にとどまっている。このため、5年後生存率は10%以下と予後不良であり、早期診断や新規治療薬の開発が急務となっている。

悪性中皮腫は胸水の貯留を初期症状とすることが多く、胸水細胞診により悪性中皮腫を正確に診断することは早期診断法の開発に有効となる。胸水中に浮遊する悪性中皮腫細胞はその代表的な特徴として、細胞膜微絨毛の発達による細胞辺縁のぼやけ、細胞内封入像所見、2-8核程度の多核細胞の出現、細胞接着間におけるウィンドウの形成、などが観察される。しかし、これらの特徴を観察し悪性中皮腫を判定することは容易ではなく、また高度な知識や専門技術を要するなどから、現在、細胞診のみによる悪性中皮腫の鑑別はなされておらず、胸腔鏡を用いた所見等を合わせて総合的に診断が行われる。

当分野では最近、日本人患者より樹立した悪性中皮腫細胞株を用いて浮遊培養を行うことで、胸水細胞診所見と類似した細胞内封入像が観察できることを見出した。細胞内封入像とは、1つの細胞の中にもう1つの細胞が存在する所見を示す。このような像がどのようにして形成されるのか調べるためにタイムラプス顕微鏡を用いて観察を行ったところ、免疫細胞などに見られる貪食とは異なり、細胞が隣接細胞へと侵入するようにして細胞内封入像が形成されることが見出された。さらに共焦点レーザー顕微鏡を用いて観察したところ、2細胞間の境界面にE-cadherin-catenin複合体による細胞間接着が形成されていることが示された。これらの解析結果から、悪性中皮腫細胞株による細胞内封入像は、エントーチシスと呼ばれる反応により形成されていることが明らかとなった。

エントーチシスは、2007年に初めて報告された、主に同種のがん細胞で誘導される新しい細胞反応である。しかし、悪性

中皮腫細胞によるエントーチスについてはこれまで報告がなく、*in vitro*でのエントーチスの観察により、悪性中皮腫の早期診断法や新規治療法の開発が促進することが期待された。そこで当分野で様々な悪性中皮腫細胞株を用いてエントーチスの観察を行ったところ、細胞株によって細胞内封入像の形成率が異なることを見出した。この相違が起きる原因について検討するため、マイクロアレイ解析によるRNA発現量結果を再解析することとした。その結果、フィブロネクチン (FN1) 遺伝子量が細胞内封入像の形成率と有意に相関することを明らかにした。さらに、FN1発現量が高い患者群では、低い患者群と比較して患者予後が不良であることをThe Cancer Genome Atlas (TCGA) プログラムデータの解析により明らかにした。これらの結果から、エントーチスの高頻度の誘導はがんの悪性化を引き起こす可能性が示唆された。

#### 【今後の方向】

悪性中皮腫細胞の細胞内封入所見は古くから観察されてきたが、これが病態にどのような影響を及ぼすのかについてはこれまでに報告されていない。悪性中皮腫細胞によるエントーチスの解析は、新しい診断法や治療法の開発につながると期待され、さらに詳細に観察・検討していく必要がある。

#### <研究課題> 2

- (主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究
- (副題) 悪性中皮腫細胞におけるNF2-Hippoシグナル伝達経路異常の解析

#### <研究者氏名>

赤尾 謙<sup>1)</sup>、佐藤龍洋、向井智美、関戸好孝

#### 【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子産物 (転写産物はMerlinと呼ばれる) は細胞内の増殖抑制性のHippoシグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターであるYAP/TAZの活性を抑制する。悪性中皮腫細胞はNF2やHippoシグナル伝達系の構成因子をコードするLATS2遺伝子等の変異により約70%の症例でYAP/TAZが恒常的に活性化していることを当分野では明らかにしてきた。さらに、YAP/TAZはサイクリンD1、結合組織成長因子(CTGF)、インターロイキン1 beta 遺伝子を転写亢進することにより、中皮細胞に悪性形質を賦与することも明らかにしてきた。

当分野が樹立した、ヒト患者由来の悪性中皮腫細胞株パネ

ル30株および不死化中皮細胞株4株を用い、最近開発されたYAP/TAZ阻害剤に対する感受性について検討を行った。96wellプレートを用い、培養細胞を播種後1日目にYAP/TAZ阻害剤を様々な濃度で添加し、5日目にカロリメトリックアッセイにて吸光度を測定して細胞増殖能を測定した。その結果、MSTO-211H株やY-MESO-9株などYAP/TAZ阻害剤に高度感受性を示す細胞株が認められる一方、MeT-5A株、ACC-MESO-1株、NCI-H2452株などは高度の耐性を示すことが明らかとなった。

YAP/TAZ阻害剤に対する用量反応曲線について詳細に検討したところ、感受性は大きく3つのグループに分かれることが明らかとなった。これらの感受性とHippoシグナル伝達系の構成因子の異常等の相関について検討した。予想どおりNF2-Hippoシグナル伝達系が破綻した細胞株において感受性の高い細胞株が認められた一方、一致しない細胞株も認められた。

さらに、高感受性細胞株MSTO-211H株、NCI-H2052株に対してYAP/TAZ阻害剤を低濃度より曝露し、耐性株の樹立を開始した。段階的に薬物濃度を上昇させての獲得耐性株の樹立が順調に進められているものと考えられる。

#### 【今後の方向】

本研究の予備的な結果から悪性中皮腫細胞が呈するYAP/TAZ阻害剤に対する感受性・耐性に関する研究を進めていく上での足掛かりが得られた。今後、本研究を推進するための重要な基本的データが集積された。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

#### システム解析学分野

#### <研究課題> 1

- (主題) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究
- (副題) ベイズ型統計モデルによる複数領域シーケンスデータからの変異検出法および深層学習モデルによるナノポアシーケンシングデータ塩基決定法の開発

#### <研究者氏名>

山口 類、Zhang Yao-Zhong<sup>1)</sup>、森山卓也<sup>1)</sup>、井元清哉<sup>1)</sup>、宮野 悟<sup>1)</sup>

#### 【目的・概要・進捗状況】

次世代シーケンサーに代表される計測技術の発展により、DNAをはじめとする様々な生体分子のシーケンスデータが患者個人のレベルで得られるようになってきている。それらのデータから、がんのゲノムデータに含まれる患者固有変異を正確に検出し、最適な治療法の選択や、がんの複雑なシステムの理解へつなげるためには、データ解析の手法が重要である。我々は、そのためにベイズ統計モデルと深層学習モデルによる二重

のモデル化手法によるデータ解析手法の開発を行っている。

まずベイズ統計にも基づく手法として、同一個人の複数領域シーケンスデータ中の変異候補情報を統合する、ベイズ型変異検出手法を開発した。ここでは変異を含む可能性のある個所からのシーケンスリードデータの生成過程と変異検出機構をモデル化することで、各箇所から得られたエビデンスをもとに変異検出の閾値を合理的に変化させ変異検出の精度の向上を狙っている。またシーケンスデータからの変異検出のアルゴリズムは、主に単一サンプルからの変異検出手法が開発が辮を削っているが、既存の複数領域サンプルからの変異検出手法では、それらの単一サンプルで開発されてきている先進的な手法の情報を活用することはできない。一方、本研究で提案する情報統合の枠組みでは、それらの単一サンプルアルゴリズムから出力される、変異に関わる確率的エビデンス情報も、新たな変異コーラーを構成するための部品として取り入れることができる。本研究では、既存の手法と比較を行い提案手法による性能向上を確認した。

また深層学習に基づく、ナノポアシーケンスデータからの塩基決定法（ベースコーラー）の開発を行った。これまで主流となっている、ショートリードシーケンスデータに加えて、ロングリードシーケンスデータを生成することのできる、ナノポアシーケンサーの開発が進んでいる。その原理はタンパク質の微細な孔（ポア）をDNAのシングルストランドが通過する際に、通過する塩基の種類に応じて変化するイオン電流の強弱により、塩基のシーケンスを検出するものであるが、まだショートリードシーケンサーからのデータに比べてエラーが多いことが問題となっている。この電流時系列からのベースコールに対して、近年、深層ニューラルネットワークモデルを用いた手法の開発が進んでいるが、我々は、この問題に対して新たなネットワーク構造（URnet）を提案し、同ネットワークモデルに基づく新規ベースコール手法 URnanoを開発した。既存の手法と比較を行い、良好な性能を得ることを示した。

#### 【今後の方向】

複数個所の検体の情報を統合するミューテーションコーラーに関しては、背後にがんのクローン進化の進化系統樹を想定するモデルも提案されているが、高い性能を示す場合と性能が劣化する場合があることがわかってきている。しかし、どのような場合に何故、そのような方式のモデルが性能を発揮するかは詳しく調べられていない。その点について理論的な解析を進め、最適な適用方式を探る予定である。

また深層学習モデルに基づくナノポアベースコール手法は、ゲノムのコピー数変化を検出する手法としても有望であるため、URnetを元に上記の問題に適したモデルの構造を探る予定である。

<sup>1)</sup> 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

#### <研究課題> 2

（主題） 臨床シーケンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究

（副題） 自然言語処理による文献データからの情報抽出および機械学習モデルによる公共レポジトリデータからの情報抽出

#### <研究者氏名>

山口 類、井本逸勢、衣斐寛倫

#### 【目的・概要・進捗状況】

がんゲノムパネル検査が2019年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシーケンスおよび複数オミックスデータの統合解析に基づく、がん臨床シーケンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。臨床シーケンスにおいて喫緊の課題は、高速のデータ解析に加え、ゲノム解析の結果得られた変異情報を臨床上有用な情報へ、迅速かつ正確に解釈・翻訳し、エキスパートパネルにおける意思決定の精緻化につなげることである。そのため人工知能等を活用した解釈システムの研究を進めている。論文等の文献情報抽出法に加え、医学生物学分野で利用可能な巨大公共レポジトリに含まれる実験データに基づくリスク予測モデルの検討も進めた。

#### 【今後の方向】

上記で述べた手法のプロトタイプを早期に開発し、がんゲノム医療におけるエキスパートパネル等の現場からのフィードバックをもらいながら開発を進める予定である。一方、患者由来のシーケンスデータからの変異検出パイプラインの構築も進める予定である。

#### 腫瘍制御学分野

#### <研究課題> 1-1

（主題） がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

（副題） 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

#### <研究者氏名>

山内友恵、渡邊理沙代、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c- Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。昨年までに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロ

シンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出し、Fer の制御機構の破綻とがん進展との関わりを解明するために Fer に結合する分子のプロテオミクス解析を行ない、見出された 9 種の分子について Fer との結合を確認することにより、4 種の Fer 制御因子候補を同定し、Fer の下流でがんシグナルを伝播する新規基質であることを示した。

今年度は、Fer のがん治療標的としての可能性を明らかにするため、Fer のリン酸化抗体を作製し、乳癌をはじめとするいくつかの腫瘍組織において、Fer が細胞膜付近で活性化していることを検証した。また Fer の活性の高い細胞と低い細胞において Fer の発現をノックダウンしがん形質を解析したところ、Fer の活性に依存したがん形質の抑制がみられた。一方、正常細胞において Fer をノックダウンしても細胞増殖に影響はみられなかった。このことから新規がん治療標的として Fer が有望であることが示唆された。

#### 【今後の方向】

Fer の機能阻害剤をスクリーニングする系を構築し、Fer 選択的機能阻害剤を探し同定する。ヒット化合物については、がん抑制作用を検証するとともに、Fer をどのように機能阻害しているか作用機序を明らかにする。

#### <研究課題> 1-2

- (主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用
- (副題) microRNA によるシグナル分子の発現制御とがん進展

#### <研究者氏名>

小根山千歳、渡邊理沙代、宮田眞美子

#### 【目的・概要・進捗状況】

Src 等によるがんシグナルの伝達やその制御機構については、主にリン酸化及びタンパク質間相互作用の側面から捉えられてきたが、我々はそれら直接的なシグナル伝達経路の陰に、複数の microRNA(miRNA) が協調してシグナル分子の発現を制御する、いわば隠れたネットワークが存在することを示してきた。今年度は、昨年度までに見出したがん化初期に見られる Src 活性化に伴う miRNA-129-1-3p の役割を詳細に解析した。この miRNA は Src の発現が高いことが知られる大腸がん細胞において顕著に低下していることを見出し、大腸がん細胞に miRNA-129-1-3p を導入すると足場非依存的増殖能が抑制されると共に、ストレスファイバー及び細胞接着斑の形成が阻害され接着能や浸潤能が抑制されることを見出した。詳細な解析の結果、miRNA-129-1-3p は Src 自身およびその基質である Fer など Src シグナルの伝播に関わる因子の発現を同時に抑制することにより、がん形質発現を制御していることが示唆された。すなわち、がんの初期における miRNA-129-1-3p の発現低下が Src シグナルの亢進を促し、がん悪性化に寄与していると考えられる。

#### 【今後の方向】

これまでの一連の研究により、Src シグナル経路では関連するタンパク質が複数の miRNA によって同時に制御され細胞の恒常性の維持に寄与していると考えられるが、がんではその仕組みが破綻し、むしろ複数の機構が miRNA を介して連携しがん進展を加速していると考えられる。今後は、これら miRNA の発現が正常細胞においてどのように制御され、Src 活性化などがん進展過程において破綻するかメカニズムを明らかにする。

#### <研究課題> 2-1

- (主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明
- (副題) エクソソームの形成制御とがん進展

#### <研究者氏名>

正田智也、宮田眞美子、三谷文美絵、渡邊理沙代、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 30-100 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、エクソソームの形成や分泌の分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。昨年度までにエクソソーム形成・分泌促進機構に対する Src の関与について解析し、エクソソーム粒子の形成に関わる Alix の機能が Src との結合を介して亢進し、その結果エクソソームの分泌に繋がるメカニズムを解明してきた。今年度は、Src の下流で増殖シグナルに関わる MAPK の活性化によって、エクソソーム分泌が亢進する仕組みを明らかとした。一方、昨年度までにエクソソームマーカーをルシフェラーゼ標識することによって検出する新たなエクソソーム定量解析法を構築した。今年度はこの方法を発展させ、発光によってエクソソームの生体内動態・組織集積性などの解析に適した方法を開発し、生体においてがん細胞から分泌されるエクソソームの体内動態を明らかにすることができた。

#### 【今後の方向】

エクソソーム形成・分泌に関与すると考えられる分子の役割を詳細に解析する。さらに、がんにおけるエクソソーム分泌亢進の意義を明らかとするため、エクソソーム分泌や分子の内包を変化させた場合のがん細胞の形質を解析する。



#### <研究課題> 2-2

- (主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明  
(副題) エクソソームの miRNA 内包制御とがん進展

#### <研究者氏名>

内藤陽子、小根山千歳

#### 【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 30-100 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。それらの機能に重要とされているのが、エクソソームに内包されている microRNA (miRNA) である。エクソソームに内包される miRNA のプロファイルはがん種によって異なることから、がん診断への応用研究が進んでいるが、しかしそもそも、なぜ特定の miRNA がエクソソームに内包されているか、選択的な miRNA の積み込みに関する分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。昨年度までに、Src がん化モデル細胞系から分泌されるエクソソーム内の miRNA について次世代シーケンズ解析を行い、Src 活性化によりエクソソームに内包される miRNA のプロファイルが異なることを見出した。さらに Src 活性化により選択的に積み込まれる miRNA の分子機構を明らかにするため、これらの miRNA に結合するエクソソーム内分子を探索した。今年度はマスペクトル解析によって同定したがん特異的 miRNA に結合する分子候補 8 種の発現を変化させた細胞から分泌されるエクソソームを精査し、1 種の RNA 結合タンパク質が関わっていることを見出した。この RNA 結合タンパク質は miRNA 配列特異的にエクソソーム内へがん特異的 miRNA を内包することが明らかとなった。

#### 【今後の方向】

Src 活性化による RNA 結合タンパク質の機能変化のメカニズムとがん特異的 miRNA の内包の変化によるエクソソームを介した他細胞へのがん形質誘導について詳細な解析を行う。

### 腫瘍免疫応答研究分野

#### <研究課題> 1-1

- (主題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発  
(副題) エピジェネティクス改変による疲弊を起こさない抗腫瘍 T 細胞の開発

#### <研究者氏名>

籠谷勇紀

#### 【目的・概要・進捗状況】

エピジェネティック遺伝子に着目した抗腫瘍 T 細胞の修飾により、その機能を高めることを目的としており、有望な標的遺伝子を複数同定した。

#### 【今後の方向】

同定された遺伝子修飾による抗腫瘍 T 細胞の機能を動物実験モデルにより証明するとともに、その作用機序を明らかにする。

#### <研究課題> 1-2

- (主題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発  
(副題) T 細胞性腫瘍発症に関わる遺伝子に着目した T 細胞への長期生存能付与

#### <研究者氏名>

籠谷勇紀

#### 【目的・概要・進捗状況】

T 細胞性腫瘍 (リンパ腫) 発症に関わる遺伝子を抗腫瘍 T 細胞において導入することにより、その機能、特に生体内における長期生存能を高めることを目標としており、有望な変異遺伝子を 2 つ同定した。

#### 【今後の方向】

同定された遺伝子修飾により抗腫瘍 T 細胞の長期生存能が付与されているかを、動物実験モデルを用いて検証する。また安全性についても評価を進める。

#### <研究課題> 1-3

- (主題) 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発  
(副題) サイトカイン放出症候群を起こさない抗腫瘍 T 細胞の開発

#### <研究者氏名>

籠谷勇紀

#### 【目的・概要・進捗状況】

養子免疫療法における重篤な副作用の 1 つであるサイトカイン放出症候群を予防・軽減するための人工受容体分子を開発した。同分子を抗腫瘍 T 細胞に導入することで、試験管内では目的とする効果が得られた。

#### 【今後の方向】

開発された人工分子の生体内における効果を動物実験モデルで検証する。その後、将来的な臨床応用に向けて知財申請を行う予定である。

## <研究課題> 2

- (主 題) 免疫療法抵抗性に関わる腫瘍細胞特性の解明  
(副 題) T 細胞による細胞傷害活性に対する感受性に関わる  
がん細胞の遺伝子プロファイル探索

## <研究者氏名>

籠谷勇紀

## 【目的・概要・進捗状況】

T 細胞による細胞傷害活性に対する感受性が、がん細胞の種類によって大きく異なることが知られており、この分子機序を解明するために多数のがん細胞株を準備し、感受性データの取得を進めている。

## 【今後の方向】

100 種類以上のがん細胞株について感受性データを取得した後、その遺伝子発現・遺伝子変異プロファイルと照合することで、免疫療法抵抗性に関わる因子を抽出する。

## 腫瘍免疫制御トランスレショナルリサーチ分野

## <研究課題> 1

- (主 題) がん免疫編集のメカニズムの解明  
(副 題) 卵巣高悪性度漿液性腺癌 (HGSC) におけるネオアンチゲンの多寡と予後との関連

## <研究者氏名>

松下博和、高橋祐介、山口 類、長谷川幸清<sup>1)</sup>、垣見和宏<sup>2)</sup>

## 【目的・概要・進捗状況】

卵巣高悪性度漿液性腺癌 (HGSC) の中でも、homologous recombination (HR)-deficient (HRD) 腫瘍は HR-proficient (HRP) 腫瘍に比べ PARP 阻害剤の有用性が示されつつある。したがって、HRP 腫瘍においては、PARP 阻害剤以外の、免疫チェックポイント阻害剤治療等を含む他の治療方針を検討する必要がある。免疫チェックポイント阻害剤で増強された免疫応答の標的抗原は遺伝子変異由来のネオアンチゲンであることが報告されている。我々は、80 例の HGSC における遺伝子変異、ネオアンチゲンの多寡、免疫シグネチャーを全エクソーム / RNA シーケンスのデータを用いて、特に HRP 腫瘍 (46 例) に着目して検討した。過去に報告された通り、予測された変異、ネオアンチゲンの数は、HRD 腫瘍 (34 例) の方が HRP 腫瘍 (46 例) よりも有意に高かった。しかし、HRP 腫瘍の中において、40% はネオアンチゲンの数が多く、低い群より予後が良好であった。RNA シーケンスの HLA クラス I の発現も検討に組み入れると、ネオアンチゲンの数が多く、HLA クラス I の発現も高い群は、HRP 腫瘍の中で優位に予後 (無増悪生存期間) がよく ( $P = 0.0020$ )、また GSEA (Gene set enrichment analysis) 解析ではエフェクターメモリー CD8、TH1、インターフェロン $\gamma$  反応に関連する遺伝子群がエンリッチしていた。興味深いことに、この群は、HRD の中のネオアンチゲンの数

が多く、HLA クラス I の発現も高い群よりも、予後が良く、また T-cell inflamed type になっていた。これらの結果から、HRP 腫瘍でネオアンチゲンの数が多く、HLA クラス I の発現も高い群が、免疫チェックポイント阻害剤の候補となりうる可能性が示された。

## 【今後の方向】

卵巣高悪性度漿液性腺癌 (HGSC) の HRD、HRP の status に加え腫瘍内免疫環境を考慮した、治療選択用の包括的なバイオマーカーの探索を行っていく予定である。

<sup>1)</sup> 埼玉医大国際医療センター婦人科腫瘍科、<sup>2)</sup> 東京大学医学部附属病院免疫細胞治療学講座

## <研究課題> 2

- (主 題) 新生抗原 (ネオアンチゲン) の同定と免疫応答の解析  
(副 題) p53 変異抗原特異的 T 細胞の誘導

## <研究者氏名>

岡村文子、高橋祐介、松下博和

## 【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (ネオアンチゲン) に由来するエピトープを認識する CTL が、がんの治療に有効であることが明らかになってきた。がんだけが有するネオアンチゲンの免疫原性が一般的に高く、臨床効果が得られていることからネオアンチゲンを標的とする免疫療法が注目されている。しかしながら、がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。一方で、がんに共通する変異が存在することから、共通ネオアンチゲンを標的として、個別にネオアンチゲンを探索する時間や手間を省略したがん免疫療法も広がりを見せている。

がん抑制遺伝子であり、がんにおいて高い頻度で遺伝子が変異している TP53 遺伝子のタンパク質を標的としたがん免疫療法の開発を行うために、今年度は p53 変異抗原特異的 T 細胞の誘導を行った。TP53 遺伝子内の DNA 結合領域に様々ながんで見られる変異のホットスポットに含まれる既知のネオアンチゲンを対象とした。エピトープペプチドを含む長鎖ペプチドを付加させた自己活性化 B 細胞を抗原提示細胞として使用して、健康人由来ナイーブ CD8+ T 細胞を複数回刺激を行った。2 人の健康人検体で様々な条件のもと刺激をしたところ、1 人の健康人検体で特異的な T 細胞応答を誘導することができた。

## 【今後の方向】

得られた T 細胞からクローンを樹立して、詳細な解析を進めていくとともに、T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子を取得して親和性の増強を行なっていきたい。さらに今後は肺がん特異的に見られる変異にも着目して、p53 変異抗原特異的 T 細胞を

誘導して解析することで、肺がん患者検体におけるネオアンチゲン特異的 T 細胞の解析や、TCR 移入 T 細胞治療の開発を行なっていく予定である。

#### <研究課題> 3

(主題) ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発

(副題) 肺がん個別化がんワクチンの研究開発

#### <研究者氏名>

高橋祐介、岡村文子、篠原周一、山口 類、田口 歩、松下博和

#### 【目的・概要・進捗状況】

がん免疫療法の中で、免疫抑制解除型の免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の開発は一定の成功を収めたものの、その治療効果は一部の症例に限られている。これまで、遺伝子変異由来のネオアンチゲンに対する免疫応答が ICI の効果の鍵を握ることを示唆するデータが報告されてきた。したがって、免疫抑制の解除に加え、ネオアンチゲンに対する免疫応答を増強するがん免疫療法を開発できれば、治療効果を引き上げられる可能性がある。有効ながん免疫療法を実施していく上で重要なことは、①強い免疫応答を引き起こしうる有望なネオアンチゲンの選定と、② ICI、がんワクチン及びその併用治療を含むがん免疫療法の適応症例の適切な選択にある。当院呼吸器外科及び呼吸器内科および共同研究機関において手術あるいは胸水穿刺を受けた肺癌患者から、腫瘍検体を収集した。高容量リコンビナント IL-2 を用いてリンパ球の増幅培養を行い、腫瘍特異的リンパ球を同定した。また、腫瘍特異的リンパ球が得られた症例を優先して 85 例の全エクソームシーケンス及び RNA シーケンスを実施した。85 例のシーケンスデータから変異コールを実施した。EGFR 変異陰性の肺癌は、EGFR 変異陽性の肺癌に比べ変異数が優位に多かった。また、腫瘍特異的な T 細胞の頻度も EGFR 変異陰性の肺癌で優位に高かった。EGFR 変異陰性の肺癌が、抗原特異的免疫療法の標的となる可能性が考えられた。

#### 【今後の方向】

EGFR 変異陰性の肺癌患者を標的として、個々の患者の変異情報からネオアンチゲンの予測を行う。予測された抗原の検証を HLA リガンドーム解析と TIL や培養リンパ球由来の TCR 遺伝子導入 T 細胞の反応性で検証予定である。

### 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

#### <研究課題> 1

(主題) がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索

(副題) 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

#### <研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、森 治樹<sup>1)</sup>

#### 【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約 15 万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も 5 万人超と肺癌について 2 番目に多い。大腸癌の 5 年相対生存率は、局所限局症例では 95% 以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約 40% に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか 5% 前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約 50% と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパクと自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

令和元年度は、大規模分画による高深度血漿タンパク解析を行った。3 つの施設 (愛知県がんセンター、藤田医科大学消化管内科、滋賀医科大学消化器内科) から提供された 4 つの血漿検体セットについて、それぞれ性別 (男、女)、組織型 (腺腫、腺癌)、発生部位 (右側、左側)、遺伝子変異 (KRAS、BRAF) などの臨床情報に基づいてサンプルをプールし、安定同位体標識を用いて標識したのち、サンプルを大規模に分画して、高深度かつ定量的な質量分析を nano-LC/MS/MS を用いて行った。

各プロテオーム解析において、それぞれ 800 ~ 1100 個の微量タンパクが同定できた。そのうち、いくつかの有望と考えられたバイオマーカー候補については、現在アッセイの確立と初期検証を行っている。

#### 【今後の方向】

血漿タンパク解析に並行して、抗原-自己抗体の高感度プロファイリング法を開発した。血漿タンパクと自己抗体プロファイルの統合的な解析により、癌関連タンパクの血中ダイナミクスを捉える。また、初期検証で有意に差があったバイオマーカーについては、大腸癌診断前に収集された血液検体を用いてさらに検証する。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

#### <研究課題> 2

(主題) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索

(副題) 空間プロテオミクスによるマクロファージ極性制御の分子機構解明とがん治療への応用

#### <研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、森 治樹<sup>1)</sup>

#### 【目的・概要・進捗状況】

マクロファージは、機能的にM1型とM2型のサブタイプに大別することができる。M1型は、IL-1 $\beta$ 、TNF- $\alpha$ 、IL-6、IL-12などの炎症性サイトカインや活性酸素、一酸化窒素を産生して、Th1型の免疫応答を誘導し、強い抗菌あるいは抗ウイルス活性、また抗腫瘍効果を発揮する。その一方で、M2型は、抑制性サイトカインであるIL-10やTGF- $\beta$ を産生するとともに、アルギナーゼ、CD163、マンノース受容体などを高発現しており、組織修復や免疫抑制機能を持つ。また、M1型では、好氣的条件下においても嫌氣的解糖系が活性化しているのに対し、M2型では、ミトコンドリアによる酸化的リン酸化によって糖代謝が行われている、といった、明確な代謝プログラムの違いによっても特徴づけられる。

多くの癌では、腫瘍内に多数のマクロファージの浸潤が観察される（腫瘍関連マクロファージ：tumor-associated macrophage (TAM)）。TAMの大半はM2型であり、抑制性サイトカインの産生や、アルギナーゼ発現による局所のアルギニン枯渇のために、細胞傷害性T細胞の機能を抑制する。またVEGF、マトリックスメタロプロテアーゼなどの産生によって、腫瘍内の血管新生や腫瘍細胞の浸潤、組織のリモデリングを促進する。したがって、TAMの制御は、癌治療において、極めて重要かつ喫緊の課題である。

我々は、急性単球性白血病細胞株 THP-1 細胞を用いて、M1型、M2型マクロファージへと効率よく分化誘導できる in vitro 大量培養モデルを確立した。これにより、従来 TAM の研究に用いられてきた in vivo モデルや臨床検体では困難であった、多層オミクス解析を行うことが可能になった。令和元年度は、この in vitro モデルを用いて、細胞表面タンパクを中心とする空間プロテオーム解析とリン酸化タンパク解析を行った。細胞ライセートのプロテオーム解析、細胞表面タンパク解析、リン酸化プロテオーム解析では、それぞれ 6,348 個、4,602 個のタンパクと 10,308 のリン酸化修飾部位を同定定量した。既報のごとく、プロテオーム解析では M2 型で FABP4、EGF、CD36 の高発現を認め、リン酸化プロテオーム解析では、M1 型で STAT1 の高リン酸化、M2 型で STAT6 の高リン酸化と AMPK2 (PRKAA2) の活性化を確認した。興味深いことに、M2 型では、ABC トランスポーターやコレステロール輸送タンパクなど脂質代謝に関連するタンパクの発現が大きく亢進しており、本 in vitro モデルの空間プロテオーム・リン酸化プロテオーム解析により、M2 型で脂質代謝のリプログラミングが起こっていることが示唆された。有望と考えられたいくつかの新規 TAM 治療標的分子については、THP-1M1、THP-1M2 を用いて、shRNA、阻害剤などによって M2 型マクロファージの増殖抑制、M2 型から M1 型への分化転換などを検討し、またその機能と制御機構を解析している。

#### 【今後の方向】

in vitro における解析でさらに有望と考えられた治療標的分子については、ヒト末梢血単核球から分化させた M1 型、M2

型マクロファージ (ex vivo モデル) や、同種移植癌モデル、遺伝子改変癌マウスモデルなどの in vivo 動物モデルを用いて、TAM の制御法開発を目指す。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント

### がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

#### <研究課題> 1

(主 題) 各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発  
(副 題) KRAS 変異腫瘍に対する新規治療開発

#### <研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太

#### 【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異腫瘍に対して、下流に存在する MEK キナーゼの阻害薬が使用されるが、MEK 阻害薬の投与は、フィードバック機構による KRAS 上流シグナルの活性化を誘導するため、薬剤による腫瘍細胞死が誘導されない。我々は、以前に肺がんにおいて上皮系の性質を示す腫瘍では ERBB3、間葉系の性質を示す腫瘍では FGFR1 が MAPK シグナルのフィードバック活性化に関与することを示し、MEK 阻害薬投与後に活性化される受容体からのシグナルを下流に伝達する SHP2 を抑制することで、活性化される受容体の種類に関わらずフィードバック機構を制御できる可能性を示していた。現在、SHP2 阻害薬が下流シグナルを抑制するメカニズムを詳細に検討している。

一方、これまで KRAS 変異タンパクの直接阻害は困難とされてきたが、近年 G12C 変異を有する KRAS 変異に対する直接阻害薬が開発され、早期臨床試験でも一部の症例で有効性を示している。G12C 阻害薬の効果予測因子・耐性化因子を検討し、そのメカニズムを同定した。

#### 【今後の方向】

SHP2 が、KRAS 変異腫瘍において MEK 阻害後のフィードバック機構に果たす役割の解明を進める。KRAS G12C 阻害薬の効果予測・耐性因子については最初のメカニズムについて投稿中であり、耐性克服の手法についてさらに解析を進める。

#### <研究課題> 2

(主 題) 承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服  
(副 題) BRAF 変異腫瘍に対する個別化治療開発

#### <研究者氏名>

衣斐寛倫

### 【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間5万人程度で、男性のがん死亡の第3位、女性では第1位の原因である。進行・再発の大腸がんに対し、抗EGFR抗体薬が奏効するが、RAS・BRAF遺伝子など下流タンパクの異常が存在すると、抗EGFR抗体が無効になることが知られている。一方、昨年より多数の遺伝子変異について網羅的に検査する遺伝子パネル検査が導入され、BRAF遺伝子にこれまで調べていた異常とは別の異常が大腸がん患者さんの2-3%に存在することが明らかとなってきた。しかし、新たなBRAF遺伝子異常が見つかった患者に対し、抗EGFRを使用すべきかについては明らかではなかった。このため、先行していた研究および、がん細胞株、マウスを用いた実験から、BRAF遺伝子変異を3つのタイプに分類した。タイプ1は以前より抗EGFR抗体が効かなくなると考えられている変異、タイプ2とタイプ3は遺伝子パネル検査により新たに見つかる変異であったが、マウスの実験では、タイプ3の遺伝子変異はタイプ2と比べて、がん細胞の増殖にEGFRの関与が大きいと考えられた。従って、タイプ3では抗EGFR抗体が効く可能性が考えられたが、BRAF遺伝子異常のタイプ2とタイプ3の異常は、両者を合わせても2-3%と少なく、抗EGFR抗体の効果を検証するには多くの患者さんのデータが必要であった。このため、愛知県がんセンターに加え、国立がん研究センター東病院を中心とした産学連携全国がんスクリーニングプロジェクト（SCRUM-JAPAN GI-SCREEN）・米国メモリアルスローンケタリングがんセンター・ハーバード大学と国際共同研究を行い、5000例を超える遺伝子パネル検査を行った大腸がん症例について解析し、タイプ2またはタイプ3のBRAF遺伝子変異を有し抗EGFR抗体を使用された患者さんを40人同定した。その結果、タイプ2症例では12人中1人のみ効果があったのに対し、タイプ3のBRAF変異を有する症例では28人中14人と多くの症例で抗EGFR抗体の効果を認めた。上記についてClinical Cancer Research誌に報告した。

### 【今後の方向】

遺伝子パネル検査の進展に伴い、機能不明なBRAF変異が多数同定されている。未知の変異に対しても機能の予測が可能でモデルの構築を行い、実地臨床に還元する予定である。

### 3. 重点プロジェクト研究

#### 1 がんゲノム予防医療プロジェクト

##### <研究課題> 1 - (1)

大規模病院疫学研究を基盤とした遺伝性腫瘍のリスク群における個別化予防を志向したエビデンス創出研究

Evidence-generating research aimed at individualized prevention of cancers in high-risk groups with hereditary cancer syndromes based on a large-scale hospital-based cohort study

##### <研究者氏名>

所属部 分子遺伝学分野

研究者氏名 井本逸勢

共同研究者 田近正洋\*、原 和生、清水泰博\*、伊藤誠二、小森康司、岩田広治\*、水野美香、山口 類、松尾恵太郎、伊藤秀美 (\*コ・リーダー)

##### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

###### (目的)

遺伝要因としていわゆる遺伝性腫瘍症候群の原因遺伝子変異を含む表現型への寄与度が大きい稀なバリエーションに関して、集団内での頻度、がんの浸透率や悪性度などの関連、環境要因との相互作用などを明らかにすることが、ハイリスクグループの把握と医療やライフスタイルでの介入による個別化予防の社会実装を可能にすることに大きく貢献できる。しかし、国内には、どの情報を基に対象の層別化を行いどのようなアプローチで介入することががんの重症化や死亡の減少につながるかというがん予防のエビデンス創出に有用な、詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースが存在しない。

本研究では、研究課題1-2)「大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究」(リーダー:松尾恵太郎分野長)、研究課題4-1)「愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用」(リーダー:伊藤秀美分野長)の2つのプロジェクトと共に、愛知県がんセンター大規模病院疫学コホート(HERPACC)参加者を対象に、病院・研究所が一体となって、遺伝性・散発性に関わらず横断的にがん予防のエビデンス創出に資する詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースの基盤を構築し、研究リソースとしてシェアすることを目標とする。目標達成による成果をもとにそれぞれの個別研究が進むことで、県民だれもが、がんになりにくく、なっても早く治せて早く社会復帰でき、健康に活躍できる時間を長く持てる愛知県を社会で実現することを目的とする。

###### (方法、進捗状況と考察)

1年目の研究項目である、34 遺伝子を対象にした、大腸がんコホート(症例・対照含め3014例)の標的リシーケンスを実施した(研究項目①-④)。具体的には、①解析対象症例の選

択と解析用ゲノムDNA検体の準備、②解析対象がん者の臨床・疫学情報の収集、③ Multiplex PCRによるライブラリ作成キット開発、④ライブラリ作成実施と次世代シーケンサーによるライブラリのシーケンス実施とデータ収集、を完了し、④に含まれる、データのアンノテーションを開始した。ライブラリからの十分なリード数のシーケンス情報収集が行えたことから、開発したキットならびにプロトコルを、2年目以降の他がん種での標的リシーケンスにも使用可能であると判断でき、大腸がんのデータ解釈実施と平行して、速やかな2年目のデータ収集を開始できることがわかった。

さらに、研究項目⑤として、初診時5118名を対象に問診票情報を用いた遺伝性腫瘍疑い患者のスクリーニングを行い、2636人が拾い上げられ、診療情報から遺伝カウンセリング紹介勧奨者の絞込みを開始した。遺伝カウンセリング紹介勧奨を開始したことで、その後の診療情報の追跡により、スクリーニングの効率検討のための情報収集が2年目以降可能になっている。さらに、ほぼ予測された数が拾い上げられたために問診票情報が信頼できるレベルにあると判断され、来年度以降も継続して同じ方法により問診票情報を用いた遺伝性腫瘍疑い患者のスクリーニングを行うことの妥当性が担保された。

###### (成果)

本研究課題と研究課題1-2)(リーダー:松尾恵太郎分野長)で得られる情報を基盤の一部に展開する個別研究として、日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業(令和2~4年)に、「がんリスクに対する環境要因・遺伝要因の公衆衛生学的インパクトを評価する大規模分子疫学研究(研究代表者:松尾恵太郎分野長)が採択され、分担研究者として参加することになった。

##### <研究課題> 1 - (2)

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospital-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

##### <研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、細野祥之、春日井由美子

##### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

###### (目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスク

を下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防（検診）、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査(HERPACC)を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1～3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある(Matsuo et al. Carcinogenesis 2001,2006,2013等)。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである(Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017)。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

#### (方法)

2001年～2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者から選択する。うち、非がん者13,814名(ゲノムスキャン未7,949名、以下()内は同じ)、胃がん1,480名(773)、大腸がん1,144名(588)、食道がん659名(385)、膵臓がん386名(71)、頭頸部がん877名(480)、乳がん1,217名(257)、肺がん(1,418名(943))が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたがんセンターバイオバンク愛知の参加者(2018年7月より疫学情報も収集、年4～5000名収集見込み)も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

#### (進捗状況)

先行して行った膵臓がんに関する結果を記す。我々はHERPACCに加え、愛知医大、名古屋大学、東京大学、理化学研究所、国立がん研究センター、大阪大学、南カリフォルニア大学、イェール大学で実施されている膵臓がんに関する研究を統合し、大規模な全ゲノム関連解析(GWAS)のメタ解析研究を実施した。約4000名の膵臓がん患者と約41,500名の非がんの方を対象の検討により、16番染色体に位置するGP2(glycoprotein2)遺伝子上に存在する遺伝子多型rs78193826が膵臓がんリスクと関連することを世界で初めて明らかにした(Lin et al. Nature Communication 2020)。この遺伝子多型はアミノ酸配列変化を伴い、GP2タンパクの働きが変化による膵

臓がんリスク上昇が考えられる。この遺伝子多型は日本人を含む東アジア人で認められ一方、西洋人ではほとんど存在せず、東アジアにおける膵臓がんリスクと関連する事が示唆される。

さらに、細胞株を用いた実験により、膵臓がん組織で高頻度に認められるK-ras遺伝子変異の際に発現が下がる遺伝子群が、本遺伝子多型を導入した場合にも同様に発現が下がることが示され、GP2遺伝子多型がK-ras遺伝子変異と同様のメカニズムで膵臓がんの易罹患性につながる可能性が示唆された。

膵臓がんの研究と並行し、食道がん、胃がん、大腸がん、頭頸部がん、肺癌、乳がんに関する検討も行っている。

#### (考察)

がんに対するGWAS研究は欧米では盛んに行われてきたが、日本国内においてはまだ不十分にしか実施されていない。膵臓がんGP2多型のような東アジア人特異的な発見は、今後同様のアプローチを取る事で更に発見できる可能性があると考えられる。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

## 2 がん超精密医療プロジェクト

### <研究課題> 2- (1)

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成

Molecular and cellular biology tissue culture core project to interrogate the mechanism of resistance to molecular targeted therapy

### <研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

研究者氏名 衣斐寛倫

共同研究者 室圭、樋田豊明、堀尾芳嗣、松下博和

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー(NGS)解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、昨年保険適用となっている。NGSを用いた遺伝子プロファイリングについては、海外では多数の解析実績がある。例えば、メモリアルスローンケタリングがんセンターは自施設でがん遺伝子パネル検査を施行した1万例以上のデータを公開するとともに、遺伝子パネル検査の結果に基づく治療開発と、検体より樹立した細胞株・患者由来ゼノグラフトを用いたトランスレーショナルリサーチ研究を一体となって行っている。一方、本邦においては、SCRUM-JAPANが研究目的に1万例以上の遺伝子パネル検査を行い、検出された変異をもとにした臨床試験を行ってきたが、細胞株

や腫瘍のバンクは行われていない。当センターでは多くの臨床試験が行われていることから、それぞれの症例について解析可能な生細胞検体（viable な状態で保存された検体）が存在すれば、分子標的治療薬の耐性機序解明や新たな治療開発が可能になると考えられる。また、遺伝子パネル検査の保険償還により、未知（variant of unknown significance, VUS）もしくはまれなドライバー遺伝子異常の検出が認められており、実際に同定された異常に対して治療開発を行うことが必要である。本課題では、患者検体より細胞株を作成し、再利用可能な形で保管することが目的である。令和元年度は、細胞株樹立の手技確立のため、当院外科で手術された大腸がん症例 70 例より細胞株の樹立を試み 23 例より Stem Cell Medium 下での培養に成功した。最終的な細胞株についても 12 検体より樹立している。また、これまでに分子標的薬の投与を受けた症例の解析を行い、BRAF 大腸がんについて Clinical Cancer Research 誌に報告するとともに、肺がん症例についても解析を進めている。

#### <研究課題> 2- (2)

難治がん PDX モデルのライブラリー整備とその多層オミクス解析による統合データ基盤構築  
Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

#### <研究者氏名>

所属部 分子診断 TR 分野  
研究者氏名 田口 歩  
共同研究者 原 和生、清水泰博、樋田豊明、黒田浩章、堀尾芳嗣、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、山口 類

#### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺がん、膵がん、胆道がんなどに代表される難治がんは、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治療しづらいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治がんの分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治がんの克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治がん PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治がんの診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのバイオインフォマティクス解析まで統合した、難治がんオミクスデータベースの構築を行う。

令和元年度は、難治がんの代表的な存在である膵がんと肺がんに加えて、転移性大腸がんを対象として、総計 62 例の PDX モデル作成に成功した。現在までに、組織プロテオーム、リン酸化プロテオーム、サーフェスオーム、セクレトーム、HLA リガンドームのプロトコル最適化を行い、膵がん PDX5 例について解析を完了した。サーフェスオームとリン酸化プロテ

オームについては、さらに膵がん PDX10 例の解析を行い、現在解析を進めている。

令和 2 年度では、①膵がん、大腸がん、小細胞肺がん、非小細胞肺がんに加えて、肝臓がん、食道がん、胃がん、胆道がんを含めた難治がん PDX モデルライブラリーの拡充、②免疫チェックポイント阻害剤が有効ながん腫（非小細胞肺がん、肝臓がん、食道がん、胃がん）において HLA リガンドームに基づく革新的がん抗原同定パイプラインの構築、と、③ PDX モデルを用いた薬剤感受性予測法の開発（膵がん、肝臓がん）に重点を置いて研究を進める予定である。

### 3 がん免疫ゲノムプロジェクト

#### <研究課題> 3- (1)

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチン療法の開発  
Development of cancer vaccine targeting neoantigen

#### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御 TR 分野  
研究者氏名 松下博和  
共同研究者 黒田浩章、樋田豊明、堀尾芳嗣、山口 類、衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、花井信広、井本逸勢、籠谷勇紀、細田和貴、高橋祐介

#### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫系の有望な標的抗原として、遺伝子変異由来の新生抗原（ネオアンチゲン）が注目されている。免疫チェックポイント阻害剤（ICI）の奏効率は 20% 前後に過ぎないが、免疫抑制の解除のみならず、ネオアンチゲンに対する免疫応答を積極的に強化することで、さらに治療効果が得られる可能性がある。本課題では、有効なネオアンチゲンワクチンを開発することを目的とする。

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチンを実施する上で重要なことは、①有望な標的ネオアンチゲンを選出すること、また、②がんワクチン、ICI 及びその併用治療を含む免疫療法の適応症例を適切に選択することである。まず①に関して、より正確なネオアンチゲン予測アルゴリズムと、ネオアンチゲンに対する免疫応答を高感度に検出する方法を開発する。また②においては、オンコパネルにおけるドライバー遺伝子変異の情報や①で得られる免疫応答予測などを統合し、患者一人ひとりの腫瘍内のダイナミックながん免疫応答、いわゆる Cancer-Immunity Cycle に基づく免疫状態をイムノグラムで評価し、治療選択の包括的なバイオマーカーになり得るか検討する。これらを、当センターにおける ICI 治療症例に適用し、治療の著効例および無効例を比較することで、durable response や治療抵抗性のメカニズムの解明および免疫療法の治療選択アルゴリズムの構築を行なう。

令和元年度に、当院呼吸器外科及び呼吸器内科及び共同研究機関において手術あるいは胸水穿刺を受けた肺癌患者から、令和 2 年 3 月 31 日現在、肺癌検体を 192 例収集した。高容量リコンビナント IL-2 を用いてリンパ球の増幅培養を行っ



た。増幅したリンパ球と自己腫瘍細胞（細胞株あるいは単細胞混濁液）を共培養し、産生される IFN- $\gamma$  を検出して、腫瘍特異的な免疫応答を評価した。また、腫瘍特異的なリンパ球が培養できた症例を優先して 85 例の全エクソームシーケンス及び RNA シーケンスを実施した。85 例のシーケンスデータは、システム解析学分野（山口類分野長）とともに Genomone を使用して変異コールを実施した。今後、ネオアンチゲンの予測は日本電気株式会社（NEC）との共同研究で実施し、AI（グラフベース関係性学習）で予測する。予測された抗原の検証を HLA リガンドーム解析と TIL や培養リンパ球由来の TCR 遺伝子導入 T 細胞の反応性で検証予定である。

## 4 がん情報革命プロジェクト

### <研究課題> 4-（1）

愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用

Development and utilization of linkage database of official information of cancer incidence and death, lifestyle, socioeconomic, health and medicine for evaluation and prediction of cancer control and quality of medical care in Aichi prefecture

### <研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野

研究者氏名 伊藤秀美

共同研究者 山口 類、小柳友理子、川勝雪乃

### 【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

愛知県がんセンターは、専門的ながん医療を提供するとともに、愛知県内のがん診療の連携体制を整備するなど、愛知県内の「がん医療の均てん化」の促進の中心的な役割を果たす責務を有する都道府県がん診療連携拠点病院である。愛知県のがん診療拠点病院で 2008-9 年に診断された症例の 5 年相対生存率は、全がんで 64%(95% 信頼区間 62%-66%) と、全国の 71%(70%-72%) に比べて 7 ポイント下回っていた。愛知県がんセンターは都道府県拠点病院として、生存率の低い要因を探索し、愛知県全体の生存率を引き上げた上で均てん化を促進する責務がある。拠点病院で実施される院内がん登録で収集される情報だけでは、例えば併存症や診療ガイドラインに沿った治療しているかなどの把握ができず、生存率に影響を与える要因の詳細な探索やそれらの要因を考慮した上での医療レベルの評価には不十分である。正確にがん診療の実態を把握するには、院内がん登録情報に加え、医療機関が保有する詳細な患者の特性、生活習慣、臨床情報、ゲノム情報、治療、医療費に関する情報を患者個人レベルで一元的につないだ情報基盤の整備が必要である。

一方、高齢化社会を迎え 2 人に 1 人ががんに罹る時代、がん罹患リスクを下げる一次予防、がん死亡リスクを下げるための二次予防も重要となってくる。愛知県が保有するがん登録情報、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報などの保健医療

情報を活用し、最新の情報解析手法を用いたアプローチは、がん予防対策の策定や評価、県民のがんリスク予測、予防介入の効果予測に有用である。

本プロジェクトでは、がん関連のビッグデータをリンクさせた統合的データベースを構築し、先鋭的な研鑽化学的手法やシミュレーションを通じビッグデータを疫学的に活用し、その研究成果を社会実装することにより効果的ながん対策を提案することを目的とする。

本年度は、公的情報を地理的あるいは個別連結することにより、がん罹患・死亡リスク予測モデルを構築し、生活習慣やがん検診受診率の改善や医療アクセス、シミュレーションによる医療レベルの改善の影響の将来予測、介入の効果予測、がん予防施策の効果的な実施、費用対効果の見直しなどに資する仕組みを構築することを目的とし、愛知県の公的情報（住民ベースのがん登録情報、人口動態調査死亡票情報、特定健診情報、国勢調査情報など）を連結させた情報基盤の構築とその活用に取り組んだ。がん罹患・死亡をアウトカムとして、社会経済的格差とその媒介要因であるリスク行動と予防や医療サービスへのアクセスとの関連に着目し、公的情報の収集や地理情報の入手に取り組んだ。各公的情報は、愛知県と比較対象の全国レベルの情報を入手した。入手できた国勢調査とがん登録情報については、指標化、視覚化に取り組んだ。国勢調査情報を用いて、貧困の指標である剥奪指標を町域ごとに算出し、地図上に視覚化した。また愛知県がん登録情報を愛知県より提供を受け、町域ごとの標準化罹患比を算出し、同様に愛知県の地図上に視覚化した。いずれの指標も愛知県内で格差を認めた。また、これらのビッグデータを保存・解析する閉鎖サーバーを整備し、情報の安全管理措置を構築した。

今後 2 年間に於いて、社会経済的格差とその媒介要因であるリスク行動と予防や医療サービスへのアクセスとの関連の評価に必要な情報の入手を継続し、入手できた情報の指標化、視覚化、これらの情報の時空間的関連解析を展開し、愛知県のがん罹患・死亡の低減につながる科学的根拠に基づいたがん対策への提言を行う予定である。なお、がん対策への提言を行うにあたり、がん対策の現場にいる保健医療局職員と意見交換をしながら進めている。

## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

#### 総長

- 001 **Takahashi T** : Divergent lncRNA MYMLR regulates MYC by eliciting DNA looping and promoter-enhancer interaction. International Conference on Cancer Systems Biology Beyond,(Tokyo)[口演]

## 2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

### 病院長

- 001 丹羽康正：一般演題 54 小腸 -2. 第 16 回日本消化管学会総会学術集会, 2020,(兵庫県),[司会]

### 消化器内科部

- 001 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Koda H** : Novel technique for diagnosis solid pseudopapillary neoplasms of the pancreas: Needle-based confocal laser endomicroscopy. Asian EUS CONGRESS 2019, 2019,(東京),[ポスター]
- 002 **Hara K**: Live Demo from Hong Kong. Asian EUS CONGRESS 2019, 2019,(東京),[座長]
- 003 **Hara K** : Clinical Case 1. Asian EUS CONGRESS 2019, 2019,(東京),[座長]
- 004 **Hara K** : Role of EUS-CDS. Asian EUS CONGRESS 2019, 2019,(東京),[講演]
- 005 **Hara K** : Interventional EUS Hands-on. Asian EUS CONGRESS 2019, 2019,(東京),[ワークショップ]
- 006 **Hara K** : LIVE DEMO. Dual Theme International Conference & Hands on Workshop on Interventional EUS & Third Space Endoscopy, 2019,(Pune),[ワークショップ]
- 007 **Hara K** : Breakfast session, Meet the prof. How I do it?. Dual Theme International Conference & Hands on Workshop on Interventional EUS & Third Space Endoscopy, 2019,(Pune),[ワークショップ]
- 008 **Hara K** : Algorithm EUS-BD. Dual Theme International Conference & Hands on Workshop on Interventional EUS & Third Space Endoscopy, 2019,(Pune),[講演]
- 009 **Hara K** : Current status of EUS-guided biliary drainage in Japan. 2ND AEG INTERVENTIONAL WORKSHOP ON EUS-GUIDED BILIARY DRAINAGE, 2019,(Hong Kong),[講演]
- 010 **Hara K** : EUS-BD vs ERCP vs PTBD for biliary drainage. 2ND AEG INTERVENTIONAL WORKSHOP ON EUS-GUIDED BILIARY DRAINAGE, 2019,(Hong Kong),[講演]
- 011 **Hara K** : Techniques and outcomes of EUS-CDS. 2ND AEG INTERVENTIONAL WORKSHOP ON EUS-GUIDED BILIARY DRAINAGE, 2019,(Hong Kong),[講演]
- 012 **Hara K** : Hands-on, Ex-vivo model - CDS. 2ND AEG INTERVENTIONAL Hands-ON WORKSHOP ON EUS-GUIDED BILIARY DRAINAGE, 2019,(Hong Kong),[ワークショップ]
- 013 **Hara K** : Recent Advances in EUS-BD. International Digestive Disease Forum 2019, 2019,(Hong Kong),[講演]
- 014 **Hara K** : LIVE DEMO. IDDF 2019 HK, 2019,(Hong Kong),[ワークショップ]
- 015 **Hara K** : Technical Tips of EUS-FNA. EUS Workshop in HANOI, 2019,(Hanoi),[特別講演]
- 016 **Hara K** : Hands-On workshop. EUS Workshop in HANOI, 2019,(Hanoi),[ワークショップ]
- 017 **Hara K** : EUS-FNA LIVE DEMO. EUS Workshop in

- HANOI, 2019,(Hanoi)[ワークショップ]
- 018 **Hara K** : Is EUS-BD suitable for primary biliary drainage?. T-CAP 2019, 2019,(東京)[講演]
- 019 **Hara K** : Session 3: Current status of pre-operative biliary drainage in distal biliary stricture cases. T-CAP 2019, 2019,(東京)[ワークショップ]
- 020 **Okuno N, Miyano A, Koda H, Kuwahara T, Haba S, Mizuno N, Hara K** : Long-term outcomes of primary EUS-guided hepaticocenterostomy for the cases with malignant biliary obstruction in altered anatomy. T-CAP 2019, 2019,(東京)[ポスター]
- 021 **Haba S, Hara K, Okuno N, Mizuno N, Kuwahara T, Koda H, Miyano A** : A novel technique for diagnosis of pancreatic neuroendocrine neoplasm: Needle-based confocal laser endomicroscopy. T-CAP 2019, 2019,(東京)[ポスター]
- 022 **Hara K** : Free Paper Session 2. T-CAP 2019, 2019,(東京)[司会]
- 023 **Hara K** : What should I do when my FNA/FNB result is non-diagnostic ?. APAC EUS Guided Biopsy Symposium in Beijing, 2019,(北京)[特別講演]
- 024 **Hara K** : CASE presentation/LIVE DEMO. APAC EUS Guided Biopsy Symposium in Beijing, 2019,(北京)[座長]
- 025 **Hara K** : EUS-BD, How I do it?. 南方医院医学会, 2019,(広州)[講演]
- 026 **Hara K** : EUS LIVE DEMO. 南方医院医学会, 2019,(広州)[ワークショップ]
- 027 **Hara K** : Combination of EUS and ERCP. 1st meeting of EUS ACADEMY in India, 2019,(India)[特別講演]
- 028 **Hara K** : EUS-BD is better than ERCP?. 安徽省消化器学・消化器内視鏡学会 2019, 2019,(中国 安徽省)[特別講演]
- 029 **Hara K** : EUS-FNA LIVE DEMO. 安徽省消化器学・消化器内視鏡学会 2019, 2019,(中国 安徽省)[ワークショップ]
- 030 **Ikeda M, Maruki Y, Ueno M, Ioka T, Naganuma A, Furukawa M, Mizuno N, Uwagawa T, Nakai Y, Kanai M, Asagi A, Shimizu S, Miyamoto A, Yukisawa S, Kadokura M, Yamanaka T, Arai Y, Shibata T, Morizane C, Okusaka T** : Frequency and clinicopathological characteristics of biliary tract carcinomas harboring the FGFR2-fusion gene: A prospective observational study (PRELUDE study). ESMO 2019, 2019,(Barcelona)[ポスター]
- 031 **Hara K** : Interventional EUS. 1st MUMBAI TTT workshop, 2019,(Mumbai)[ワークショップ]
- 032 **Hara K** : EUS-BD, How I do it?. 1st MUMBAI TTT workshop, 2019,(Mumbai)[講演]
- 033 **Hara K** : Hands-on workshop(Interventional EUS). 1st MUMBAI TTT workshop, 2019,(Mumbai)[ワークショップ]
- 034 **Hara K** : The latest techniques of interventional EUS. CHDDW2019, 2019,(上海)[講演]
- 035 **Hara K** : EUS-CD LIVE DEMO. CHDDW2019, 2019,(上海)[ワークショップ]
- 036 **Hara K** : EUS-BD is better than ERCP?. 新華医院医学会, 2019,(上海)[特別講演]
- 037 **Hara K** : LIVE DEMO: EUS-FNA for pancreatic cancer. 新華医院医学会, 2019,(上海)[ワークショップ]
- 038 **Hara K** : EUS Teaching Material. AEG annual meeting, 2019,(神戸)[講演]
- 039 **Hara K** : Interventional Biliary EUS. APDW2019, 2019,(Kolkata)[特別講演]
- 040 **Hara K** : Confocal laser endomicroscopy in pancreatic biliary disease. APDW2019, 2019,(Kolkata)[特別講演]
- 041 **Todaka A, Nara S, Motoi F, Morinaga S, Hama N, Higuchi R, Konishi M, Shirakawa H, Tsumura H, Okuyama H, Matsui H, Shioji K, Sugimachi K, Asagi A, Mizuno N, Fukutomi A, Furuse J** : Multicenter retrospective observational study of pancreatic cancer with positive peritoneal lavage cytology intended for surgical resection. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2020,(San Francisco)[ポスター]
- 042 **Hara K** : Introduction of interventional EUS. AEG workshop in Chiang Mai 2020, 2020,(Chiang Mai)[特別講演]
- 043 **Hara K** : EUS LIVE DEMO. AEG workshop in Chiang Mai 2020, 2020,(Chiang Mai)[ワークショップ]
- 044 **Hara K** : EUS-BD; It is time to replace ERCP?. GI UPDATE 2020, 2020,(Mysuru)[特別講演]
- 045 **Hara K** : LIVE DEMO: EUS-BD. GI UPDATE 2020, 2020,(Mysuru), [ワークショップ]
- 046 **Hara K** : HOW I DO EUS-BD?. GI UPDATE 2020, 2020,(Mysuru)[特別講演]
- 047 **Hara K** : LIVE DEMO: EUS-BD. GI UPDATE 2020, 2020,(Mysuru)[ワークショップ]
- 048 **Hara K** : Workshop1-AEG-APASL Endoscopy Course-Session1 Frontiers Endoscopy in Liver disease. APASL 2020, 2020,(Bari)[座長]
- 049 **Hara K** : AEG Workshop-Session 2 EUS Innovation in hepatobiliary Disorders. APASL 2020, 2020,(Bari)[座長]
- 050 **Hara K** : Symposium 11 -Update on Biliary Diseases Controversial Issue on Endoscopic Management in Malignant Biliary Obstruction. APASL 2020, 2020,(Bari)[シンポジウム]
- 051 **Hara K** : Current Status EUS-guided Biliary Drainage for Benign and Malignant Biliary Obstruction. APASL 2020, 2020,(Bari)[講演]
- 052 **Hara K** : Hands-on session: EUS-FNA(B). APASL 2020, 2020,(Bari)[ワークショップ]
- 053 **原 和生**:EUS-BD ライブセミナー. 魚沼ライブセミナー, 2019,(新潟)[ワークショップ]
- 054 **原 和生** : EUS-FNA の現状と課題. 第105回日本消化器病学会総会 パネルディスカッション12, 2019,(金沢)[座長]
- 055 **栗田裕介, 桑原崇通, 原 和生** : 膵癌の早期診断における EUS-FNA の有効性と臨床および画像的特徴. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ワークショップ]

- 056 桑原崇通, 原 和生, 丹羽康正: AIを用いたIPMN良悪性診断の試み. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ワークショップ]
- 057 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生: 術後再発が疑われる術後再建腸管例に対する直視型コンベックスを用いた経空腸的EUS-FNAの検討. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[パネルディスカッション]
- 058 田口 歩, Delphine Dayde, 平山 裕, 田近正洋, 小森康司, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生, Ronald DePinho, Samir Hanash, Sunil Krishnan: マウスモデルを用いた直腸癌術前化学放射線療法の効果予測血中バイオマーカーの同定. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[一般演題]
- 059 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 丹羽康正: 当院における高齢者食道扁平上皮癌遠隔転移症例の治療戦略. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[一般演題]
- 060 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 丹羽康正: 高齢者の進行食道癌に対する術前化学療法の有効性の検討. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ポスター]
- 061 孝田博輝, 桑原崇通, 原 和生: 胆道腫瘍に対するプロローブ型共焦点レーザー内視鏡の有用性. 第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ポスター]
- 062 桑原崇通, 廣岡芳樹, 川嶋啓揮, 大野栄三郎, 石川卓哉, 原 和生: EUS-elastographyにおける慢性膵炎診断. 日本超音波学会第92回学術集会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 063 桑原崇通: 胆膵領域におけるelasticity imagingの役割. 日本超音波学会第92回学術集会, 2019,(東京)[ワークショップ司会]
- 064 原 和生: 膵臓がん検診は可能か?. 順秀会チェックアップセミナー, 2019,(名古屋)[特別講演]
- 065 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: 人工知能を用いたIPMN良悪性診断. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[シンポジウム]
- 066 孝田博輝, 奥野のぞみ, 原 和生: 内視鏡的胆道ドレナージ術の現状と問題点 悪性遠位胆管狭窄に対するprimary EUS-CDSの検討. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 067 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗山裕介, 孝田博輝, 原 和生: 頭頸部表在癌における画像強調拡大内視鏡によるtumor thicknessの検討. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[ポスター]
- 068 原 和生: M through guidewire. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京), [座長]
- 069 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生: EUS-guided hepatico enterostomyにおけるトラブル予防法. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[ワークショップ]
- 070 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 原 和生, 舛石俊樹, 三谷誠一郎, 室 圭: BRAF変異陽性切除不能進行大腸癌の臨床病理学的検討. 第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[ポスター]
- 071 水野伸匡: 膵神経内分泌腫瘍 最近の話題. 第130回日本消化器病学会東海支部例会, 2019,(浜松)[教育講演]
- 072 末永泰人, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安部哲也, 奥野正隆, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 原 和生, 清水泰博: 縦隔内膵仮性嚢胞により食道狭窄、左主気管支瘻に至った一例. 第130回日本消化器病学会東海支部例会, 2019,(浜松)[一般演題]
- 073 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 原 和生: サルコペニアから考える食道癌StageIVの治療戦略. 第73回日本食道学会学術集会, 2019,(福岡)[ポスター]
- 074 原 和生: Interventional EUSを極める. 仙台内視鏡治療ライブセミナー, 2019,(仙台)[講演]
- 075 原 和生: Pancreatic tumor. 仙台内視鏡治療ライブセミナー, 2019,(仙台)[ワークショップ]
- 076 栗田裕介, 原 和生, 清水泰博: 膵神経内分泌腫瘍の切除適応と切除範囲 遠隔転移のない2cm以下の散発性非機能性PanNENにおける切除例と経過観察例の臨床経過. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[主題]
- 077 橋本裕輔, 上野 誠, 笹平直樹, 脊山泰治, 高橋秀典, 中森正二, 海野倫明, 水野伸匡, 上野秀樹, 福富 晃, 清水 怜, 奥坂拓志, 古瀬純司, J-0108 study group: 切除可能膵癌に対する術後nab-Paclitaxel/Gemcitabineの忍容性 多施設共同Phase I試験. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[一般演題]
- 078 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博: IPMN切除例における膵外再発・残膵high risk lesion出現に関連する因子の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[一般演題]
- 079 松本逸平, 亀井敬子, 大前勝弘, 鈴木修平, 松岡英彦, 水野伸匡, 尾阪将人, 上野秀樹, 小林智, 上杉和寛, 小林真里奈, 戸高明子, 福富 晃: 局所進行切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法 多施設共同観察研究結果報告. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[ワークショップ]
- 080 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膵癌術前症例における至適胆道ドレナージを考える. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[ワークショップ]
- 081 松本逸平, 亀井敬子, 大前勝弘, 鈴木修平, 松岡英彦, 水野伸匡, 尾阪将人, 上野秀樹, 小林 智, 上杉和寛, 小林真里奈, 戸高明子, 福富 晃: 切除不能局所進行膵癌: 化学療法と化学放射線療法 局所進行切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法 多施設共同観察研究結果報告. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[ワークショップ]

- 082 脇岡 範, 山本 駿, 森実千種, 奥坂拓志, 池田公史, 水野伸匡: 膵神経内分泌腫瘍の薬物療法 切除不能の非機能性膵 NET に対する分子標的薬 +SSA 併用療法の可能性. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 083 原 和生: 口演 膵癌1. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[座長]
- 084 脇岡 範, 山本 駿, 森実千種, 奥坂拓志, 池田公史, 水野伸匡: 切除不能の非機能性膵 NET に対する分子標的薬 +SSA 併用療法の可能性. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 085 田中宏樹, 脇岡 範, 水野伸匡: 膵神経内分泌腫瘍の病理とバイオマーカー Pancreatic neuroendocrine carcinoma(PanNEC)-G3 はさらに細分化されるべきか?. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 086 孝田博輝, 水野伸匡, 原 和生: 膵神経内分泌腫瘍の病理とバイオマーカー 膵神経内分泌腫瘍(PanNEN) に対するイメージング・分子バイオマーカーの有用性の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 087 垣内伸之, 宇座徳光, 細田和貴, 谷田部 恭, 桑原崇通, 水野伸匡, 児玉裕三, 妹尾 浩, 小川誠司: 膵神経内分泌腫瘍の病理とバイオマーカー 膵神経内分泌癌の網羅的ゲノム解析. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 088 古瀬純司, 福富 晃, 水野伸匡, 尾坂将人, 井岡達也, 奥坂拓志: 『化学療法』の進歩と明日への提言 膵癌診療ガイドライン 2019—膵癌診療の進歩と明日への提言. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[特別企画]
- 089 孝田博輝, 水野伸匡, 原 和生: 膵神経内分泌腫瘍(PanNEN) に対するイメージング・分子バイオマーカーの有用性の検討. 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[パネルディスカッション]
- 090 北野雅之, 森実千種, 脇岡 範, 吉田岳一, 真口宏介, 高橋秀明, 和田慶太, 松林宏行, 水野伸匡, 寺島健志, 水本雅己, 児玉裕三, 鳥嶋雅子, 蘆田玲子, 花田敬士, 古川正幸, 河邊 顕, 高折恭一: 家族性膵癌のマネージメント 家族性膵癌早期診断に向けたスクリーニング(エキスパート・コンセンサス). 第50回日本膵臓学会大会, 2019,(東京)[ワークショップ]
- 091 Kuboki Y, Furukawa M, Takahashi Y, Mizuno N, Hara H, Ueno M, Ioka T, Takahashi S, Shimizu T, Lihou CF, Tian C, Ji T, Fujiwara Y: Preliminary results from fight-102: a phase 1 study of pemigatinib in Japanese patients with advanced malignancies. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[ポスター]
- 092 Fukutomi A, Mizuno N: Development of Immunotherapy in Gastroesophageal Cancer in the Worldwide Arena. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[司会]
- 093 津村英隆, 森実千種, 野村尚吾, 高橋秀明, 岡野尚弘, 水野伸匡, 佐竹悠良, 辻 国広, 塩路和彦, 浅木彰則, 安居幸一郎, 宮川浩之, 石黒 敦, 小倉孝氏, 上野 誠, 飛松和俊, 寺島健志, 池田公史, 奥坂拓志, 古瀬純司: Phase II trial of GEMOX for the advanced pancreatic cancer with family/personal history of HBOC related cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[口演]
- 094 池田公史, 奥山浩之, 奥坂拓志, 古瀬純司, 古川正幸, 大川伸一, 細川 歩, 小島康志, 原 浩樹, 室久 剛, 塩路和彦, 浅木彰則, 水野伸匡, 小嶋基寛, 山中竹春: Everolimus for advanced pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-based chemotherapy. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[ポスター]
- 095 原 和生: EUS-CD. AXIOS 講習会, 2019,(大阪)[特別講演]
- 096 森実千種, 池田公史, 上野 誠, 井岡達也, 長沼 篤, 古川正幸, 水野伸匡, 宇和川匡, 中井陽介, 金井雅史, 浅木彰則, 清水 怜, 宮本敦史, 行澤斉悟, 門倉 信, 丸木雄太, 山中竹春, 新井康仁, 柴田龍弘, 奥坂拓志: FGFR2-fusion gene in biliary tract carcinomas: a prospective observational study (PRELUDE study). 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[Presidential Session]
- 097 原 和生: 膵癌術前 EUS-FNA について. 第18回 FNA-Club Japan, 2019,(東京)[座長]
- 098 羽場 真, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮, 千田嘉毅, 清水泰博, 細田和貴, 原 和生: 膵尾部腫瘍の手術前後で内視鏡像に変化をきたし, 十二指腸乳頭部癌と診断して外科的切除を実施した1例. 第71回日本消化器画像診断研究会, 2019,(和歌山)[ポスター]
- 099 原 和生: 内視鏡コメンテーター. 第71回 日本消化器画像診断研究会, 2019,(和歌山)[ワークショップ]
- 100 原 和生: 一般演題 NET Forum 2019. NET Forum 2019, 2019,(名古屋)[司会]
- 101 原 和生: 胆膵診療における今後の Interventional EUS の役割～EUS - FNA からドレナージ治療まで. 第55回日本胆道学会学術集会 ランチョンセミナー, 2019,(名古屋)[特別講演]
- 102 原 和生: 口演6 内視鏡治療: 吻合部狭窄・胆管結石1. 第55回日本胆道学会学術集会, 2019,(名古屋)[座長]
- 103 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆管狭窄に対するプローブ型共焦点レーザー内視鏡の可能性. 第55回日本胆道学会学術集会, 2019,(名古屋)[口演]
- 104 宮野 亮, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝: 診断が困難であった IgG4 関連硬化性胆管炎の1例. 第55回日本胆道学会学術集会, 2019,(名古屋)[ポスター]
- 105 孝田博輝, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆嚢腺筋腫症と胆嚢癌の鑑別及び治療戦略. 第55回日本胆道学会学術集会, 2019,(名古屋)[シンポジウム]
- 106 原 和生: 膵胆内視鏡診断・治療における最新の話題.

- 第4回 GI Frontier in Suzuka, 2019,(鈴鹿)[特別講演]
- 107 原 和生：膵胆内視鏡診断・治療における最新の話題。消化器懇話会スペシャル, 2019,(広島)[特別講演]
- 108 原 和生：胆膵疾患に対する内視鏡診療の最前線。第12回地域医療研究会 イブニングセミナー, 2019,(石川県)[特別講演]
- 109 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博：膵癌術前症例における至適胆道ドレナージとは。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019, 2019,(神戸)[ポスター]
- 110 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤真也, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 原 和生, 安藤昌彦, 丹羽康正：大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の分割投与(2日法)の検討。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019,(神戸)[一般演題]
- 111 原 和生：デジタルポスター 十二指腸乳頭部。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019,(神戸)[司会]
- 112 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田祐介, 孝田博輝, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正：日本食道学会拡大内視鏡分類を用いた食道表在癌の深達度診断。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019,(神戸)[ポスター]
- 113 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生：Deep learning を用いた IPMN 良悪性診断。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019,(神戸)[ワークショップ]
- 114 孝田博輝, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田祐介, 原 和生：当院における80歳以上の膵癌患者の臨床背景と治療成績。第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW)2019,(神戸)[デジタルポスター]
- 115 原 和生：AXIOS 講習会。AXIOS Hands-on セミナー, 2019,(大津)[特別講演]
- 116 原 和生：ゲノム時代の胆膵内視鏡診断と治療。胆膵内視鏡フロンティアセミナー in 鳥取, 2019,(米子)[特別講演]
- 117 原 和生：膵のう胞性疾患の診療における現状と課題。第131回日本消化器病学会東海支部例会, 2019,(名古屋)[教育講演]
- 118 孝田博輝, 桑原崇通, 原 和生：膵神経内分泌腫瘍に対するSRSの有用性の検討。第131回日本消化器病学会東海支部例会, 2019,(名古屋)[パネルディスカッション]
- 119 原 和生：新規デバイス開発に向けた提言。朝日インテック講演会, 2019,(瀬戸)[特別講演]
- 120 原 和生：シンポジウム2 胆膵内視鏡診療を安全に行うための工夫。第62回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2019,(名古屋)[司会]
- 121 宮野 亮, 奥野のぞみ, 原 和生：超音波内視鏡下胆管胃吻合術(EUS-HGS)を安全に行うための工夫。第62回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2019,(名古屋)[シンポジウム]
- 122 原 和生：超音波内視鏡の最前線。京阪奈胆膵フォーラム, 2020,(京都)[特別講演]
- 123 原 和生：特別講演 消化器DICの最前線。Asahi DIC Conference, 2020,(名古屋)[司会]
- 124 原 和生：胆膵内視鏡 温故知新。第8回神奈川胆膵エキスパートセミナー, 2020,(横浜)[特別講演]
- 125 原 和生：AXIOS 講習会。AXIOS Hands-on セミナー in 名古屋市立大学病院, 2020,(名古屋)[特別講演]

## 内視鏡部

- 001 舩石俊樹, 田近正洋, 小森康司, 室 圭：直腸癌局所再発に対する治療戦略 局所再発を伴う切除不能再発直腸癌における化学療法の有効性と限界。第119回日本外科学会定期学術集会, 2019,(大阪)[一般演題]
- 002 田口 歩, *Delphine Dayde*, 平山 裕, 田近正洋, 小森康司, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生, *Ronald DePinho*, *Samir Hanash*, *Sunil Krishnan*：マウスモデルを用いた直腸癌術前化学放射線療法の効果予測血中バイオマーカーの同定。第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ポスター]
- 003 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正：消化管神経内分泌腫瘍の最前線 当院におけるGI-NENに対するSRSの検出率に関する検討。第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ワークショップ]
- 004 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田祐介, 孝田博輝, 原 和生, 丹羽康正：サルコペニアから考える食道癌 Stage IV の治療戦略。第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ポスター]
- 005 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正：食道ESD 適応外病変の治療方針 PDT を含めて 食道癌化学放射線療法後に遺残・再発した表在性病変に対するサルベージ内視鏡治療の適応。第105回日本消化器病学会総会, 2019,(金沢)[ワークショップ]
- 006 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田祐介, 孝田博輝, 原 和生：頭頸部表在癌における画像強調拡大内視鏡による Tumor thickness の検討。第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[ポスター]
- 007 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 小畑雅寛, 栗田祐介, 孝田博輝, 原 和生：BRAF 変異陽性切除不能進行大腸癌の臨床病理学的検討。第97回日本消化器内視鏡学会総会, 2019,(東京)[ポスター]
- 008 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣榮治, 室 圭, 門脇重憲, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 清水泰博：術前DCF療法による口腔粘膜炎に対するGFO療法の有用性。第73回日本食道学会学術集会, 2019,(福岡)[一般演題]
- 009 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 鳥山和浩, 古平 毅, 安部哲也, 室 圭, 丹羽康正：サルコペニアから考える切除不能進行食道癌治療。第73回日本食道学会学術集

- 会,2019,(福岡)[ポスター]
- 010 田近正洋:第19回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研究会,2019,(岐阜)[座長]
- 011 田中 努,田近正洋,平山 裕,大西祥代,原 和生,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,羽場 真,孝田博輝,宮野 亮,丹羽康正:SSA/Pに併存した早期大腸癌の1例.第16回拡大内視鏡研究会,2019,(東京)[口演]
- 012 田近正洋:第7回日本家族性大腸腺腫症研究会,2019,(大阪)[座長]
- 013 平山 裕,田近正洋,田中 努,大西祥代,原 和生,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,松本慎平,丹羽康正:当院における高齢者食道扁平上皮癌遠隔転移症例の治療戦略.第27回日本消化器関連学会週間(JDDW)2019,2019,(神戸)[ポスター]
- 014 田近正洋,田中 努,石原 誠,平山 裕,大西祥代,近藤真也,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,松本慎平,原 和生,安藤昌彦,丹羽康正:大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の分割投与(2日法)の検討.第27回日本消化器関連学会週間(JDDW)2019,2019,(神戸)[一般演題]
- 015 田中 努,平山 裕,大西祥代,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,松本慎平,鳥山和浩,小畑雅寛,栗田祐介,孝田博輝,原 和生,田近正洋,丹羽康正:日本食道学会拡大内視鏡分類を用いた食道表在癌の深達度診断.第27回日本消化器関連学会週間(JDDW)2019,2019,(神戸)[ポスター]
- 016 大西祥代,田近正洋,田中 努,平山 裕,原 和生,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,孝田博輝,丹羽康正:高齢者の進行食道癌に対する術前化学療法の有用性の検討.第27回日本消化器関連学会週間(JDDW)2019,2019,(神戸)[ポスター]
- 017 田中 努,平山 裕,桑原崇通,丹羽康正:胃がん手術症例におけるABC分類A群の検討.第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会,2019,(金沢)[口演]
- 018 大西祥代,田近正洋,井本逸勢:大腸癌におけるリンチ症候群のユニバーサルスクリーニング.第131回日本消化器病学会東海支部例会,2019,(名古屋)[シンポジウム]
- 019 大西祥代,田近正洋,丹羽康正:当院における早期大腸癌の深達度診断や治療に画像強調観察(IEE)が及ぼす影響.第62回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2019,(名古屋)[シンポジウム]
- 020 田近正洋:第30回日本消化器内視鏡学会東海セミナー,2019,(名古屋)[座長]
- 021 田近正洋:大腸がん撲滅を目指した大腸がん診療~最新の内視鏡検査と治療~.令和元年度愛知県がん検診従事者講習会,2019,(名古屋)[講演]

## 呼吸器内科部

- 001 Ramalingam S, Saka H, Ahn MJ, Yu H, Horn L, Hida T, Ottosen L, Verheijen R, Melleregaard A, Wessen J, Oxnard G, Ohe Y: Osimertinib plus selumetinib for pa-

- tients (pts) with EGFR-mutant (EGFRm) NSCLC following disease progression on an EGFR-TKI: results from the Phase Ib TATTON study. AACR Annual Meeting, 2019,(Atlanta)[Oral]
- 002 Wolf J, Seto T, Han JY, Reguart N, Garon EB, Groen HJM, Tan DSW, Hida T, de Jonge M, Orlov SV, Smit EF, Souquet PJ, Vansteenkiste J, Giovannini M, Mouhaer SL, Robeva A, Waldron-Lynch M: Heist RS. Capmatinib (INC280) in *MET* $\Delta$ *ex14*-mutated advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): an update (including preliminary duration of response [DOR] and progression-free survival [PFS]) from phase 2 GEOMETRY mono-1 study. ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago)[Oral]
- 003 Seto T, Hida T, Nokihara H, Morise M, Kim YH, Azuma K, Takiguchi Y, Nishio M, Yoshioka H, Kumagai T, Hotta K, Watanabe S, Goto K, Satouchi M, Kozuki T, Nakagawa K, Mitsudomi T, Yamamoto N, Asakawa T, Tamura T: Final PFS analysis and safety data from the phase III J-ALEX study of Alectinib (ALC) vs. Crizotinib (CRZ) in ALK-inhibitor naïve ALK-positive Non-Small Cell Lung Cancer (ALK+ NSCLC). ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago)[Poster]
- 004 Hida T: Non EGFR/MET targeted therapies. World Conference on Lung Cancer, 2019,(Barcelona)[Oral]
- 005 Seto T, Niho S, Yoshida T, Akimoto T, Sakamaki K, Takahashi T, Nishio M, Yamamoto N, Hida T, Okamoto H, Kurata T, Satouchi M, Goto K, Yamanaka T, Ohe Y: Randomized phase II study of CDDP+S-1 vs CDDP+PEM combined with thoracic RT for locally advanced non-squamous non-small cell lung cancer: SPECTRA study. World Conference on Lung Cancer, 2019,(Barcelona)[Oral]
- 006 Takahashi K, Ito K, Murotani K, Asada K, Okuno M, Kimura T, Kubo A, Suda T, Taniguchi H, Hataji O, Shindo J, Kunii E, Yoshida T, Imaizumi K, Hida T: Retreatment with EGFR-TKI for 541 NSCLC patients with EGFR mutation. World Conference on Lung Cancer, 2019,(Barcelona)[Poster]
- 007 Yamaguchi T, Shimizu J, Oya Y, Furuta H, Watanabe N, Horio Y, Hida T: Improving the prognosis of non-small cell lung cancer after the approval of immune checkpoint inhibitors: A retrospective analysis. World Conference on Lung Cancer, 2019,(Barcelona)[Poster]
- 008 Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y: Lung adenocarcinoma with a rare BRAF V600E K601\_W604del mutation responded to dabrafenib plus trametinib treatment: A case report. World Conference on Lung Cancer, 2019,(Barcelona)[Poster]
- 009 Heist RS, Wolf J, Seto T, Han JY, Reguart N, Groen HJM, Tan DSW, Hida T, de Jonge M, Orlov SV, Smit EF, Souquet PJ, Vansteenkiste J, Giovannini M,



- Mouhaer SL, Robeva A, Waldron-Lynch M, Garon EB** : Capmatinib in *METΔex14*-mutated advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): Efficacy data from the phase II GEOMETRY mono-1 study. North America Conference on Lung Cancer, 2019,(Chicago),[Oral]
- 010 **Horiike A, Nishio M, Niho S, Yoshida T, Akimoto T, Sakamaki K, Takahashi T, Seto T, Yamamoto N, Hida T, Okamoto H, Kurata T, Satouchi M, Goto K, Yamanka T, Ohe Y** : Randomized phase II study of CDDP+S-1 vs CDDP+PEM combined with thoracic RT for locally advanced non-squamous NSCLC: SPECTRA study. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都),[口演]
- 011 **Yoshida T, Oya Y, Kikkawa M, Kuroda H, Hida T** : Investigation on the working status during cancer treatment in advanced NSCLC patients. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都),[口演]
- 012 **Shimomura K, Oya Y, Murotani K, Yamaguchi T, Kagawa Y, Furuta H, Watanabe N, Uemura T, Shimizu J, Horio Y, Inaguma K, Kuroda H, Hida T, Yatabe Y, Kajita M** : Association between early immune-related adverse events and clinical outcomes in NSCLC treated with pembrolizumab monotherapy. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(東京),[ポスター]
- 013 **Yamaguchi T, Morise M, Shindoh J, Imaizumi K, Kimura T, Kogure Y, Sugino Y, Ikeda T, Hida T** : A multicenter, prospective observational study of pegfilgrastim for the management of febrile neutropenia during ramucirumab plus docetaxel for patients with advanced non-small cell lung cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都),[ポスター]
- 014 **Oya Y, Yoshida T, Asada K, Oguri T, Inui N, Morikawa S, Ito K, Kimura Duni E, Matsui T, Kubo A, Kato T, Shindo J, Tsuda T, Okuno M, Hida T** : Low detection rate of EGFR driver and T790M mutation in plasma EGFR Mutation Test after acquired resistance to afatinib. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[English poster discussion]
- 015 **Katakami N, Akamatsu H, Hida T, Okamoto I, Takahashi T, Maemondo M, Tanaka H, Kato T, Kim YH, Imamura F, Shinkai M, Miranda M, Laus G, Uchida H, Wu YL** : Papadimitrakopoulou VA. Osimertinib vs platinum-pemetrexed in patients with EGFR T790M-positive NSCLC:AURA3 final OS. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[口演]
- 016 **山口哲平, 伊藤健太郎, 大矢由子, 樋田豊明** : 実臨床においてオシメルチニブを投与された143例の検討. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[ミニシンポジウム]
- 017 **高橋孝輔, 伊藤健太郎, 室谷健太, 朝田和博, 奥野元保, 木村智樹, 久保昭仁, 須田隆文, 谷口浩和, 畑地 治, 進藤 丈, 國井英治, 吉田達哉, 今泉和良, 樋田豊明** : EGFR-TKIのrechallengeを行った541例の検討. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[ミニシンポジウム]
- 018 **大矢由子, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 谷田部 恭, 樋田豊明** : 抗 PD-1 抗体の治療効果と血中補体濃度との相関. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[ポスター]
- 019 **伊藤健太郎, 大矢由子, 吉田達哉, 樋田豊明** : EGFR 阻害剤治療中の病勢進行による中断症例と副作用による中断症例の検討. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[ポスター]
- 020 **金地伸拓, 清水淳市, 坂井健一郎, 上田 裕, 井上卓哉, 渡邊直樹, 田所 明, 渡辺尚宏, 上村剛大, 樋田豊明, 宮脇裕史, 坂東修二, 石井知也** : 間質性肺炎患は小細胞肺癌患者の予後および治療反応性を低下させる. 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019,(東京),[ポスター]
- 021 **瀬戸貴司, 大橋圭明, 菅原俊一, 西尾誠人, 武田真幸, 青江啓介, 茂泉早苗, 野村怜史, 樋田豊明** : *METΔex14* 変異陽性の進行 NSCLC を対象としたカプマチニブ第II相試験 (GEOMETRY mono-1) : 日本人部分集団解析. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[口演]
- 022 **吉田達哉, 仁保誠治, 瀬戸貴司, 秋元哲夫, 坂巻顕太郎, 高橋利明, 西尾誠人, 山本 昇, 樋田豊明, 岡本浩明, 倉田宝保, 里内美弥子, 後藤功一, 山中竹春, 大江裕一郎** : 局所進行非扁平上皮 NSCLC に対する CDDP+S-1+TRT と CDDP+PEM+TRT の無作為化第II相試験 (SPECTRA), 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[口演]
- 023 **山口哲平, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明** : 非小細胞肺癌における背景肺の線維化と ICI 上市前後の予後の変, 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[口演]
- 024 **大矢由子, 清水淳市, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 谷田部 恭, 樋田豊明** : 重複がんの有無と免疫チェックポイント阻害薬治療の治療効果における関連. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[口演]
- 025 **上村剛大, 大矢由子, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 樋田豊明** : 非小細胞肺癌治療における抗 PD-1 阻害薬投与後の atezolizumab の有効性, 安全性の検討. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[ポスター]
- 026 **大矢由子, 山口哲平, 田中 寛, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 立花弘之, 黒田浩章, 古平 毅, 樋田豊明** : 局所進行非小細胞肺癌に対する根治的放射線療法における再発様式と予後の検討. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[ポスター]
- 027 **堀尾芳嗣, 古田裕美, 大矢由子, 上村剛大, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 谷田部 恭, 樋田豊明** : ニボルマブで長期完全寛解を得ている化学放射線治療後再発の肺癌患者の1例. 第60回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪),[ポスター]
- 028 **大矢由子, 樋田豊明, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 谷田部 恭** : アテゾリ

ズマブ投与後に一過性の胸水増加をきたした後に奏功を得た ALK 融合遺伝子陽性肺腺癌の一例。第 115 回日本肺癌学会中部支部会, 2019,(岐阜)[口演]

- 029 清水淳市, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上村剛大, 古田裕美, 大矢由子, 堀尾芳嗣, 樋田豊明: 愛知県がんセンターにおける悪性胸膜中皮腫に対するニボルマブ投与の現状。第 1 回日本石綿中皮腫学会学術集会, 2019,(名古屋)[口演]
- 030 清水淳市, 加藤了資, 林秀敏, 千葉康敬, 宮脇英里子, 尾崎智博, 藤本大智, 豊澤亮, 坂本信二郎, 新屋智之, 知花賢治, 横井崇, 岡田英明, 秦明登, 福山誠一, 田幡江利子, 長島聖二, 濱元陽一郎, 山本信之, 中川和彦: 進行非小細胞肺癌に対する PD-1 阻害薬投与後の化学療法の有効性を検討する大規模比較研究(WJOG10217L)。第 60 回日本肺癌学会学術集会, 2019,(大阪)[口演]
- 031 清水淳市, 古田裕美, 大矢由子, 渡辺尚宏, 山口哲平, 上村剛大, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 田近正洋, 谷田部恭: 非小細胞肺癌に対するペバシズマブ維持治療中に食道潰瘍を来した 1 例。第 115 回日本呼吸器学会東海地方学会, 2019,(名古屋)[口演]
- 032 山口哲平, 大矢由子, 古田裕美, 渡辺尚宏, 上村剛大, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明: 肺扁平上皮癌術後再発に対し化学療法中に肺結核を合併した 1 例。第 115 回日本呼吸器学会東海地方学会, 2019,(名古屋)[口演]
- 033 山口哲平, 森瀬昌宏, 後藤康洋, 進藤丈, 木村智樹, 小暮啓人, 杉野安輝, 池田拓也, 今泉和良: 非小細胞肺癌に対する RAM+DTX 療法のペグフィルグラスチム併用時の FN 発現割合に関する他施設共同前向き観察研究 (CJLSG1602), 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[口演]

## 血液・細胞療法部

- 001 Kazuhito Yamamoto : Integrating BTK and Other New Targets in MCL, 2nd Global Summit on Hematologic Malignancies in Tokyo, 2019,(Maihama, Chiba)[Oral]
- 002 Harumi Kato, Toko Saito, Hidetsugu Mihara, Hirofumi Taji, Yasushi Yatabe, Shigeo Nakamura, Tomohiro Kinoshita, and Kazuhito Yamamoto : Incidence and characteristics of patients with nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma Annual Hematological Malignancies Summit in Tokyo;2019,(Tokyo)[ポスター]
- 003 Harumi Kato, Toko Saito, Hidetsugu Mihara, Hirofumi Taji, Yasushi Yatabe, Shigeo Nakamura, Tomohiro Kinoshita, and Kazuhito Yamamoto : Incidence and characteristics of patients with nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma The 10th JSH International Symposium 2019; 2019,(鳥羽)[ポスター]
- 004 Toko Saito, Harumi Kato, Naoyuki Tange, Tomohiro Kinoshita, Hirofumi Taji, Yasushi Yatabe, Shigeo Nakamura, and Kazuhito Yamamoto : Comparison of different definition of GELF criteria in patients with fol-

licular lymphoma treated with first-line immune chemotherapy : The 10th JSH International Symposium 2019; 2019,(鳥羽)[ポスター]

- 005 Michinori Ogura, Kazuhito Yamamoto, Yasuo Morishima, Masashi Wakabayashi, Kensei Tobinai, Kiyoshi Ando, Naokuni Uike, Mitsutoshi Kurosawa, Hiroshi Gomyo, Masafumi Taniwaki, Kisato Nosaka, Norifumi Tsukamoto, Tatsu Shimoyama, Noriko Fukuhara, Yoshihiro Yakushijin, Kazunori Ohnishi, Kana Miyazaki, Kenichi Sawada, Nobuyuki Takayama, Ichiro Hanamura, Hirofumi Kobayashi, Kensuke Usuki, Naoki Kobayashi, Kazuma Ohyashiki, Takahiko Utsumi, Kyoya Kumagai, Dai Maruyama, Ken Ohmachi, Yoshihiro Matsuno, Shigeo Nakamura, Tomomitsu Hotta, Kunihiro Tsukasaki, Hirokazu Nagai, Lymphoma Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG) : LONG-TERM FOLLOW-UP OF JCOG0406 STUDY: INTENSIVE IMMUNOCHEMOTHERAPY (R-HIGH CHOP/CHASER) FOLLOWED BY HIGH-DOSE CHEMOTHERAPY (LEED) WITH AUTO-PB-SCT IN UNTREATED MANTLE CELL LYMPHOMA, The 24th Congress of the European Hematology Association, 2019,(Amsterdam, Netherland)[Poster].
- 006 Mizuno Shohei, Masamitsu Yanada, Koji Kawamura, Shingo Yano, Masayoshi Masuko, Naoyuki Uchida, Yukiyasu Ozawa, Koji Iwato, Kazuteru Ohashi, Kazuhiro Ikegame, Sung-Won Kim, Masatsugu Tanaka, Tetsuya Eto, Yoshinobu Kanda, Takahiro Fukuda, Yoshiko Atsuta, Akiyoshi Takami : Allogeneic stem cell transplantation in patients with Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia in Japan. The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019,(Florida)[Poster]
- 007 Naoto Takahashi, Tomoko Yoshioka, Takahiro Kobayashi, Masahiro Kizaki, Tatsuya Kawaguchi, Ritsuro Suzuki, Kazuhito Yamamoto, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, and Itaru Matsumura : Second-generation Tyrosine Kinase Inhibitors for Chronic Myeloid Leukemia with Additional Chromosomal Abnormalities, The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019,(Orlando, Florida)[Poster]
- 008 Takaaki Ono, Naoto Takahashi, Masahiro Kizaki, Tatsuya Kawaguchi, Ritsuro Suzuki, Kazuhito Yamamoto, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, and Itaru Matsumura : Prognostic Effects of Pretreatment Statuses at Diagnosis in Patients with Chronic Myeloid Leukemia: Results of the New TARGET Observational Study 1, The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019, (Orlando, Florida)[Poster]
- 009 Grzegorz S. Nowakowski, Annalisa Chiappella, Fangxin Hong, Randy D. Gascoyne, David W. Scott, William R. Macon, Rebecca L. King, Jennifer E. Amengual, Rich-

- ard F. Little, John P. Leonard, Jonathan W. Friedberg, Lale Kostakoglu, Wojciech Jurczak, Kazuhito Yamamoto, Myron Czuczman, Jacqueline Russo, Krista Hudak, Jingshan Zhang, Steve Wade, Thomas E. Witzig, Brad S. Kahl, and Umberto Vitolo : Factors That Potentially Impact Lenalidomide/R-CHOP (R2-CHOP) Efficacy in Previously Untreated Diffuse Large B-Cell Lymphoma in the ROBUST and ECOG-ACRIN 1412 Studies, The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019,(Orlando, Florida),[Poster]
- 010 **Annalisa Chiappella, Thomas E. Witzig, Kim Cocks, Mike Greenwood, Abi Williams, David W. Scott, Randy D. Gascoyne, Kazuhito Yamamoto, Wojciech Jurczak, Muhit Özcan, David Belada, Juan Miguel Bergua Burgues, Francesco Piazza, Carlo Visco, Gerardo Musuraca, Sandra Margunato-Debay, Myron Czuczman, Merry Zhai, Julia Braverman, Umberto Vitolo and Grzegorz S. Nowakowski** : Quality of Life Was Not Negatively Impacted by the Addition of Lenalidomide to R-CHOP Chemotherapy Compared with Placebo Plus R-CHOP Chemotherapy in Patients with Previously Untreated Activated B-cell Type Diffuse Large B-cell Lymphoma: Health-Related Quality of Life Analysis of the International ROBUST Study, The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019, (Orlando, Florida),[Poster]
- 011 **Dai Maruyama, Kiyoshi Ando, Kazuhito Yamamoto, Eiji Kiyohara, Yasuhito Terui, Noriko Fukuhara, Tomomitsu Miyagaki, Hidetsugu Kawai, Yoshiki Tokura, Mamiko Sakata, Tadahiko Igarashi, Junya Kuroda, Jiro Fujita, Toshiki Uchida, Takayuki Ishikawa, Kentaro Yonekura, Koji Kato, Tadashi Nakanishi, Kenya Naka, Risa Matsunaga, Kensei Tobinai** : Phase 2 study of E7777, a diphtheria toxin fragment-interleukin-2 fusion protein, in Japanese patients with relapsed or refractory, peripheral and cutaneous T-cell lymphoma, The 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2019,(Orlando, Florida),[Poster]
- 012 **加藤光次, 山本一仁, 石川隆之, Kathryn Humphrey, Su Young Kim, 大久保澄子, 伊豆津宏二** : Phase 2 Study of Venetoclax (VEN) Combined with Rituximab (RX) in Japanese (JPN) Patients (pts) with Relapsed/Refractory (R/R) Chronic Lymphocytic Leukemia (CLL), 第59回日本リンパ 網内系学会総会, 2019,(出雲),[Poster]
- 013 **山本一仁** : リンパ腫治療が変わる? 重要臨床試験の結果を読み解く: ホジキンリンパ腫, 日本リンパ網内系学会リンパ腫エキスパート養成セミナー 2019, 2019,(東京),[口演]
- 014 **鏡味良豊, 内山 進, 加藤春美, 山本一仁, 瀬戸加大** : IL2およびIL4とは異なる活性化機構を持つ、IL2/IL4依存性 ATLL 細胞株の樹立: 第59回日本リンパ網内系学会総会, 2019,(出雲),[ポスター]
- 015 **内田圭一, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 加藤省一, 谷田部 恭, 山本一仁** : Safety profile of bendamustine in combination with obinutuzumab or rituximab for follicular lymphoma; 第81回日本血液学会学術集会, 2019,(東京),[口演]
- 016 **上田格弘, 全並正人, 鳥居弥寿子, 石栗有美, 足立佳也, 木原里香, 綿本浩一** : 自家末梢血造血幹細胞移植非適応の再発びまん性大細胞B細胞性リンパ腫患者の予後: 第81回日本血液学会学術集会, 2019,(東京),[口演]
- 017 **内田圭一, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 加藤省一, 谷田部 恭, 山本一仁** : 濾胞性リンパ腫に対するOB療法またはBR療法の安全性に関する検討, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[ポスター]
- 018 **大間知謙, 木下朝博, 飛内賢正, 小川岳人, 水谷友紀, 山内寛彦, 福原規子, 内田俊樹, 山本一仁, 宮崎香奈, 塚本憲史, 飯田真介, 内海貴彦, 吉田 功, 今泉芳孝, 徳永隆之, 吉田真一郎, 正木康史, 村山 徹, 薬師神芳洋, 末廣陽子, 野坂生郷, 土橋史明, 黒田純也, 高松 泰, 丸山 大, 安藤 潔, 石澤賢一, 小椋美知則, 吉野 正, 堀田知光, 塚崎邦弘, 永井宏和** : Randomized phase II/III study of R-CHOP vs CHOP with dose-dense rituximab in DLBCL: JCOG0601, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 019 **照井康仁, 丸山 大, 山本一仁, 福原規子, 崔日 承, 黒田純也, 安藤 潔, 服部 晶, 飛内賢正** : Final results from a Japanese phase 2 study of Nivolumab in Relapsed/Refractory Hodgkin Lymphoma, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 020 **吉岡智子, 高橋直人, 木崎昌弘, 川口辰哉, 鈴木律朗, 山本一仁, 大西一功, 直江知樹, 松村 到** : The 2G-TKIs can overcome poor prognosis of CML patients with ACAs: the New TARGET study 1, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 021 **山本一仁, 高橋直人, 湯田淳一朗, 木崎昌弘, 川口辰哉, 鈴木律朗, 大西一功, 直江知樹, 松村 到** : Lack of negative impact of BCR-ABLINS35bp on the outcome of CML: An analysis from the New TARGET 1, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 022 **小野孝明, 高橋直人, 木崎昌弘, 川口辰哉, 鈴木律朗, 山本一仁, 大西一功, 直江知樹, 松村 到** : Impact of Charlson Comorbidity Index in chronic myeloid leukemia: results of the New TARGET study 1, 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 023 **柳田正光, 小沼貴晶, 嶽塚八千代, 近藤忠一, 河田岳人, 高橋 聡, 内田直之, 宮腰重三郎, 田中正嗣, 小澤幸泰, 澤 正史, 中前博久, 青墳信之, 諫田淳也, 高梨美乃子, 神田善伸, 熱田由子, 矢野真吾** : 成人急性骨髄性白血病に対する同種造血細胞移植に用いる臍帯血ユニット選択に関する検討: 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019,(東京),[口演]
- 024 **水野昌平, 柳田正光, 河村浩二, 水谷元紀, 増子正義, 内田直之, 小澤幸泰, 岩戸康治, 大橋一輝, 池亀和博, 金成元, 金森平和, 衛藤徹也, 神田善伸, 福田隆浩, 熱**

- 田由子, 矢野真吾, 高見昭良: フィラデルフィア染色体陽性急性骨髄性白血病の同種移植成績: 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019, (東京), [口演]
- 025 内田圭一, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 加藤省一, 谷田部 恭, 山本一仁: 濾胞性リンパ腫に対するOB療法またはBR療法の安全性に関する検討: 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019, (東京), [口演]
- 026 丸山 大, 福原規子, 伊豆津宏二, 内田俊樹, 楠本 茂, 黒田純也, 入山智沙子, 柳田正光, 塚本憲史, 末廣陽子, 南 博信, 永井宏和, 増田茂夫, 飛内賢正: 再発または難治性の日本人低悪性度B細胞リンパ腫患者に対するコパンリシブの第Ib/II相試験: 第81回日本血液学会学術集会総会, 2019, (東京), [口演]
- 027 下村良充, 原 正彦, 平林茂樹, 近藤忠一, 水野昌平, 内田直之, 河北敏郎, 土岐典子, 福田隆浩, 和氣 敦, 神田善伸, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光: 非寛解急性骨髄性白血病におけるFlu/Bu4/Melと従来型骨髄破壊的前処置の比較: 第42回日本造血細胞移植学会総会, 2020, (東京), [口演]
- 028 山崎 聡, 青木 淳, 森 甚一, 水野昌平, 内田直之, 大橋一輝, 福田隆浩, 池亀和博, 衛藤徹也, 小澤幸泰, 田中正嗣, 日高道弘, 岩戸康治, 澤 正史, 一戸辰夫, 神田善伸, 熱田由子, 柳田正光, 矢野真吾: 髄外性骨髄腫を伴ったAMLに対する同種造血幹細胞移植に関する後方視的解析: 第42回日本造血細胞移植学会総会, 2020, (東京), [口演]

## 薬物療法部

- 001 Muro K: Are There Geographical Variations in Immunotherapy Outcome Around the Globe?. ASCO, 2019, (Chicago), [Education Session]
- 002 Wainberg ZA, Yoon HH, Catenacci DV, T, Jalal SI, Muro K, Garrido M, Golan T, Doi T, Geva R, Ku GY, Bleeker JS, Bang Y-J, Hara H, Chung HC, Wang JD, Hazzard A, Shah S, Fuchs CS: Efficacy and safety of pembrolizumab (pembro) alone or in combination with chemotherapy (chemo) in patients (pts) with advanced gastric or gastroesophageal (G/GEJ) cancer: Long-term follow up from KEYNOTE-059. ASCO, 2019, (Chicago), [Poster]
- 003 Shah MA, Adenis A, Enzinger PC, Kojima T, Muro K, Bennouna J, Francois E, Hsu C-H, Moriwaki T, Kim S-B, Lee S-H, Kato K, Shen L, Qin S, Ferreira P, Wang R, Bhagia P, Kang S-P, Metges J-P, Doi T: Pembrolizumab versus chemotherapy as second-line therapy for advanced esophageal cancer: Phase 3 KEYNOTE-181 study. ASCO, 2019, (Chicago), [Poster]
- 004 Wirth LJ, Lebourneux S, Kiyota N, Tahara M, Muro K, Ahn M-J, Ando Y, Taylor MH, Takahashi S, Kim S-B, Misir S, Dutcus CE, Xie R, Joshi PR, Hughes BGM, Aller J, Krzyzanowska MK, Capdevila J: Influence of tumor size and Eastern Cooperative Oncology Group performance status (ECOG PS) at baseline on patient (pt) outcomes in lenvatinib-treated radioiodine-refractory differentiated thyroid cancer (RR-DTC). ASCO, 2019, (Chicago), [Poster]
- 005 Lustberg MB, Pfeiffer P, Qvortrup C, Muro K, Bengtson MH, Nittve M, Sonesson C, Nagahama F, Sonehara Y, Carlsson CS: The Global POLAR program: Two pivotal placebo-controlled studies of calmagofodipir used on top of modified FOLFOX6 to prevent chemotherapy-induced peripheral neuropathy (CIPN). ASCO, 2019, (Chicago), [TPS]
- 006 Jogo T, Nakamura Y, Komatsu Y, Kato K, Shinozaki E, Bando H, Kato T, Nishina T, Esaki T, Fujii S, Suzuki M, Fuse N, Sato A, Nomura S, Lefterova M, Odegaard J, Ebi H, Yoshino T: TiFFANY study: A multicenter phase II basket-type clinical trial to evaluate efficacy and safety of pan-FGFR inhibitor TAS-120 for advanced solid malignancies with FGFR alterations identified by circulating tumor DNA. ASCO, 2019, (Chicago), [TPS]
- 007 Bando H, Kotani D, Tsushima T, Hara H, Kadowaki S, Kato K, Chin K, Yamaguchi K, Kageyama S, Hojo H, Wakabayashi M, Fukutani M, Togashi Y, Fuse N, Nishikawa H, Kojima T: TENERGY: Multicenter phase II study of atezolizumab monotherapy following definitive chemoradiotherapy with 5-FU plus cisplatin in patients with locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. ASCO, 2019, (Chicago), [TPS]
- 008 Yoshino T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Kotani D, Fukuoka S, Sasaki T, Nishizawa Y, Nakamura N, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M: Voltage: Investigator-initiated clinical trial of nivolumab monotherapy and subsequent radical surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with microsatellite stable locally advanced rectal cancer. ASCO, 2019, (Chicago), [Poster]
- 009 Masuishi T, Moriwaki T, Fukuoka S, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Katsumata K, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Komatsu Y, Yoshimura K, Shimada Y: Predictive factors for early mortality after initiation of regorafenib or trifluridine/tipiracil in refractory metastatic colorectal cancer. ASCO, 2019, (Chicago), [Poster]
- 010 Metges J, Francois E, Shah M, Adenis A, Enzinger P, Kojima T, Muro K, Bennouna J, Hsu C, Moriwaki T, Kim S, Lee S, Kato K, Shen L, Qin S, Ferreira P, Wang R, Bhagia P, Kang S, Doi T: The phase 3 KEYNOTE-181 study: pembrolizumab versus chemotherapy as second-line therapy for advanced esophageal cancer. ESMO-GI, 2019, (Barcelona), [Oral]
- 011 Yoshino T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Yuki S,

- Komatsu Y, Homma S, Uemura M, Kato T, Kotani D, Fukuoka S, Sasaki T, Nishizawa Y, Nakamura N, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Ito M** : VOLTAGE: Investigator-initiated clinical trial of nivolumab monotherapy and subsequent radical surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with microsatellite stable locally advanced rectal cancer. ESMO-GI,2019,(Barcelona),[Oral]
- 012 **Watanabe J, Sato T, Kagawa Y, Oki E, Kuboki Y, Ikeda M, Ueno H, Kato T, Kusumoto T, Masuishi T, Yamaguchi K, Kanazawa A, Nishina T, Uetake H, Yamanaka T, Yoshino T** : SUNRISE-DI study: decision impact of the 12-gene recurrence score (12-RS) assay on adjuvant chemotherapy recommendation for stage II and IIIA/B colon cancer. ESMO-GI,2019,(Barcelona),[Oral]
- 013 **Kadowaki S, Izawa N, Minashi K, Nishina T, Yamanaka T, Muro K, Sunakawa Y, Hironaka S, Kajiwara T, Kawakami Y, Nakajima T** : Multicenter phase I/II study of nivolumab combined with paclitaxel plus ramucirumab as the second-line treatment in patients with advanced gastric cancer. ESMO-GI,2019,(Barcelona),[Short Oral]
- 014 **Kang Y, Chin K, Chung H, Kadowaki S, Oh S, Nakayama N, Lee K, Hara H, Chung I, Tsuda M, Park S, Hosaka H, Hironaka S, Miyata Y, Ryu M, Takeuchi M, Baba H, Hyodo I, Bang Y, Boku N** : A phase III study of TAS-118 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin as first-line chemotherapy in patients with advanced gastric cancer (SOLAR study). ESMO-GI,2019,(Barcelona),[Late Breaking Abstracts]
- 015 **Muro K, Uetake H, Tsuchihara K, Shitara K, Yamazaki K, Ota M, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Yamanaka K, Mori I, Soeda J, Hihara M, Yamanaka T, Aka-gi K, Ochiai A, Yoshino T** : PARADIGM study: A multi-center, randomized, phase III study of mFOLFOX6 plus panitumumab or bevacizumab as first-line treatment in patients with RAS (KRAS/NRAS) wild-type metastatic colorectal cancer. ESMO-GI,2019,(Barcelona),[Poster]
- 016 **Muro K (Chair)** : Pushing forward with immunotherapy in upper GI cancers. ESMO,2019,(Barcelona),[Special Symposium]
- 017 **Muro K (Speaker)** : Combination strategies: Primary tumour location specific or agnostic. ESMO,2019,(Barcelona),[Special Symposium]
- 018 **Muro K (Chair)** : Gastrointestinal tumours, non-colorectal. ESMO,2019,(Barcelona),[Proffered Paper]
- 019 **Kawakami T, Masuishi T, Kawamoto Y, Go H, Shirasu H, Kato K, Kumanishi R, Sawada K, Yamamoto K, Yuki S, Komatsu Y, Yasui H, Muro K, Yamanaka T, Yamazaki K** : The impact of late-line treatment on overall survival (OS) from the initiation of first-line chemotherapy (CT) for patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC). ESMO,2019,(Barcelona),[Poster]
- 020 **Sunakawa Y, Takahashi Y, Inoue E, Sakamoto Y, Kawabata R, Yabusaki H, Matsuyama J, Ishiguro A, Takahashi M, Akamaru Y, Kito Y, Makiyama A, Yasui H, Kawakami H, Nakajima T.E, Muro K, Matoba R, Ichikawa W., Fujii M** : Interim analysis of an observational/translational study for nivolumab treatment in advanced gastric cancer: JACCRO GC-08 (DELIVER trial). ESMO,2019,(Barcelona),[Poster]
- 021 **Hirata K, Hamamoto Y, Tsuchihashi K, Kondoh C, Yamazaki K, Hironaka S, Ando M, Imamura C.K., Yoshimura K, Muro K** : Randomized phase II trial of weekly paclitaxel 1 ramucirumab versus weekly nab-paclitaxel 1 ramucirumab for unresectable advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal dissemination refractory to first-line therapy: WJOG10617G/P-SELECT. ESMO,2019,(Barcelona),[Trial in Progress Poster]
- 022 **Van Cutsem E, Amonkar M, Fuchs C.S., Alsina M, ÖZgü" roglu M., Bang Y-J, Chung H.C., Muro K, Goekurt E, Benson A, Sun W, Wainberg Z.A., Norquist J, Chen X, Shih C-S, Shitara K** : Impact of pembrolizumab (pembro) versus paclitaxel on health-related quality of life (HRQoL) in patients with advanced gastric or gastroesophageal junction (GEJ) cancer that has progressed after firstline chemotherapy (KEYNOTE-061). ESMO,2019,(Barcelona),[Poster]
- 023 **Nakamura Y, Okamoto W, Kato T, Hasegawa H, Kato K, Iwasa S, Esaki T, Komatsu Y, Masuishi T, Nishina T, Nomura S, Fukui M, Matsuda S, Sato A, Fujii S, Odegaard J.I., Olsen S, Yoshino T** : TRIUMPH: Primary efficacy of a phase II trial of trastuzumab (T) and pertuzumab (P) in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) with HER2 (ERBB2) amplification (amp) in tumour tissue or circulating tumour DNA (ctDNA): A GOZILA sub-study. ESMO,2019,(Barcelona),[poster discussion]
- 024 **Yamazaki N, Kikuchi K, Nozawa K, Fukuda H, Shibata T, Hamaguchi T, Takashima A, Shoji H, Boku N, Takatsuka S, Takenouchi T, Nishina T, Hino K, Yoshikawa S, Yamazaki K, Takahashi M, Hasegawa A, Bando H, Masuishi T, Kiyohara Y** : Primary analysis results of randomized controlled trial evaluating reactive topical corticosteroid strategies for the facial acneiform rash by EGFR inhibitors (EGFRIs) in patients (pts) with RAS wild-type (wt) metastatic colorectal cancer (mCRC): FAEISS study. ESMO,2019,(Barcelona),[Late Breaking Abstracts]
- 025 **Cho B.C., Kato K, Takahashi M, Okada M, Lin C-Y, Chin K, Kadowaki S, Ahn M-J, Hamamoto Y, Doki Y, Yen C-C, Kubota Y, Kim S-B, Hsu C-H, Holtved E, Xynos I, Kodani M, Kitagawa Y** : Nivolumab versus chemotherapy in advanced esophageal squamous cell carcinoma (ESCC): The phase III ATTRACTION-3 study. ESMO,2019,(Barcelona),[Late Breaking Abstracts]

- 026 **Muro K**: "Guideline harmonisations and international consensus" Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with metastatic gastric cancer. ESMO ASIA,2019,(シンガポール), [ESMO-JSMO Collaborative Session]
- 027 **Kumanishi R, Mitani S, Kadowaki S, Matsushima T, Takahashi N, Ogata T, Yasui H, Ogata M, Satake H, Narita Y, Masuishi T, Bando H, Hara H, Muro K**: Efficacy and safety of nivolumab and irinotecan as third-line chemotherapy for advanced gastric cancer: A multi-institutional retrospective study. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 028 **Tsukada Y, Ito M, Nakamura N, Ito Y, Bando H, Ando M, Onaya H, Ikeda M, Sekimoto M, Kadota T, Katayama H, Mizusawa J, Fukuda H, Kanemitsu Y**: A phase III randomized controlled trial comparing surgery plus adjuvant chemotherapy with or without preoperative chemoradiotherapy for locally recurrent rectal cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1801). . ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Trial in Progress Poster Session]
- 029 **Nakamura Y, Taniguchi H, Bando H, Kato K, Esaki T, Komatsu Y, Takahashi N, Ueno M, Kagawa Y, Nishina T, Kato T, Yamamoto Y, Furuse J, Denda T, Kawakami H, Oki E, Sunakawa Y, Satoh T, Yoshino T, Ohtsu A**: Utility of circulating tumor DNA (ctDNA) versus tumor tissue clinical sequencing for enrolling patients (Pts) with advanced gastrointestinal (GI) cancer to matched clinical trials: SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA Combined Analysis. Presented Saturday. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[General Session]
- 030 **Kato T, Bando H, Tsukada Y, Inamori K, Uemura M, Yuki S, Komatsu Y, Homma S, Kotani D, Fukuoka S, Sasaki T, Nishizawa Y, Nakamura N, Wakabayashi M, Kojima M, Togashi Y, Sato A, Nishikawa H, Yoshino T, Ito M**: VOLTAGE-B study: Nivolumab monotherapy and subsequent curative surgery following preoperative chemoradiotherapy in patients with locally recurrent rectal cancer (LRRc) without previous radiotherapy. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 031 **Izawa N, Shitara K, Masuishi T, Denda T, Yamazaki K, Moriwaki T, Okuda H, Kondoh C, Nishina T, Makiyama A, Baba H, Yamaguchi H, Nakamura M, Sunakawa Y, Akiyoshi K, Sato M, Yonesaka K, Yoshino T, Yamanaka T, Muro K**: Vascular endothelial growth factor (VEGF)-D and clinical outcomes in metastatic colorectal cancer (mCRC) patients (pts) treated with second-line FOLFIRI plus bevacizumab (Bev): A biomarker study of the WJOG 6210G trial. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 032 **Hironaka S, Kadowaki S, Izawa N, Nishina T, Yamanaka T, Minashi K, Muro K, Sunakawa Y, Kajiwara T, Hayashi Y, Kawakami Y, Nakajima ET**: A phase I/II study of nivolumab, paclitaxel, and ramucirumab as second-line in advanced gastric cancer. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 033 **Chen L-T, Kang Y-K, Satoh T, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen J-S, Muro K, Kang WK, Yoshikawa T, Oh SC, Tamura T, Lee KW, Boku N**: A phase III study of nivolumab (Nivo) in previously treated advanced gastric or gastric esophageal junction (G/GEJ) cancer (ATTRACTION-2): Three-year update data. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 034 **Elboudwarej E, Brachmann C, Catenacci DV/T, Cunningham D, Cutsem EV, Kennedy RD, Lambe S, Logan GE, Metges JP, Muro K, Satoh T, Takashima A, Wainberg ZA, Walker SM, Yamaguchi K, Zavadovskaya M, Patterson SD, Bhargava P, Boku N, Shah MA**: Identification of cancer hallmarks associated with benefit in advanced gastroesophageal adenocarcinoma patients treated with checkpoint blockade. . ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 035 **Wainberg ZA, Fuchs CS, Tabernero J, Shitara K, Muro K, Cutsem EV, Bang Y-J, Chung HC, Yamaguchi K, Varga E, Chen J-S, Hochhauser D, Thuss-Patience PC, Al-Batran S-E, Garrido M, Kher U, Shih C, Shah S, Bhagia P, Chao J**: Efficacy of pembrolizumab (pembro) monotherapy versus chemotherapy for PD-L1-positive (CPS  $\geq 10$ ) advanced G/GEJ cancer in the phase II KEYNOTE059 (cohort 1) and phase III KEYNOTE-061 and KEYNOTE-062 studies. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 036 **Muro K, Ajani JA, Wainberg ZA, Knoderer H, Wei R, Chatterjee A, Abada P, Ohtsu A**: Neutrophil-to-lymphocyte ratio as a prognostic factor and its relationship to patient (pt) outcomes in the RAINBOW trial. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 037 **Chao J, Fuchs CS, Shitara K, Tabernero J, Muro K, Cutsem EV, Bang Y-J, Vita FD, Landers GA, Yen C-J, Chau I, Elme A, Lee J, Ozguroglu M, Catenacci, Li X, Shih C-S, Shah S, Bhagia P, Wainberg ZA**: Pembrolizumab (pembro) in microsatellite instability-high (MSI-H) advanced gastric/gastroesophageal junction (G/GEJ) cancer by line of therapy. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Poster Session]
- 038 **Tsuji A, Yoshino T, Yamanaka T, Bando H, Satake H, Yamazaki K, Taniguchi H, Oki E, Kotaka M, Oba K, Miyata Y, Muro K, Komatsu Y, Baba H, Kato T**: Quattro-II study: A multicenter randomized phase II study comparing capecitabine plus bevacizumab with FOLFOXIRI plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer as the first-line treatment. ASCO-GI,2020,(San Francisco),[Trial in Progress Poster Session]
- 039 **Izawa N, Shitara K, Masuishi T, Denda T, Yamazaki K, Moriwaki T, Okuda H, Kondoh C, Nishina T, Makiyama**

- A, Baba H, Yamaguchi H, Nakamura M, Tsuji A, Esaki T, Miyata Y, Kotaka M, Yamanaka T, Nakajima TE, Muro K* : Analysis of early tumor shrinkage (ETS) and depth of response (DpR) in metastatic colorectal cancer (mCRC) patients (pts) treated with second-line FOLFIRI plus panitumumab (Pani) or bevacizumab (Bev): Results from a randomized phase II WJOG6210G trial. ASCO-GI.2020,(SanFrancisco),[Poster Session]
- 040 *Nakajima H, Fukuoka S, Moriwaki T, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Komoda M, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Gosho M, Shimada Y* : Clinical impact of primary tumor location in patients with metastatic colorectal cancer (mCRC) treated with regorafenib or triuridine/tipiracil as later-line. . ASCO-GI,2020,(SanFrancisco),[Poster Session]
- 041 *Taniguchi H, Yuki S, Shiozawa M, Masuishi T, Nishina T, Kagawa Y, Takahashi N, Yasui H, Denda T, Sunakawa Y, Yamazaki K, Esaki T, Kawakami H, Kato T, Yoshida K, Takashima A, Ohmiya H, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T* : Plasma VEGF-D and PlGF levels according to prior use of biologics among metastatic colorectal cancer: Preliminary results from GI-SCREEN CRC-Ukit study. ASCO-GI,2020,(SanFrancisco),[Poster Session]
- 042 *Kawakami T, Yamamoto S, Mitani S, Esaki T, Tsuji Y, Izawa N, Kawakami K, Yamamoto Y, Makiyama A, Yamazaki K, Masuishi T, Nakajima TE, Okuda H, Moriwaki T, Boku N* : The treatment strategy of the second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer (mCRC) patients (pts) with early progression in the rst-line chemotherapy with bevacizumab (BEV), BEV beyond progression (BBP), or non-BBP. ASCO-GI,2020,(SanFrancisco),[Poster Session]
- 043 *Nozawa K, Masuishi T, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Kato K, Narita Y, Honda K, Bando H, Kadowaki S, Andoh M, Tajika M, Muro K* : Negative impact of cachexia during chemotherapy on survival as rst-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer. ASCO-GI,2020,(SanFrancisco),[Poster Session]
- 044 室 圭 : ステージIV・再発の MSI-high 固形癌に対する診療体制と免疫チェックポイント阻害薬による治療の実践. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会,2019,(東京),[臨床実践ワークショップ]
- 045 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣榮治, 室 圭, 門脇重憲, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 清水泰博 : 術前 DCF 療法による口腔粘膜炎に対する GFO 療法の有用性. 食道学会,2019,(福岡),[ポスター]
- 046 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 鳥山和浩, 古平 毅, 安部哲也, 室 圭, 丹羽康正 : サルコペニアから考える切除不能進行食道がん治療. 食道学会,2019,(福岡),[ポスター]
- 047 室 圭 : 食道癌治療に関する臨床試験の最新報告. 食道学会,2019,(福岡),[トピックセッション]
- 048 坂東英明 : 血中循環腫瘍 DNA の検出と乳癌診断マーカーへの応用. 日本がん分子標的治療学会学術集会,2019,(大坂),[シンポジウム]
- 049 室 圭 : 転移性大腸癌薬物療法における後方ラインの意義. 臨床腫瘍学会, メディカルセミナー, 京都, 2019. 7 月 MeS-25
- 050 舛石俊樹 : RAS 野生型大腸がんの治療戦略. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[メディカルセミナー]
- 051 庄司広和, 工藤千恵, 高石官均, 高橋直樹, 傳田忠道, 川上武志, 山口研成, 古瀬純司, 森脇俊和, 高野利美, 澤田亮一, 宮本敬大, 今関 洋, 青木一教, 室 圭, 朴 成和 : 標準治療に不応不耐進行胃癌患者に対する Nivolumab 療法の Biomarker 研究 (WJOG10417GTR). 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[ミニシンポジウム]
- 052 坂東英明, 室 圭, 舛石俊樹, 門脇重憲, 谷口浩也, 小谷大輔, 久保木恭利, Scott Kopetz, Axel Grothey, Rona Yaeger, Jayesh Desai, Fortunato Ciardiello, Harpreet Wasan, Eric Van Cutsem, Victor Sandor, Kati Maharry, Janna Christy-Bittel, Ashwin Gollerkeri, Josep Tabernero, 吉野孝之 : ENCO+BINI+CETUX in Japanese Patients With BRAF V600E-Mutant mCRC: A Safety Lead-in Study to the BEACON CRC Study. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 053 中井真由美, 小島勇貴, 栗原幸司, 室 圭, 坂 英雄 : がん診療連携拠点病院における抗がん薬曝露対策実践の障壁と課題. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 054 坂東英明 : RAS/BRAF 変異検査・ミスマッチ修復機能検査. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[ガイドライン委員会企画]
- 055 松岡 宏, 賀川義規, 大田貢由, 牧山明資, 秋吉宏平, 傳田忠道, 松田 宙, 山田康秀, 森田智視, 坂本純一, 室圭, 中村将人, 小高雅人, 仁科智裕, 藪野太一, 松井隆則, 岩佐 悟, Tae Won Kim, Rui-Hua Xu, Young Suk Park : The efficacy and safety of FOLFIRI+BEV/mX-ELIRI+BEV by UGT1A1 polymorphisms in metastatic colorectal cancer AXEPT trial. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 056 松本光史, 安藤正志, 藤原康弘, 南 博信, 堀口 淳, 神野浩光, 井本 滋 : Nationwide questionnaire regarding the dosedense AC-P as perioperative chemotherapy: JSMO and JBCS joint survey. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 057 坂井和子, 岡本 渉, 岡村 修, 安井久晃, 宮本裕士, 杉本直俊, 船越信介, 佐藤巳喜夫, 宮田佳典, 田村孝雄, 小高雅人, 篠崎勝則, 牧山明資, 朴 成和, 兵頭一之介, 山崎健太郎, 廣中秀一, 山中竹春, 室 圭, 西尾和人 : ctDNA mutations correlate with efficacy of mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab in mCRC patients (WJOG-7612GTR). 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract

Session]

- 058 室 圭：Pembrolizumabvschemotherapyas2Ltherapyfor advanced esophageal cancer: Japanese Subgroup Analysis in KEYNOTE-181. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Oral Abstract Session]
- 059 薦田正人, 山本 駿, 川上武志, 三谷誠一郎, 辻 靖, 伊澤直樹, 川上賢太郎, 山本祥之, 牧山明資, 山崎健太郎, 舩石俊樹, 江崎泰斗, 津田享志, 奥田博介, 森脇俊和, 朴 成和：2nd line bevacizumab(BEV) continuation chemotherapy(Cx) beyond early progression for metastatic colorectal cancer(mCRC). 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 060 入江 慶, 前田章光, 安藤 仁, 長谷川彩子, 門脇重憲, 室 圭, 田近正洋, 青木正博, 稲熊一英, 梶田正樹, 藤村昭夫, 福島昭二：レゴラフェニブの血中濃度と有害事象および ABCG2, OATP1B1 遺伝子多型との関連. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[ポスターセッション]
- 061 舩石俊樹, 森脇俊和, 福岡聖大, 高島淳生, 桑川陽祐, 梶原猛史, 山崎健太郎, 江崎泰斗, 牧山明資, 傳田忠道, 佐竹悠良, 須藤 剛, 杉本直俊, 勝又健次, 石川敏昭, 柏田知美, 沖 英次, 吉村健一, 島田安博, 室 圭：Predictive factors for early mortality after regorafenibortri?uridine/tipiracilininitiationincolorectal cancer. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[ポスターセッション]
- 062 室 圭：胃癌ファーストラインの最新知見と今後の展望. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[緊急討論]
- 063 安藤正志：希少がんにおける医療連携とトータルケア. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[パネルディスカッション]
- 064 室 圭：臨床試験への患者参画. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[会長企画パネルディスカッション]
- 065 三谷誠一郎, 門脇重憲, 小森 梓, 近藤千紘, 尾瀬 功, 加藤恭子, 舩石俊樹, 本多和典, 成田有季哉, 谷口浩也, 安藤正志, 田中 努, 田近正洋, 室 圭：A phase II study of modi?ed FOLFOX-6 (mFOLFOX6) for advanced gastric cancer refractory to standard therapies. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 066 岩佐 悟, 賀川義規, 大田貢由, 牧山明資, 秋吉宏平, 傳田忠道, 松田 宙, 中村将人, 小高雅人, 仁科智裕, 藪野太一, 松井隆則, 松岡 宏, Park Young Suk, Xu Rui-Hua, Kim Tae Won, 山田康秀, 森田智視, 坂本純一, 室 圭：Impact of prior treatment with two different fluoropyrimidines on the efficacy of CapeIRI/FOLFIRI in colorectal cancer. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]
- 067 結城敏志, 坂東英明, 塚田裕一郎, 稲守浩治, 小松嘉人, 本間重紀, 植村 守, 加藤健志, 小谷大輔, 福岡聖大, 佐々木剛志, 西澤祐吏, 中村直樹, 若林将史, 小嶋基寛, 富樫庸介, 佐藤暁洋, 西川博嘉, 伊藤雅昭, 吉野孝之：Nivolumab and Radical Surgery Following Preoperative Chemoradiotherapy in MSS Locally Advanced Rectal Cancer Patients. 臨床腫瘍学会,2019,(京都),[Mini-Oral Abstract Session]

- 068 杉本伸二, 室 圭, 谷川原祐介：FOLFIRI+ ベバシズマブ療法のする血清中代謝物マーカーの発見. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[ポスター]
- 069 室 圭：大腸癌薬物療法の最近の進歩. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[臓器別シンポジウム]
- 070 室 圭：セッションII「がん腫別に考える体重減少とその要因」大腸がん. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[スポンサードシンポジウム]
- 071 服部 文, 岩田広治, 室 圭, 岩井美世子, 船崎初美：愛知県がんセンターにおける院内外のリソースを活用した多業種連携による就労支援. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[ワークショップ]
- 072 室 圭：体重減少とがん悪液質. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[学術セミナー]
- 073 宇良 敬, 門脇重憲, 安藤正志, 成田有季哉, 舩石俊樹, 本多和典, 室 圭：標準的化学療法不応食道癌に対するタキサン系薬剤再投与の第II相臨床試験. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[要望演題]
- 074 賀川義規, 沖 英次, 三島沙織, 池田正孝, 上野秀樹, 加藤健志, 楠本哲也, 舩石俊樹, 山口研成, 金澤旭宣, 仁科智裕, 大田貢由, 佐藤武郎, 山中竹春, 吉野孝之：結腸癌に対する補助化学療法の推奨に再発スコアが与える影響 (SUNRISE-DI 試験). 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[一般ポスター]
- 075 舩石俊樹：大腸がん手術症例における術前CRP/アルブミン比と長期予後の関連. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[一般ポスター]
- 076 室 圭：消化器内科医が行う胃癌化学療法～高齢化が進む胃癌に消化器内科医が今思うこと. JDDW2019,2019,(神戸),[ブレックファーストセミナー]

## 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Yatabe Y*: Update on CAP/IASLC/AMP molecular testing guideline: Calculating Tumor Cell Contents for Comprehensive Genetic Panel testing. Biannual Meeting of Pulmonary pathology Society, 2019,(Croatia),[symposium]
- 002 谷田部 恭：肺カルチノイドの鑑別疾患 - 診断で変わる薬物療法. 第108回日本病理学会総会,2019,(東京),[セミナー]
- 003 谷田部 恭：肺癌における診断のための免疫染色. 第108回日本病理学会総会,2019,(東京),[ワークショップ]
- 004 村上善子：胸水中に高悪性転化した甲状腺乳頭癌の甲順がみられた2例についての臨床病理学的検討. 第108回日本病理学会総会,2019,(東京),[ポスター]
- 005 細田和貴：降 NET G3 と低分化型神経内分泌癌 PDNEC の病理診断とピットフォール. 第7回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2019,(東京),[特別講演]
- 006 藤田史郎：生検スタンプ標本からのRNA 遺伝子パネル解析. 第60回日本肺癌学会学術集会,2019,(大阪),[ポ



スター]

- 007 真砂勝泰：がんパネルシーケンスにおける病理所見と遺伝子変異頻度から判定した腫瘍細胞核含有量の比較. 第60回日本肺癌学会学術集会,2019,(大阪),[ポスター]
- 008 瀬戸克年：BRAF V600E 免疫染色の有用性の検討. 第108回日本病理学会総会,2019,(東京),[一般口演]
- 009 加藤省一：IHC から見るリンパ腫病理診断の進歩 2019. 第59回日本リンパ網内系学会総会,2019,(島根),[口演]
- 010 佐々木英一：HPV と RAS 変異が扁平上皮乳頭腫に相互排他的に認められる. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[口演]
- 011 藤田史郎：次世代シーケンサーによる大腸癌組織における体細胞遺伝子変異の検索. 第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡),[ポスター]
- 012 細田和貴：NGS を用いた臨床検査のための検体の取り扱いのポイント. Lung Cancer Seminar in OWAR-I,2020,(愛知),[講演]
- 013 細田和貴：がんゲノム検査における落とし穴とその対策. 愛知県がんゲノム医療 Web Forum,2019,(Web),[講演]
- 014 吉野 聡：ゲノム検査に向けた組織固定. 愛臨技病理細胞検査・遺伝子染色体検査合同研究会,2019,(愛知),[口演]
- 015 平松可帆：ゲノム医療に求められる DNA 品質—ゲノム診療用病理組織検体取り扱い規程. 第19回愛知県医学検査学会,2019,(愛知),[口演]
- 016 植田菜々絵：プロから学ぼう・・・検体検査 免疫染色、免疫染色法—基礎を中心に. 第19回愛知県医学検査学会,2019,(愛知),[口演]
- 017 後藤謙介, 羽佐田香代, 野中綾子, 渡邊佳奈, 松田千秋, 尾関順子：細胞表面抗原検査が診断の一助となった悪性リンパ腫2種併発の一例. 第19回愛知県医学検査学会,2019,(愛知),[口演]
- 018 早川英樹, 稲垣久美子, 太田裕子, 柴田典子, 田地浩史, 山本一仁：「輸血関連情報カード」発行アプリ運用について. 第19回愛知県医学検査学会,2019,(愛知),[口演]
- 019 柴田典子：病理細胞診検体を用いたがん遺伝子検査の精度保証. 第37回日本染色体遺伝子検査学会学術集会,2019,(宮城),[口演]
- 020 河原菜友子, 藤田奈央, 中島梨花, 近藤吉起, 植田菜々絵, 村上善子, 谷田部 恭：顎下腺に発生した形質細胞腫の一例. 第163回日本臨床細胞学会東海連合会例会,2019,(愛知),[口演]

## 頭頸部外科部

- 001 Hanai N, Terada H, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S : What is the cutoff value of DOI that affects the prognosis of cN0 oral tongue cancer? 7<sup>th</sup> World Congress of the International Academy of Oral Oncology,2019,(ローマ),[口演]
- 002 Hanai N : Controversies in relation to neck manage-

ment in N0 early oral tongue cancer. 15th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery,2019,(九州),[シンポジウム]

- 003 鈴木秀典, 小出悠介, 花井信広, 西川大輔, 別府慎太郎, 三上慎司, 長谷川泰久：甲状腺乳頭癌における Lymph node density は、病理学的病期で調整後でも予後因子である. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会,2019,(大阪),[ポスター]
- 004 花井信広：AMED 研究：鼻科・頭頸部領域<日耳鼻企画>Stage I/II 舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験. 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会,2019,(大阪),[パネルディスカッション]
- 005 花井信広：特別動画企画「いきなり頭頸部再建!!」目的：初心者でも簡単に再建ができる技術を提供 真のエキスパートが見せるスーパー頸部郭清術. 第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(札幌),[シンポジウム]
- 006 花井信広：頭頸部超音波診断ハンズオンセミナー. 日本超音波医学会第92回学術集会,2019,(東京),[口演]
- 007 花井信広, 寺田星乃：超音波診断におけるリンパ節の計測法. 第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会,2019,(東京),[シンポジウム]
- 008 寺田星乃, 下出祐造, 古川まどか, 佐藤雄一郎, 花井信広：超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会,2019,(東京),[口演]
- 009 寺田星乃, 花井信広：顎下腺腫瘍超音波診断の標準化にむけて. 第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会,2019,(東京),[シンポジウム]
- 010 花井信広：シンポジウム「唾液腺超音波診断の標準化に向けて」第42回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会,2019,(東京),[座長]
- 011 花井信広：嚥下. 第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2019,(名古屋),[座長]
- 012 鈴木秀典, 寺田星乃, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎, 長谷川泰久, 花井信広：局所進行喉頭癌100例の治療期間による予後予測. 第176回東海地方部会連合講演会,2019,(名古屋),[口演]
- 013 花井信広：舌がん手術. 第10回頭頸部癌学会教育セミナー,2019,(金沢),[講演]
- 014 花井信広：免疫チェックポイント阻害剤のリアル—多施設共同・後方視的研究を踏まえて—. 第43回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢),[学術セミナー]
- 015 鈴木秀典, 寺田星乃, 西川大祐, 小出悠介, 別府慎太郎, 古平 毅, 立花弘之, 小出雄太郎, 田中 寛, 長谷川泰久, 花井信広：喉頭癌における全治療期間は疾患特異的生存と遠隔転移を予測する. 第43回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢),[口演]
- 016 津村宗近, 花井信広, 清水 康, 藤井 隆, 高橋俊二, 上田 勉, 折館伸彦, 土井一生, 山田孝之, 本間明宏：日本におけるリアルワールドデータ：ニボルマブの有意性・安全性の他施設共同・後方視的臨床研究の中間解析, 第

- 43 回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢)[口演]
- 017 **西川大祐, 花井信広, 小澤泰次郎, 北原 紘, 長谷川泰久**: 中咽頭癌のヒトパピローマウイルス (HPV) のタイプング解析による臨床研究. 第 43 回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢)[口演]
- 018 **別府慎太郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 西川大祐, 夔 里紗, 安部哲也**: 経頸部アプローチによる縦隔鏡下根治的上縦隔郭. 第 43 回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢)[口演]
- 019 **横田知哉, 清田尚臣, 長谷川泰久, 高橋俊二, 岩江信法, 清水 康, Robert L Ferris, 遠藤俊充, Vijayvel Jayaprakash, 田原 信**: 再発・転移性頭頸部扁平上皮癌に対するニボルマブ第Ⅲ相試験 (CheckMate141) のアジア人 2 年フォローアップ. 第 43 回日本頭頸部癌学会, 2019,(金沢)[口演]
- 020 **花井信広**: 下咽頭・頸部食道. 第 43 回日本頭頸部癌学会, 2019,(金沢)[司会]
- 021 **鈴木秀典**: 薬物療法. 第 43 回日本頭頸部癌学会, 2019,(金沢)[司会]
- 022 **花井信広**: Shaw Scalpel を軸とした精緻な頸部郭清術. 第 2 回頭頸部手術エナジーデバイス検討会,2019,(金沢)[口演]
- 023 **花井信広**: 頸部郭清術. 第 280 回筑後耳鼻咽喉科カンファレンス,2019,(久留米)[講演]
- 024 **西川大輔, 鈴木秀典, 西川大祐, 曾根三千彦, 花井信広**: SMARCB-1 欠損鼻副鼻腔癌の 2 例. 第 81 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2019(名古屋)[ポスター]
- 025 **鈴木秀典, 西川大輔, 花井信広**: 頭頸部肉腫における鼻副鼻腔原発の意義. 第 81 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2019(名古屋)[ポスター]
- 026 **花井信広**: 嚥下. 第 81 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2019(名古屋)[座長]
- 027 **花井信広**: AFTER TWENTY YEARS - 頭頸部癌の場合 -. 学術講演会,2019(名古屋)[講演]
- 028 **花井信広, 西川大輔, 門脇重憲**: リアルワールドデータから考える 免疫チェックポイント阻害薬の実力. H&N cancer I-O symposium in Osaka,2019(大阪)[シンポジウム]
- 029 **花井信広**: 頭頸部癌診療 up-to-date. 愛知県耳鼻咽喉科医学会名古屋地区研修会,2019,(名古屋)[教育講演]
- 030 **鈴木秀典**: 甲状腺癌診療 Up to Date 「甲状腺乳頭癌に対する手術加療」. LENVIMA-Thyroid Cancer-Clinical Conference Seminar,2019,(名古屋)[講演]
- 031 **花井信広**: 甲状腺癌診療 Up to Date 「甲状腺乳頭癌に対する手術加療」. LENVIMA-Thyroid Cancer-Clinical Conference Seminar,2019,(名古屋)[司会]
- 032 **三浦弘規, 塚原清彰, 吉本世一, 横山純吉, 平野 滋, 上村裕和, 菅澤 正, 吉崎智一, 本間明宏, 近松一郎, 鈴木幹男, 塩谷彰浩, 松塚 崇, 甲能直幸, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 小須田茂, 谷田部 恭, 長谷川泰久**: 早期口腔癌におけるセンチネルリンパ節ナビゲーション手術と予防的頸部郭清: 多施設共同無作為比較試験. 第 21 回 SNNS 研究会学術集会,2019,(仙台)[口演]
- 033 **古川まどか, 藤本保志, 福原隆宏, 門田伸也, 辻 裕之, 下出祐造, 佐藤雄一郎, 花井信広, 松浦一登, 志賀清人, 古川政樹**: 超音波を用いたリンパ節診断および治療の新技术開発 頭頸部扁平上皮癌頸部リンパ節転移超音波診断に関する多施設共同研究の概要報告. 第 43 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会,2019,(福島)[口演]
- 034 **花井信広**: リアルワールドデータから考える免疫チェックポイント阻害剤の実力 - Session 1 -. オブジーボ 60min レクチャー (頭頸部癌),2019,(名古屋)[Web 講演会]
- 035 **西川大輔**: リアルワールドデータから考える免疫チェックポイント阻害剤の実力 - Session 2 -. オブジーボ 60min レクチャー (頭頸部癌),2019,(名古屋)[Web 講演会]
- 036 **安松隆治, 花井信広, 清水 康, 津村宗近, 藤井 隆, 塚原清彰, 吉田昌史, 高橋俊二, 上田 勉, 佐野大佑, 土井一生, 山田孝之, 本間明宏**: 日本国内の実臨床下における頭頸部癌患者に対するニボルマブの有効性と安全性. 第 57 回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[ポスター]
- 037 **志賀清人, 丹生健一, 藤本保志, 朝蔭孝宏, 本間明宏, 三谷浩樹, 小川武則, 大上研二, 室野重之, 平野 滋, 上田務, 花井信広, 清田尚臣, 田原 信, 林 隆一**: 本邦における外耳道癌の診療についての多施設共同研究. 第 57 回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[口演]
- 038 **別府慎太郎**: 3 つの意識 層 切離 トラクション. 静岡頭頸部がん Leaders Meeting,2019,(静岡)[講演]
- 039 **花井信広**: The current and future treatment of head and neck cancer. 静岡頭頸部がん Leaders Meeting,2019,(静岡)[講演]
- 040 **村嶋明大, 西川大輔, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 夔 里紗, 後藤聖也, 門脇重憲, 花井信広**: 頭頸部癌におけるニボルマブ治療後の救済化学療法の効果. 第 71 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会,2019,(宇都宮)[口演]
- 041 **花井信広**: 腫瘍 1. 第 71 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会,2019,(宇都宮)[座長]
- 042 **後藤聖也, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 澤部 倫, 寺田星乃, 花井信広**: 放射線治療後に生じた喉頭壊死例の検討. 第 177 回東海地方部会連合講演会,2019,(名古屋)[口演]
- 043 **別府慎太郎**: 3 つの意識 層 切離 トラクション? - 5 年前の自分に伝えたいこと -. 2019 年度頸部郭清講習会,2019,(名古屋)[講演]
- 044 **花井信広**: 乳び漏 / リンパ漏に対するトラブルシューティング. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[教育パネルディスカッション]
- 045 **寺田星乃**: 頭頸部超音波ハンズオンセミナー リンパ節の超音波診断. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[口演]
- 046 **花井信広**: 頭頸部超音波ハンズオンセミナー リンパ節の超音波診断. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[司会]
- 047 **花井信広**: がん免疫療法の最新の話題. 第 30 回日本頭

- 頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[モーニングセミナー]
- 048 花井信広, 安松隆治, 津村宗近, 藤原彰訓, 山田孝之, 本間明宏:リアルワールドデータ:本邦におけるニボルマブの有効性・安全性の多施設共同後方視的臨床研究の1年時解析.第30回日本頭頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[口演]
- 049 西川大輔, 鈴木秀典, 別府慎太郎, 澤部 倫, 寺田星乃, 齋 里紗, 後藤聖也, 村嶋明大, 門脇重憲, 曾根三千彦, 花井信広:ニボルマブ投与と好酸球との関連についての検討.第30回日本頭頸部外科学会総会,2020,(沖縄)[口演]
- 050 花井信広:- Opening Lecture -. I-O 頭頸部癌 Seminar in Tokai,2020,(名古屋)[講演]
- 051 西川大輔:当院のデータから考える免疫チェックポイント阻害薬の実力. I-O 頭頸部癌 Seminar in Tokai,2020,(名古屋)[講演]

## 形成外科部

- 001 *Hyodo I, Okumura S, Maruyama Y, Nakamura R, Kamei Y*: Reconstruction after Musculoskeletal Tumors. The 10th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery ,2019,(Bologna, Italy)[一般口演]
- 002 *Nakamura R, Hyodo I, Kojima T, Maruyama Y, Okumura S, Kamei Y*: Intraoperative evaluation of blood flow by Clinical findings in free jejunal transfers. 10th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery ,2019,(Bologna, Italy)[一般口演]
- 003 兵藤伊久夫:既頸部郭清領域を移植床血管とした遊離皮弁再建例の検討.第30回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会,2019,(沖縄)[一般口演]
- 004 兵藤伊久夫:既頸部郭清領域での移植床血管の剥離・挙上法.第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(札幌)[特別企画]
- 005 奥村誠子, 丸山陽子, 兵藤伊久夫, 他:有茎拡大背筋皮弁による1次乳房再建の術後放射線照射が与える影響.第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(北海道)[一般口演]
- 006 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 小島空翔, 姜 成樹, 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 亀井 譲:インプラントによる乳房再建後の放射線症例におけるIMF上方変位立の経過比較検討.第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(北海道)[一般口演]
- 007 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小林沙彩, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 譲:携帯型超音波血流計とカラードブラ法を併用した術後皮弁モニタリングの有用性.第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(北海道)[一般口演]
- 008 小島空翔, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太, 兵藤伊久夫, 亀井 譲:頭頸部再建における浅側頭動静脈・中側頭静脈の利用.第62回日本形成外科学会総会・学術集会,2019,(北海道)[一般口演]
- 009 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小林沙彩, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 譲: Increased Defect Size is Associated with Increased Complication Rate after Free Tissue Transfer for Midanterior Skull-Base Reconstruction. 第31回日本頭蓋底外科学会,2019,(兵庫)[記念講演]
- 010 奥村誠子, 丸山陽子, 兵藤伊久夫, 他:有茎拡大背筋皮弁による1次乳房再建後術後放射線治療の影響の検討.第27回乳癌学会学術総会,2019,(東京)[ポスター]
- 011 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 亀井 譲:インプラントによる乳房再建後のIMF上方変位率の長期経過比較検討.第27回日本乳癌学会学術総会,2019,(東京)[ポスター]
- 012 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 亀井 譲:拡大時広背筋皮弁挙上における低温電気メス(PlasmaBlade™)の使用経験.第54回中部形成外科学会学術集会,2019,(愛知)[一般口演]
- 013 姜 成樹, 奥村誠子, 小林沙彩, 中村亮太, 丸山陽子, 兵藤伊久夫:胃癌術後のドレーン刺入部に生じた壊疽性膿皮症の一例.第74回東海形成外科学会,2019,(名古屋)[一般口演]
- 014 奥村誠子, 丸山陽子, 兵藤伊久夫, 他:1次1期インプラント再建の長期成績—保険適応6年でみえてきたこと part1—.第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会,2019,(埼玉)[シンポジウム]
- 015 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 亀井 譲:拡大背筋皮弁による1次乳房再建における背部漿液腫に対するステロイド内腔注射の実施時期の検討.第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会,2019,(埼玉)[一般口演]
- 016 姜 成樹, 奥村誠子, 小林沙彩, 中村亮太, 丸山陽子, 兵藤伊久夫:乳房再建後の放射線照射による整容性変化についての検討—腹直筋皮弁、拡大背筋皮弁、インプラント間の比較.第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会,2019,(埼玉)[一般口演]
- 017 小林沙彩, 奥村誠子, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 兵藤伊久夫:乳房再建後の皮膚局所再発にて局所切除による形態変化の検討.第7回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会,2019,(埼玉)[一般口演]
- 018 奥村誠子, 丸山陽子, 兵藤伊久夫, 他:術前化学療法、術後放射線照射が決定している1次TRAM再建の検討.第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2019,(東京)[シンポジウム]
- 019 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲:異時両側乳癌に対する1次1期再建と1次2期再建の比較検討.第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2019,(埼玉)[一般口演]
- 020 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小林沙彩, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 譲:広範な軟部組織欠損を伴う下顎欠損に対する再建方法の比較.第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2019,(東京)[一般口演]
- 021 姜 成樹, 兵藤伊久夫, 小林沙彩, 中村亮太, 丸山陽子,

- 奥村誠子：下顎再建プレートを用いた下顎再建におけるプレート被覆法の工夫．第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2019,(東京)[一般口演]
- 022 小林沙彩, 兵藤伊久夫, 姜 成樹, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子：頭頸部再建における皮弁内血管付加吻合した前外側大腿皮弁挙上の経験．第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2019,(東京)[一般口演]
- 023 中村亮太, 兵藤伊久夫, 小林沙彩, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 亀井 謙：血管柄付きリンパ節移植及びリンパ管静脈吻合術を施行した症例の経過から学んだこと．第90回東海マイクロサージャリー研究会,2019,(名古屋)[一般口演]

## 呼吸器外科部

- 001 *Nakanishi K, Shirai S, Matsui T, Ueno H, Nakada T, Sakakura N, Kuroda H* : Salvage Surgery for Residual Lesion/Local Reprogression After Initial Medical Treatment in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. IASLC 2019 WCLC World Conference on Lung Cancer, 2019,(スペイン)[ポスター]
- 002 黒田浩章, 文 敏景, 中尾将之, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 奥村 栄：対面倒立法による4portsTS肺葉切除+縦隔リンパ節郭清の治療成績と再発様式の検討．第42回呼吸器内視鏡学会学術集会,2019,(東京)[シンポジウム]
- 003 坂倉範昭, 松井琢哉, 仲西慶太, 黒田浩章：「開胸視野アプローチ」によるロボット肺葉切除—開胸手術, 胸腔鏡手術との整合性を探る．第32回日本内視鏡外科学会総会,2019,(横浜)[サージカルフォーラム]
- 004 坂倉範昭, 上野陽史, 仲西慶太, 松井琢哉, 白井 俊, 黒田浩章：「開胸視野アプローチ」によるロボット肺葉切除．第60回日本肺癌学会学術集会,2019,(大阪)[ワークショップ]
- 005 坂倉範昭, 上野陽史, 仲田健男, 松井琢哉, 仲西慶太, 白井 俊, 黒田浩章：対面モニターを用いた「開胸視野アプローチ」によるロボット肺切除—開胸手術, 胸腔鏡手術との整合性を探る．第12回日本ロボット外科学会,2020,(東京)[一般口演]
- 006 松井琢哉, 黒田浩章, 白井 俊, 仲西慶太, 松下博和, 上野陽史, 高橋祐介, 坂倉範昭：胸腔鏡困難症例に対するknack & pitfall 複数病変に対する一次的胸腔鏡下肺区域切除術．第32回日本内視鏡外科学会総会,2019,(横浜)[ワークショップ]
- 007 松井琢哉, 坂倉範昭, 小山 真, 仲西慶太, 上野陽史, 谷田部 恭, 黒田浩章：当院における浸潤性粘液産生性肺腺癌の切除後予後についての検討．第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会,2019,(東京)[口演]
- 008 松井琢哉, 水野鉄也, 小山 真, 仲西慶太, 坂倉範昭, 谷田部 恭, 黒田浩章：肺主腫瘍の自然退縮と縦隔リンパ節の転移進行を同時に示した扁平上皮癌の1切除例．第36回日本呼吸器外科学会学術集会,2019,(大阪)[ポスター]
- 009 松井琢哉, 黒田浩章, 白井 俊, 仲西慶太, 上野陽史, 坂倉範昭：当院における亜区域を含む胸腔鏡下肺区域切除術—有効性と問題点の検証」について．第72回日本胸部外科学会定期学術集会,2019,(京都)[ビデオシンポジウム]
- 010 仲西慶太, 仲田健男, 松井琢哉, 坂倉範昭, 黒田浩章：B3転位気管支と上中葉間無分葉を伴う原発性肺癌に対する胸腔鏡下右上葉切除術の1例．第32回日本内視鏡外科学会総会,2019,(横浜)[口演]
- 011 仲西慶太, 松井琢哉, 小山 真, 上野陽史, 坂倉範昭, 黒田浩章：PD-L1発現を伴う原発性肺腺癌手術例の臨床病理学的特徴について．第36回日本呼吸器外科学会学術集会,2019,(大阪)[ポスター]
- 012 仲西慶太, 白井 俊, 松井琢哉, 上野陽史, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章：進行肺癌に対する根治的化学放射線療法後および全身薬物療法後の局所病変に対する各サルベージ手術の手術成績」について．第72回日本胸部外科学会定期学術集会,2019,(京都)[ポスター]
- 013 白井 俊, 松井琢哉, 仲西慶太, 大矢由子, 上野陽史, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章, 樋田豊明, 谷田部 恭：非小細胞肺癌の術後再発におけるPD-L1の発現と抗PD-1抗体薬の効果予測因子の検討．第60回日本肺癌学会学術集会,2019,(大阪)[ポスター]
- 014 白井 俊, 仲田健男, 松井琢哉, 仲西慶太, 上野陽史, 大矢由子, 坂倉範昭, 黒田浩章：胸腔鏡下左肺上葉管状切除術にて切除し得た気管支定型カルチノイドの1例．第116回日本肺癌学会中部支部学術集会,2020,(愛知)[一般口演]

## 乳腺科部

- 001 *Schmid P, Adams S, Rugo H.S., Schneeweiss A, Barrios C.H., Iwata H, Dieras V, Henschel V, Molinero L, Chui S.Y., Husain A, Winer E.P., Loi S, Emens L.A.* : IMpassion130: updated overall survival (OS) from a global, randomized, double-blind, placebo-controlled, Phase III study of atezolizumab (atezo) + nab-paclitaxel (nP) in previously untreated locally advanced or metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC). 2019 ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago)[oral abstract session].
- 002 *Schneeweiss A, Rugo H.S., Winer E.P., Barrios C.H., Iwata H, Dieras V, Loi S, Maiya V, Bond J, Lei, G Chui S.Y., Adams S, Emens L.A., Schmid P* : IMpassion130: Expanded safety analysis from a P3 study of atezolizumab (A) + nab-paclitaxel (nP) in patients (pts) with treatment (tx)-naïve, locally advanced or metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC). 2019 ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago)[poster session].
- 003 *Adams S, Dieras V, Barrios C.H., Winer E.P., Schneeweiss A, Iwata H, Loi S, Patel S, Henschel V, Chui S.Y.*

- , **Rugo H.S.** , **Emens L.A.** , **Schmid P** : Patient-reported outcomes (PROs) from the phase III IMpassion130 trial of atezolizumab (atezo) plus nabpaclitaxel (nP) in metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC). 2019 ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago),[poster session].
- 004 **Shimomura A, Tamura K, Mizutani T, Shibata T, Hara F, Fujisawa T, Niikura N, Hojo T, Kanbayashi C, Saji S, Masuda N, Sawaki M, Yamamoto N, Nagashima F, Shien T, Iwata H** : A phase III study comparing trastuzumab emtansine with trastuzumab, pertuzumab, and docetaxel in elderly patients with advanced stage HER2-positive breast cancer: (JCOG1607 HERB TEA study). 2019 ASCO Annual Meeting, 2019,(Chicago),[poster session].
- 005 **Toi M, Imoto S, Ito Y, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Saji S, Shimizu A, Ikeda T, Haga H, Saeki T, Aogi K, Sugie T, Ueno T, Kinoshita T, Kai Y, Kitada M, Sato Y, Jinbo K, Sato N, Ishiguro H, Takada M, Ohashi Y, Ohno S** : Addition of S-1 to endocrine therapy in the post-operative adjuvant treatment of hormone receptor-positive and human epidermal growth factor receptor 2-negative primary breast cancer : A multicenter, open-label, phase3 randomized trial (POTENT trial). 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[oral].
- 006 **Rugo H, Lois, Adams S, Schmid P, Schneeweiss A, Barrios CH, Iwata H, Dieras V, Winer EP, Kockx MM, Peeters D, Chui SY, Lin JC, Nguyen Duc A, Viale G, Molinero L, Emens LA** : Exploratory analytical harmonization of PD-L1 immunohistochemistry assays in advanced triple-negative breast cancer : A retrospective sub study of Impassion 130. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[oral].
- 007 **Krop I, Masuda N, Kogawa T, Takahashi S, Yonemori K, Inoue K, Nakayama T, Yamamoto Y, Alvarez R, Toyama T, Osaki A, Takahashi M, O'Shaughnessy J, Sagara Y, Saji S, Kaklamani V, Oh S, Gradishar W, Haley B, Iwasa T, Trina T, Ueno N, Isakoff S, Ohwada S, Tanaka Y, Mekan S, Onuma H, Sharma O, Iwata H** : Phase 1/2 first-in-human study of U3-1402, an anti-human epidermal growth factor receptor 3 (HER3) antibody-drug conjugate, in HER3-expressing advanced/unresectable or metastatic breast cancer, including those with triple negative breast cancer (TNBC) or HER3-low disease. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[oral].
- 008 **Saji S, Kitada M, Takada M, Ohtae T, Toyama T, Hasegawa Y, Fujisawa T, Kashiwaba M, Ishida T, Nakamura R, Yamamoto Y, Toh U, Iwata H, Masuda N, Taira N, Morita S, Ohno S, Toi M** : A randomized, multicenter, phase II study evaluating the efficacy of interventional maintenance endocrine therapy with Bevacizumab following fixed cycles of Bevacizumab plus Paclitaxel in advanced/metastatic ER-positive HER2-negative breast cancer : JBCRG-M04 BOOSTER trial. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 009 **Yee D, Oliveira M, Iwata H, Goncalves A, Garcia-Corbocho J, Sablin M, Prt A, Hardebeck M, Puig M, Huang D, Hsu M, LoRusso P** : A phase Ib multi-cohort study of xentuzumab and abemaciclib in patients (pts) with solid tumors and breast cancer (BC) - initial report of four dose-finding cohorts. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 010 **Baba S, Sawaki M, Uemura Y, Saito T, Kobayashi K, Kwashima H, Tubizumi M, Sagawa N, Bando H, Takahashi M, Yamaguchi M, Takashima T, Nakayama T, Kashiwaba M, Mizuno T, Yamamoto Y, Taira N, Iwata H, Toyama T, Tsugawa K, Ohashi Y, Mukai H** : A cohort study to evaluate the efficacy and safety of postoperative adjuvant therapy in HER2-positive elderly breast cancer patients (RESPECT-Cohort study). 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 011 **Masuda J, Tsurutani J, Masuda N, Futamura M, Matsumoto K, Aogi K, Takahashi M, Iwata H, Iwasa T, Mukohara T, Yoshimura K, Ueno T, Takano T** : Phase II study of nivolumab in combination with abemaciclib plus endocrine therapy in patients with hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor-2 negative metastatic breast cancer (WJOG11418B, NEWFLAME trial). 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster session].
- 012 **Juric D, Andre F, Singer CF, Sohn J, Campone M, Loibl D, Conte P, Iwata H, Ciruelos E, Mayer IA, Reising A, Ma C, Miller M, Babbar N, Rugo HS** : Clinical outcomes of lpelisib in hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor-2-negative advanced breast cancer by next-generation sequencing detected PIK3CA Alteration status and phosphatase and tensin homolog loss : biomarker analysis from the SOLAR-1 study. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 013 **Iwatani T, Hara F, Iwata H, Shien T, Hojo T, Sagara Y, Masuda N, Takahashi M, Saji S, Fujisawa T, Kondo N, Shimomura A** : Estimation of willingness-to pay for breast cancer treatments through contingent valuation method in Japanese breast cancer patients (JCOG1709A). 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 014 **Shimizu Y, Tsuji K, Ochi E, Okubo R, Shimazu T, Tatematsu N, Saurai N, Iwata H, Matsuoka YJ** : Oncology care provider's attitudes, practices, barriers and facilitators of physical activity promotion in breast cancer survivors : A nation-wide cross sectional web-based survey. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio),[poster].
- 015 **Sawaki M, Yamada A, Kumamaru H, Miyata H, Shimizu C, Miyashita M, Honma N, Taira N, Saji S** : Elderly pa-

- tients in the Japanese Breast Cancer Registry. European Society of Medical Oncology, 2019,(Barcelona)[Poster Session].
- 016 **Hattori M, Huo D, Beaubier N, Rajagopal PS, Yoshimatsu T, Zheng Y, Sveen E, Khramtsova G, Liu F, Abboushi T, White K, Olopade O** : Comparative analysis of genomic landscape reveals heterogeneity in HER2-positive primary breast cancers and residual disease following neoadjuvant therapy. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio)[poster session].
- 017 **Hattori M, Khramtsova G, Sveen L, Yoshimatsu T, Huo D, Olopade O** : PD-L1 expression level and CD8+/FoxP3+ T cell ratio in breast cancer and prognosis. 2019 American Association for Cancer Research, 2019,(Atlanta)[poster session].
- 018 **Kotani H, Horisawa N, Sugino K, Kataoka A, Adachi Y, Gondou N, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Terada M, Iwata H** : A double-blind phase 2 trial of preventative use of surgical gloves for paclitaxel-induced peripheral neuropathy. 2019 San Antonio Breast Cancer Symposium, 2019,(San Antonio)[Poster]
- 019 **Iwata H** : CDK4/6 Inhibitors : Game Changers in the Management of HR-Positive/HER2-Negative Metastatic Breast Cancer. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[ランチョンセミナー].
- 020 **Sagara Y, Modi S, Tamura K, Takahashi S, Park H, Iwata H, Murthy R, Lee C, Sugihara M, Saito K, Fujisaki Y, Sato Y, Tsurutani J** : [Fam-]trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in HER2-low breast cancer : updated results of a large phase 1 study. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[ワークショップ].
- 021 **Takano T, Andre F, Krop I, Iwata H, Ohtani S, Shahidi J, Lee C, Wang K, Saito K, Nomura R, Kaneko K** : A phase III study of [fam-] trastuzumab deruxtecan vs investigator' s choice in T-DM1-pretreated HER2+ breast cancer. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 022 **Iwata H** : Alpelisib(ALP) + fulvestrant(FUL) in patients from Japan with advanced breast cancer Subgroup analysis of SOLAR-1 trial. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[Presidential Session].
- 023 **吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 尾崎友理, 堀澤七恵, 遠藤由香, 阪本翔子, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治** : Final analysis of a feasibility study of risk reducing mastectomy for breast cancer patients with BRCA 1/2 mutations. 第64回日本人類遺伝学会, 2019,(長崎)[ポスター].
- 024 **澤木正孝, 山田顕光, 清水千佳子, 宮下美香, 本間尚子, 平 成人** : 第24回日本乳癌学会班研究 高齢者乳がんの特徴と治療のあり方, 支援に向けた研究. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 025 **重松英朗, 藤澤知巳, 枝園忠彦, 増田慎三, 佐治重衡, 北條 隆, 木下貴之, 田村研治, 新倉直樹, 神林智寿子, 近藤直人, 原 文堅, 吉村通央, 棕本宜学, 鹿間直人, 高橋侑子, 水谷友紀, 芝田大朗, 福田治彦, 岩田広治** : 薬物療法が著効したHR陰性HER2陽性乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[シンポジウム].
- 026 **内藤陽一, 吉野孝之, 増田慎三, 山下年成, 岩田広治** : 乳がんにおけるSCRUM-Japanの新展開. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[シンポジウム].
- 027 **増田慎三, 米盛 勸, 高橋俊二, 古川孝広, 中山貴寛, 山本 豊, 高橋將人, 遠山竜也, 佐伯俊昭, 岩田広治** : HER3陽性の手術不能又は再発乳癌に対するU3-1402の安全性および有効性の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[ワークショップ].
- 028 **寺田満雄, 権藤なおみ, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 森 万希子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 岩田広治** : Multi-gene panel検査を用いた葉状腫瘍の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[ワークショップ].
- 029 **岩瀬まどか, 安藤正志, 青磯健二郎, 有賀智之, 井上賢一, 下村昭彦, 徳永えり子, 増田慎三, 山内英子, 山下年成, 岩田広治** : Carboplatin 併用術前化学療法の長期予後の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 030 **増田慎三, 大谷彰一郎, 藤澤知巳, 柏葉匡寛, 遠山竜也, 山本 豊, 平 成人, 山口拓洋, 笹野公伸, 岩田広治** : 閉経後乳癌における術前内分泌療法の意義~NEOS試験から得たエビデンス. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 031 **吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 安立弥生, 小谷はるる, 権藤なおみ, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 森 万希子, 寺田満雄, 尾崎友理, 岩田広治** : 拳児希望のある乳がん患者の現状と課題. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 032 **高磯伸枝, 吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 岩田広治, 井本逸勢** : 遺伝性乳がん卵巣がん症候群の乳がん患者に対するリスク低減乳房切除術後の心理・QOL調査(第二報). 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 033 **安立弥生, 奥村誠子, 尾崎友理, 寺田満雄, 堀澤七恵, 森 万希子, 杉野香世子, 片岡愛弓, 小谷はるる, 権藤なおみ, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 兵藤伊久夫, 岩田広治** : 術前化学療法後一次乳房再建時の合併症と予後に関する検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[口演].
- 034 **権藤なおみ, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 安立弥生, 小谷はるる, 杉野香世子, 片岡愛弓, 森 万希子, 堀澤七恵, 寺田満雄, 尾崎友理, 岩田広治** : 乳癌患者の脳転移の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 035 **森 万希子, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 寺田満雄, 尾崎友理, 岩田広治** : 本院で乳管腺葉区域切

- 除術を施行した乳頭異常分泌症例の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 036 岩本高行, 新倉直樹, 扇谷りん, 八十島宏行, 渡邊健一, 神林智寿子, 常泉道子, 松井 哲, 藤澤知巳, 岩朝 勤, 枝園忠彦, 佐治重衡, 増田慎三, 岩田広治: 乳がん原発・脳転移の遺伝子発現から探る能転移機序の検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 037 片岡愛弓, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 権藤なおみ, 安立弥生, 杉野香世子, 堀澤七恵, 森 万希子, 寺田満雄, 尾崎友理, 奥村誠子, 岩田広治: 一次再建術後の皮膚局所再発症例についての検討. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 038 杉野香世子, 岩田広治, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 片岡愛弓, 寺田満雄, 堀澤七恵, 森 万希子, 尾崎友理: 位相角 (phase angle) はドセタキセルによる浮腫発現の予測因子となりうるか. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 039 堀澤七恵, 権藤なおみ, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 安立弥生, 小谷はるる, 片岡愛弓, 杉野香世子, 森 万希子, 寺田満雄, 尾崎友理, 岩瀬まどか, 岩田広治: 臨床的腋窩リンパ節転移 (cN+) の有無における予後の検討: cN+ の予後予測因子としての有用性. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[デジタルポスター].
- 040 遠藤由香, 坂田英子, 橋立英樹, 渋谷宏之, 牧野春彦: 当院における妊娠期乳癌7例の経験. 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(東京)[ポスター].
- 041 片岡愛弓, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 小谷はるる, 権藤なおみ, 安立弥生, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 岩田広治: リンフォシンチグラフィで副乳への集積を認めた一例. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(名古屋)[口演].
- 042 杉野香世子, 安立弥生, 澤木正孝, 吉村章代, 権藤なおみ, 小谷はるる, 片岡愛弓, 堀澤七恵, 遠藤由香, 阪本翔子, 岩田広治: 両側反回神経麻痺により気管切開を要した2症例. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(名古屋)[口演].
- 043 遠藤由香, 小谷はるる, 尾崎友理, 堀澤七恵, 杉野香世子, 片岡愛弓, 安立弥生, 権藤なおみ, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: PET / CT の異常集積が乳癌の転移と鑑別を要した2例. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(名古屋)[口演].
- 044 高磯伸枝, 吉村章代, 澤木正孝, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 岩田広治, 井本逸勢: HBOC の診療における確定診断後の検診体制の構築 - 未発症変異保有者の予防・早期発見早期治療に向けて -. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(名古屋)[口演].
- 045 岩田広治: 形成外科依頼前に乳腺外科医がしていること - 乳癌分類の定義と治療. 第7回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2019,(大宮)[教育セミナー].
- 046 杉野香世子, 吉村章代, 奥村誠子, 片岡愛弓, 安立弥生, 澤木正孝, 岩田広治: 自費負担の有無が対側リスク低減乳房切除術選択に与える影響. 第7回オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2019,(大宮)[口演].
- 047 岩田広治: 進行・再発トリプルネガティブ乳癌におけるテセントリクの有効性と安全性. 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019,(福岡)[学術セミナー].
- 048 澤木正孝: 乳がん診療における心毒性の特徴と Onco-Cardiology の重要性. 第2回日本腫瘍循環器学会, 2019,(旭川)[シンポジウム].
- 049 澤木正孝, 下村昭彦, 森田佐知, 藤田行代志, 小林 心: 乳がん領域で取り上げた Clinical Question と概要. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都)[口演].
- 050 澤木正孝: 問診・病歴の取り方, 家族歴, 家族集積性, 治療のプランニング, 乳癌以外の悪性腫瘍, 良性疾患の治療. 日本乳癌学会 第8回乳腺専門医セミナー, 2019,(東京)[口演].
- 051 権藤なおみ, 遠藤由香, 尾崎友理, 堀澤七恵, 片岡愛弓, 安立弥生, 吉村章代, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治: 多科参加型タスクフォースの試みにより早期大腸癌が発見できたり・フラウメニ症候群の一例. 第64回日本人類遺伝学会, 2019,(長崎)[ポスター].

## 消化器外科部

- 001 *Shimizu Y*: 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[座長]
- 002 *Shimizu Y, Hijioka S, Hirono S, Kin T, Ohtsuka T, Yanagisawa A, Yamaue H*: New Model for Predicting Malignancy in Patients with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[ワークショップ]
- 003 *Senda Y, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M*: Safety of laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy with preserving only the splenic artery and ligation of the splenic vein. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[示説]
- 004 *Natsume S*: 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[座長]
- 005 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M*: Optimal chemotherapy regimens for patients with URLA pancreatic cancer. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[パネル]
- 006 *Okuno M, Senda Y, Natsume S, Shimizu Y*: The prognostic impact of intraoperative peritoneal washing cytology in patients undergoing pancreatectomy for pancreatic cancer. 第31回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2019,(高松)[一般演題]
- 007 *Komori K*: The 65th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2019,(Tokyo)[座長]
- 008 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Ito S, Abe T*,

- Senda Y, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, Shimizu Y** : Management for rectovaginal fistulas after rectal resections at a high-volume cancer center. The 65th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section,2019,(Tokyo)[一般演題]
- 009 **Kinoshita T, Komori K, Oshiro T, Natsume S, Shimizu Y** : Clinical and oncological outcomes of lateral lymph node dissection using both transabdominal and extraperitoneal approach. 27th United European Gastroenterology Week,2019,(Barcelona)[示説]
- 010 **Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M, Kinoshita T** : "Chemo-Vacation Period "Gained by Adjuvant Hepatectomy for Synchronous Bilateral Multiple Colorectal Liver M. 27th United European Gastroenterology Week,2019,(Barcelona)[示説]
- 011 **Shimizu Y, Hijioka S, Hirono S, Kin T, Ohtsuka T, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Matsuo K, Yanagisawa A, Yamaue H, Sugiyama M, Okazaki K** : New Model for Predicting Malignancy in Patients with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. 2019年米国膵臓学会 (APA)・日本膵臓学会 (JPS) 合同会議 The 50th Anniversary Joint Meeting of APA and Japan Pancreas Society,2019,(Maui)[示説]
- 012 **Satoi S, Yamamoto T, Uchida K, Fujii T, Kin T, Asano T, Hanada K, Itoi T, Murakami Y, Igarashi H, Eguchi H, Kuroki T, Shimizu Y, Tani M, Tanno S, Tsuji Y, Hirooka Y, Masamune A, Mizumoto K, Shimokawa T, Yamaue H, Okazaki K** : Optimal Treatment for Octogenarians With Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. 2019年米国膵臓学会 (APA)・日本膵臓学会 (JPS) 合同会議 The 50th Anniversary Joint Meeting of APA and Japan Pancreas Society,2019,(Maui)[示説]
- 013 **Senda Y, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Hara K, Sano T** : Randomized clinical trial of duct-to-mucosa versus invagination pancreaticojejunostomy after pancreatoduodenectomy. 2019年米国膵臓学会 (APA)・日本膵臓学会 (JPS) 合同会議 The 50th Anniversary Joint Meeting of APA and Japan Pancreas Society,2019,(Maui)[示説]
- 014 **大城泰平** : 第297回東海外科学会,2019,(長久手)[座長]
- 015 **檜垣榮治, 安部哲也, 細井敬泰, 奥野正隆, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博** : 胃管血流不良を認めた胸部食道癌に対し山岸式胃管再建術を施行した1例. 第297回東海外科学会,2019,(長久手)[一般演題]
- 016 **末永泰人, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 檜垣榮治, 奥野正隆, 細井敬泰, 大内 晶, 安 炳九, 林大介, 内野大倫, 國友愛奈, 沖 哲, 高野 仁, 前田真吾, 出井秀幸, 沼田佳久, 清水泰博** : 胃内分泌細胞癌の2例. 第297回東海外科学会,2019,(長久手)[一般演題]
- 017 **國友愛奈, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 清水泰博** : 肛門扁平上皮癌に対して外科的切除を行った1例. 第297回東海外科学会,2019,(長久手)[一般演題]
- 018 **沼田佳久, 奥野正隆, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 安部哲也, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣榮治, 細井敬泰, 清水泰博** : 肝粘液性嚢胞性腫瘍の1例. 第297回東海外科学会,2019,(長久手)[一般演題]
- 019 **安部哲也** : 食道癌-食道癌診療ガイドラインに基づく外科治療のエビデンス. 2019年度第27回日本外科学会生涯教育セミナー,2019,(長久手)[教育セミナー]
- 020 **清水泰博** : 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[座長]
- 021 **伊藤誠二** : 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[座長]
- 022 **笹原正寛, 神田光郎, 寺本 仁, 望月能成, 伊藤誠二, 石博 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 室谷健太, 小寺泰弘** : Stage II / III 胃癌患者における術前 Prognostic Nutritional Index 値の術後合併症・予後予測因子としての意義. 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[示説]
- 023 **會澤雅樹, 今野元博, 藪崎 裕, 伊藤誠二, 上之園芳一, 廣野靖夫, 上田修吾, 松村卓樹, 千葉康敬, 千葉佐知, 松本 淳, 有上貴明, 伊藤友一, 藤本大裕, 石上浩徳, 山口博紀, 安田卓司, 北山丈二, 古川 洋** : 根治切除可能な漿膜浸潤陽性胃癌に対する腹腔内投与併用の周術期化学療法を検証する第II相試験 (GAPS 試験). 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[パネル]
- 024 **舩石俊樹, 田近正洋, 小森康司, 室 圭** : 局所再発を伴う切除不能再発直腸癌における化学療法の有効性と限界. 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[パネル]
- 025 **小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安 炳九, 林 大介, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博** : 側方リンパ節郭清後の直腸癌局所再発に対する手術の要点-特に仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術を中心に-. 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[一般演題]
- 026 **千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣榮治** : T3 胆嚢癌の外科治療成績の検討. 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[示説]
- 027 **木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 植村則久, 檜垣榮治, 清水泰博** : 腹腔鏡下側方リンパ節郭清～LD3の手法と成績～. 第119回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪)[一般演題]
- 028 **植村則久, 安部哲也, 檜垣榮治, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博** : 食道癌根治術後の右鎖骨上窩リンパ漏は保存的治療に抵抗性である. 第119回日本



- 外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[パネル]
- 029 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平: 局所進行膵癌に対する動脈合併切除が予後に及ぼす影響 1 次治療奏効例における比較. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[一般演題]
- 030 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 國友愛奈, 沖 哲, 高野 仁, 末永泰人, 前田真吾, 出井秀幸, 沼田佳久, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する側方郭清の適応と治療成績. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[パネル]
- 031 檜垣榮治, 安部哲也, 植村則久, 細井敬泰, 沖 哲, 國友愛奈, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌根治切除後の早期肺炎を制御するための集学的戦略. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[示説]
- 032 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 清水泰博: No-touch isolation technique による開腹結腸右半切除 +D3 郭清. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[示説]
- 033 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平: 胸部食道癌における Collard 変法を用いた頸部食道胃管吻合の成績. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[一般演題]
- 034 沖 哲, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 清水泰博: 当院における大腸癌卵巣転移症例の検討. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[示説]
- 035 末永泰人, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 小寺泰弘: Stage II / III 胃癌における周術期血清腫瘍マーカーの予後予測的意義. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[示説]
- 036 國友愛奈, 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 沖 哲, 高野 仁, 末永泰人, 前田真吾, 出井秀幸, 沼田佳久, 清水泰博: 大腸癌の大動脈周囲リンパ節転移に対する切除適応と予後の検討. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[示説]
- 037 前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣榮治, 細井敬泰, 國友愛奈, 沖 哲, 高野 仁, 末永泰人, 出井秀幸, 沼田佳久, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する側方リンパ節の郭清治療効果の検討. 第 119 回日本外科学会定期学術集会,2019,(大阪),[一般演題]
- 038 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 清水泰博: 当院における難治性直腸腸瘻の系統的治療戦略. 第 29 回骨盤外科機能温存研究会,2019,(東京),[一般演題]
- 039 安部哲也: 第 73 回日本食道学会学術集会,2019,(福岡),[座長]
- 040 安部哲也, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安 炳九: 胸部食道癌根治切除例における術後感染性合併症予後への影響. 第 73 回日本食道学会学術集会,2019,(福岡),[示説]
- 041 安 炳九, 安部哲也, 植村則久, 檜垣榮治, 細井敬泰: 食道癌根治術後再発症例における予後についての検討. 第 73 回日本食道学会学術集会,2019,(福岡),[示説]
- 042 檜垣榮治, 細井敬泰, 安部哲也: 食道癌根治術の術後合併症を術前の血液生化学検査から予測できるか. 第 73 回日本食道学会学術集会,2019,(福岡),[示説]
- 043 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣榮治, 室 圭, 門脇重憲, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 清水泰博: 術前 DCF 療法による口腔粘膜炎に対する GFO 療法の有用性. 第 73 回日本食道学会学術集会,2019,(福岡),[示説]
- 044 檜垣榮治: 日本消化器病学会東海支部第 130 回例会,2019,(浜松),[座長]
- 045 末永泰人, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安部哲也, 奥野正隆, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 原 和生, 清水泰博: 縦隔内膈仮性嚢胞により食道狭窄、左主気管支瘻に至った一例. 日本消化器病学会東海支部第 130 回例会,2019,(浜松),[一般演題]
- 046 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣榮治: circular stapler 径が食道切除後の頸部吻合部狭窄に与える影響. 第 62 回関西胸部外科学会学術集会,2019,(徳島),[シンポジウム]
- 047 三澤一成, 林 雄一郎, 森 健策, 小田昌宏, 伊藤友一, 伊藤誠二, 清水泰博: 消化管がん手術における画像処理技術を用いた手術支援システムの開発と臨床応用. 第 44 回日本外科系連合学会学術集会,2019,(金沢),[シンポジウム]
- 048 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 清水泰博, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 細田和貴, 谷田部 恭: 当院における直腸カルチノイドの検討. 第 91 回大腸癌研究会,2019,(東京),[一般演題]
- 049 栗田裕介, 原 和生, 清水泰博: 遠隔転移のない 2cm 以下の散発性非機能性 PanNEN における切除例と経過観察例の臨床経過. 第 50 回日本膵臓学会大会,2019,(東京),[ワークショップ]
- 050 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膵癌術前症例における至適胆道ドレナージを考える. 第 50 回日本膵臓学会大会,2019,(東京),[ワークショップ]
- 051 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博: IPMN 切除例における膵外再発・残膵 high risk lesion 出現に関連する因子の検討. 第 50 回日本膵臓学会大会,2019,(東京),[一般演題]
- 052 沼田佳久, 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣榮治, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 清水泰博: 挙上空腸盲端拡張による通過障害に対してバイパス術が奏効した 1 例. 第 52 回愛知臨床外科学会,2019,(名古屋),[一般演題]

- 053 清水泰博:第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[座長]
- 054 後藤田直人,野村尚吾,土井愛美,唐澤克之,大木隆正,清水泰博,稲葉吉隆,武田篤也,高木治行,穴井 洋:大腸癌肝転移高齢患者に対する外科手術とラジオ波焼灼、体幹部定位放射線治療法との治療成績の比較検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 055 伊藤誠二:第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[座長]
- 056 中西香企,神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,浅田崇洋,石山聡治,小寺泰弘:胃癌に対するS-1術後補助化学療法の開始時期と予後に関する検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 057 澤木康一,神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,浅田崇洋,松下英信,小寺泰弘:胃癌術後初回再発形式による予後、臨床病理学的特徴の検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 058 佐藤 敏,神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,石山聡治,松下英信,小寺泰弘:胃癌血清腫瘍マーカーの再発予測至適カットオフ値の検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 059 小森康司:第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[座長]
- 060 小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,清水泰博:側方リンパ節郭清後の直腸癌局所再発に対する手術の要点-特に高度癒着に対して腸胃動脈合併切除について-.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 061 塩田規帆,佐藤美信,船橋公彦,小森康司,花井恒一,宇山一朗:ストマ造設手技および関連合併症に関する検討~複数施設での調査報告~.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 062 安部哲也,檜垣栄治,細井敬泰,安 炳九,伊藤誠二,小森康司,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,清水泰博:高度局所進行食道癌に対する導入DCF療法後手術療法の成績.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[ワークショップ]
- 063 千田嘉毅,夏目誠治,奥野正隆,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,清水泰博:臍頭十二指腸切除術後瘻液漏のhigh risk症例に対する陥入法(invagination technique)による臍腸吻合.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 064 三澤一成,林雄一郎,小田昌宏,森 健策,伊藤友一,伊藤誠二,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博:胃切除術におけるLGEAから分岐する左大網枝の局所解剖.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 065 伊藤友一,伊藤誠二,三澤一成,大城泰平,夏目誠治,木下敬史,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博:胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法の治療成績.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 066 木下敬史,小森康司,大城泰平,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,清水泰博:下部進行直腸癌に対する側方リンパ節郭清LD3の成績.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 067 夏目誠治,清水泰博,千田嘉毅,奥野正隆,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,大城泰平:Conversion surgeryを念頭においた、Gem+nab-paclitaxelとFOLRINOXの比較.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 068 林 大介,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,清水泰博:80歳以上の高齢者における臍癌切除の意義.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 069 大城泰平,小森康司,木下敬史,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,清水泰博:腹腔鏡下手術によるSMAに沿った根治的リンパ節郭清.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 070 檜垣栄治,安部哲也,細井敬泰,木下敬史,三澤一成,千田嘉毅,小森康司,伊藤誠二,清水泰博:食道癌術後早期に経腸免疫栄養剤を投与することの意義.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 071 奥野正隆,千田嘉毅,夏目誠治,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,清水泰博:臍癌手術における術中臍断端迅速病理診断の意義.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 072 細井敬泰,安部哲也,檜垣栄治,伊藤誠二,小森康司,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,清水泰博:当科の食道癌手術における再建法の変遷と現在の取り組み(Collard変法を用いた頸部食道胃管吻合の成績).第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 073 高野 仁,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,林 大介,大城泰平,木下敬史,小森康司,大内 晶,清水泰博:臍頭十二指腸切除術後長期生存症例の検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 074 國友愛奈,大城泰平,小森康司,木下敬史,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,清水泰博:大腸癌の大動脈周囲リンパ節転移に対する切除適応と予後の検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 075 出井秀幸,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,林 大介,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,清水泰博:Stage I臍癌切除例の長期成績に関する検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 076 沼田佳久,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,林 大介,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,清水泰博:臍頭十二指腸切除術後、臍空腸吻合部狭窄による術後残臍炎症例の検討.第74回日本消化器外科学会,2019,(東京)[示説]
- 077 清水泰博:第19回臨床消化器病研究会,2019,(東京)[座長]
- 078 千田嘉毅:胆嚢管癌術後に発症した臍内遺残胆管癌の1例.第19回臨床消化器病研究会,2019,(東京)[一般演題]
- 079 三澤一成,伊藤友一,伊藤誠二,國友愛奈,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博:腹腔内操作に適した臓器牽引用Short straight needleの考案・製品化.8th Reduced Port Surgery Forum 第13回単孔式内視鏡手術研究会第21回Needlescopic Surgery Meeting,2019,(東京)[一般演題]

- 080 清水泰博：第46回日本膵切研究会,2019,(下呂)[座長]
- 081 清水泰博：第71回日本消化器画像診断研究会,2019,(和歌山)[座長]
- 082 羽場 真,水野伸匡,桑原崇通,奥野のぞみ,孝田博輝,宮野 亮,千田嘉毅,清水泰博,細田和貴,原 和生：膵尾部腫瘍の手術前後で内視鏡像に変化をきたし、十二指腸乳頭部癌と診断して外科的切除を実施した1例。第71回日本消化器画像診断研究会,2019,(和歌山)[示説]
- 083 高野 仁,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,奥野のぞみ,桑原崇通,羽場 真,水野伸匡,原 和生,細田和貴,清水泰博：興味深い画像所見を呈した膵頭部IPMN由来浸潤癌の1例。第71回日本消化器画像診断研究会,2019,(和歌山)[示説]
- 084 清水泰博：第55回日本胆道学会学術集会,2019,(名古屋)[司会]
- 085 夏目誠治,清水泰博,千田嘉毅,奥野正隆：膵頭十二指腸切除における非拡張胆管再建法の検討 連続吻合は狭窄発生の危険因子か？。第55回日本胆道学会学術集会,2019,(名古屋)[一般演題]
- 086 奥野正隆,千田嘉毅,夏目誠治,清水泰博：十二指腸乳頭部癌切除例における予後因子の検討。第55回日本胆道学会学術集会,2019,(名古屋)[一般演題]
- 087 小森康司：第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京)[座長]
- 088 小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣榮治,奥野正隆,細井敬泰,安 炳九,林 大介,内野大倫,國友愛奈,清水泰博：側方リンパ節郭清後の直腸癌局所再発に対する手術の要点-特に仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術を中心に-。第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京)[一般演題]
- 089 木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣榮治,奥野正隆,細井敬泰,大内 晶,國友愛奈,沖 哲,前田真吾,沼田佳久,末永泰人,清水泰博：横行結腸癌に対する腹腔鏡下D3郭清。第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京)[一般演題]
- 090 大城泰平,木下敬史,大内 晶,國友愛奈,沖 哲,末永泰人,前田真吾,沼田佳久,小森康司：TaTME 副損傷回避のための導入期の工夫。第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京)[一般演題]
- 091 大内 晶,小森康司,木下敬史,大城泰平,國友愛奈：手術先行の立場から、改めて側方郭清の可能性と限界を考える。第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京),[シンポジウム]
- 092 國友愛奈,木下敬史,小森康司,大城泰平,大内 晶,清水泰博：大腸癌腹膜播種再発に対する外科的切除の治療成績。第74回日本大腸肛門病学会学術集会,2019,(東京),[示説]
- 093 大城泰平：第298回東海外科学会,2019,(岐阜)[座長]
- 094 沖 哲,木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣榮治,奥野正隆,細井敬泰,清水泰博：小腸間膜に認められたadenomatoid tumorの1例。第298回東海外科学会,2019,(岐阜)[一般演題]
- 095 末永泰人,千田嘉毅,夏目誠治,奥野正隆,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,大城泰平,檜垣榮治,細井敬泰,大内 晶,國友愛奈,長尾拓哉,沖 哲,高野 仁,前田真吾,出井秀幸,沼田佳久,清水泰博：胆管原発が疑われた神経内分泌腫瘍の1例。第298回東海外科学会,2019,(岐阜)[一般演題]
- 096 長尾拓哉,安部哲也,檜垣榮治,細井敬泰,伊藤誠二,小森康司,清水泰博：反回神経合併切除を施行した胸部食道癌の検討。第298回東海外科学会,2019,(岐阜)[一般演題]
- 097 伊藤誠二：第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[座長]
- 098 澤木康一,神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,浅田崇洋,石山聡治,松下英信,田中千恵,小林大介,小池聖彦,藤原道隆,小寺泰弘：胃癌治療切除後の初回再発形式による予後、臨床病理学的特徴の検討。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[示説]
- 099 神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,浅田崇洋,石山聡治,松下英信,田中千恵,小林大介,藤原道隆,小寺泰弘：多施設共同データベースを活用した胃癌根治切除術後合併症と長期予後の関連性の検討。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[ワークショップ]
- 100 中西香企,神田光郎,伊藤誠二,望月能成,寺本 仁,石樽 清,村井俊文,浅田崇洋,石山聡治,松下英信,田中千恵,小林大介,藤原道隆,小寺泰弘：胃癌におけるS-1術後補助化学療法開始時期と予後との関係；多施設統合データベース。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[一般演題]
- 101 小森康司：第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[座長]
- 102 小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣榮治,奥野正隆,細井敬泰,筑紫 聡,清水泰博：後腹膜悪性腫瘍：巨大後腹膜ザルコーマ手術療法の要点。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[一般演題]
- 103 三澤一成：第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[座長]
- 104 木下敬史：腹腔鏡下結腸右半切除術～安全で確実なD3郭清と吻合～。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[学術セミナー]
- 105 高野 仁,夏目誠治,千田嘉毅,奥野正隆,小森康司,木下敬史,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,檜垣榮治,細井敬泰,清水泰博：SOX+Bevacizumab療法でpCRを得た原発性小腸癌多発肝転移の1例。第57回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[示説]
- 106 國友愛奈,三澤一成,伊藤誠二,伊藤友一,小森康司,安部哲也,千田嘉毅,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,檜垣

- 栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 4型胃癌に対する脾摘及び脾門部リンパ節郭清の意義に対する検討. 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019,(福岡)[一般演題]
- 107 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉: 食道切除後の胃管再建における ICG 蛍光法による胃管血流評価の有用性. 第72回日本胸部外科学会定期学術集会, 2019,(京都), [一般演題]
- 108 伊藤誠二: 第49回胃外科・術後障害研究会, 2019,(鹿児島)[座長]
- 109 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 小寺泰弘: 多施設共同データベース解析による定型的胃切術後肺炎予測因子の検討. 第49回胃外科・術後障害研究会, 2019,(鹿児島)[ワークショップ]
- 110 中西香企, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 清水 大, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 小寺泰弘: 幽門側胃切除術後再建法としての B-1 法と R-Y 法の比較 - 術後早期合併症の観点から -. 第49回胃外科・術後障害研究会, 2019,(鹿児島), [シンポジウム]
- 111 小森康司, 須田久雄, 中井洋佑, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 清水泰博: 血管合併切除を伴った巨大後腹膜腫瘍の手術の要点とトラブルシューティング. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[一般演題]
- 112 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 清水泰博: 胸腔鏡下食道切除術における反回神経麻痺軽減を目指した上縦隔郭清. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[ワークショップ]
- 113 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: Outlet obstruction を回避する一時的回腸人工肛門造設の手術手技. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[ワークショップ]
- 114 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 細井敬泰: 細径胆管における連続縫合は吻合部狭窄の危険因子である. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[一般演題]
- 115 檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 長尾拓哉, 奥野正隆, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 食道癌根治術直後からの免疫栄養剤投与は早期の細菌性肺炎を減少させる. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[ワークショップ]
- 116 沖 哲, 木下敬史, 大城泰平, 小森康司, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 腹腔鏡下結腸切除における安全な切離・吻合のための工夫. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[一般演題]
- 117 國友愛奈, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 4型胃癌に対する脾摘及び脾門部リンパ節郭清の意義についての検討. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[一般演題]
- 118 出井秀幸, 夏目誠治, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 細井敬泰, 清水泰博: 大腸癌同時性両葉多発肝転移に対する conversion surgery ~肝切除により得られる Chemo-Vacation 期間~. 第81回日本臨床外科学会総会, 2019,(高知)[一般演題]
- 119 孝田博輝, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 松本慎平, 小畑雅寛, 栗田裕介, 原 和生: 当院における80歳以上の膀胱癌患者の臨床背景と治療成績. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 120 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膀胱癌前例における至適胆道ドレナージとは. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 121 神田光郎, 伊藤誠二, 小寺泰弘: 多施設共同データベースによる胃癌根治切除術後合併症と術後長期予後の関連性の検討: 合併症重症度と発生部位に着目して. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[ワークショップ]
- 122 佐藤 敏, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 小寺泰弘: 再発予測のための胃癌血清腫瘍マーカー至適カットオフ値の検討. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 123 荘加道太, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中千恵, 小林大介, 藤原道隆, 小寺泰弘: 多施設共同データベースを活用した胃癌切除術後肺炎発生の予後因子の検討. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 124 澤木康一, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聡治, 松下英信, 田中千恵, 小林大介, 服部憲史, 高見秀樹, 林 真路, 山田豪, 中山五郎, 小池聖彦, 藤原道隆, 小寺泰弘: 胃癌治療切除後の初回再発形式による予後、臨床病理学的特徴の検討. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 125 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 切除困難な巨大難治癌の手術手技. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間, 2019,(神戸)[示説]
- 126 田口 歩, Dayde Delphine, 平山 裕, 田近正洋, 小森康司, 清水泰博, 丹羽康生, 原 和生, Ronald Depinho, Samir Hanash, Sunil Krishnan: マウスモデルを用いた直腸癌術前化学放射線治療の効果予測血中バイオマーカーの同定. JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連

学会週間,2019,(神戸)[示説]

- 127 夏目誠治,清水泰博,千田嘉毅,奥野正隆,原 和生,桑原崇通,伊藤誠二,小森康司,安部哲也: 切除不能膀胱癌に対する conversion surgery. JDDW 2019 KOBE 第 27 回日本消化器関連学会週間,2019,(神戸)[示説]
- 128 日比裕太,林 雄一郎,北坂孝幸,伊東隼人,小田昌宏,三澤一成,森 健策: グラフ畳み込みニューラルネットワークによる腹部動脈血管名自動命名におけるデータ拡張による精度改善. 第 28 回日本コンピュータ外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 129 小澤卓也,小田絃久,伊東隼人,北坂孝幸,林 雄一郎,小田昌宏,三澤一成,竹下修由,伊藤雅昭,森 健策: 生成型学習による腹腔鏡ビデオ自動認識のための画像生成システムの開発. 第 28 回日本コンピュータ外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 130 盛満慎太郎,山本翔太,小澤卓也,北坂孝幸,林 雄一郎,小田昌宏,伊藤雅昭,竹下修由,三澤一成,森 健策: LSTM を用いた腹腔鏡動画からの血管領域抽出. 第 28 回日本コンピュータ外科学会,2019,(東京)[一般演題]
- 131 小森康司: 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[座長]
- 132 安部哲也: 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[座長]
- 133 安部哲也,檜垣栄治,細井敬泰,長尾拓哉,小森康司,伊藤誠二,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,奥野正隆,清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における微細解剖に基づく反回神経麻痺軽減を目指した上縦隔郭清. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 134 三澤一成: 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[座長]
- 135 三澤一成,國友愛奈,伊藤友一,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,千田嘉毅,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,檜垣栄治,奥野正隆,細井敬泰,清水泰博: ちょっとしたアイデアの製品化: 鏡視下手術専用 Short straight needle と鉗子ホルダー. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 136 木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣栄治,奥野正隆,細井敬泰,清水泰博: 右半結腸切除術における確実な腹腔鏡下 D 3 郭清. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 137 大城泰平: 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[座長]
- 138 大城泰平,小森康司,木下敬史,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,夏目誠治,檜垣栄治,奥野正隆,細井敬泰,大内 晶,國友愛奈,前田真吾,清水泰博: TaTME を安全に行うための 2 チーム手術. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 139 檜垣栄治,安部哲也,長尾拓哉,細井敬泰,奥野正隆,大城泰平,夏目誠治,木下敬史,伊藤友一,三澤一成,千田嘉毅,小森康司,伊藤誠二,清水泰博: DCF 導入療法後に胸腔鏡下食道切除術を施行した食道癌患者の術後短期成績の検討. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 140 國友愛奈,三澤一成,伊藤誠二,伊藤友一,小森康司,安

部哲也,千田嘉毅,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,檜垣栄治,奥野正隆,細井敬泰,清水泰博: 腹腔鏡下胃切除後に遅発性動脈瘤を認めた 2 例. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜),[一般演題]

- 141 沼田佳久,安部哲也,檜垣栄治,細井敬泰,伊藤誠二,小森康司,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,奥野正隆,清水泰博: 食道癌術後の胃管癌に対し縦郭鏡補助下胃管全摘術を施行した 4 症例の検討. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 142 長尾拓哉,安部哲也,檜垣栄治,細井敬泰,伊藤誠二,小森康司,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,奥野正隆,清水泰博,黒田浩章: 胸部食道癌術後縫合不全に伴う臍胸に対して胸腔鏡下ドレナージ術を施行した 1 例. 第 32 回日本内視鏡外科学会,2019,(横浜)[一般演題]
- 143 大内 晶,小森康司,田近正洋,木下敬史,大城泰平,田中 努,平山 裕,大西祥代,鳥山和浩,清水泰博,丹羽康正: T1 大腸癌における腫瘍占居部位の臨床的意義. 第 92 回大腸癌研究会,2019,(広島)[示説]

## 整形外科部

- 001 *FujiharaN, FujiharaY, Hamada S, YoshidaM, Tsukushi S*: Factors that Influence Treatment Delay in a Patient with Soft Tissue Sarcoma. 74<sup>TH</sup> ANNUAL MEETING OF THE ASSH2019, 2019,(LasVegas)[ポスター]
- 002 *Hamada S, YoshidaM, FujiharaN, Tsukushi S*: The outcome of intramedullary nailing for metastatic bone tumors. ISOLS2019 (International Society Of Limb Salvage), 2019,(Greece)[口演]
- 003 藤原那沙: 上肢発生の軟部肉腫における治療開始までの期間に影響する因子. 第 62 回日本手外科学術集会,2019,(札幌)[口演]
- 004 小池 宏,西田佳弘,高野 桂,下山芳江,濱田俊介,石黒直樹: デスモイド型繊維腫症の病理診断における  $\beta$ -カテニン免疫染色の有用性の検討. 第 132 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会,2019,(三重)[口演]
- 005 濱田俊介: 右肩軟部腫瘍の 1 例. 第 90 回東海骨軟部腫瘍研究会,2019,(名古屋)[講演]
- 006 生田国大,西田佳弘,小澤英史,筑紫 聡,浦川 浩,新井英介,大田剛広,酒井智久,石黒直樹: 80 歳以上の高齢者における軟部肉腫の手術治療成績. 第 92 回日本整形外科学会学術総会,2019,(横浜)[口演]
- 007 新井英介,西田佳弘,筑紫 聡,浦川 浩,生田国大,大田剛広,酒井智久,石黒直樹: 大腿骨骨肉腫腫瘍用人工膝関節置換術後の患肢機能に関する因子の検討. 第 92 回日本整形外科学会学術総会,2019,(横浜)[口演]
- 008 藤原那沙,濱田俊介,吉田雅博,筑紫 聡: 当院における骨粗鬆症診療の現状. 第 92 回日本整形外科学会学術総会,2019,(横浜)[ポスター]
- 009 西田佳弘,濱田俊介,酒井智久,浦川 浩,新井英介,生

- 田国大, 大田剛大, 清水光樹, 石黒直樹: 骨・軟部肉腫領域における precision medicine の試み. 第 92 回日本整形外科学会学術総会, 2019,( 横浜 ) [ 口演 ]
- 010 中山ロバート, 早川景子, 小林英介, 濱田俊介, 川島寛之, 濱田健一郎, 渡部逸央, 麩谷博之, 五嶋孝博, 浅野尚文: 本邦における淡名細胞型軟部肉腫の治療成績 - 日本骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG) 多施設共同研究 -. 第 92 回日本整形外科学会学術総会, 2019,( 横浜 ) [ 口演 ]
- 011 濱田俊介: 手掌部軟部腫瘍. 第 11 回自由が丘整形医学会, 2019,( 名古屋 ) [ 講演 ]
- 012 藤原那沙: 中指軟部腫瘍. 第 11 回自由が丘整形医学会, 2019,( 名古屋 ) [ 講演 ]
- 013 筑紫 聡: 肩甲部軟部腫瘍. 第 11 回自由が丘整形医学会, 2019,( 名古屋 ) [ 講演 ]
- 014 筑紫 聡: 腫瘍用人工関節再建の手術戦略とリハビリテーション—知識と経験の共有—. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ ランチョンセミナー ]
- 015 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 清水泰博, 小森康司, 室 圭, 安藤正志: 後腹膜脂肪肉腫への challenge 後腹膜脂肪肉腫における手術治療とその役割. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 016 吉田雅博, 藤原那沙, 濱田俊介, 筑紫 聡: 悪性骨・軟部腫瘍に対する切断肢の治療成績. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 017 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: AI 療法の化学療法期間中における尿モニタリングは必要か. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 018 熊谷謙治, 橋川 健, 河野昌文, 村田雅和, 筑紫 聡, 重松和人, 伊藤正博: 稀な骨隆起病変の 4 症例. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ ポスター ]
- 019 小林 寛, 岡 敬之, 岩田慎太郎, 若松 透, 早川景子, 和佐潤志, 角永茂樹, 箱崎道之, 柳川天志, 筑紫 聡, 米本 司, 田中 栄, 上田孝文: 日本人における軟部肉腫に対するトラベクテジンの有効性と安全性. 骨軟部肉腫治療研究会 (JMOG) 多施設共同研究. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 020 中村知樹, 筑紫 聡, 浅沼邦洋, 片桐浩久, 生田国大, 永野昭仁, 小澤英史, 山田 聡, 紫藤洋二, 石村大輔, 山田健志, 河南勝久, 須藤啓彦, 西田佳弘: エリブリンを用いた進行期軟部肉腫の治療成績. 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム共同研究, 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 021 生田国大, 大田剛広, 筑紫 聡, 小澤英史, 中島浩敦, 山田健志, 浦川 浩, 新井英介, 酒井 智久, 石黒直樹, 西田佳弘: 骨腫瘍切除後欠損部における  $\beta$ -TCP 配向連通多孔体の適用範囲. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ ポスター ]
- 022 小池 宏, 濱田俊介, 酒井智久, 清水光樹, 西田佳弘, 厚労科研究班: デスモイド型線維腫症の発生部位は薬物治療成績の予後規定因子となるか システマティックレビュー. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ ポスター ]
- 023 清水光樹, 濱田俊介, 酒井智久, 小池 宏, 西田佳弘, 腹腔外発生デスモイド型線維腫症診療ガイドライン策定委員会: 腹腔外発生デスモイド型線維腫症患者に低用量 MTX+VBL 抗がん剤治療は有用か システマティックレビュー. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 024 酒井智久, 濱田俊介, 小池 宏, 清水光樹, 西田佳弘, 腹腔外発生デスモイド型線維腫症診療ガイドライン策定委員会: デスモイド型線維腫症の診断には  $\beta$ -catenin 遺伝子変異解析が有用か システマティックレビュー. 第 52 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2019,( 川越 ) [ 口演 ]
- 025 筑紫 聡: 転移性骨腫瘍の初期診断. 第 18 回鶴舞整形外科症例検討会, 2019,( 名古屋 ) [ 講演 ]
- 026 上見亮太, 筑紫 聡, 吉田雅博: 尺骨遠位に発生した骨巨細胞腫の 1 例. 第 133 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2019,( 神戸 ) [ 口演 ]
- 027 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 大腿骨近位転移性骨腫瘍に対する腫瘍用人工骨頭置換術: 意図的 en bloc 切除. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019,( 福岡 ) [ 口演 ]
- 028 吉田雅博, 筑紫 聡, 濱田俊介, 藤原那沙, 安藤正志: 進行性骨軟部肉腫におけるゲムシタピンとドセタキセルの併用療法. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019,( 福岡 ) [ 口演 ]
- 029 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 転移性骨腫瘍に対する髓内釘の治療成績〜リーミング操作による播種の影響〜. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019,( 福岡 ) [ 口演 ]
- 030 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: 当院がん患者における骨粗鬆症診療の現状. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019,( 福岡 ) [ 口演 ]
- 031 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千 嘉毅, 三澤一成, 伊藤 友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 筑紫 聡, 清水泰博: 後腹膜悪性腫瘍 巨大後腹膜サルコーマ手術療法の要点. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019,( 福岡 ) [ 口演 ]
- 032 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 小森康司, 安藤正志: 後腹膜脂肪肉腫における手術治療とその役割. 第 3 回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2020,( 大阪 ) [ 口演 ]

## リハビリテーション部

- 001 吉田雅博, 杉浦英志: 悪性骨軟部腫瘍における切断肢の治療成績. 第 3 回日本リハビリテーション医学会秋季学

術集会, 2019,(静岡),[口演]

- 002 **吉田雅博, 杉浦英志**: 転移性脊椎腫瘍における手術後の歩行能力に影響する因子についての検討. 第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2019,(静岡),[口演]
- 003 **中嶋誠也, 山崎康司, 清水泰博, 吉田雅博**: 当院における胃がん患者の周術期呼吸リハビリテーション導入の効果. 第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2019,(静岡),[ポスター]
- 004 **高津 淳, 細井敬泰, 檜垣栄治, 山本正彦, 吉田雅博, 安部哲也**: 食道癌根治術後における嚥下リハビリテーション～言語聴覚士の役割についての検討～. 第73回日本食道学会, 2019,(福岡),[ワークショップ]
- 005 **吉田雅博**: 転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション. 第10回愛知がんリハビリテーション研修会, 2019,(豊明),[講演]

## 泌尿器科部

- 001 **曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二**: 2018年度、愛知県がんセンター中央病院の手術統計 第64回三重泌尿器科医学会, 2019,(津),[口演]
- 002 **曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二, 古平 毅, 景山拓海**: 新規公式 GP score は、限局性前立腺癌に対する放射線治療後の生化学的再発を予測する有意な因子である, 第107回日本泌尿器科総会, 2019,(名古屋),[ポスター]
- 003 **曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二**: ICG 近赤外蛍光補助下腎部分切除術での、腫瘍部位と正常部位の蛍光量比較, 蛍光ガイド手術研究会, 第2回学術集会, 2019,(京都),[口演]
- 004 **曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二**: ダヴィンチ Xi によるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除と、ミニマム創手術との比較, 第65回三重泌尿器科医学会, 2019,(津),[口演]
- 005 **Ishihara M, Kageyama S, Miyahara Y, Ishikawa T, Ueda S, Soga N, Ikeda H, Shiku H**: MAGE-A4, NY-ESO-1 and SAGE expression on tumor samples assessed by RT-PCR, 第78回日本癌学会学術総会, 2019,(京都),[口演]

## 婦人科部

- 001 **坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 水野美香**: 婦人科悪性腫瘍手術後におけるアセトアミノフェン静注剤定期投与の鎮痛効果の検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 2019,(名古屋),[ポスター]
- 002 **坪内寛文, 片岡愛弓, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 井本逸勢, 水野美香**: 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する腹腔鏡下リスク下減卵管卵巣摘出の取り組み. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2019,(東京),[口演]
- 003 **坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 井本逸勢**: リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)症例に対す

る腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の施行に関する検討. 臨床遺伝 2019inSapporo (第43回日本遺伝カウンセリング学会・第26回日本遺伝子診療学会 合同学術集会), 2019,(札幌),[口演]

- 004 **高磯伸枝, 吉村章代, 安立弥生, 森 正彦, 坪内寛文, 岩田広治, 井本逸勢**: BRCA1/2 陰性乳がん卵巣がん症例に対して多遺伝子パネル検査を実施した1例. 臨床遺伝 2019inSapporo (第43回日本遺伝カウンセリング学会・第26回日本遺伝子診療学会 合同学術集会), 2019,(札幌),[ポスター]
- 005 **坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦**: 家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸切除後に子宮体部腫瘍を認めた2例. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[口演]

## 脳神経外科部

- 001 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之, 服部和良**: がん脊椎転移に対する手術戦略 - 脊髄麻痺予防の重要性. 第34回日本脊髄外科学会, 2019,(札幌),[一般演題]
- 002 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之, 服部和良**: ESCC scale3 を呈する脊椎転移の臨床的検討. 第34回日本脊髄外科学会, 2019,(札幌),[一般演題]
- 003 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之**: 脊椎転移に対する手術と体幹部定位放射線治療(SBRT)による複合治療. 第54回日本脊髄障害医学会, 2019,(秋田),[一般演題]
- 004 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之**: がん脊椎転移に対する術前 TAE の有用性. 第54回日本脊髄障害医学会, 2019,(秋田),[ポスター]
- 005 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之, 服部和良**: がん脊椎転移診療体制構築による脊髄麻痺予防. 日本脳神経外科学会第78回学術総会, 2019,(大坂),[一般演題]
- 006 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 粟屋堯之, 服部和良**: 当院における脊椎転移の手術戦略と中期成績. 第62回中部脊髄外科ワークショップ, 2019,(名古屋),[一般演題]
- 007 **灰本章一**: 脊椎転移に対する治療戦略 - 診療体制構築から最新治療まで. 第80回八事整形会, 2019,(名古屋),[その他]

## 放射線診断 I V R 部

- 001 **Chatani S, Murata S, Kato S, Hasegawa T, Sato Y, Dejima I, Takahashi M, Tsukamoto H, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Yamamoto K, Yatabe Y, Inaba Y**: The utility of image-guided core needle biopsy in suspected malignant lymphoma comparison with surgical excision biopsy. Cardiovascular and Interventional Radiological

- Society of Europe 2019, (Barcelona ,Spain). [Poster presentation ]
- 002 **Chatani S, Sato Y, Haimoto S, Murata S, Hasegawa T, Dejima I, Takahashi M, Tsukamoto H, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Hattori K, Inaba Y** : Preoperative transcatheter arterial embolization for metastatic spinal cord compression. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe 2019, (Barcelona ,Spain). [Poster presentation ]
- 003 **Sato Y, Inaba Y, Murata S, Hasegawa T, Chatani S, Shimizu Y, Hara K** : Percutaneous drainage for afferent limb syndrome via the blind end of the jejunal limb after biliary reconstruction. The 13<sup>th</sup> Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention SGI 2019, (Incheon South Korea). [Oral presentation ]
- 004 **Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Yamanaka T, Nakatsuka A, Takao M, Sato Y, Fukai I, Tokui T, Gobara H, Baba Y, Inaba Y, Yamakado K** : Radiofrequency Ablation for Resectable Colorectal Lung Metastases:A Prospective Multicenter Phase 2 Study(MLCSG-0802). Radiological Society of North America 105th Scientific Assembly RSNA 2019, (Chicago, USA). [Oral presentation ]
- 005 茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 出嶋育朗, 高橋大雄, 塚本裕一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆 : 尿管動脈瘻に対してカバースtentを留置した3例. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [ポスター]
- 006 茶谷祥平, 佐藤洋造, 灰本章一, 長谷川貴章, 出嶋育朗, 高橋大雄, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 服部和良, 稲葉吉隆 : 転移性脊椎腫瘍に対する徐圧術術前TAEの検討. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 007 佐藤洋造 : 緩和医療における非血管系IVR/現状と今後の展望. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 008 村田慎一, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 高橋大雄, 茶谷祥平, 出嶋育朗, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 古田裕美, 清水淳市, 谷田部 恭 : 肺癌遺伝子診断における画像下生検の有用性. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 009 長谷川貴章, 佐藤洋造, 高橋大雄, 茶谷祥平, 黒田浩章, 古谷勇一郎, 岩政裕昭, 浅井 翼, 服部寿史, 村田慎一, 山浦秀和, 松島 秀, 屋代英樹, 稲葉吉隆 : 術前肺マーキングに用いる液体材料の比較実験. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 010 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 出嶋育朗, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆 : 切除不能肝細胞癌に対するシスプラチン含浸ヘパスフィアを用いたDEB-TACEの検討. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 011 佐藤洋造 : 新たな展開を迎えるTACEと当院における治療戦略. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 012 佐藤洋造 : ビーズTACE. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [教育講演]
- 013 長谷川貴章, 高木治行, 兎玉大志, 山中隆嗣, 中塚豊真, 佐藤洋造, 高尾仁二, 片山芳彦, 深井一郎, 加藤俊夫, 徳井俊也, 馬場康貴, 郷原英夫, 稲葉吉隆, 山門享一郎 : 切除可能な大腸がん肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法 / 他施設共同第2相前向き臨床試験 (MLCSG-0802). 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 014 村田慎一 : 各論、ICVステントについて. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [教育講演]
- 015 稲葉吉隆 : 緩和IVR医が今なすべきこと. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [座長]
- 016 古谷勇一郎, 服部寿史, 浅井 翼, 岩政裕昭, 安部忠臣, 松島 秀, 稲葉吉隆 : 血管撮影装置での撮影時付加フィルター変更による被ばく線量低減と画質の検討. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 017 浅井 翼, 松島 秀, 服部寿史, 古谷勇一郎, 村田慎一, 稲葉吉隆 : AUCを用いたparametric imagingの有用性. 第48回日本IVR学会, 2019, (福岡), [口演]
- 018 稲葉吉隆, 村田慎一, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 山浦秀和, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 塚本裕一, 女屋博昭 : 胃手術既往患者への経皮的胃腸瘻造設. 第66回中部IVR研究会, 2019, (金沢), [口演]
- 019 村田慎一, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 茶谷祥平, 塚本裕一, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭 : 感染でCVポートを抜去した症例の検討. 第66回中部IVR研究会, 2019, (金沢), [口演]
- 020 茶谷祥平, 村田慎一, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 塚本裕一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆 : 同時性多発肝転移合併大腸癌術後にbridging therapyとして肝動注療法を施行した2例. 第66回中部IVR研究会, 2019, (金沢), [口演]
- 021 長谷川貴章, 佐藤洋造, 山浦秀和, 村田慎一, 茶谷祥平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆 : 1cm未満の小結節に対する肺RFAの治療成績. 第66回中部IVR研究会, 2019, (金沢), [口演]
- 022 佐藤洋造 : 血管損傷に対するステントグラフト. 第66回中部IVR研究会, 2019, (金沢), [座長]
- 023 佐藤洋造 : ドレナージ、私はこれで抜いている. 第5回日本穿刺ドレナージ研究会, 2019, (大阪), [講演]
- 024 佐藤洋造 : 穿ドレ/RFA/その他. 第5回日本穿刺ドレナージ研究会 2019, (大阪), [座長]
- 025 茶谷祥平, 長谷川貴章, 黒田浩章, 高橋大雄, 古谷勇一郎, 岩政裕昭, 佐藤洋造, 浅井 翼, 服部寿史, 村田慎一, 山浦秀和, 松島 秀, 屋代英樹, 稲葉吉隆 : 術前肺マーキングに用いる液体材料の比較実験. 第5回日本穿刺ドレナージ研究会, 2019, (大阪), [口演]
- 026 **Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Kondo S, Onaya H, Yamaura H, Kato M, Chatani S, Tsukamoto H, Inaba Y** : Retrograde lymphatic duct embolization of the cisterna chyli:unsuccessful treatment for refractory chylothorax and chylous ascites due to ovarian cancer . 第5回日本穿刺ドレナージ研究会 2019, (大阪), [口演]



- 027 村田慎一, 橋本直弥, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 加藤弥菜, 稲葉吉隆: レンパチニブ導入における薬剤師介入による有害事象マネジメントの意義. 第20回日本肝がん分子標的治療研究会, 2019, (長崎), [ポスター]
- 028 稲葉吉隆: 新時代における肝細胞癌治療. 第55回日本肝癌研究会, 2019, (東京), [座長]
- 029 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 古田裕美, 清水淳市, 女屋博昭, 山浦秀和, 加藤弥菜, 茶谷祥平, 谷田部恭, 稲葉吉隆: The utility of image guided biopsy for mutational analysis in lung cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会, 2019, (京都), [口演]
- 030 稲葉吉隆: 肝細胞癌の薬物療法の使い分け. 第17回日本臨床腫瘍学会, 2019, (京都), [座長]
- 031 長谷川貴章: 切除可能な大腸癌肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固療法・多施設共同第2相前向き臨床試験の結果報告. 第28回三重肺癌研究会, 2019, (三重), [口演]
- 032 長谷川貴章: 腎・副腎に対するRFA. 第20回RFA・凍結療法研究会, 2019, (大阪), [口演]
- 033 長谷川貴章, 佐藤洋造, 山浦秀和, 村田慎一, 茶谷祥平, 塚本裕一, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆: 1cm未満の小結節に対する肺RFAの治療成績. 第20回RFA・凍結療法研究会, 2019, (大阪), [口演]
- 034 長谷川貴章, 高木治行, 児玉大志, 山中隆嗣, 中塚豊真, 佐藤洋造, 高尾仁二, 馬場康貴, 郷原英夫, 稲葉吉隆, 山門享一郎: 切除可能な大腸がん肺転移に対する経皮的ラジオ波凝固術・多施設共同第2相前向き臨床試験(MLCSG-0802). 第20回RFA・凍結療法研究会, 2019, (大阪), [口演]
- 035 佐藤洋造, 高橋大雄, 稲葉吉隆, 村田慎一, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 原 和生, 奥野のぞみ: 陽子線治療後の門脈胆管瘻に対してステントグラフト留置で治療した1例. 第16回日本粒子線治療臨床研究会, 2019, (奈良), [口演]
- 036 Murata S, Sato Y, Hasegawa T, Furuta H, Shimizu J, Onaya H, Yamaura H, Kato M, Dejima I, Takahashi M, Chatani S, Tsukamoto H, Inaba Y: The utility of image guided repeat biopsy for mutational analysis in lung cancer. 第57回日本癌治療学会, 2019, (福岡), [口演]
- 037 稲葉吉隆, 新橋 剛, 曾根美雪: 緩和IVRにおけるエビデンスの構築. 第55回日本医学放射線学会秋季大会, 2019, (名古屋), [シンポジウム]
- 038 稲葉吉隆: 肝腫瘍に対するIVR. 第55回日本医学放射線学会秋季大会, 2019, (名古屋), [講演]
- 039 稲葉吉隆: 有痛性骨転移の緩和医療. 第9回緩和IVR研究会, 2019, (東京), [座長]
- 040 稲葉吉隆, 村田慎一, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 山浦秀和, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 塚本裕一, 女屋博昭: 胃手術既往患者への経皮的胃腸瘻造設. 第9回緩和IVR研究会, 2019, (東京), [口演]
- 041 佐藤洋造: IVR-CTを用いた緩和IVR. 第9回緩和IVR研究会, 2019, (東京), [口演]
- 042 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一, 長谷川貴章, 清水泰博: 画像ガイド下ドレナージの基本と応用. 第32回日本外科感染症学会, 2019, (岐阜), [口演]
- 043 茶谷祥平, 山浦秀和, 塚本裕一, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 女屋博昭, 稲葉吉隆, 藤原那沙, 筑紫 聡, 玉木恒男: 四肢に発生した腱に接する腫瘍のMRIによる鑑別 GCT-TSを中心に. 日本医学放射線学会第167回中部地方会, 2020, (名古屋), [口演]
- 044 稲葉吉隆: 放射線科領域講習会(診断). 日本医学放射線学会第167回中部地方会, 2020, (名古屋), [座長]
- 045 女屋博昭: 骨盤リンパ節転移の画像診断 再考. 日本医学放射線学会第167回中部地方会, 2020, (名古屋), [講演]

## 放射線治療部

- 001 Koide Y, Kitagawa T, Aoyama T, Shimizu H, Tanaka H, Tachibana H, Kodaira T: A simple and low-cost method of deep inspiration breath-hold irradiation for breast cancer. 38th Annual meeting of the European Society for Radiation Oncology, 2019, (milan), [ポスター]
- 002 Koide Y, Tomita N, Tanaka H, Tachibana H, Kodaira T: Retrospective analysis of hypofractionated stereotactic radiotherapy for tumors larger than 2 cm. 38th Annual meeting of the European Society for Radiation Oncology, 2019, (milan), [ポスター]
- 003 Shimizu H, Sasaki K, Tanaka H, Aoyama T, Tachibana H, Koide Y, Kodaira T: Dosimetric effect of calculation grid size on epidural space in spine stereotactic body radiotherapy using volumetric modulated arc therapy. 61th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2015, 2019, (chicago), [ポスター]
- 004 Ito M, Kodaira T, Koide Y, Okuda T, Mizumatsu S, Oshima Y, Takeuchi A, Mori T, Abe S, Asai A, Suzuki K: Role of high-dose salvage radiotherapy for oligometastases of localized abdominal/pelvic lymph nodes. 61th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2015, 2019, (chicago), [ポスター]
- 005 Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Kitagawa T, Fukuma H, Tachibana H, Kodaira T: Evaluation of the rotational accuracy of twist-correction system for radiotherapy of head and neck cancer patients. The 7th Japan-Taiwan Radiation Oncology Symposium, 2019, (tokyo), [口頭]
- 006 Aoyama T, Uto K, Ebara M, Shimizu H, Kitagawa T, Kodaira T: Development of a sheet with low melting temperature for patient specific immobilization systems in radiation therapy. 19th Asia-Oceania Congress of Medical Physics, 2019, (perth), [ポスター]
- 007 古平 毅: シンポジウム放射線治療の抵抗拡大に向けた新たな展開. 第78回日本医学放射線学会, 2019, (横浜), [口演]
- 008 古平 毅: 遠隔転移を有する頭頸部腫瘍の局所(準)根治的放射線治療. 第78回日本医学放射線学会, 2019, (横浜), [口

- 演]
- 009 古平 毅：医療の質 治療．第78回日本医学放射線学会,2019,(横浜),[教育講演]
- 010 清水秀年：放射線治療(治療計画3)．第75回日本放射線技術学会総会学術大会,2019,(横浜),[座長]
- 011 青山貴洋, 清水秀年, 佐々木浩二, 安藤未央, 磯村泰己, 古平 毅：画時の頭部のセットアップ角度と治療直前の頸椎の捻れの関係．第75回日本放射線技術学会総会学術大会,2019,(横浜),[口述]
- 012 古平 毅：シンポジウム 放射線治療はどう進んでいるか 照射法の進歩．第43回日本頭頸部癌学会,2019,(金沢),[口演]
- 013 小出雄太郎, 北川智基, 阿部壮一郎, 若林紘平, 宮内理世, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅：低コストで簡便な左乳癌深呼吸期息止め照射法．日本医学放射線学会166回中部地方会,2019,(金沢),[口演]
- 014 古平 毅：頭頸部癌における免疫療法の展望．第16回日本臨床腫瘍学会,2019,(京都),[口演]
- 015 Takeshi Kodaira：Radiation therapy with immune checkpoint inhibitor, future perspective. 第16回日本臨床腫瘍学会,2019,(京都),[口演]
- 016 古平 毅：口腔咽頭癌に対するがん薬物療法の現在と今後の展望．第32回日本口腔・咽頭科学会総会,2019,(大分),[口演]
- 017 古平 毅：集学的治療の中のがん薬物療法の位置づけ：放射線療法との併用療法第32回日本口腔・咽頭科学会総会,2019,(大分),[口演]
- 018 古平 毅：医療の質 治療．第55回日本医学放射線学会秋期臨床大会,2019,(名古屋),[教育講演]
- 019 清水秀年：放射線治療(Tomotherapy・ゲル線量計)．第47回日本放射線技術学会秋季学術大会,2019,(大阪),[座長]
- 020 北川智基：シンポジウム 今一度考えよう高精度照射の事前検証 個別化と最適化と簡略化一．第47回日本放射線技術学会秋季学術大会,2019,(大阪),[口演]
- 021 古平 毅：がん放射線治療の最前線 Frontier of radiation therapy for head and neck cancer. Modification of space, time and molecular status to increase efficacy of radiation therapy. 第57回癌治療学会,2019,(福岡),[口演]
- 022 古平 毅：Gold medal 受賞記念講演．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[座長]
- 023 古平 毅：梅垣賞・阿部賞授与式受賞講演, 優秀教育講演賞, highly cited award 優秀査読賞授与式．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[座長]
- 024 古平 毅：海外名誉会員証授与式・記念講演．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[座長]
- 025 古平 毅：一般講演 頭頸部癌．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[座長]
- 026 古平 毅：市民公開講座 切らずに治る放射線治療 命と機能を守る頭頸部癌の放射線治療．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[講演]
- 027 古平 毅：教育講演 医療の質 治療．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[講演]
- 028 川村麻里子, 小出雄太郎, 村井太郎, 石原俊一, 高瀬裕樹, 村尾豪之, 岡崎 大, 山口尊弘, 内山 薫, 伊藤善之, 古平 毅, 芝本雄太, 長縄慎二：子宮頸部小細胞癌の治療法とその予後に関する実態調査：多施設による遡及的調査．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 029 伊藤 誠, 小出雄太郎, 古平 毅, 奥田隆仁, 水松真一郎, 浅井あゆみ, 阿部壮一郎, 森 俊恵, 竹内亜里紗, 大島幸彦, 鈴木耕次郎：小数個腹腔骨盤部リンパ節再発癌に対する高線量救済照射の意義．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 030 田中 寛, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 若林紘平, 宮内理世, 阿部壮一郎, 小出雄太郎, 立花弘之, 古平 毅：当院における緩和放射線治療後のフォロー率の後方視解析．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 031 小出雄太郎, 阿部壮一郎, 若林紘平, 宮内理世, 青山並季, 西村聖子, 中島貴子, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅：骨転移を除く有痛性腫瘍に対する緩和照射の検討．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 032 宮内理世, 田中 寛, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 阿部壮一郎, 若林紘平, 小出雄太郎, 青山貴洋, 清水秀年, 立花弘之, 古平 毅：当院における腫瘍による脊髄圧迫症の治療成績．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 033 阿部壮一郎, 田中 寛, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 若林紘平, 宮内理世, 小出雄太郎, 立花弘之, 古平 毅：有痛性転移性骨腫瘍に対する当院での緩和照射の検討．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 034 若林紘平, 田中 寛, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 阿部壮一郎, 宮内理世, 小出雄太郎, 立花弘之, 古平 毅：定位放射線治療を行った転移性脳腫瘍患者の後方視解析．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 035 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 阿部壮一郎, 宮内理世, 若林紘平, 小出雄太郎, 立花弘之, 古平 毅：愛知県がんセンターにおける緩和放射線治療を受ける患者背景の検討．第32回日本放射線腫瘍学会,2019,(名古屋),[口演]
- 036 古平 毅：領域講習会(治療)．日本医学放射線学会第166回中部地方会,2020,(名古屋),[座長]
- 037 立花弘之：セッション9 骨・その他．日本医学放射線学会第166回中部地方会,2020,(名古屋),[座長]
- 038 伊井憲子, 不破信和, 野村美和子, 立花弘之, 石垣共基, 爾見雅人, 玉木茂久：放射線治療後に頸動脈狭窄が見られた上咽頭癌とリンパ腫の2例．日本医学放射線学会第166回中部地方会,2020,(名古屋),[口演]
- 039 小出雄太郎, 若林紘平, 阿部壮一郎, 宮内理世, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅, 花井信広, 古川大記, 高瀬裕樹, 香西由加, 伊藤 誠：AIを用いた頭頸部癌予後解析に関する研究．日本医学放射線学会第166回中部地方会,2020,(名古屋),[口演]
- 040 若林紘平, 小出雄太郎, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 宮内理世, 阿部壮一郎, 田中 寛, 立花弘之, 古平 毅：骨

転移の疼痛緩和照射における radiomics の初期経験。日本医学放射線学会第 166 回中部地方会,2020,(名古屋)[口演]

- 041 宮内理世, 田中 寛, 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 阿部壮一郎, 若林紘平, 小出雄太郎, 立花弘之, 清水秀年, 青山貴洋, 古平 毅: 当院における腫瘍による脊髄圧迫症の治療成績。日本医学放射線学会第 166 回中部地方会,2020,(名古屋)[口演]
- 042 古平 毅: Pacific レジメンにおける肺臓炎症例共有。Pneumonitis Management Academy in Nagoya,2019,(名古屋)[講演]
- 043 古平 毅: 非小細胞肺癌における放射線治療の現状～ III 期治療を中心に～。八事 Lung Cancer Seminar,2019,(名古屋)[講演]
- 044 古平 毅: 高精度放射線治療の現状と免疫療法併用への期待。市民公開講座,2019,(名古屋)[講演]
- 045 古平 毅: 集学的治療における放射線治療の現状と今後の展望。第 35 回奈良県頭頸部腫瘍研究会,2019,(奈良)[講演]
- 046 古平 毅: 根治的放射線治療のポイント～肺臓炎を回避する工夫～。Takayama Lung Cancer Workshop,2019,(高山)[講演]
- 047 立花弘之: 名城大学薬学部大学院,2019,(名古屋)[講義]
- 048 古平 毅: 高精度放射線治療の新しい展開。札幌医科大学腫瘍診療センター講演会,2019,(札幌)[講演]
- 049 古平 毅: 非小細胞肺癌の放射線治療の現状～ III 期治療を中心に～。Lung Cancer Symposium in MIKAWA,2019,(三河)[講演]
- 050 立花弘之: 手術指導(動注カテーテル留置術)。帝京大学医学部附属病院,2019,(東京)[指導]
- 051 立花弘之: 愛知県立大学看護学部,2019,(名古屋)[講義]
- 052 古平 毅: IMRT の現状と展望。西三河がんフォーラム,2019,(安城)[講演]
- 053 清水秀年: IDMP2019 愛知イベント。名古屋大学医学部附属病院,2019,(名古屋)[講演]
- 054 古平 毅: III 期非小細胞肺癌における CRT の実際 ～放射線科、呼吸器内科連携も含めて～。東尾張肺癌講演会,2019,(名古屋)[講演]
- 055 青山貴洋: 熱可塑性形状記憶素材を用いた放射線治療用ボラスの密着度と線量計算精度の検証。独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業,2019,(名古屋)[講演]
- 056 青山貴洋: 日本放射線技術学会中部支部会技術奨励賞(放射線治療)。2019,(名古屋)[講演]

## 緩和ケア部

- 001 下山理史: がん治療とコミュニケーションスキル ことばの大切さを再認識する。第 57 回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[会長企画シンポジウム 4]

## 精神腫瘍科部

- 001 小森康永: シシリー・ソングースの考える「“寄りそう”ということ」、ホスピスのこころ研究所主催講演会,2019,(札幌市)[講演]
- 002 小森康永: がんところのあいだで: 精神腫瘍学でやれること, エスエル医療グループ勉強会,2019,(名古屋市)[講演]
- 003 小森康永, 安達映子: ナラティブ・メディスン, 立正大学,2019,(東京)[ワークショップ]
- 004 小森康永: がん患者についてのあるべき理解, 愛知県学校保健会県立学校知多支部総会,2019,(東海市)[講演]
- 005 後藤雅博, 小森康永, 安達映子: 心理教育, 日本家族研究・家族療法学会,2019,(札幌市)[ワークショップ]
- 006 小森康永, 安達映子, 団 士郎, 阿部幸弘: 医学教育と患者ケアにマンガを使おう!: グラフィック・メディスンのすすめ, 日本家族研究・家族療法学会,2019,(札幌市)[大会シンポジウム]
- 007 小森康永, 国重浩一, 矢原隆行, 安達映子: ナラティブ・セラピーの「今」を語る, 日本家族研究・家族療法学会,2019,(札幌市)[自主企画シンポジウム]
- 008 小森康永: 緩和医療におけるコミュニケーション, 第 9 回南区がん緩和医療研究会,2019,(札幌市)[講演]
- 009 小森康永: シシリー・ソングースの考える「人間力」、ホスピスのこころ研究所主催講演会,2019,(札幌市)[講演]
- 010 小森康永: シシリー・ソングースから見た「ことば」、ホスピスのこころ研究所主催講演会,2020,(札幌市)[講演]

## 看護部

- 001 岩井美世子, 青山寿昭, 藤下 礼, 花井信広: 手術を受ける頭頸部癌患者を対象とした障害受容カンファレンスによる看護記録の変化。第 4 3 回日本頭頸部癌学会学術集会,2019,(石川)[口演]
- 002 漢人美都子, 戸松真里子, 井芹あゆみ, 山田健司, 伊藤環: 食道がん手術を受ける患者の外来術前訪問の実態調査。第 3 3 回日本手術看護学会年次大会,2019,(岡山)[口演]
- 003 河合亮介, 濱本 実, 三浦敦子, 山口真由美, 栢田ゆかり, 岩田麻衣子, 神戸美樹, 池松裕子: 本邦 ICU における身体抑制実態に関連する因子 多施設前向き観察研究。日本集中治療医学会学術集会,2020,(愛知)[口演]
- 004 岩田麻衣子, 河合亮介, 濱本実也, 三浦敦子, 山口真由美, 栢田ゆかり, 神戸美樹, 池松裕子: ICU における身体抑制の実施状況 多施設前向き研究。日本集中治療医学会学術集会,2020,(愛知)[口演]
- 005 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 古平 毅, 立花弘之, 田中 寛, 小出雄太郎: 愛知県がんセンターにおける緩和照射を受ける患者背景の検討。第 57 回日本癌治療学会学術集会,2019,(福岡)[口演]
- 006 中島貴子, 西村聖子, 青山並季, 古平 毅, 立花弘之, 田

中 寛, 小出雄太郎, 若林紘平, 宮内理世, 阿部壮一郎 : 愛知県がんセンターにおける緩和照射を受ける患者背景の検討. 日本放射線腫瘍学会第32回学術大会, 2019,(愛知)[口演]

講演・講義講師, 学会座長, シンポジスト

- 001 亀島里美: 保健医療福祉政策論・保健医療福祉政策演習. 愛知県看護協会 認定看護管理者教育課程 サードレベル, 2019,(愛知)[講師]
- 002 亀島里美: 管理者のための倫理. 名古屋市看護管理研修会 なごやナースキャリアサポートセンター, 2019,(愛知)[講義講師]
- 003 亀島里美: 「自己の看護観を広げる」シンポジウム. 県立愛知看護専門学校, 2019,(愛知)[シンポジスト]
- 004 亀島里美: 経営的視点に立った看護管理. 県立病院看護職員研修 看護管理(応用), 2019,(愛知)[講義講師]
- 005 亀島里美: 第50回日本看護学会-看護管理-学術集会. 日本看護協会, 2019,(愛知)[座長]
- 006 井上さよ子: 看護倫理. 愛知県心身障害者コロニー中央病院, 2019,(愛知)[講師]
- 007 井上さよ子: コンサルテーション論. 日本赤十字豊田看護大学, 2019,(愛知)[講師]
- 008 永田智子: 退院支援. 愛知県がんセンター, 2019・2020,(愛知)[講師]
- 009 永田智子: がん看護ジェネラリストナース育成研修. 愛知県がんセンター, 2019,(愛知)[ファシリテーター]
- 010 永田智子: がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育過程「がん性疼痛看護」, 2019,(愛知)[講師]
- 011 永田智子: ELNEC-J 研修会. 豊田地域医療センター, 2019,(愛知)[講師・ファシリテーター]
- 012 岩井美世子: 在宅医療病態論. 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程, 2019,(愛知)[講師]
- 013 岩井美世子: がん看護. 愛知県看護協会訪問看護職員養成講習会, 2019,(愛知)[講師]
- 014 岩井美世子: 成人看護学概論. 蒲郡市立ソフィア看護専門学校, 2019,(愛知)[講師]
- 015 岩井美世子: 特別講義「がん看護(専門看護師)の役割」. 愛知医科大学看護学部, 2019,(愛知)[講師]
- 016 岩井美世子: 頭頸部がん看護セミナー「意思決定支援のポイント」. メディカ出版, 2019,(東京・大阪)[講師]
- 017 岩井美世子: 就労支援ニーズの把握について～院内システム構築に向けての取組. 愛知県がん診療連携拠点病院相談支援センター相談員研修会, 2020,(愛知)[講師]
- 018 久保 知: 頭頸部がん看護セミナー. メディカ出版セミナー, 2019,(東京, 神戸)[講師]
- 019 久保 知: 放射線療法を受ける頭頸部がん患者の治療完遂に向けた看護支援, 日経研出版セミナー, 2019,(名古屋, 東京)[講師]
- 020 久保 知: がん放射線療法の治療計画管理における看護. 東京医療保健大学放射線看護研修センター, 2019,(東京)[講師]

- 021 宮谷美智子: がん看護 I ～がん化学療法を受ける患者のライフスタイルを支援する看護～. 愛知県看護協会研修会, 2019,(愛知)[講師]
- 022 宮谷美智子: がん治療の実際を知ろう! ～第1回 大腸がん～映像で学ぶ大腸がん化学療法の実践. 愛知キャンサーネットワークセミナー, 2019,(愛知)[講師]
- 023 宮谷美智子: 頭頸部癌治療における副作用マネジメント. 滋賀頭頸部治療セミナー, 2019,(滋賀)[講師]
- 024 宮谷美智子: がん化学放射線療法を受ける患者に対する看護～化学療法の視点から～. 日経研出版セミナー, 2019,(愛知)[講師]
- 025 向井未年子: 一般演題 口演 03「緩和ケアにおける地域連携/集中治療での緩和ケア」. 第24回日本緩和医療学会学術大会, 2019,(神奈川)[座長]
- 026 向井未年子: シンポジウム II 「患者の『生きる』を支える」. 第2回緩和医療学会東海北陸支部学術大会, 2019,(三重)[座長]
- 027 向井未年子: 緩和ケアチーム研修(都道府県指導者養成研修). 国立がんセンター, 2019,(東京)[講師]
- 028 向井未年子: がん看護論「オンコロジック・エマージェンシー」. 名古屋市立大学大学院, 2019,(愛知)[講師]
- 029 向井未年子: 一般演題 口演 「第12群 症状マネジメント2」. 第34回日本がん看護学会学術集会, 2020,(東京)[座長]
- 030 高知知帆子: 消化器がんにおけるパラダイムシフト 生活の視点での患者サポート～スキンケアに焦点を当てて～. 第33回日本がん看護学会学術集会教育セミナー, 2019,(福岡)[講師]
- 031 高知知帆子: 大腸がんにおける経口分子標的治療薬の副作用マネジメント. 抗癌剤のマネジメントを考える会, 2019,(愛知)[講師]
- 032 高木礼子: 一般演題 看護・チーム医療. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(愛知)[座長]
- 033 佐々木照美: コロプラストスキルアップセミナー愛知, 2019,(愛知)[講師]
- 034 佐々木照美: がん治療の実際を知ろう! 第1回大腸がん、目で見るストマの実際, 2019,(愛知)[講師]
- 035 笹川良子: 化学療法におけるCVポートの管理と看護のポイント. 第32回北日本インターベンショナルラジオロジー研究会、コメディカルセミナー, 2019,(新潟)[講師]
- 036 笹川良子: CVポート① 一般演題6、第44回リザーバー研究会, 2019,(京都)[座長]
- 037 山口真由美: クリティカルケアにおける看護の専門性. 愛知県立大学, 2019,(愛知)[講師]
- 038 山田健司: 手術室における看護について. 愛知県立大学, 2019,(愛知)[講師]
- 039 山田健司: 看護実践研修「手術が患者さんへ与える影響」. 愛知県がんセンター, 2019,(愛知)[講師]
- 040 柴田亜弥子: 家族と健康. 愛知県立大学大学院 家族支援 CNS コース, 2019,(愛知)[講師]
- 041 柴田亜弥子: がん患者と家族支援. 名古屋助産師会研修会, 2019,(愛知)[講師]
- 042 柴田亜弥子: 最新医療と看護. 愛知県立大学看護学部,

- 2019,(愛知),[講師]
- 043 柴田亜弥子：がんゲノム医療における チームアプローチについて.がんジェネラリスト研修がん化学療法看護, 2019,(愛知),[講師]
- 044 新田都子：がん看護学総論.愛知県立大学守山キャンパス 認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」分野, 2019,(愛知),[講師]
- 045 西尾里美：がん看護-がん患者を生活者として支える看護師の役割- 愛知県総合看護専門学校, 2019, (愛知),[講師]
- 046 西尾里美：コンサルテーション論.愛知県立大学大学院看護学研究科, 2020,(愛知),[講師]
- 047 青山寿昭：頭頸部がん看護セミナー.メディカ出版セミナー, 2019,(東京・大阪),[講師]
- 048 青山寿昭：第31回日本嚥下障害臨床研究会学術集会(第4群).日本嚥下障害臨床研究会, 2019,(浜松),[座長]
- 049 青山寿昭：第25回摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会(ポスター).日本嚥下障害臨床研究会, 2019,(新潟),[座長]
- 050 青山寿昭：摂食嚥下の基礎.名古屋介護施設看護職員研修会, 2020,(愛知),[講師]
- 051 中島貴子：がん基礎研修-がん放射線療法看護-.小牧市民病院, 2019,(愛知),[講師]
- 052 中島貴子：がん性疼痛に対する放射線療法と看護-治療を受ける患者への看護-.愛知県立大学 認定看護師教育課程「がん性疼痛分野」, 2019,(愛知),[講師]
- 053 田崎智子：特別企画：乳がん患者さんが、自分らしく、より長く生きるために～今、私たちができること～.第16回日本乳がん中部地方会パネルディスカッション, 2019,(愛知),[パネリスト]
- 054 千種智之, 河村大一：感染対策.新人看護職員合同研修, 愛知県看護研修センター, 2019,(愛知),[講師]
- 055 千種智之, 河村大一：看護職カムバック研修感染対策.愛知県ナースセンター, 2019,(愛知),[講師]
- 056 藤下 礼：頭頸部がん看護セミナー 終末期の看護.メディカ出版セミナー, 2019,(東京・大阪),[講師]
- 057 藤下 礼：緩和ケアについて.名古屋医専疼痛専攻, 2019,(愛知),[講師]
- 058 八重樫裕：摂食嚥下障害看護における看護の専門性とNST チームでの役割.愛知県立大学, 2019,(愛知),[講師]
- 059 八重樫裕：模擬カンファレンス：事例に基づいて「がんリハビリテーションの問題点のカンファレンス」.がんリハビリテーション研修会, 2019,(愛知),[ファシリテーター]
- 060 美濃屋亜矢子：成人看護学方法論V「緩和ケア」.県立愛知看護専門学校, 2019,(愛知),[講師]
- 061 美濃屋亜矢子：小中学校におけるがん教育の進め方.常滑市教育委員会研修会, 2019,(愛知),[講師]
- 062 福嶋敬子：中部 IVR 地方会での取り組み～日本の真ん中で出来ること～.第48回 IVR 学会総会, イブニングセミナー, 2019,(福岡),[シンポジスト]
- 063 福嶋敬子：地域連携クリニカルパス愛知県がんセンター

の運用方法 現状報告.令和元年愛知県地域連携バスコーディネーター研修会, 2019,(愛知),[講師]

- 064 福嶋敬子：鎖骨下 CV ポートの管理について.第44回リザーバー研究会, 2019,(京都),[講師]
- 065 保坂彰子：最新医療と看護～内視鏡治療を受ける患者の看護～.愛知県立大学, 2019,(愛知県),[講師]

## 薬剤部

- 001 *Shimomura K, Yamaguchi T, Oya Y*: Association between early immune related adverse events and clinical outcomes in NSCLC treated with pembrolizumab. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(Kyoto),[Poster]
- 002 橋本直弥：当院における麻薬携帯輸出入許可申請時の工夫と実際.医薬品使用の国際化～知らないでは済まされない～医療用麻薬の持出渡航や規制医薬品にどう向き合うか～.第29回日本医療薬学会年会, 2019,(福岡),[シンポジウム]
- 003 前田章光, 下村一景, 稲熊一英, 梶田正樹：愛知県がんセンターにおけるバンコマイシン「MEEK」TDM解析ソフトによる血中濃度予測値と実測値との比較.第40回日本臨床薬理学会学術総会, 2019,(東京),[ポスター]
- 004 市橋哲平, 前田章光, 橋本直弥, 池山雄介, 水野知奈美, 山崎 研, 内川詩野, 深谷幸代, 岩田広治, 梶田正樹：愛知県がんセンターにおけるアバマシクリブの有害事象発現状況と対策.第52回東海薬剤師会学術大会, 2019,(三重),[ポスター]
- 005 立松三千子, 萩原純孝, 田端厚之, 服部正也, 小谷はるる, 水野靖也, 澤木正孝, 石黒淳子, 吉村章代, 片岡愛弓, 脇岡 範, 清水淳市, 岩田広治：エベロリムス服用患者におけるステロイド含有含嗽薬使用時の口腔内微生物叢の変動についての検討.第4回日本がんサポーターブケア学会学術集会, 2019,(青森),[ポスター]
- 006 立松三千子：薬剤師がつなぐチーム医療の輪～医看薬薬連携による外来がん患者サポート～.金鯱地域がん薬薬連携セミナー, 2019,(名古屋),[講演]
- 007 立松三千子：抗がん薬の副作用対策入門～CTCAEを使ってみませんか～.第45回名古屋市薬剤師会研修会, 2019,(名古屋),[講演]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

#### がん情報・対策研究分野

- 001 **Koyanagi Y, Ito H, Kasugai Y, Ugai T, Oze I, Matsuo K**: ALDH2 polymorphism and risk of colorectal cancer: a mediation analysis. 4TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON ALCOHOL AND CANCER, 2019, (Nerport), [口演]
- 002 **Usui Y, Ito H, Koyanagi Y, Matsuda T, Katanoda K, Matsuo K**: The impact of novel agents on multiple myeloma: trend of incidence and mortality in Japan. NAACCR/IACR Combined Annual Conference 2019, 2019, (Vancouver) [口演]
- 003 **Ito Y, Balgi P, Saran U, Rout S, Ito H, Kanoh A, Yuasa M, Katayama K, Katanoda K, Matsuda T, Saruki N**: CHALLENGE IN TRANSLATING INFORMATION ABOUT CANCER SURVIVAL TO GENERAL PEOPLE: SHARING MESSAGES FOR CANCER SURVIVORS USING STATISTICS OF CONDITIONAL SURVIVAL. NAACCR/IACR Combined Annual Conference 2019, 2019, (Vancouver) [ポスター]
- 004 **Ito H**: Trends in incidence and mortality, and risk factors of colorectal cancer in Japan. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [口演]
- 005 **Koyanagi Y, Kasugai Y, Ugai S, Usui Y, Iwase M, Ugai T, Oze I, Ito H, Matsuo K**: Differential impact of acetaldehyde among upper aerodigestive tract and gastric cancer risk: mediation analysis. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [ポスター]
- 006 **Usui Y, Oze I, Koyanagi Y, Ugai T, Maeda Y, Ito H, Matsuo K**: The association between prostate stem cell antigen (PSCA) polymorphisms and duodenal/gastric ulcer risk: J-MICC Study. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [ポスター]
- 007 **Abe S, Saito E, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Lin Y, Tamakoshi A, Kitamura Y, Nagata C, Shimazu S, Matsuo K, Tanaka K, Inoue M**: Coffee consumption and mortality: a pooled analysis of eight population-based cohort studies (Japan Cohort Consortium). 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [口演]
- 008 **Usui Y, Ito H, Koyanagi Y, Matsuda T, Katanoda K, Maeda Y, Matsuo K**: The impact of novel agents on multiple myeloma: trend of incidence and mortality in Japan. 第44回日本骨髄腫学会学術集会, 2019, (名古屋), [ポスター]
- 009 **Usui Y, Ito H, Koyanagi Y, Matsuda T, Katanoda K, Maeda Y, Keitaro Matsuo**: Mortality of non-Hodgkin lymphoma in rituximab era: A population-based analysis in the US and Japan. 第81回日本血液学会学術集会, 2019, (東京), [口演]
- 010 **山口通代, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 吉川大祐, 伊藤秀美**

がん患者生存率の地域比較-Funnel Plot法を用いた評価. 第78回日本公衆衛生学会総会, 2019, (高知), [ポスター]

- 011 **小柳友理子, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 菅原由美, 日高章寿, 澤田典絵, 和田恵子, 永田知里, 玉腰暁子, 林櫻松, 竹内太郎, 喜多村祐里, 歌田真衣, 定金敦子, 溝上哲也, 内藤真理子, 田中恵太郎, 島津太一, 津金昌一郎, 井上真奈美**: 喫煙と肺がん罹患: 日本の大規模コホート研究を統合したプール解析. 第30回日本疫学会学術総会, 2020, (京都), [口演]
- 012 **碓井喜明, 小柳友理子, 尾瀬 功, 春日井由美子, 伊藤秀美, 松尾恵太郎**: Helicobacter pylori (H. pylori) 感染と胃がんの予後の関連について. 第30回日本疫学会学術総会, 2020, (京都), [口演]

#### がん予防研究分野

- 001 **Matsuo K**: Cancer Risk Estimation based on environmental and genetic information. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [シンポジウム]
- 002 **Elshair Moaz E, Ugai T, Oze I, Kasugai Y, Koyanagi Y, Hara K, Ito H, Matsuo K**: Impact of Socioeconomic Status and Sibling Number on Prevalence of H. Pylori Infection: a Cross-Sectional Study. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [口演]
- 003 **Matsuo K**: Perspective of Cancer Epidemiology/Prevention Reserch. 第78回日本癌学会学術総会, 2019, (京都), [パネルディスカッション]
- 004 **松尾恵太郎**: ゲノムコンソーシアム: Breast Cancer Association Consortium を例に. 第42回がん疫学分子疫学研究総会, 2019, (東京), [シンポジウム]
- 005 **尾瀬 功, 長松康子, 青江啓介, 加藤勝也, 堀田勝幸, 中川淳子, 原 桂子, 岸本卓也, 藤本伸一**: 悪性胸膜中皮腫患者のQOL調査結果. 日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2019, (名古屋), [口演]
- 006 **川勝雪乃, 小柳友理子, 尾瀬 功, 春日井由美子, 山口 類, 伊藤秀美, 松尾恵太郎**: 頭頸部・消化器がんにおける社会経済的地位の影響. 第30回日本疫学会学術総会, 2019, (京都), [口演]
- 007 **鈴木太郎, 中村保幸, 松尾恵太郎, 尾瀬 功, 土居幸雄, 松井建志, 門田 文, 三浦克之, J-MICC Study Group**: 魚摂取量に関連する遺伝子多型について: J-MICC Study. 第30回日本疫学会学術総会, 2019, (京都), [口演]
- 008 **尾瀬 功, Hadrien Charvat, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 玉腰暁子, 永田千里, 和田恵子, 菅原由美, 澤田典絵, 山地太樹, 田中恵太郎, 島津太一, 溝上哲也, 津金昌一郎, 井上真奈美**: 食道がんリスクに対する喫煙・飲酒とその交互作用. 8コホート研究のプール解析. 第30回日本疫学会学術総会, 2019, (京都), [ポスター]

- 009 岩瀬まどか, 尾瀬 功, 小柳友理子, 春日井由美子, 碓井喜明, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: 日本人女性における初経年齢の長期推移. 第30回日本疫学会学術総会, 2019,(京都),[ポスター]

## 分子遺伝学分野

- 001 Imoto I, Kohmoto T, Masuda K, Shoda K, Otsuji E: Identification of CLDN6 as a novel tumor-promoting gene in gastric cancer. Annual meeting of American Society of Human Genetics 2019, 2019,(Houston),[ポスター]
- 002 井本逸勢: ゲノム解析に基づいた個別化医療. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 2019,(名古屋),[招待公演]
- 003 井本逸勢: がんのクリニカルシーケンスから次世代の治療戦略へ. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2019,(東京),[シンポジウム]
- 004 坪内寛文, 片岡愛弓, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 井本逸勢, 水野美香: 当院における遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する腹腔鏡下リスク低減卵管卵巣摘出術の取り組み. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2019,(東京),[口演]
- 005 高磯伸枝, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 田中 努, 平山 裕, 大西洋代, 大内 晶, 田近正洋, 清水泰博, 井本逸勢: 当院の大腸がんユニバーサルスクリーニングの取り組み. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 2019,(東京),[ポスター]
- 006 高磯伸枝, 吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 岩田広治, 井本逸勢: 遺伝性乳がん卵巣がん症候群の乳がん患者に対するリスク低減乳房切除術後の心理・QOL調査(第二報). 第27回日本乳癌学会学術総会, 2019,(埼玉),[口演]
- 007 坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 井本逸勢: リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)症例に対する腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の施工に関する検討. 第26回日本遺伝子診療学会大会・第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2019,(札幌),[口演]
- 008 高磯伸枝, 吉村章代, 安立弥生, 森 正彦, 坪内寛文, 岩田広治, 井本逸勢: BRCA1/2陰性乳がん卵巣がん症例に対して多遺伝子パネル検査を実施した1例. 第26回日本遺伝子診療学会大会・第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2019,(札幌),[ポスター]
- 009 高磯伸枝, 吉村章代, 澤木正孝, 権藤なおみ, 小谷はるる, 安立弥生, 岩田広治, 井本逸勢: HBOC診療における確定診断後の検診体制の構築—未発症変異保有者の予防・早期発見早期治療に向けて—. 第16回日本乳癌学会中部地方会, 2019,(名古屋),[ポスター]
- 010 宮本容子, 瓦井俊孝, 森 達夫, 郷司 彩, 森本雅美, 阿部彰子, 吉田友紀子, 三原佳美, 井本逸勢: IRUDによりPTEN過誤腫症候群と診断された先天性疾患の児の遺伝カウンセリング. 第26回日本遺伝子診療学会大会・第43

回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2019,(札幌),[ポスター]

- 011 河本知大, 藤田悠司, 庄田勝俊, 丹下正一郎, 増田清士, 市川大輔, 大辻英吾, 井本逸勢: 新規胃癌促進遺伝子CLDN6の同定と機能解析. 第78回日本癌学会学術総会, 2019,(京都),[ポスター]
- 012 坪内寛文, 茂木一将, 坂田 純, 森 正彦, 高磯伸枝, 井本逸勢: 家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸切除後に子宮体部腫瘍を認めた2例. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[口演]
- 013 高磯伸枝, 吉村章代, 井本逸勢: 問診票による初診時全症例の遺伝性腫瘍症候群におけるスクリーニングの試み. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[口演]
- 014 片岡愛弓, 吉村章代, 遠藤由香, 堀澤七恵, 杉野香世子, 坪内寛文, 安立弥生, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治: 当院にてBRCAAnalysisを実施した転移性乳癌55例における提案から受検までの期間の検討. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[ポスター]
- 015 権藤なおみ, 遠藤由香, 尾崎友理, 堀澤七恵, 杉野香世子, 片岡愛弓, 安立弥生, 吉村章代, 高磯伸枝, 岩田広治, 井本逸勢: 多科参加型タスクフォースの試みにより早期大腸癌が発見できたり・フラウメニ症候群の1例. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[ポスター]
- 016 吉村章代, 権藤なおみ, 安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 奥村誠子, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治: BRCA1/2遺伝子胚細胞変異を有する乳がん患者に対する対側リスク低減乳房切除術の検討. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[ポスター]
- 017 中野誠一, 島田亜紀, 近藤英司, 福田潤弥, 坂本 幸, 宇高二良, 宮本容子, 岡田朝美, 小谷裕美子, 井本逸勢, 香美祥二, 武田憲昭: POLD1遺伝子変異検出により診断された東アジア初の下顎低形成-プロゲリア様症状-リポジストロフィー(MDPL)症候群. 日本人類遺伝学会第64回大会, 2019,(長崎),[ポスター]

## がん病態生理学分野

- 001 青木正博, 曾我朋義, 武藤 誠, 新聞秀一, 藤下晃章: ヒスタミンはmTOR阻害薬抵抗性大腸がんの浸潤に関与する. 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2019,(大阪),[ワークショップ]
- 002 入江 慶, 前田章光, 安藤 仁, 長谷川彩子, 門脇重憲, 室 圭, 田近正洋, 青木正博, 稲熊一英, 梶田正樹, 藤村昭夫, 福島昭二: レゴラフェニブの血中濃度と有害事象およびABCG2、OATP1B1遺伝子多型との関連. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2019,(京都),[ポスター]
- 003 青木正博: がんシグナル経路を基盤とした大腸がんの発がん研究. 第78回日本癌学会学術総会, 2019,(京都),[シンポジウム]
- 004 佐久間圭一郎, 青木正博: HNRNPLLに制御される選択的スプライシングは大腸がん細胞のEMTに伴い

CTNND1 の核移行を引き起こす. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[口演]

- 005 藤下晃章, 三城恵美, 小島 康, 曾我朋義, 武藤 誠, 青木正博: cis-Apc/Smad4 マウスの MEK 阻害薬抵抗性腸管腺がんにおける Inpp5f タンパクの発現低下. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[ポスター]
- 006 梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: MyD88 による Apc 変異腸上皮細胞の合成致死メカニズムの解明. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[口演]
- 007 小島 康, 藤下晃章, 三城恵美, 武藤 誠, 青木正博: 腸管腫瘍形成における Dio2(2 型脱ヨード酵素) の生物学的役割. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[ポスター]
- 008 青木正博, 曾我朋義, 武藤 誠, 新聞秀一, 藤下晃章: 浸潤性大腸がんの mTOR 阻害薬抵抗性におけるヒスタミンの役割. 第 42 回日本分子生物学会年会,2019,(福岡),[ポスター]

## 分子腫瘍学分野

- 001 *Sekido Y*: Targeting NF2 in Mesothelioma. 2019 World Conference on Lung Cancer,2019,(Barcelona),[シンポジウム]
- 002 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞株の樹立: 遺伝子異常の本態解析から臨床応用を目指して. 日本組織培養学会第 92 回大会,2019,(東京),[シンポジウム]
- 003 佐藤龍洋, 関戸好孝: 中皮腫における mTOR シグナル伝達経路の活性化と新規治療標的因子の探索. 第 1 回日本石綿・中皮腫学会学術集会,2019,(愛知),[ワークショップ]
- 004 伊藤 剛, 松原大祐, 田中一大, 坪井裕見, 高井大哉, 深山正久, 関戸好孝, 仁木利郎, 村上善則: 細胞接着分子 CADM 1 は肺腺がんにおいて MST-LATS 経路と相互作用し Hippo 経路を制御する. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[口演]
- 005 佐藤光夫, 後藤大輝, 木村麻里, 中嶋萌夏, 小池真由, 川合花穂, 上床菜月, 宮沢亜矢子, 田中一大, 長谷哲成, 米田一樹, 関戸好孝, 長谷川好規: UHRF1 は KRAS 変異肺癌に対する治療標的としての可能性を持つ. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[ポスター]
- 006 向井智美, 佐藤龍洋, 三城 (佐藤) 恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: O-GlcNAc 修飾は悪性中皮腫の腫瘍進展を促進する. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[ポスター]
- 007 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子変異. 藤田学園医学会第 51 回総会,2019,(愛知),[シンポジウム]
- 008 佐藤龍洋, 向井智美, 関戸好孝: SmgGDS による Rheb-mTORC1 シグナル伝達制御と悪性中皮種がん化への関与. 第 42 回日本分子生物学会年会,2019,(福岡),[ポスター]
- 009 *Nguyen T, Mine Y, Sekido Y, Fujii M*: The activity of CTGF in cytoplasm in cancer cells. 第 42 回日本分子生物学会年会,2019,(福岡),[ポスター]

- 010 鈴木浩也, 山岸良多, 向井智美, 田部陽子, 三井田孝, 村上浩士, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: LATS2 変異を有した悪性腫瘍における合成致死を基盤とした細胞死誘導機構の検討. 第 42 回日本分子生物学会年会,2019,(福岡),[ポスター]
- 011 関戸好孝: 悪性中皮腫における基礎研究の進歩. 第 60 回日本肺癌学会学術集会,2019,(大阪),[ワークショップ]

## システム解析学分野

- 001 *ZhangYZ, Imoto, S, Miyano S, Yamaguchi R*: Intra-bin structural variant segmentation for whole-genome sequencing data using U-net. ISMB/ECCB,2019,(Basel),[ポスター]
- 002 *ZhangYZ, Arda Akdemir, Georg Tremmel, Imoto, S, Miyano S, Yamaguchi R*: Nanopore base-calling from a perspective of instance segmentation. ISMB/ECCB,2019,(Basel),[ポスター]
- 003 *Hasegawa T, Yamaguchi R, Kakuta M, Miyano S, Nakaji S, Imoto, S*: Prediction of blood test values under different lifestyle scenarios using time-series electronic health record. IBSB,2019,(京都),[口頭]
- 004 *Moriyama T, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R*: Accurate and Flexible Bayesian Mutation Call from Multi-regional Tumor Samples. International Symposium on Mathematical and Computational Oncology,2019,(Reno),[口頭]
- 005 *Zhang YZ, Akdemir A, Tremmel G, Imoto S, Miyano S, Shibuya T, Yamaguchi R*: Nanopore basecalling from a perspective of instance segmentation, Joint International GIW & ABACBS-2019 Conference,2019,(Sydney),[口頭]
- 006 *Yamaguchi R*: Dynamic Modeling of Gene Regulatory Systems and Knowledge Extraction Through Prediction, Workshop on Practices in Bioinformatics and Systems Biology,2019,(Mexico City),[招待講演]
- 007 田中正視, 加藤久美子, 石田幸子, 小田巻俊孝, 密山恵梨, 清水金忠, 山口 類, 植松 智, 井元清哉, 宮野 悟: ゲノムワイド関連解析を用いた日本人腸内細菌叢の宿主遺伝要因の探索. 第 23 回腸内細菌学会,2019,(東京),[口頭]
- 008 山口 類, 楸塚八千代, 笠島理加, 井元清哉, 熱田由子, 高橋 聡: 機械学習モデルを用いた移植成績の解析結果に基づいた臍帯血選択基準設定へのアプローチ (2), 日本造血幹細胞移植班会議,2019,(愛知),[口頭]
- 009 村岡大輔, 瀬尾尚宏, 原田直純, 林 妙, 藤井啓介, 上村光弘, 井元清哉, 山口 類, 宮野 悟, 八木田秀雄, 秋吉一成, 池田裕明, 珠玖 洋: 抗原デリバリーシステムを用いた腫瘍局所マクロファージの抗原提示能誘発による免疫療法抵抗性腫瘍の克服. 第 78 回日本癌学会学術総会,2019,(京都),[口頭]
- 010 平田 真, 浅野尚文, 片山琴絵, 中川英刀, 川井 章, 山口 類, 市川 仁, 松田浩一, 骨軟部腫瘍ゲノムコンソー



- シーム：脱分化型脂肪肉腫の網羅的ゲノム解析，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[口頭]
- 011 山口貴世志，笠島理加，清水英悟，高根希世子，池上恒雄，山口 類，井元清哉，宮野 悟，古川洋一：ロングリードシーケンスによるリンチ症候群患者のミスマッチ修復遺伝子の構造異常の解析，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[口頭]
- 012 藤田征志，山口 類，有廣光司，島田 周，宮野 悟，山上裕機，茶山一彰，垣見和宏，田中真二，井元清哉，中川英刀：肝臓がん免疫抑制機構の免疫ゲノム解析，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[口頭]
- 013 武井智美，横山和明，中村聡介，小川弥穂，近藤幹也，清水英悟，笠島理加，山本茉莉子，山口 類，井元清哉，宮野 悟，東條有伸：進行期または治療抵抗性慢性骨髄性白血病における循環腫瘍 DNA を用いた全エクソームシーケンスの有用性の検討，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[ポスター]
- 014 小川弥穂，横山和明，塚田信弘，余語孝夫，近藤幹也，武井智美，中村聡介，伊藤美香，小林麻子，遊佐 希，山本茉莉子，笠島理加，清水英悟，山口 類，井元清哉，宮野 悟，東條有伸：臨床シーケンスにて確定診断に至った慢性好中球性白血病の2例，第81回日本血液学会学術総会，2019,(東京)[口頭]
- 015 近藤幹也，横山和明，遊佐 希，伊藤美香，清水英悟，中村 聡介，小川弥穂，武井智美，小林麻子，笠島理加，和田結花，山口 類，井元清哉，長村登紀子，内丸 薫，宮野 悟，東條有伸：治療関連骨髄系腫瘍15例のゲノム解析と液体生検によるファウンダークロンの後方視的追跡，第81回日本血液学会学術総会，2019,(東京)[口頭]
- 016 山口 類，鎌塚八千代，笠島理加，井元清哉，熱田由子，高橋 聡：機械学習モデルを用いた移植成績の解析結果に基づいた臍帯血選択基準設定へのアプローチ(3)，日本造血幹細胞移植班会議，2020,(東京)[口頭]

## 腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳：Srcファミリーキナーゼによるエクソソーム形成分泌制御，2019年度生理学研究所研究会，2019,(岡崎)[シンポジウム]
- 002 小根山千歳：エクソソーム定量解析法の開発とその応用，第23回日本がん分子標的治療学会学術集会，2019,(大阪)[ワークショップ]
- 003 小根山千歳：がんの分子メカニズムから新たな治療標的へ，薬剤師生涯学習支援講座，2018,(名古屋)[シンポジウム]
- 004 疋田智也，小根山千歳：生物発光を用いたエクソソーム定量解析法の開発とその応用，第71回日本細胞生物学会・第19回日本蛋白質科学会年会合同大会，2019,(神戸)[口頭]
- 005 小根山千歳：Srcによるエクソソーム形成分泌制御とがん進展，第71回日本細胞生物学会・第19回日本蛋白質科学会年会合同大会，2019,(神戸)[ワークショップ]

- 006 山内友恵，小根山千歳：Srcががん化初期シグナルを制御するmicroRNAの役割，第11回日本RNAi研究会，2019,(広島)[ポスター]
- 007 疋田智也，小根山千歳：Sensitive and rapid technique for exosome quantification by labeling exosome markers with luciferase，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[ポスター]
- 008 疋田智也，小根山千歳：エクソソーム定量解析法の開発と応用，第6回日本細胞外小胞学会，2019,(東京)[口頭&ポスター]

## 腫瘍免疫応答研究分野

- 001 *Kagoya Y*：Genetic manipulation of antitumor T cells to elicit durable clinical response in adoptive immunotherapy. SITC World Immunotherapy Council's 3rd Young Investigator Symposium, 2019,(Maryland)[口演]
- 002 籠谷勇紀：遺伝子改変による養子免疫療法の改良，愛媛大学プロテオサイエンスセンターセミナー，2019,(愛媛)[講演]
- 003 籠谷勇紀：遺伝子改変によるT細胞機能の修飾と養子免疫療法への応用，JST-CRDS「デザイン細胞」ワークショップ，2019,(東京)[口演]
- 004 籠谷勇紀：T細胞デザインによるがんに対する養子免疫療法の改良，第2回若手医師血液疾患懇話会，2019,(東京)[講演]
- 005 籠谷勇紀：ヒト医療におけるがん免疫療法 - 遺伝子改変による持続的治療効果を有する抗腫瘍T細胞の開発，日本獣医再生医療学会，2020,(神奈川)[特別講演]

## 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Matsushita H*：Reduced neoantigen expression revealed by longitudinal multiomics as a possible immune evasion mechanism in glioma，第23回日本がん免疫学会総会，2019,(高知)[シンポジウム]
- 002 松下博和：癌抗原と免疫療法，第78回日本癌学会学術総会，2019,(京都)[がん研究入門コース]
- 003 松下博和：がん微小環境の評価と免疫療法の適応症例の選択，第32回日本バイオセラピー学会学術集会総会，2019,(岡山)[シンポジウム]
- 004 高橋祐介，岡村文子，大矢由子，黒田浩章，松下博和：ペプチドワクチン療法の標的ネオアンチゲンの探索，第60回日本肺癌学会学術集会，2019,(大阪)[ワークショップ]
- 005 赤塚美樹，勝山直哉，白石圭子，楯屋良子，岡村文子：不適合HLA-DP抗原を標的とした同種移植後細胞免疫療法の検討，第11回日本血液疾患免疫療法学会学術集会，2019,(東京)[ポスター]

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 田口 歩, *Dayde Delphine*, 平山 裕, 田近正洋, 小森康司, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生, *DePinho Ronald, Hanash Samir, Krishnan Sunil*: マウスモデルを用いた直腸癌術前化学放射線療法の効果予測血中バイオマーカーの同定. 日本消化器関連学会週間, 2019, (神戸)[ポスター]
- 002 田口 歩, 田中一大, 谷田部 恭, 長谷川好規: メチオニン代謝変動によるエピジェネティックな Serglycin の発現誘導と肺癌微小環境の構築. 日本癌学会学術総会, 2019, (京都)[ポスター]
- 003 *Taisuke Kajino, Teppei Shimamura, Shuyi Gong, Kiyoshi Yanagisawa, Lisa Ida, Masahiro Nakatochi, Sebastian Griesing, Yukako Shimada, Keiko Kano, Motoshi Suzuki, Satoru Miyano, Takashi Takahashi*: システム生物学的な探索による MYC 制御 lncRNA、MYMLR の同定と機能解明. 日本分子生物学会年会, 2019, (福岡)[ポスター]
- 004 平野秀和, 阿部雄一, 青木雅彦, 庄司広和, 鬼谷 薫, 田口 歩, 本田一文, 朴 成和, 朝長 毅, 足立 淳: 胃がん内視鏡検体 1 個からの網羅的リン酸化プロテオミクス解析. 日本プロテオーム学会, 2019, (宮崎)[ポスター]
- 005 阿部雄一, 平野秀和, 庄司広和, 田口 歩, 朴 成和, 朝長 毅, 足立 淳: 胃がん内視鏡検体の高感度リン酸化プロテオミクスに基づくキナーゼ活性プロファイリング. 日本癌学会学術総会, 2019, (京都)[ポスター]
- 006 阿部雄一, 平野秀和, 庄司広和, 田口 歩, 朴 成和, 朝長 毅, 足立 淳: 胃がん内視鏡検体リン酸化プロテオミクスに基づくキナーゼ活性プロファイリング. 医用マススペクトル学会, 2019, (名古屋)[ポスター]

## がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Ebi H.*: Overcome resistance by regulating feedback signaling pathway. The 34th Nagoya International Cancer Treatment Symposium, 2019, (名古屋)[招待講演]
- 002 *Kotani D, Mondaca S, Parikh A, Bando H, Seventer EV, Taniguchi H, Yoshino Y, Corcoran RB, Yaeger R, Ebi H*: Clinicopathological features, efficacy of anti-EGFR therapy, and survival outcomes in patients with BRAF non-V600 mutated metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2019, (San Francisco)[ポスター]
- 003 *Hasegawa H, Taniguchi H, Kato T, Fujii S, Ebi H, Shiozawa M, Yuki S, Masuishi T, Kato K, Izawa N, Moriwaki T, Kagawa Y, Sakamoto Y, Okamoto W, Nakamura Y, Yamazaki K, Yoshino T*: Prognostic and Predictive Impact On FMS-like Tyrosine Kinase 3 (FLT3) Amplification In Patients With Metastatic Colorectal Cancer. ESMO 2019 Congress, 2019, (Barcelona)[ポスター]
- 004 *Jogo T, Nakamura Y, Komatsu Y, Kato K, Shinozaki E,*

*Bando H, Kato T, Nishina T, Esaki T, Fujii S, Suzuki M, Fuse N, Sato A, Nomura S, Lefterova M, Odegaard J, Ebi H, Yoshino T*: TiFFANY study: A multicenter phase II basket-type clinical trial to evaluate efficacy and safety of pan-FGFR inhibitor TAS-120 for advanced solid malignancies with FGFR alterations identified by circulating tumor DNA. ASCO 2019, 2019, (Chicago)[ポスター]

## バイオバンク部門

- 001 中田 舞, 伊藤智子, 井本逸勢, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: キャンサーバイオバンク愛知の取り組みと特徴. 第5回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2019, (福岡)[ポスター]

## 4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (総長)

### 総長

- 001 **Yamaguchi T, Hayashi M, Ida L, Yamamoto M, Lu C, Kajino T, Cheng J, Nakatochi M, Isomura H, Yamazaki M, Suzuki M, Fujimoto T, Takahashi T\*** : ROR1-CAVIN3 interaction required for caveolae-dependent endocytosis and pro-survival signaling in lung adenocarcinoma. *Oncogene*, 38:5142-5157, 2019
- 002 **Kajino T, Shimamura T, Gong S, Yanagisawa K, Ida L, Nakatochi M, Griesing S, Shimada Y, Kano K, Suzuki M, Miyano S, Takahashi T\*** : Divergent lncRNA MYMLR regulates MYC by eliciting DNA looping and promoter-enhancer interaction. *EMBO J*, 38:e98441, 2019

## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

### 病院長

- 001 水口昌伸(日本消化器がん検診学会), 宮川国久, 藤谷幹浩, 大泉晴史, 入口陽介, 小川真広, 丹羽康正, 中島滋美, 大黒隆司, 松浦隆志, 平井都始子, 北川晋二, 日本消化器がん検診学会全国集計委員会: 平成 28 年度消化器がん検診全国集計 胃がん検診全国集計 内視鏡検診全国集計 大腸がん検診全国集計 超音波検診全国集計(解説). 日本消化器がん検診学会雑誌, 57: 1173-1217, 2019.
- 002 鈴木晴久(国立がん研究センター中央病院 内視鏡科), 滝沢耕平, 平澤俊明, 竹内洋司, 石戸謙次, 布袋屋 修, 矢野友規, 田中信治, 遠藤昌樹, 中川昌浩, 豊永高史, 土山寿志, 平澤欣吾, 松田 充, 山本博徳, 藤城光弘, 橋本哲, 前田有紀, 小山恒男, 竹中龍太, 山本佳宣, 内藤裕二, 道田知樹, 小林 望, 河原祥朗, 平野正明, 神 万里夫, 堀 伸一郎, 丹羽康正, 引地拓人, 島津太一, 小野裕之, 田辺 聡, 近藤 仁, 飯石浩康, 二宮基樹, 小田一郎, Web 登録システムを用いた早期胃がん内視鏡切除症例の前向きコホート研究(J-WEB/EGC)グループ:【二次出版】早期胃がん内視鏡切除症例多施設前向きコホート研究の短期成績 'Real-world evidence' in Japan(原著論文). Gastroenterological Endoscopy, 61: 2397-2408, 2019.

### 消化器内科部

- 001 *Katsuda M, Miyazawa M, Ojima T, Katanuma A, Hakamada K, Sudo K, Asahara S, Endo I, Ueno M, Hara K, Yamada S, Fujii T, Sato S, Ioka T, Ohira M, Akahori T, Kitano M, Nagano H, Furukawa M, Adachi T, Yamaue H*: A Double-Blind Randomized Comparative Clinical Trial to Evaluate the Safety and Efficacy of Dendritic Cell Vaccine Loaded With WT1 Peptides (TLP0-001) in Combination With S-1 in Patients With Advanced Pancreatic Cancer Refractory to Standard Chemotherapy. *Trials*, 20(1): 242, 2019.
- 002 *Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Furukawa M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Sakaguchi M, Ishii H, Kojima Y, Matsuo K, Yoshitomi H, Nakamori S, Yanagimoto H, Yatabe Y, Furuse J, Mizuno N*: Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should be Considered Separately. *Ann Surg Oncol*, 26(5): 1385-1393, 2019.
- 003 *Yoon WJ, Park DH, Choi JH, Jang S, Samarasekera J, Lee TH, Paik WH, Oh D, Song TJ, Choi JH, Hara K, Iwashita T, Perez-Miranda M, Lee JG, Vazquez-Sequeiros E, Nai-*

- toh I, Vila JJ, Brugge WR, Takenaka M, Lee SS, Seo DW, Lee SK, Kim MH*: The Underutilization of EUS-guided Biliary Drainage: Perception of Endoscopists in the East and West. *Endosc Ultrasound*, 8(3): 188-193, 2019.
- 004 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Ooshiro T, Kinoshita T, Komori K, Bhatia V, Hara K, Yatabe Y, Niwa Y*: Long-term Outcomes of Metachronous Neoplasms in the Ileal Pouch and Rectum After Surgical Treatment in Patients With Familial Adenomatous Polyposis. *Endosc Int Open*, 7(5): E691-E698, 2019.
- 005 *Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y*: Diagnostic Ability of Artificial Intelligence Using Deep Learning Analysis of Cyst Fluid in Differentiating Malignant From Benign Pancreatic Cystic Lesions. *Sci Rep*, 9(1), 6893, 2019.
- 006 *Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Kurita Y, Koda H, Toriyama K, Onishi S, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y*: Usefulness of Deep Learning Analysis for the Diagnosis of Malignancy in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas. *Clin Transl Gastroenterol*, 10(5): 1-8, 2019.
- 007 *Watari J, Mitani S, Ito C, Tozawa K, Tomita T, Oshima T, Fukui H, Kadowaki S, Natsume S, Senda Y, Tajika M, Hara K, Yatabe Y, Shimizu Y, Muro K, Morimoto T, Hirota S, Das KM, Miwa H*: Molecular Alterations and PD-L1 Expression in Non-Ampullary Duodenal Adenocarcinoma: Associations Among Clinicopathological, Immunophenotypic and Molecular Features. *Sci Rep*, 9(1): 10526, 2019.
- 008 *Isayama H, Nakai Y, Itoi T, Yasuda I, Kawakami H, Ryozaawa S, Kitano M, Irisawa A, Katanuma A, Hara K, Iwashita T, Fujita N, Yamao K, Yoshida M, Inui K*: Clinical Practice Guidelines for Safe Performance of Endoscopic Ultrasound/Ultrasonography-Guided Biliary Drainage: 2018. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 26(7): 249-269, 2019.
- 009 *Kawashima H, Hashimoto S, Ohno E, Ishikawa T, Morishima T, Matsubara H, Sugimoto H, Nonogaki K, Kanamori A, Hara K, Kuwahara T, Nakamura M, Miyahara R, Ishigami M, Ando M, Hirooka Y, Nagoya Biliary Stent Study (NABIS)-01 Group*: Comparison of 8- And 10-mm Diameter Fully Covered Self-Expandable Metal Stents: A Multicenter Prospective Study in Patients With Distal Malignant Biliary Obstruction. *Dig Endosc*, 31(4): 439-447, 2019.
- 010 *Okuno N, Hara K, Obata M*: Novel method of diagnosing solid pseudopapillary neoplasms of the pancreas:

- Needle-based confocal laser endomicroscopy. *Digestive Endoscopy*, 31(4): 461, 2019.
- 011 **Hashizume K, Hirooka Y, Kawashima H, Ohno E, Ishikawa T, Kawai M, Suhara H, Takeyama T, Koya T, Tanaka H, Sakai D, Yamamura T, Furukawa K, Funasaka K, Nakamura M, Miyahara R, Watanabe O, Ishigami M, Kuwahara T, Hashimoto S, Goto H**: The Propagation Display Method Improves the Reproducibility of Pancreatic Shear Wave Elastography. *Ultrasound Med Biol*, 45(8): 2242-2247, 2019.
- 012 **Terao C, Ota M, Iwasaki T, Shiokawa M, Kawaguchi S, Kuriyama K, Kawaguchi T, Kodama Y, Yamaguchi I, Uchida K, Higasa K, Yamamoto M, Kubota K, Yazumi S, Hirano K, Masaki Y, Maguchi H, Origuchi T, Matsui S, Nakazawa T, Shiomi H, Kamisawa T, Hasebe O, Iwasaki E, Inui K, Tanaka Y, Ohshima K-i, Akamizu T, Nakamura S, Nakamura S, Saeki T, Umehara H, Shimosegawa T, Mizuno N, Kawano M, Azumi A, Takahashi H, Mimori T, Kamatani Y, Okazaki K, Chiba T, Kawa S, Matsuda F, Kanno A, Okabe Y, Katsushima S, Inokuma T, Yamashita Y, Nakai Y, Nishino T, Kajimura K, Shibatoge M, Kanda N, Ido A, Ohana M, Moriyama I, Tatsuta H, Matsumura K, Fujikawa K, Gotoh N, Tsutsumi T, Shimizu M, Setoh K, Takahashi M, Tabara Y, Mimura J, Nakamura T, Kimura T, Kawanami C**: IgG4-related disease in the Japanese population: a genome-wide association study. *Lancet Rheumatol*, 1: e14-e22, 2019.
- 013 **Imai Y, Hasegawa T, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Kato M, Hara K, Nitta N, Inaba Y**: Management of Acute Cholecystitis After Biliary Stenting for Malignant Obstruction: Comparison of Percutaneous Gallbladder Drainage and Aspiration. *Jpn J Radiol*, 37(10): 719-726, 2019.
- 014 **Ueno M, Nagashima F, Ueno H, Ikeda M, Ohkawa S, Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima TE, Furuse J**: Phase I/II Study: Experience With the Late Onset of Acute Pancreatitis After the Start of Chemotherapy With Gemcitabine Plus nab-Paclitaxel for Metastatic Pancreatic Cancer. *Intern Med*, 58(20): 2957-2962, 2019.
- 015 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y**: Prognostic Significance of Sarcopenia in Patients With Unresectable Advanced Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 8(10): 1647, 2019.
- 016 **Kazuo H**: De novo EUS-guided biliary drainage. *Endoscopic Ultrasound*, 8(1): S14-16, 2019.
- 017 **Iwaya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Tamada K, Ido A, Hara K**: Usefulness of Septal Thickness Measurement on Endoscopic Ultrasound as a Predictor of Malignancy of Branched-Duct and Mixed-Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas. *Dig Endosc*, 31(6): 672-681, 2019.
- 018 **Toriyama K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Sasaki E, Abe T, Yatabe Y, Hara K, Matsuo K, Tamaki T, Niwa Y**: Clinical Relevance of Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography and Magnifying Endoscopy With Narrow Band Imaging in Decision-Making Regarding the Treatment Strategy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *World J Gastroenterol*, 25(46): 6767-6780, 2019.
- 019 **Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ozaka M, Okano N, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Wada K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Yamaguchi H, Asagi A, Yukisawa S, Kojima Y, Kawabe K, Kawamoto Y, Sugimoto R, Iwai T, Nakamura K, Miyakawa H, Yamashita T, Hosokawa A, Ioka T, Kato N, Shioji K, Shimizu K, Nakagohri T, Kamata K, Ishii H, Furuse J, members of the H, Pancreatic Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group**: Combination gemcitabine plus S-1 versus gemcitabine plus cisplatin for advanced/recurrent biliary tract cancer: the FUGA-BT (JCOG1113) randomized phase III clinical trial. *Ann Oncol*, 30(12): 1950-1958, 2019.
- 020 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Miyano A**: Using a Detachable Snare, the Cowboy Method, to Troubleshoot Stent Dysfunction After Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy. *Endoscopy*, 2019.
- 021 **Matsumoto S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Obata M, Kurita Y, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Niwa Y**: Risk Factor Analysis for Adverse Events and Stent Dysfunction of Endoscopic Ultrasound-Guided Choledochoduodenostomy. *Dig Endosc*, 2019.
- 022 **Okuyama H, Ikeda M, Okusaka T, Furukawa M, Ohkawa S, Hosokawa A, Kojima Y, Hara H, Murohisa G, Shioji K, Asagi A, Mizuno N, Kojima M, Yamanaka T, Furuse J**: A phase II trial of everolimus in patients with advanced pancreatic neuroendocrine carcinoma refractory or intolerant to platinum-containing chemotherapy (NECTOR trial). *Neuroendocrinology*, 2020.
- 023 **Hirono S, Shimizu Y, Ohtsuka T, Kin T, Hara K, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Shimokawa T, Hijioka S, Yanagisawa A, Nakamura M, Okazaki K, Yamaue H**: Recurrence Patterns After Surgical Resection of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm (IPMN) of the Pancreas: A Multicenter, Retrospective Study of 1074 IPMN Patients by the Japan Pancreas Society. *J Gastroenterol*, 55(1): 86-99, 2020.
- 024 **Niikura R, Nagata N, Yamada A, Honda T, Hasatani K, Ishii N, Shiratori Y, Doyama H, Nishida T, Sumiyoshi**

- T, Fujita T, Kiyotoki S, Yada T, Yamamoto K, Shinozaki T, Takata M, Mikami T, Mabe K, Hara K, Fujishiro M, Koike K** : Efficacy and Safety of Early vs Elective Colonoscopy for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding. *Gastroenterology*, 158(1): 168-175, 2020.
- 025 **Thinrunroj N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N** : Utility of Forward-View Echoendoscopy for Transcolonic Fine-Needle Aspiration of Extracolonic Lesions: An Institutional Experience. *Clin Endosc*, 53(1):60-64, 2020.
- 026 **Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y** : Features of Chronic Pancreatitis by Endoscopic Ultrasound Influence the Diagnostic Accuracy of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration of Small Pancreatic Lesions. *Dig Endosc*, 32(3): 399-408, 2020.
- 027 **古瀬純司, 井岡達也, 大塚隆生, 奥坂拓志, 尾阪将人, 里井壯平, 福富 晃, 水野伸匡** : 化学療法・膵癌診療ガイドライン 2019年版・日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会編, 223-233, 236-240, 2019.
- 028 **長村義之, 石川雄一, 大池信之, 笠島敦子, 久嶋亮治, 小嶋基寛, 笹野公伸, 脇岡 範, 平野 聡, 水野伸匡** : 第2章 病理・膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NEN) 診療ガイドライン 2019年【第2版】日本神経内分泌腫瘍研究会 (JNETS) 膵・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドライン第2版作成委員会編, 43-65, 2019.
- 029 **水野伸匡, 松本慎平, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生** : 膵神経内分泌腫瘍診断における EUS および EUS-FNA の役割. *膵臓*, 34(2): 71-77, 2019.
- 030 **孝田博輝** : 【先輩が教える”現場のヒント”が満載! 図解でイメトレ! 消化器外科・内科病棟はじめてさんのケアマニュアル】(第3章) おほえよう! 消化器のアセスメント 膵臓のアセスメント. *消化器ナーシング*, 149-155, 2019.
- 031 **孝田博輝** : 【先輩が教える”現場のヒント”が満載! 図解でイメトレ! 消化器外科・内科病棟はじめてさんのケアマニュアル】(第1章) みてみよう! 消化器の解剖とはたらき 膵臓の解剖とはたらき. *消化器ナーシング*, 32-35, 2019.
- 032 **栗田裕介, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 孝田博輝, 小畑雅寛, 脇岡 範, 清水泰博, 稲葉吉隆, 中島 淳, 窪田賢輔, 原 和生** : 膵神経内分泌腫瘍診断に対するソマトスタチン受容体シンチグラフィの有用性. *膵臓*, 34(2): 78-85, 2019.
- 033 **脇岡 範, 清水泰博, 原 和生, 鳥田和明, 奥坂拓志** : 胆嚢病変の良悪性診断における EUS および EUS-FNA の役割. *日本胆道学会機関誌 J.J.B.A.*, 33(2): 224-233, 2019.
- 034 **松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 小畑雅寛, 栗田裕介, 孝田博輝, 丹羽康正** : 膵癌・胆道癌の診断留意事項 up to date 胆道癌における EUS-FNA の適応・成績. *Kan tan sui 肝胆膵*, 78(5): 809-816, 2019.
- 035 **奥野のぞみ, 水野伸匡, 桑原崇通, 松本慎平, 原 和生** : GOO と悪性胆管狭窄が併発した場合の対処法. *消化器内視鏡*, 31(5): 837-841, 2019.
- 036 **鳥山和浩, 脇岡 範, 大瀬戸久美子, 水野伸匡, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 清水泰博, 原 和生, 丹羽康正** : 膵神経内分泌腫瘍を契機に診断に至った多発性内分泌腫瘍症 1 型の 2 例. *日本消化器病学会雑誌*, 116(6): 531-539, 2019.
- 037 **小畑雅寛, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 栗田裕介, 孝田博輝, 宮野 亮, 鳥山和浩, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正** : プローブ型共焦点レーザー内視鏡による胆管狭窄の診断. *胆と膵*, 40(7): 609-614, 2019.
- 038 **孝田博輝, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真, 水野伸匡, 原 和生** : 胆膵ステント留置 悪性遠位胆管狭窄に対する胆道ドレナージ術. *臨床消化器内科*, 34(10), 1238-1246, 2019.
- 039 **奥野のぞみ, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 孝田博輝, 宮野 亮, 原 和生** : 膵術後胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡治療. *胆と膵*, 40(9): 823-828, 2019.
- 040 **田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原和生, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 丹羽康正** : 消化器手術後の内視鏡検査 サーベイランスと異時性病変の診断 遺伝性腫瘍術後の内視鏡サーベイランス. *消化器内視鏡*, 31(9): 1324-1330, 2019.
- 041 **羽場 真, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正** : EUS-BD 用金属ステントの選択. *胆と膵*, 40(10): 933-938, 2019.
- 042 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博** : IPMN/膵嚢胞の診療 国内外における EUS-FNA の現状と嚢胞液解析を絡めた診断の展望. *臨床消化器内科*, 34(12): 1490-1494, 2019.
- 043 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ** : 膵炎各論 高カルシウム血症に伴う膵炎. *胆と膵*, 40(臨増特大): 1237-1240, 2019.
- 044 **伊佐山浩通, 中井陽介, 糸井隆夫, 安田一朗, 河上 洋, 良沢昭銘, 北野雅之, 入澤篤志, 湯沼朗生, 原 和生, 岩下拓司, 藤田直孝, 山雄健次, 吉田雅博, 乾 和郎, 杉山政則, 安田健治朗, 窪田敬一, 高田忠敬** : 超音波内視鏡下胆道ドレナージの安全施行への診療ガイドライン :2018. *日本胆道学会機関誌 J.J.B.A.*, 33(5): 793-816, 2019.
- 045 **夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ** : unresectable-locally advanced 膵癌に対する術前化学放射線療法および conversion surgery の意義. *消化器外科*, 42(13), 1791-1801, 2019.
- 046 **水野伸匡, 原 和生** : 胆道癌・膵癌における高頻度マイクロサテライト不安定性の意義. *胆と膵*, 40(12): 1379-1383, 2019.
- 047 **奥野正隆, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 細田和貴, 原 和生** : IPMN 切除断端術中迅速診断結果への対応. *胆と膵*, 41(1): 73-79, 2020.

- 048 水野伸匡, 原 和生: 膵がんに対する薬物療法の開発の方向性. 腫瘍内科, 25(2): 207-213, 2020.
- 049 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ: バイオマーカー解説による充実性腫瘍の鑑別診断. 胆と膵, 41(3): 273 - 277, 2020.
- 050 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博: 診断 人工知能 (Deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断の現状. 肝・胆・膵, 80(3): 427 - 433, 2020.

## 内視鏡部

- 001 *Shah MA, Kojima T, Hochhauser D, Enzinger P, Raimbourg J, Hollebecque A, Lordick F, Kim SB, Tajika M, Kim HT, Lockhart AC, Arkenau HT, El-Hajbi F, Gupta M, Pfeiffer P, Liu Q, Lunceford J, Kang SP, Bhagia P, Kato K*: Efficacy and Safety of Pembrolizumab for Heavily Pretreated Patients With Advanced, Metastatic Adenocarcinoma or Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus: The Phase 2 KEYNOTE-180 Study. *JAMA Oncol*, 5(4): 546-550, 2019.
- 002 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Ooshiro T, Kinoshita T, Komori K, Bhatia V, Hara K, Yatabe Y, Niwa Y*: Long-term Outcomes of Metachronous Neoplasms in the Ileal Pouch and Rectum After Surgical Treatment in Patients With Familial Adenomatous Polyposis. *Endosc Int Open*, 7(5): E691-E698, 2019.
- 003 *Iwata Y, Kinoshita T, Kimura K, Komori K, Hayashi D, Akazawa T, Shigeyoshi I, Tsutsuyama M, Kawakami J, Ouchi A, Natsume S, Uemura N, Ito Y, Misawa K, Senda Y, Abe T, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yoshida K, Shimizu Y*: A Long-Term Survival Case of Sister Mary Joseph's Nodule Caused by Colon Cancer and Treated With a Multidisciplinary Approach. *Nagoya J Med Sci*, 81(2): 325-329, 2019.
- 004 *Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y*: Diagnostic Ability of Artificial Intelligence Using Deep Learning Analysis of Cyst Fluid in Differentiating Malignant From Benign Pancreatic Cystic Lesions. *Sci Rep*, 9(1): 6893, 2019.
- 005 *Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Kurita Y, Koda H, Toriyama K, Onishi S, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y*: Usefulness of Deep Learning Analysis for the Diagnosis of Malignancy in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas. *Clin Transl Gastroenterol*, 10(5):1-8, 2019.
- 006 *Watari J, Mitani S, Ito C, Tozawa K, Tomita T, Oshima T, Fukui H, Kadowaki S, Natsume S, Senda Y, Tajika M, Hara K, Yatabe Y, Shimizu Y, Muro K, Morimoto T, Hirota S, Das KM, Miwa H*: Molecular Alterations and PD-L1 Expression in Non-Ampullary Duodenal Adenocarcinoma: Associations Among Clinicopathological, Immunophenotypic and Molecular Features. *Sci Rep*, 9(1): 10526, 2019.
- 007 *Hishida A, Ugai T, Fujii R, Nakatochi M, Wu MC, Ito H, Oze I, Tajika M, Niwa Y, Nishiyama T, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Koyama T, Matsui D, Watanabe Y, Kawaguchi T, Matsuda F, Momozawa Y, Kubo M, Naito M, Matsuo K, Wakai K*: GWAS Analysis Reveals a Significant Contribution of PSCA to the Risk of Helicobacter Pylori-Induced Gastric Atrophy. *Carcinogenesis*, 40(5): 661-668, 2019.
- 008 *Minashi K, Nihei K, Mizusawa J, Takizawa K, Yano T, Ezoe Y, Tsuchida T, Ono H, Iizuka T, Hanaoka N, Oda I, Morita Y, Tajika M, Fujiwara J, Yamamoto Y, Katada C, Hori S, Doyama H, Oyama T, Nebiki H, Amagai K, Kubota Y, Nishimura K, Kobayashi N, Suzuki T, Hirasawa K, Takeuchi T, Fukuda H, Muto M*: Efficacy of Endoscopic Resection and Selective Chemoradiotherapy for Stage I Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Gastroenterology*, 157(2): 382-390, 2019.
- 009 *Bhatia V, Tajika M, Hijioka S*: Radial-scanning Flexible EUS of the Anorectum and Pelvis. *Endosc Ultrasound*, 8(5): 288-297, 2019.
- 010 *Mitani S, Kadowaki S, Hasegawa H, Wakatsuki T, Hara H, Tajika M, Nishikawa K, Hirao M, Takahari D, Chin K, Muro K*: Systemic Chemotherapy for Gastric Cancer With Early Recurrence After Adjuvant S-1 Monotherapy: A Multicenter Retrospective Study. *Int J Clin Oncol*, 24(10): 1197-1203, 2019.
- 011 *Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y*: Prognostic Significance of Sarcopenia in Patients with Unresectable Advanced Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 8(10), 1647, 2019.
- 012 *Masuishi T, Taniguchi H, Kawakami T, Kawamoto Y, Kadowaki S, Onozawa Y, Muranaka T, Tajika M, Yasui H, Nakatsumi H, Yuki S, Muro K, Omae K, Komatsu Y, Yamazaki K*: Impact of Tumour Growth Rate During Preceding Treatment on Tumour Response to Regorafenib or Trifluridine/Tipiracil in Refractory Metastatic Colorectal Cancer. *Oncologist*, 4(6), 2019.
- 013 *Iwaya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Tamada K, Ido A, Hara K*: Usefulness of Septal Thickness Measurement on Endoscopic Ultrasound as a Predictor of Malignancy of Branched-Duct and Mixed-Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas. *Dig Endosc*, 31(6): 672-681, 2019.
- 014 *Matsumoto S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno*

N, Obata M, Kurita Y, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Onishi S, Toriyama K, Niwa Y : Risk Factor Analysis for Adverse Events and Stent Dysfunction of Endoscopic Ultrasound-Guided Choledochoduodenostomy. *Dig Endosc*, 2019.

015 **Toriyama K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Sasaki E, Abe T, Yatabe Y, Hara K, Matsuo K, Tamaki T, Niwa Y** : Clinical Relevance of Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography and Magnifying Endoscopy With Narrow Band Imaging in Decision-Making Regarding the Treatment Strategy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *World J Gastroenterol*, 25(46): 6767-6780, 2019.

016 **Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Onishi S, Hirayama Y, Tanaka T, Tajika M, Koide Y, Kodaira T, Abe T, Muro K** : Risk of Second Primary Malignancies After Definitive Treatment for Esophageal Cancer: A Competing Risk Analysis. *Cancer Med*, 9(1): 394-400, 2020.

017 **Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y** : Features of Chronic Pancreatitis by Endoscopic Ultrasound Influence the Diagnostic Accuracy of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration of Small Pancreatic Lesions. *Dig Endosc*, 32(3): 339-408, 2020.

018 **Ouchi A, Toriyama K, Kinoshita T, Tanaka T, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Komori K** : Variations in clinical features and oncologic behaviors of T1 colorectal cancer according to tumor location. *Int J Clin Oncol*, 2020.

019 **安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 門脇重憲, 室圭, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博** : 【局所進行食道癌に対する治療戦略】 高度局所進行食道癌に対する導入 DCF 療法後手術療法の成績. *癌の臨床*, 64(4): 235-242, 2019.

020 **小畑雅寛, 原 和生, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 栗田祐介, 孝田博輝, 宮野 亮, 鳥山和浩, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正** : 【良性胆管狭窄に対する診療の実際】 プローブ型共焦点レーザー内視鏡による胆管狭窄の診断. *胆と膵*, 40(7): 609-614, 2019.

021 **田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原和生, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 丹羽康正** : 【術後内視鏡診療のすべて】 消化器手術後の内視鏡検査 サーベイランスと異時性病変の診断 遺伝性腫瘍術後の内視鏡サーベイランス. *消化器内視鏡*, 31(9): 1324-1330, 2019.

022 **羽場 真, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 孝田博輝, 宮野 亮, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正** : 【胆管金属ステントの種類と使い分け】 EUS-BD 用金属ステントの選択. *胆と膵*, 40(10): 933-938, 2019.

## 呼吸器内科部

001 **Yamaguchi T, Hida T** : Addition of atezolizumab to nab-paclitaxel plus carboplatin is a new standard option for the first-line treatment for non-squamous non-small cell lung cancer. *Transl Cancer Res*, 8(8):E11-E14,2019.

002 **Nishio M, Murakami H, Ohe Y, Hida T, Sakai H, Kasahara K, Imamura F, Baba T, Kubota K, Hosomi Y, Shimokawa T, Hayashi H, Miyadera K, Tamura T** : Phase I study of TAS-121 in patients with non-small-cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations. *Invest New Drugs*, 37:1207-1217,2019.

003 **Okada M, Kijima T, Aoe K, Kato T, Fujimoto N, Nakagawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Imamura F, Oizumi S, Takahashi T, Takenoyama M, Tanaka H, Hirano J, Namba Y, Ohe Y** : Clinical efficacy and safety of nivolumab: results of a multicenter, open-label, single-arm, Japanese phase 2 study in malignant pleural mesothelioma (MERIT). *Clin Cancer Res*, 25:5485-5492,2019.

004 **Hida T, Velcheti V, Reckamp KL, Nokihara H, Sachdev P, Kubota T, Nakada T, Dutcus CE, Ren M, Tamura T** : A Phase 2 study of lenvatinib in patients with RET fusion-positive lung adenocarcinoma. *Lung Cancer*, 138:124-130,2019.

005 **Takeda M, Ohe Y, Horinouchi H, Hida T, Shimizu J, Seto T, Nosaki K, Kishimoto T, Miyashita I, Yamada M, Kaneko Y, Morimoto C, Nakagawa K** : Phase I study of YS110, a recombinant humanized anti-CD26 monoclonal antibody, in Japanese patients with advanced malignant pleural mesothelioma. *Lung Cancer*, 137:64-70,2019.

006 **Hirashima T, Satouchi M, Hida T, Nishio M, Kato T, Sakai H, Imamura F, Kiura K, Okamoto I, Kasahara K, Uchida H, Vowler SL, Mitsudomi T** : Osimertinib for Japanese Patients with T790M-positive Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: A Pooled Subgroup Analysis. *Cancer Sci*, 110:2884-2893,2019.

007 **Horinouchi H, Nishio M, Hida T, Nakagawa K, Sakai H, Nogami N, Atagi S, Takahashi T, Saka H, Takenoyama M, Katakami N, Tanaka H, Takeda K, Satouchi M, Isobe H, Maemondo M, Goto K, Hirashima T, Minato K, Sumiyoshi N, Tamura T** : Three-year follow-up results from phase II studies of nivolumab in Japanese patients with previously treated advanced non-small cell lung cancer: pooled analysis of ONO-4538-05 and ONO-4538-06 studies. *Cancer Med*, 8:5183-5193,2019.

008 **Dietel M, Savelov N, Salanova R, Micke P, Bigras G, Hida T, Antunez J, Guldhammer Skov B, Hutarew G, Sua LF, Akita H, Chan OSH, Piperdi B, Burke T, Khambata-Ford S, Deitz AC** : Real-world prevalence of programmed death ligand 1 expression in locally advanced or metastatic non-small-cell lung cancer: The



- global, multicenter EXPRESS study. *Lung Cancer*, 134:174-179,2019.
- 009 **Nakanishi K, Sakakura N, Matsui T, Ueno H, Nakada T, Oya Y, Shimizu J, Hida T, Hosoda W, Kuroda H** : Clinicopathological Features, Surgical Outcomes, Oncogenic Status and PD-L1 Expression of Pulmonary Pleomorphic Carcinoma. *Anticancer Res*, 39:5789-5795,2019.
- 010 **Niho S, Hosomi Y, Okamoto H, Nihei K, Tanaka H, Hida T, Uemura S, Goto K, Akimoto T, Ohe Y** : Carboplatin, S-1 and concurrent thoracic radiotherapy for elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer: a multicenter phase I/II study. *Jpn J Clin Oncol*, 49:614-619,2019.
- 011 **Kuroda H, Sugita Y, Oya Y, Takahashi Y, Nakanishi K, Sakakura N, Sakao Y, Iwata H, Hida T** : Presurgical heterogeneity of lung <sup>18</sup>F-FDG-PET uptake predicts acute exacerbation of interstitial lung disease following pulmonary resection in patients with smoke exposures. *J Surg Oncol*, 2(2):3-7,2019.
- 012 **Kondo C, Horio Y, Hayashi Y, Ebi H, Hida T, Hasegawa Y, Yatabe Y** : ALK expression in small cell lung cancer. *Histopathology*, 75:20-28, 2019.
- 013 **Horio Y, Mizuno T, Sakao Y, Inaba Y, Yatabe Y, Hida T** : Successful salvage surgery following multimodal therapy in a patient who harboured ALK-rearranged advanced lung adenocarcinoma with multiple organ metastases. *Respirology Case Reports*, 7(7):e00451,2019.
- 014 **Halmos B, Tan EH, Soo RA, Cadranell J, Lee M, Foucher P, Hsia TC, Hochmair M, Griesinger F, Hida T, Kim E, Melosky B, Mårten A, Carcereny E** : Impact of Afatinib Dose Modification on Safety and Effectiveness in Patients with EGFR Mutation-Positive Advanced NSCLC: Results from a Global Real-World Study (RealGiDo). *Lung Cancer*, 127:103-111,2019.
- 015 **Park K, Bennouna J, Boyer M, Hida T, Hirsh V, Kato T, Lu S, Mok T, Nakagawa K, O'Byrne K, Paz-Ares L, Schuler M, Sibilot DM, Tan EH, Tanaka H, Wu YL, Yang JCH, Zhang Li, Zhou C, Mårten A, Tang W, Yamamoto N** : Sequencing of therapy following first-line afatinib in patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer. *Lung Cancer*, 132:126-131,2019.
- 016 **Ahn MJ, Tsai CM, Shepherd FA, Bazhenova L, Sequist LV, Hida T, Yang JCH, Ramalingam SS, Mitsudomi T, Janne PA, Mann H, Cantarini M, Goss G** : Osimertinib in patients with T790M mutation-positive advanced non-small cell lung cancer: Long-term follow-up from a pooled analysis of two phase 2 studies. *Cancer*, 125:892-901,2019.
- 017 **Katsuya Y, Horinouchi H, Seto T, Umemura S, Hosomi Y, Satouchi M, Nishio M, Kozuki T, Hida T, Sukigara T, Nakamura K, Kuchiba A, Ohe Y** : Single-arm, multi-center, phase II trial of nivolumab for unresectable or recurrent thymic carcinoma: PRIMER study. *Eur J Cancer*, 113:78-86, 2019.
- 018 **Nakanishi K, Mizuno T, Arimura T, Sakakura N, Kuroda H, Shimizu J, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y** : Salvage surgery for small cell lung cancer after chemoradiotherapy. *Jpn J Clin Oncol*, 49:389-392,2019.
- 019 **von Pawel J, Bordoni R, Satouchi M, Fehrenbacher L, Cobo M, Han JY, Hida T, Moro-Sibilot D, Conkling P, Gandara DR, Rittmeyer A, Gandhi M, Yu W, Matheny C, Patel H, Sandler A, Ballinger M, Kowanetz M, Park K** : Long-term survival in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with atezolizumab vs docetaxel: results from the randomized phase III OAK study. *Eur J Cancer*, 107:124-132,2019.
- 020 **Masago K, Horio Y, Fujita S, Yatabe Y** : Minimal residual disease after radical surgery in EGFR-mutant non-small cell lung cancer. *Transl Lung Cancer Res*, 8(Suppl 4):S391-S394,2019.
- 021 **Takahashi Y, Kuroda H, Oya Y, Matsutani N, Matsushita H, Kawamura M** : Challenges for real-time intraoperative diagnosis of high risk histology in lung adenocarcinoma: A necessity for sublobar resection. *Thoracic Cancer*, 10(8):1663-1668,2019.
- 022 **Yoshioka H, Kato T, Okamoto I, Tanaka H, Hida T, Seto T, Kiura K, Tian Y, Azuma H, Yamamoto N** : Therapies after first-line afatinib in patients with EGFRm+ NSCLC in Japan: retrospective analysis of LUX-Lung 3. *Future Oncol*, 16:49-60,2020.
- 023 **Nakagawa K, Hida T, Nokihara H, Morise M, Azuma K, Kim YH, Seto T, Takiguchi Y, Nishio M, Yoshioka H, Kumagai T, Hotta K, Watanabe S, Goto K, Satouchi M, Kozuki T, Koyama R, Mitsudomi T, Yamamoto N, Asakawa T, Hayashi M, Hasegawa W, Tamura T** : Final progression-free survival results from the J-ALEX study of alectinib versus crizotinib in ALK-positive non-small-cell lung cancer. *Lung Cancer*, 139:195-199,2020.
- 024 **Papadimitrakopoulou VA, Han JY, Ahn MJ, Ramalingam SS, Delmonte A, Hsia TC, Laskin J, Kim SW, He Y, Tsai CM, Hida T, Maemondo M, Kato T, Jenkins S, Patel S, Huang X, Laus G, Markovets A, Thress KS, Wu YL, Mok T** : Epidermal growth factor receptor mutation analysis in tissue and plasma from the AURA3 trial: Osimertinib versus platinum-pemetrexed for T790M mutation-positive advanced non-small cell lung cancer. *Cancer*, 126:373-380,2020.
- 025 **Drilon A, Clark JW, Weiss J, Ou S-HI, D. Camidge R, Solomon BJ, Otterson GA, Villaruz LC, Riely GJ, Heist RS, Awad MM, Shapiro GI, Satouchi M, Hida T, Hayashi H, Murphy DA, Wang SC, Li S, Usari T,**

**Wilner KD, Paik PK** : Antitumor Activity of Crizotinib in Lung Cancers Harboring a MET Exon 14 Alteration. *Nat Med*, 26:47-51,2020.

- 026 **Niho S, Yoshida T, Akimoto T, Sakamaki K, Ono A, Seto T, Nishio M, Yamamoto N, Hida T, Okamoto H, Kurata T, Satouchi M, Goto K, Yamanaka T, Ohe Y** : Randomized phase II study of chemoradiotherapy with cisplatin + S-1 versus cisplatin + pemetrexed for locally advanced non-squamous non-small cell lung cancer: SPECTRA study. *Lung Cancer*, 141:64-71,2020.
- 027 **Tokudome N, Koh Y, Akamatsu H, Fujimoto D, Okamoto I, Nakagawa K, Hida T, Imamura F, Morita S, Yamamoto N** : Differential significance of molecular subtypes which were classified into EGFR exon 19 deletion on the first line afatinib monotherapy. *BMC Cancer*, 20(1):103,2020.
- 028 **Seto K, Haneda M, Masago K, Fujita S, Kato S, Sasaki E, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Horio Y, Hida T, Okubo K, Yatabe Y** : Negative reactions of BRAF mutation-specific immunohistochemistry to non-V600E mutations of BRAF. *Pathol Int*, 70(5):253-261,2020.
- 029 **Shimizu J, Masago K, Saito H, Nishino K, Kurata T, Itoh Y, Yoshimura Y, Yabuki Y, Dosaka-Akita H** : Biomarker testing for personalized, first-line therapy in advanced nonsquamous non-small cell lung cancer patients in the real world setting in Japan: a retrospective, multicenter, observational study (the BRAVE study). *Ther Adv Med Oncol*, 12:1-9,2020.

## 血液・細胞療法部

- 001 **Yanada M, Takami A, Mizuno S, Mori J, Chou T, Usuki K, Uchiyama H, Amano I, Fujii S, Miyamoto T, Saito T, Kamimura T, Ichinohe T, Fukuda T, Okamoto S, Atsuta Y, Yano S** : Autologous hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia in adults: 25 years of experience in Japan. *Int J Hematol*. 2020 Jan;111(1):93-102. doi: 10.1007/s12185-019-02759-y. Epub 2019.
- 002 **Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Kuwatsuka Y, Masuko M, Tanaka M, Ozawa Y, Toya T, Fukuda T, Ota S, Sawa M, Uchida N, Nakamae H, Eto T, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S** : Time-Varying Effects of Graft Type on Outcomes for Patients with Acute Myeloid Leukemia Undergoing Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant*. 2020 Feb;26(2):307-315. doi: 10.1016/j.bbmt.2019.09.036. Epub 2019.
- 003 **Yanada M, Mori J, Aoki J, Masuko M, Harada K, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Sakura T, Kanamori H, Sawa M, Kondo T, Katayama Y, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation

for patients with a history of multiple relapses of acute myeloid leukemia. *Ann Hematol*. 2019 Sep;98(9):2179-2186. doi: 10.1007/s00277-019-03736-5. Epub 2019.

- 004 **Yanada M, Konuma T, Kuwatsuka Y, Kondo T, Kawata T, Takahashi S, Uchida N, Miyakoshi S, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Nakamae H, Aotsuka N, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y** : Unit selection for umbilical cord blood transplantation for adults with acute myeloid leukemia in complete remission: a Japanese experience. *Bone Marrow Transplant*. 2019 Nov;54(11):1789-1798. doi: 10.1038/s41409-019-0539-8. Epub 2019.
- 005 **Yanada M, Masuko M, Mori J, Aoki J, Mizuno S, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Ota S, Kanamori H, Mori T, Nakamae H, Eto T, Shiratori S, Maeda T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Tanaka J, Atsuta Y, Yano S** : Patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation: trends in survival during the past two decades. *Bone Marrow Transplant*. 2019 Apr;54(4):578-586. doi: 10.1038/s41409-018-0301-7. Epub 2018.
- 006 **Kato H, Kato K, Kim SW, Fukuda T, Mori T, Sawa M, Ohno Y, Yoshioka S, Iwato Y, Taji H, Onizuka M, Kurahashi S, Ichinohe T, Suzumiya J, Suzuki R** : Clinical outcomes of hepatitis B or C virus infections in patients with malignant lymphoma receiving autologous stem cell transplantation: on behalf of the Adult Lymphoma Working. *Br J Haematol*. 2019 Sep;186(6):e170-e175. doi: 10.1111/bjh.16050. Epub 2019.
- 007 **Yanada M, Fukuda T, Tanaka M, Ota S, Toya T, Mori T, Uchida N, Ozawa Y, Nakamae H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Long-term results of reduced-intensity conditioning allogeneic hematopoietic cell transplantation for older patients with acute myeloid leukemia: a retrospective analysis of 10-year follow-up data. *Bone Marrow Transplant*. 2020. [Epub ahead of print]
- 008 **Yanada M, Takami A, Yamasaki S, Arai Y, Konuma T, Uchida N, Najima Y, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Ikegame K, Takanashi M, Ichinohe T, Okamoto S, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation for adults with acute myeloid leukemia conducted in Japan during the past quarter century. *Ann Hematol*. 2020;99:1351-1360.
- 009 **Yamamoto S, Tomizawa D, Kudo K, Hasegawa D, Taga T, Yanada M, Kondo T, Nakazawa Y, Eto T, Inoue M, Kato K, Atsuta Y, Ishida H** : Hematopoietic stem cell transplantation for pediatric acute promyelocytic leukemia in Japan. *Pediatr Blood Cancer*. 2020;67:e28181.
- 010 **Konuma T, Kondo T, Mizuno S, Doki N, Aoki J, Fukuda T, Tanaka M, Sawa M, Katayama Y, Uchida N, Ozawa Y, Morishige S, Matsuoka KI, Ichinohe T, Onizuka M, Kanda J, Atsuta Y, Yanada M** : Conditioning intensity for allogeneic hematopoietic cell transplantation in

- acute myeloid leukemia patients with poor-prognosis cytogenetics in first complete remission. *Biol Blood Marrow Transplant.* 2020;26:463-471.
- 011 **Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Kuwatsuka Y, Masuko M, Tanaka M, Ozawa Y, Toya T, Fukuda T, Ota S, Sawa M, Uchida N, Nakamae H, Eto T, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S** : Time-varying effects of graft type on outcomes for patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant.* 2020;26:307-315.
- 012 **Yanada M, Takami A, Mizuno S, Mori J, Chou T, Usuki K, Uchiyama H, Amano I, Fujii S, Miyamoto T, Saito T, Kamimura T, Ichinohe T, Fukuda T, Okamoto S, Atsuta Y, Yano S** : Autologous hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia in adults: 25 years of experience in Japan. *Int J Hematol.* 2020;111:93-102.
- 013 **Yamasaki S, Aoki J, Mori J, Mizuno S, Uchida N, Ohashi K, Fukuda T, Ikegame K, Eto T, Ogawa Y, Tanaka M, Hidaka M, Iwato K, Sawa M, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y, Yanada M, Yano S** : Better disease control before allogeneic stem cell transplantation is crucial to improve the outcomes of transplantation for acute myeloid leukemia patients with extramedullary disease. *Bone Marrow Transplant.* 2020;55:249-252.
- 014 **Yano S, Yokoyama H, Yanada M, Mori J, Aoki J, Ohashi K, Kanomori H, Ozawa Y, Sawa M, Nakamae H, Eto T, Ohta S, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Takami A** : Role of alternative donor allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with intermediate- or poor-risk acute myeloid leukemia in first complete remission. *Bone Marrow Transplant.* 2019;54:2004-2012.
- 015 **Yanada M, Konuma T, Kuwatsuka Y, Kondo T, Kawata T, Takahashi S, Uchida N, Miyakoshi S, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Nakamae H, Aotsuka N, Kanda J, Takanashi M, Kanda Y, Atsuta Y, Yano S** : Unit selection for umbilical cord blood transplantation for adults with acute myeloid leukemia in complete remission: a Japanese experience. *Bone Marrow Transplant.* 2019;54:1789-1798.
- 016 **Yanada M, Mori J, Aoki J, Masuko M, Harada K, Uchida N, Doki N, Fukuda T, Sakura T, Kanamori H, Sawa M, Kondo T, Katayama Y, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation for patients with a history of multiple relapses of acute myeloid leukemia. *Ann Hematol.* 2019;98:2179-2186.
- 017 **Harada K, Yanada M, Machida S, Kanamori H, Onizuka M, Ozawa Y, Kobayashi H, Sawa M, Katayama Y, Ohashi K, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Prognostic impact of melphalan dose and total body irradiation use in patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic stem cell transplantation with reduced-intensity conditioning. *Leuk Lymphoma.* 2019;60:1493-1502.
- 018 **Yanada M, Masuko M, Mori J, Aoki J, Mizuno S, Fukuda T, Kakihana K, Ozawa Y, Ota S, Kanamori H, Mori T, Nakamae H, Eto T, Shiratori S, Maeda T, Iwato K, Ichinohe T, Kanda Y, Tanaka J, Atsuta Y, Yano S** : Patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation: trends in survival during the past two decades. *Bone Marrow Transplant.* 2019;54:578-586.
- 019 **Takehita A, Asou N, Atsuta Y, Sakura T, Ueda Y, Sawa M, Dobashi N, Taniguchi Y, Suzuki R, Nakagawa M, Tamaki S, Hagihara M, Fujimaki K, Furumaki H, Obata Y, Fujita H, Yanada M, Maeda Y, Usui N, Kobayashi Y, Kiyoi H, Ohtake S, Matsumura I, Naoe T, Miyazaki Y** : Tamibarotene maintenance improved relapse-free survival of acute promyelocytic leukemia: a final result of prospective, randomized, JALSG-APL204 study. *Leukemia.* 2019;33:358-370.
- 020 **Kizaki M, Takahashi N, Iriyama N, Okamoto S, Ono T, Usui N, Inokuchi K, Nakaseko C, Kurokawa M, Sumi M, Nakamura F, Kawaguchi T, Suzuki R, Yamamoto K, Ohnishi K, Matsumura I, Naoe T** : New TARGET investigators: Efficacy and safety of tyrosine kinase inhibitors for newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia over a 5-year period: results from the Japanese registry obtained by the New TARGET system. *Int J Hematol.* 109(4):426-439, 2019.
- 021 **Ri M, Kasai M, Kohno A, Kondo M, Sawa M, Kinoshita T, Sugiura I, Miura Y, Yamamoto K, Saito TI, Ozawa Y, Matsushita T, Kato H** : A survey of blood transfusion errors in Aichi Prefecture in Japan: Identifying major lapses threatening the safety of transfusion recipients. *Transfus Apher Sci.* 2020 Jun;59(3):102735. Doi : 10.1016/j.transci.2020.102735.Epub 2020.PMID: 32019735.
- 022 **山本一仁** : 【造血器腫瘍に対する新しい標準治療・開発中の治療薬】急性骨髄性白血病（AML）ベネトクラクス腫瘍内科 24(6):569-574,2019.
- 023 **上田格弘, 橋本 健, 山添有美, 足立佳也, 木原里香, 桑原恭子, 藤野雅彦, 綿本浩一** : 濾胞性リンパ腫の治療後早期に発症した古典的ホジキンリンパ腫 : 臨床血液 61(1):39-43,2020.
- 024 **加藤春美** : 免疫化学療法で初期治療を行う濾胞性リンパ腫のβ2-ミクログロブリン値と骨髄浸潤の有無のよるスコアリング科学評論社 血液内科 78(6):852-858,2019.
- 025 **加藤春美** : 末梢神経障害への対応メディカルビュー がん免疫療法 Vol.3 No.2,24-27,2019.
- 026 **加藤春美** : 外来での悪性リンパ腫診断・治療 Q&A 悪性リンパ腫に重要な腫瘍マーカーは何か? / 悪性リンパ腫の予後に関連する因子は何か? 日本医事新報社 No.4985 2 週号 .24-26,2019.
- 027 **加藤春美** : 再発・抵抗性 DLBCL に対する nivolumab の第 II 相試験科学評論社 血液内科 80(2),234-239,2020.

薬物療法部

- 001 **Muro K, Itabashi M, Hashida H, Masuishi T, Bando H, Denda T, Yamanaka T, Ohashi Y, Sugihara K** : Observational study of first-line chemotherapy including cetuximab in patients with metastatic colorectal cancer: CORAL trial. *Jpn J Clin Oncol*, 49(4):339-346, 2019.
- 002 **Tomita N, Kunieda K, Maeda A, Hamada C, Yamanaka T, Sato T, Yoshida K, Boku N, Nezu R, Yamaguchi S, Mishima H, Sadahiro S, Muro K, Ishiguro M, Sakamoto J, Saji S, Maehara Y** : Phase III randomised trial comparing 6 vs. 12-month of capecitabine as adjuvant chemotherapy for patients with stage III colon cancer: final results of the JFMC37-0801 study. *Br J Cancer*, 120(7): 689-696, 2019.
- 003 **Mitani S, Kadowaki S, Kato K, Masuishi T, Muro K** : Combination of Oxaliplatin and 5-Fluorouracil/Leucovorin for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma Refractory or Intolerant to Standard Therapies. *Case Rep Oncol*, 9;12(1) : 304-310, 2019.
- 004 **Esaki T, Hirai F, Makiyama A, Seto T, Bando H, Naito Y, Yoh K, Ishihara K, Kakizume T, Natsume K, Myers A, Doi T** : Phase I dose-escalation study of capmatinib (INC280) in Japanese patients with advanced solid tumors. *Cancer Sci*, 110(4):1340-1351, 2019.
- 005 **Honda K, Gyawali B, Ando M, Kumanishi R, Kato K, Sugiyama K, Mitani S, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K** : Prospective survey of financial toxicity measured by the comprehensive score for financial toxicity in Japanese patients with cancer. *J Glob Oncol*, 5: 1-8, 2019.
- 006 **Muro K, Jen MH, Cheng R** : Is ramucirumab and paclitaxel therapy beneficial for second-line treatment of metastatic gastric or junctional adenocarcinoma for patients with ascites? Analysis of RAINBOW phase 3 trial data. *Cancer Manag Res*, 20;11: 2261-2267, 2019.
- 007 **Bando H(NCCH), Kagawa Y, Kato T, Akagi K, Denda T, Nishina T, Komatsu Y, Oki E, Kudo T, Kumamoto H, Yamanaka T, Yoshino T** : A multicentre, prospective study of plasma circulating tumour DNA test for detecting RAS mutation in patients with metastatic colorectal cancer. *Br J Cancer*, 120(10):982-986, 2019.
- 008 **Shitara K, Iwata H, Takahashi S, Tamura K, Park H, Modi S, Tsurutani J, Kadowaki S, Yamaguchi K, Iwasa S, Saito K, Fujisaki Y, Sugihara M, Shahidi J, Doi T** : Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive gastric cancer: a dose-expansion, phase 1 study. *Lancet Oncol*, 20(6):827-836, 2019.
- 009 **Yamada Y, Boku N, Mizusawa J, Iwasa S, Kadowaki S, Nakayama N, Azuma M, Sakamoto T, Shitara K, Tamura T, Chin K, Hata H, Nakamori M, Hara H, Yasui H, Katayama H, Fukuda H, Yoshikawa T, Sasako M, Terashima M** : Docetaxel plus cisplatin and S-1 versus cisplatin and S-1 in patients with advanced gastric cancer (JCOG1013): an open-label, phase 3, randomised controlled trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol*, 4(7):501-510, 2019.
- 010 **Yamaguchi K, Komatsu Y, Satoh T, Uetake H, Yoshino T, Nishida T, Yamazaki N, Takikawa H, Morimoto T, Chosa M, Sunaya T, Hamada Y, Muro K, Sugihara K** : Large-scale, prospective observational study of regorafenib in Japanese patients with metastatic colorectal cancer in a real-world clinical setting. *Oncologist*, 24(7), e450-e457 2019.
- 011 **Doi T, Iwasa S, Muro K, Satoh T, Hironaka S, Esaki T, Nishina T, Hara H, Machida N, Komatsu Y, Shimada Y, Otsu S, Shimizu S, Watanabe M** : Phase 1 trial of avelumab (anti-PD-L1) in Japanese patients with advanced solid tumors, including dose expansion in patients with gastric or gastroesophageal junction cancer: the JAVELIN Solid Tumor JPN trial. *Gastric Cancer*, 22(4): 817-827, 2019.
- 012 **Bang YJ, Kang YK, Catenacci DV, Muro K, Fuchs CS, Geva R, Hara H, Golan T, Garrido M, Jalal SI, Borg C, Doi T, Yoon HH, Savage MJ, Wang J, Dalal RP, Shah S, Wainberg ZA, Chung HC** : Pembrolizumab alone or in combination with chemotherapy as first-line therapy for patients with advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma: results from the phase II non-randomized KEYNOTE-059 study. *Gastric Cancer*, 22(4): 828-837, 2019.
- 013 **Sunakawa Y, Inoue E, Matoba R, Kawakami H, Sato Y, Nakajima TE, Muro K, Ichikawa W, Fujii M** : DELIVER (JACCRO GC-08) trial: discover novel host-related immune-biomarkers for nivolumab in advanced gastric cancer. *Future Oncol*, 15(21): 2441-2447, 2019.
- 014 **Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Ishihara R, Matsubara H, Muro K, Oyama T, Toh Y, Udagawa H, Uno T** : Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society: Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2012. *Esophagus*, 16(3): 221-245, 2019.
- 015 **Oki E, Emi Y, Yamanaka T, Uetake H, Muro K, Takahashi T, Nagasaka T, Hatano E, Ojima H, Manaka D, Kusumoto T, Katayose Y, Fujiwara T, Yoshida K, Unno M, Hyodo I, Tomita N, Sugihara K, Maehara Y** : Randomised phase II trial of mFOLFOX6 plus bevacizumab versus mFOLFOX6 plus cetuximab as first-line treatment for colorectal liver metastasis (ATOM trial). *Br J Cancer*, 121(3):222-229, 2019.
- 016 **Arai H, Iwasa S, Boku N, Kawahira M, Yasui H, Masuishi T, Muro K, Minashi K, Hironaka S, Fukuda N, Takahari D, Nakajima TE** : Fluoropyrimidine with or

- without platinum as first-line chemotherapy in patients with advanced gastric cancer and severe peritoneal metastasis: a multicenter retrospective study. *BMC Cancer*, 3;19(1):652, 2019.
- 017 **Watari J, Mitani S, Ito C, Tozawa K, Tomita T, Oshima T, Fukui H, Kadowaki S, Natsume S, Senda Y, Tajika M, Hara K, Yatabe Y, Shimizu Y, Muro K, Morimoto T, Hirota S, Das KM, Miwa H** : Molecular alterations and PD-L1 expression in non-ampullary duodenal adenocarcinoma: Associations among clinicopathological, immunophenotypic and molecular features. *Sci Rep*, 19;9(1):10526, 2019.
- 018 **Honda K, Kadowaki S, Kato K, Hanai N, Hasegawa Y, Yatabe Y, Muro K** : Durable response to the ALK inhibitor alectinib in inflammatory myofibroblastic tumor of the head and neck with a novel SQSTM1-ALK fusion: a case report. *Invest New Drugs*, 37(4): 791-795, 2019.
- 019 **De Vita F, Borg C, Farina G, Geva R, Carton I, Cuku H, Wei R, Muro K** : Ramucirumab and paclitaxel in patients with gastric cancer and prior trastuzumab: subgroup analysis from RAINBOW study. *Future Oncol*, 15(23): 2723-2731, 2019.
- 020 **Minami H, Fujiwara Y, Muro K, Sato M, Moriya A** : Phase I study of BGT226, a pan-PI3K and mTOR inhibitor, in Japanese patients with advanced solid cancers. *Cancer Chemother Pharmacol*, 84(2):337-343, 2019.
- 021 **Yoshikawa T, Muro K, Shitara K, Oh DY, Kang YK, Chung HC, Kudo T, Chin K, Kadowaki S, Hamamoto Y, Hironaka S, Yoshida K, Yen CJ, Omuro Y, Bai LY, Maeda K, Ozeki A, Yoshikawa R, Kitagawa Y** : Effect of First-line S-1 Plus Oxaliplatin With or Without Ramucirumab Followed by Paclitaxel Plus Ramucirumab on Advanced Gastric Cancer in East Asia: The Phase 2 RAINSTORM Randomized Clinical Trial. *JAMA Netw Open*, 2; 2(8): e198243, 2019.
- 022 **Shitara K, Satoh T, Iwasa S, Yamaguchi K, Muro K, Komatsu Y, Nishina T, Esaki T, Hasegawa J, Kakurai Y, Kamiyama E, Nakata T, Nakamura K, Sakaki H, Hyodo I** : Safety, tolerability, pharmacokinetics, and pharmacodynamics of the afucosylated, humanized anti-EPHA2 antibody DS-8895a: a first-in-human phase I dose escalation and dose expansion study in patients with advanced solid tumors. *J Immunother Cancer*, 14;7(1): 219, 2019.
- 023 **Mitani S, Kadowaki S, Hasegawa H, Wakatsuki T, Hara H, Tajika M, Nishikawa K, Hirao M, Takahari D, Chin K, Muro K** : Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multicenter retrospective study. *Int J Clin Oncol*, 24(10): 1197-1203, 2019.
- 024 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic Significance of Sarcopenia in Patients with Unresectable Advanced Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 9;8(10), pii: E1647, 2019.
- 025 **Doi T, Aramaki T, Yasui H, Muro K, Ikeda M, Okusaka T, Inaba Y, Nakai K, Ikezawa H, Nakajima R** : A phase I study of ontuxizumab, a humanized monoclonal antibody targeting endosialin, in Japanese patients with solid tumors. *Invest New Drugs*, 37(5): 1061-1074, 2019.
- 026 **Muro K** : [Lower G. I./Colon and Rectum Cancer Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum(JSCCR)Guidelines 2019 for the Treatment of Colorectal Cancer-Major Revised Points]. *Gan To Kagaku Ryoho*, 46(11):1700 in Japanese, 2019.
- 027 **Doi T, Muro K, Ishii H, Kato T, Tsushima T, Takenoyama M, Oizumi S, Gemmoto K, Suna H, Enokitani K, Kawakami T, Nishikawa H, Yamamoto N** : A Phase I Study of the Anti-CC Chemokine Receptor 4 Antibody, Mogamulizumab, in Combination with Nivolumab in Patients with Advanced or Metastatic Solid Tumors. *Clin Cancer Res*, 15;25(22): 6614-6622, 2019.
- 028 **Masuishi T, Taniguchi H, Kotani D, Bando H, Komatsu Y, Shinozaki E, Nakajima TE, Satoh T, Nishina T, Esaki T, Wakabayashi M, Nomura S, Takahashi K, Ono H, Hirano N, Fujishiro N, Fuse N, Sato A, Ohtsu A, Yoshino T** : Rationale and design of the BRAVERY study (EPOC1701): a multicentre phase II study of eribulin in patients with BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer. *ESMO Open*, 4(6):e000590, 2019.
- 029 **Masuishi T, Taniguchi H, Kawakami T, Kawamoto Y, Kadowaki S, Onozawa Y, Muranaka T, Tajika M, Yasui H, Nakatsumi H, Yuki S, Muro K, Omae K, Komatsu Y, Yamazaki K** : Impact of tumour growth rate during preceding treatment on tumour response to regorafenib or trifluridine/tipiracil in refractory metastatic colorectal cancer. *ESMO Open*, 4:e000584, 2019.
- 030 **Yaeger R, Kotani D, Mondaca S, Parikh AR, Bando H, Van Seventer EE, Taniguchi H, Zhao H, Thant CN, de Stanchina E, Rosen N, Corcoran RB, Yoshino T, Yao Z, Ebi H** : Response to Anti-EGFR Therapy in Patients with BRAF non-V600-Mutant Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Cancer Res*, 25(23):7089-7097, 2019.
- 031 **Kotani D, Kuboki Y, Horasawa S, Kaneko A, Nakamura Y, Kawazoe A, Bando H, Taniguchi H, Shitara K, Kojima T, Tsuji A, Yoshino T** : Retrospective cohort study of trifluridine/tipiracil (TAS-102) plus bevacizumab versus trifluridine/tipiracil monotherapy for metastatic colorectal cancer. *BMC Cancer*, 19(1):1253, 2019.
- 032 **Hamauchi S, Furuse J, Takano T, Munemoto Y, Furuya K, Baba H, Takeuchi M, Choda Y, Higashiguchi T, Naito T, Muro K, Takayama K, Oyama S, Takiguchi T, Komura N, Tamura K** : A multicenter, open-label, single-arm study of anamorelin (ONO-7643) in advanced gastrointestinal cancer patients with cancer cachexia. *Cancer*, 1;125(23): 4294-4302, 2019.

- 033 **Hashiguchi Y, Muro K, Saito Y, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Hasegawa K, Hotta K, Ishida H, Ishiguro M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Kinugasa Y, Murofushi K, Nakajima TE, Oka S, Tanaka T, Taniguchi H, Tsuji A, Uehara K, Ueno H, Yamanaka T, Yamazaki K, Yoshida M, Yoshino T, Itabashi M, Sakamaki K, Sano K, Shimada Y, Tanaka S, Uetake H, Yamaguchi S, Yamaguchi N, Kobayashi H, Matsuda K, Kotake K, Sugihara K** : Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum: Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2019 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, 25(1): 1-42, 2020.
- 034 **Satoh T, Kang YK, Chao Y, Ryu MH, Kato K, Cheol Chung H, Chen JS, Muro K, Ki Kang W, Yeh KH, Yoshikawa T, Oh SC, Bai LY, Tamura T, Lee KW, Hamamoto Y, Kim JG, Chin K, Oh DY, Minashi K, Cho JY, Tsuda M, Tanimoto M, Chen LT, Boku N** : Exploratory subgroup analysis of patients with prior trastuzumab use in the ATTRACTION-2 trial: a randomized phase III clinical trial investigating the efficacy and safety of nivolumab in patients with advanced gastric/gastroesophageal junction cancer. *Gastric Cancer*, 23(1): 143-153, 2020.
- 035 **Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Oonishi S, Hirayama Y, Tanaka T, Tajika M, Koide Y, Kodaira T, Abe T, Muro K** : Risk of second primary malignancies after definitive treatment for esophageal cancer: A competing risk analysis. *Cancer Med*, 9(1):394-400, 2020.
- 036 **Yoshino T, Cleary JM, Van Cutsem E, Mayer RJ, Ohtsu A, Shinozaki E, Falcone A, Yamazaki K, Nishina T, Garcia-Carbonero R, Komatsu Y, Baba H, Argilés G, Tsuji A, Sobrero A, Yamaguchi K, Peeters M, Muro K, Zaniboni A, Sugimoto N, Shimada Y, Tsuji Y, Hochster HS, Moriwaki T, Tran B, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Benedetti F, Makris L, Yamashita F, Lenz HJ** : Neutropenia and survival outcomes in metastatic colorectal cancer patients treated with trifluridine/tipiracil in the RECURSE and J003 trials. *Ann Oncol*, 31(1): 88-95, 2020.
- 037 **Mishima S, Taniguchi H, Akagi K, Baba E, Fujiwara Y, Hirasawa A, Ikeda M, Maeda O, Muro K, Nishihara H, Nishiyama H, Takano T, Tsuchihara K, Yatabe Y, Kodera Y, Yoshino T** : Japan Society of Clinical Oncology provisional clinical opinion for the diagnosis and use of immunotherapy in patients with deficient DNA mismatch repair tumors, cooperated by Japanese Society of Medical Oncology, First Edition. *Int J Clin Oncol*, 25(2): 217-239, 2020.
- 038 **Shitara K, Hara H, Yoshikawa T, Fujitani K, Nishina T, Hosokawa A, Asakawa T, Kawakami S, Muro K** : Pertuzumab plus trastuzumab and chemotherapy for Japanese patients with HER2-positive metastatic gastric or gastroesophageal junction cancer: a subgroup analysis of the JACOB trial. *Int J Clin Oncol*, 25(2): 301-311, 2020.
- 039 **Demachi K, Bando H, Nomura H, Shitara K, Yoshino T, Yamaguchi M, Kawasaki T** : Clinical impact of renal impairment on the safety and efficacy of S-1 plus oxaliplatin in patients with advanced gastric cancer: a single institutional study. *Jpn J Clin Oncol*, 50(2):129-137, 2020.
- 040 **Shitara K, Honma Y, Omuro Y, Yamaguchi K, Chin K, Muro K, Nakagawa S, Kawakami S, Hironaka S, Nishina T** : Efficacy of trastuzumab emtansine in Japanese patients with previously treated HER2-positive locally advanced or metastatic gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma: A subgroup analysis of the GATSBY study. *Asia Pac J Clin Oncol*, 16(1): 5-13, 2020.
- 041 **Suzuki T, Sukawa Y, Imamura CK, Masuishi T, Satake H, Kumekawa Y, Funakoshi S, Kotaka M, Horie Y, Kawai S, Okuda H, Terazawa T, Kondoh C, Kato K, Yoshimura K, Ishikawa H, Hamamoto Y, Boku N, Takaishi H, Kanai T** : A Phase II Study of Regorafenib With a Lower Starting Dose in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: Exposure-Toxicity Analysis of Unbound Regorafenib and Its Active Metabolites (RESET Trial). *Clin Colorectal Cancer*, 19(1):13-21, 2020.
- 042 **Van Cutsem E, Muro K, Cunningham D, Bodoky G, Sobrero A, Cascinu S, Ajani J, Oh SC, Al-Batran SE, Wainberg ZA, Wijayawardana SR, Melemed S, Ferry D, Hozak RR, Ohtsu A** : RAINBOW Investigators: Biomarker analyses of second-line ramucirumab in patients with advanced gastric cancer from RAINBOW, a global, randomized, double-blind, phase 3 study. *Eur J Cancer*, 31: 127: 150-157, 2020.
- 043 **坂東英明** : ①【大腸癌】MSI,dMMRを中心に. がん免疫療法, Vol.3 No.1:45-47, 2019.
- 044 **坂東英明** : 切除不能進行・再発胃がんに対する二次化学療法. 胃がん perspective, Vol.10 No.4:326-332, 2019.
- 045 **安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 門脇重憲, 室圭** : 高度局所進行食道癌に対する導入 DCF 療法後手術療法の成績. 癌の臨床, 64 巻 4 号 :235-242, 2019.
- 046 **門脇重憲** : 各臓器がん別にみる新しいバイオマーカーとコンパニオン診断薬 1) 上部消化管がん. 腫瘍内科 Vol24 No.5, 化学評論社 : 421-431, 2019.11 月
- 047 **室圭** : 日本と各国における大腸がん化学療法の臨床試験グループの比較. 大腸がん perspective, Vol.4 No.2:158-161, 2019.
- 048 **室圭** : 消化管がんに対する免疫チェックポイント阻害薬. 日本内科学会雑誌, 第 108 巻 第 9 号 :1777-1787, 2019.
- 049 **室圭** : Lower G.I./Colon and Rectum Cancer 大腸癌大腸癌治療ガイドライン 2019 年版のポイント, 主たる変更点. 癌と化学療法, Vol.46 第 11 号 :1700-1713, 2019.
- 050 **舩石俊樹** : レジデントのための診療 Essence - BRAF 遺伝子変異について教えてください. 大腸がん perspective, Vol.4 No.3:76-79, 2019.
- 051 **坂東英明** : 標準治療終了後の転移性胃がん症例に対し

て、トリフルリジン/チピラシルとプラセボを比較するランダム化二重盲検Ⅲ相試験 (TAGS 試験). 胃がん perspective, Vol.11 No.1: 50-52, 2020.

- 052 門脇重憲 : 胃がん化学療法の臨床開発と展望. 明日の臨床, 32 巻 1 号 :13-20, 2020.

#### 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 Jain D, Nambirajan A, Borczuk A, Chen G, Minami Y, Moreira AL, Motoi N, Papotti M, Rekhtman N, Russell PA, Savic Prince S, Yatabe Y, Bubendorf L : IASLC Pathology Committee. Immunocytochemistry for predictive biomarker testing in lung cancer cytology. Cancer Cytopathol, 127(5):325-339, 2019.
- 002 Sivakumar S, San Lucas FA, Jakubek YA, McDowell TL, Lang W, Kallsen N, Peyton S, Davies GE, Fukuoka J, Yatabe Y, Zhang J, Futreal PA, Fowler J, Fujimoto J, Ehli EA, Hawk ET, Wistuba II, Kadara H, Scheet P : Genomic landscape of allelic imbalance in premalignant atypical adenomatous hyperplasias of the lung. EBioMedicine, Apr;42:296-303, 2019.
- 003 Koshikawa T, Fujita N, Ueda N, Ota Y, Sasaki E, Murakami Y, Hosoda W, Yatabe Y, Hanai N, Higuchi M, Hirokawa M, Miyauchi A : Important cytological findings for distinction between follicular variant and conventional papillary thyroid carcinoma, including noninvasive follicular thyroid tumors with papillary-like nuclear features. Endocr J, 28;66(5):475-483, 2019.
- 004 Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Furukawa M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Sakaguchi M, Ishii H, Kojima Y, Matsuo K, Yoshitomi H, Nakamori S, Yanagimoto H, Yatabe Y, Furuse J, Mizuno N : Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should be Considered Separately. Ann Surg Oncol, 26(5):1385-1393, 2019.
- 005 Mikubo M, Seto K, Kitamura A, Nakaguro M, Hattori Y, Maeda N, Miyazaki T, Watanabe K, Murakami H, Tsukamoto T, Yamada T, Fujita S, Masago K, Ramkissoon S, Ross JS, Elvin J, Yatabe Y : Calculating the Tumor Nuclei Content for Comprehensive Cancer Panel Testing. J Thorac Oncol, pii: S1556-0864(19)33409-4, 2019.
- 006 Koshikawa T, Fujita N, Ueda N, Ota Y, Sasaki E, Murakami Y, Hosoda W, Yatabe Y, Hanai N, Higuchi M, Hirokawa M, Miyauchi A : Important cytological findings for distinction between follicular variant and conventional papillary thyroid carcinoma, including noninvasive follicular thyroid tumors with papillary-like nuclear features. Endocr J, 28;66(5):475-483, 2019.
- 007 Masago K, Horio Y, Fujita S, Yatabe Y : Minimal residual disease after radical surgery in EGFR-mutant non-small cell lung cancer. Transl Lung Cancer Res. 2019 Dec;8.
- 008 Kondoh C, Horio Y, Hayashi Y, Ebi H, Hida T, Hasegawa Y, Yatabe Y : Anaplastic lymphoma kinase expression in small-cell lung cancer. Histopathology, 75(1):20-28, 2019.
- 009 Yatabe Y, Dacic S, Borczuk AC, Warth A, Russell PA, Lantuejoul S, Beasley MB, Thunnissen E, Pelosi G, Rekhtman N, Bubendorf L, Mino-Kenudson M, Yoshida A, Geisinger KR, Noguchi M, Chirieac LR, Bolting J, Chung JH, Chou TY, Chen G, Poleri C, Lopez-Rios F, Papotti M, Sholl LM, Roden AC, Travis WD, Hirsch FR, Kerr KM, Tsao MS, Nicholson AG, Wistuba I, Moreira AL : Best Practices Recommendations for Diagnostic Immunohistochemistry in Lung Cancer. J Thorac Oncol, 14(3):377-407, 2019.
- 010 Catherine G Fischer, Violeta Beleva Guthrie, Alicia M Braxton, Lily Zheng, Pei Wang, Qianqian Song, James F Griffin, Peter E Chianchiano, Waki Hosoda, Noushin Niknafs, Simeon Springer, Marco Dal Molin, David Masica, Robert B Scharpf, Elizabeth D Thompson, Jin He, Christopher L Wolfgang, Ralph H Hruban, Nicholas J Roberts, Anne Marie Lennon, Yuchen Jiao, Rachel Karchin, Laura D Wood : Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms Arise From Multiple Independent Clones, Each With Distinct Mutations. Gastroenterology, Oct;157(4):1123-1137, 2019.
- 011 Seto K, Haneda M, Masago K, Fujita S, Kato S, Sasaki E, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Horio Y, Hida T, Okubo K, Yatabe Y : Negative reactions of BRAF mutation-specific immunohistochemistry to non-V600E mutations of BRAF. Pathol Int, [Epub ahead of print], 2020.
- 012 Sasaki E, Masago K, Fujita S, Hanai N, Yatabe Y : Frequent KRAS and HRAS mutations in squamous cell papillomas of the head and neck. J Pathol Clin Res. [Epub ahead of print], 2020.
- 013 村上善子, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント -】 (第 16 章) 乳腺・腹膜 侵襲性血管粘液腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page370-373, 2019.
- 014 棚橋千里, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント -】 (第 16 章) 乳腺・腹膜 乳腺原発低悪性度血管肉腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page367-369, 2019.
- 015 佐々木英一, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント -】 (第 16 章) 乳腺・腹膜 乳腺化生癌. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page364-366, 2019.
- 016 額賀明子, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント -】 (第 13 章) 卵巣 卵巣甲状腺腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page332-334, 2019.
- 017 加藤省一, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント -】 (第 11 章) 尿路・前立腺・膀胱 尿管管 PE-Coma. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page270-272, 2019.
- 018 細田和貴, 谷田部 恭 : 【肉眼病理 - 症例から探る鑑別の

- ヒント-) (第9章) 腭 腭漿液性嚢胞腫瘍. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page239-241,2019.
- 019 佐々木英一, 谷田部 恭:【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント-) (第8章) 肝胆脾 肝血管筋脂肪腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page209-211,2019.
- 020 山本宗平, 谷田部 恭:【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント-) (第4章) 肺・縦隔 嚢胞化を伴うセミノーマ. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page122-124,2019.
- 021 長坂 暢, 谷田部 恭:【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント-) (第4章) 肺・縦隔 硬化性肺胞上皮腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page116-118,2019.
- 022 北村淳子, 谷田部 恭:【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント-) (第4章) 肺・縦隔 異型腺腫様過形成. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page113-115,2019.
- 023 菅野雅人, 谷田部 恭:【肉眼病理 - 症例から探る鑑別のヒント-) (第3章) 唾液腺 基底細胞腺腫. 病理と臨床, 37 巻臨増 Page80-83,2019.
- 024 谷田部 恭:【非小細胞肺癌薬物療法の選択と実際】薬物療法を大きく左右する非小細胞肺癌の診断. 病理と臨床, 15 巻2号 Page77-82,2019.
- 025 加藤省一: 外来での悪性リンパ腫診断・治療 Q&A 悪性リンパ腫の病理診断上配慮すべきことは何か?. 日本医事新報, 4985号 Page23-24,2019.
- 026 柴田典子: JAMT 技術教本シリーズ - 遺伝子・染色体検査技術教本. 119-130,2019.

## 頭頸部外科部

- 001 Hanai N, Asakage T, Kiyota N, Homma A, Hayashi R: Controversies in relation to neck management in N0 early oral tongue cancer. Jpn J Clin Oncol, 49(4):297-305,2019.
- 002 Head and Neck Cancer Study Group (HNCSSG), Monden N, Asakage T, Kiyota N, Homma A, Matsuura K, Hanai N, Kodaira T, Zenda S, Fujii H, Tahara M, Yokota T, Akimoto T, Iwae S, Onitsuka T, Ogawa T, Okano S, Takahashi S, Shimizu Y, Yonezawa K, Hayashi R: A review of head and neck cancer staging system in the TNM classification of malignant tumors (eighth edition). Jpn J Clin Oncol, 49(7):589-595,2019.
- 003 Imamura Y, Kiyota N, Ogawa G, Akimoto T, Fujii M, Hanai N, Iwae S, Monden N, Matsuura K, Onozawa Y, Hayashi R, Tahara M: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Head and Neck Cancer Study Group. Nutritional support dependence after curative chemoradiotherapy in head and neck cancer: supplementary analysis of a phase II trial (JCOG0706S1). Jpn J Clin Oncol, 49(11):1009-1015,2019.
- 004 Araki K, Tomifuji M, Shiotani A, Hirano S, Yokoyama J, Tsukahara K, Homma A, Yoshimoto S, Hasegawa Y: Minimally invasive surgery for laryngopharyngeal cancer: Multicenter feasibility study of a combination strategy involving transoral surgery and real-time indocyanine green fluorescence-navigated sentinel node navigation surgery. Head Neck, 42(2):254-261,2020.
- 005 Suzuki H, Sasaki E, Motai R, Goto S, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N: Safety and Efficacy of Salvage Neck Dissection Following Carbon-ion Radiotherapy with Chemotherapy for a Patient with Mucosal Malignant Melanoma of Head and Neck. Diagnostics (Basel), 10(2):82,2020.
- 006 Terada H, Sasaki E, Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Hanai N: An examination of the cutoff value of the depth of invasion for prophylactic neck dissection in stage I/II tongue cancer. Acta Otolaryngol, 140(5):422-426,2020.
- 007 Suzuki H, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N: Prognostic Value of Age and Distant Metastasis in Differentiated Thyroid Carcinoma Undergoing Salvage Surgery. Anticancer Res, 40(2):1127-1133,2020.
- 008 Suzuki H, Sasaki E, Nishikawa D, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Terada H, Hanai N: p16-positive oropharyngeal cancer with rare thyroid metastasis: A case report. J Med Invest, 67(1.2):189-191,2020.
- 009 Terada H, Suzuki H, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Hasegawa Y: Prognostic value of lymph node density for major salivary gland carcinoma without clinical lymph node metastasis. Am J Otolaryngol, 41(1):102304,2020.
- 010 小出悠介, 花井信広: 頸部郭清術後の乳び漏. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 救急・当直マニュアル-いざというときの対応法-. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 増刊号 91(5), 医学書院, 東京, p341-345,2019.
- 011 花井信広, 青山寿昭, 岩井美世子, 久保 知, 藤下 礼: 臓器別がん Basic & New 症例 FILE 付き 頭頸部がん. YORi-SOU がんナーシング, 9(4):467-484,2019.
- 012 花井信広: 頸部・甲状腺・食道手術 SOND. JOHNS, 35(9):1295-1299,2019.
- 013 萩原純孝, 花井信広, 古江浩樹, 伊藤千春, 長谷川泰久: 愛知県がんセンターで行った口腔機能管理医療連携モデル事業とその研修効果に関する検討. 頭頸部癌, 45(3):286-299,2019.
- 014 西川大輔, 花井信広: 頸部郭清術. JOHNS, 35(12):1725-1731,2019.
- 015 花井信広: 早期舌癌の治療戦略 - 予防的頸部郭清術の適応 -. 耳鼻と臨床, 65(補1):S8-11,2019.
- 016 花井信広: Stage I/II 舌癌に対する予防的頸部郭清術の意義を検証するための多施設共同臨床試験. 日本耳鼻咽喉科学会会報, 122(8):1107-1112,2019.
- 017 蓑原 潔, 欄真一郎, 斎藤明子, 花井信広: 鎖骨上部に発生した炎症性筋線維芽細胞腫瘍例. 耳鼻咽喉科臨床, 112(12):813-819,2019.
- 018 別府慎太郎, 花井信広:【舌がん・口腔がん治療の最前線】治療 頸部郭清早期がんへの予防的頸部郭清は必要? 治療的郭清の範囲と方法は? 耳鼻咽喉科・頭頸部外科,



97(13):1122-1127,2019.

- 019 花井信広, 寺田星乃 : 超音波診断におけるリンパ節の計測法 . 乳腺甲状腺超音波医学, 9(1):57-59,2020.

## 形成外科部

- 001 Okumura S, Hyodo I, Iwata H : Immediate one-stage implant-based breast reconstruction without the use of acellular dermal matrix in Japanese breast cancer patients. Breast Cancer, Epub ahead of print,2020.
- 002 中村亮太, 赤澤 聡, 市川佑一, 青山昌平, 木内智喜, 御任大輔, 中川雅裕 : 遊離腓骨皮弁再建後の異所性骨化に関する検討 . 日本形成外科学会誌, 39: 258-263,2019.
- 003 御任大輔, 赤澤 聡, 青山昌平, 市川佑一, 中村亮太, 木内智喜, 鬼塚哲郎, 中川雅裕 : 腓骨皮弁による下顎再建後に再発し、肩甲骨皮弁で再再建を行った下肉肉癌の1例 . 形成外科, 63: 229-236,2020

## 呼吸器外科部

- 001 Kuroda H, Sugita Y, Nakanishi K, Oya Y, Sakakura N, Sakao Y : Favorable clinical application for segmental bronchial closure based on experiment results. J Thorac Dis,11(6):2267-2273,2019.
- 002 Kuroda H, Sugita Y, Watanabe K, Nakanishi K, Sakakura N, Naito Y, Sakao Y : Successful postoperative recovery management after thoracoscopic lobectomy and segmentectomy using an ERAS-based protocol of immediate ice cream intake and early ambulation: a 3-year study. Cancer Manag Res,7:11:4201-4207,2019.
- 003 Kuroda H, Sugita Y, Oya Y, Takahashi Y, Nakanishi K, Sakakura N, Sakao Y, Iwata H, Hida T : Presurgical heterogeneity of lung 18FDG-PET uptake predicts acute exacerbation of interstitial lung disease following pulmonary resection in patients with smoke exposures. Journal of Surgical Oncology, Volume 2(2): 2-7,2019.
- 004 Kuroda H, Sugita Y, Nakanishi K, Sakao Y : Lymph node dissection in the left upper lobe: clinical outcomes and surgical techniques in Japan. Mediastinum, doi: 10.21037/med,2019.
- 005 Takahashi Y, Nakada T, Sakakura N, Kuroda H : Is skeletal muscle mass an optimal marker for postoperative outcomes in lung cancer patients?. J Thorac Dis,11(12):5643-5645,2019.
- 006 Takahashi T, Kuroda H, Oya Y, Matsutani N, Matsushita H, Kawamura M : Challenges for real-time intraoperative diagnosis of high risk histology in lung adenocarcinoma: A necessity for sublobar resection. Thorac Cancer,10 (8):1663-1668, 2019.
- 007 Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Sakao Y : Prima-

ry pneumonectomy, pneumonectomy after induction therapy, and salvage pneumonectomy: a comparison of surgical and prognostic outcomes. J Thorac Dis, 12:2672-82,2020.

- 008 Nakanishi K, Sakakura N, Matsui T, Ueno H, Nakada T, Oya Y, Shimizu J, Hida T, Hosoda W, Kuroda H : Clinicopathological Features, Surgical Outcomes, Oncogenic Status and PD-L1 Expression of Pulmonary Pleomorphic Carcinoma. Anticancer Res, 39(10):5789-5795, 2019.
- 009 Nakanishi K, Mizuno T, Sakakura N, Kuroda H, Shimizu J, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y : Salvage surgery for small cell lung cancer after chemoradiotherapy. Jpn J Clin Oncol,1:49(4):389-392, 2019
- 010 Nakanishi K, Kuroda H, Nakada T, Ueno H, Sakakura N : Thoracoscopic lobectomy using indocyanine green fluorescence to detect the interlobar fissure in a patient with displaced B3 and absence of fissure: A case report. Thorac Cancer, 10(7):1654-1656, 2019.

## 乳腺科部

- 001 Sawaki M, Miyamoto T, Fujisawa T, Itoh Y, Ebara T, Tachibana H, Kodaira T, Kikumori T, Yanagita Y, Iwata H : Multicenter Phase II Study of Intraoperative Radiotherapy of Early Breast Cancer: Ipsilateral Tumor Recurrence. Annals of Surgical Oncology, 26: 2428-2434, 2019.
- 002 André F, Ciruelos E, Rubovszky G, Campone M, Loi S, Rugo HS, Iwata H, Conte P, Mayer IA, Kaufman B, Yamashita T, Lu YS, Inoue K, Takahashi M, Pápai Z, Longin AS, Mills D, Wilke C, Hirawat S, Juric D : SOLAR-1 Study Group. The New England Journal of Medicine, 16:380(20):1929-1940, 2019.
- 003 Nakajima E, Iwase T, Miyagi Y, Fujita T, Ikeda N, Ishikawa T, Iwata H : Association of Parity and Infant Feeding Method with Breast Density on Mammography. Academic Radiology, pii: S1076-6332(19)30179-5. doi: 10.1016/j.acra.2019.03.020. [Epub ahead of print], 2019.
- 004 Terada M, Gondo N, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Adachi Y, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Ozaki Y, Iwata H : A case of giant cell tumor of the breast, clinically suspected as malignant breast tumor. Surgical Case Reports, 10;5(1):77, 2019.
- 005 Iwata H, Masuda N, Kim SB, Inoue K, Rai Y, Fujita T, Chiu J, Ohtani S, Takahashi M, Miyaki T, Lu YS, Xu B, Yap YS, Bustam A, Yao B, Zhang B, Bryce R, Chan A : Neratinib after trastuzumab-based adjuvant therapy in patients from Asia with early stage HER2-positive breast cancer . Future Oncology, 15(21):2489-2501. doi: 10.2217/fon-2019-0143, 2019.
- 006 Tamura K, Tsurutani J, Takahashi S, Iwata H, Krop IE, Redfern C, Sagara Y, Doi T, Park H, Murthy RK, Redman

- RA, Jikoh T, Lee C, Sugihara M, Shahidi J, Yver A, Modi S** : Trastuzumab deruxtecan (DS-8201a) in patients with advanced HER2-positive breast cancer previously treated with trastuzumab emtansine: a dose-expansion, phase 1 study. *Lancet Oncology*, 20(6):816-826, 2019.
- 007 **Sawaki M, Kodaira T, Iwata H** : ASO Author Reflections: The Strengths and Weaknesses of Intraoperative Radiotherapy for Early Breast Cancer and Ipsilateral Tumor Recurrence. *Annals of Surgical Oncology*, 26: S660-S661, 2019.
- 008 **Masuda N, Mukai H, Inoue K, Rai Y, Ohno S, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Umeyama Y, Iwata H, Toi M** : Neutropenia management with palbociclib in Japanese patients with advanced breast cancer. *Breast Cancer*, 26(5):637-650, 2019.
- 009 **Iwamoto T, Niikura N, Ogiya R, Yasojima H, Watanabe KI, Kanbayashi C, Tsuneizumi M, Matsui A, Fujisawa T, Iwasa T, Shien T, Saji S, Masuda N, Iwata H** : Distinct gene expression profiles between primary breast cancers and brain metastases from pair-matched samples. *Scientific Reports*, 9(1):13343. doi: 10.1038/s41598-019-50099-y, 2019.
- 010 **Terada M, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Naomi G, Kotani H, Adachi Y, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Ozaki Y, Iwata H** : Patient-reported outcomes and objective assessments with arm measurement and bioimpedance analysis for lymphedema among breast cancer survivors. *Breast Cancer Research and Treatment*, doi: 10.1007/s10549-019-05443-1. [Epub ahead of print], 2019.
- 011 **Iwata H, Inoue K, Kaneko K, Ito Y, Tsugawa K, Hasegawa A, Nakagawa S, Kuratomi H, Tamura K** : Subgroup analysis of Japanese patients in a Phase 3 study of atezolizumab in advanced triple-negative breast cancer (IMpassion130). *Japanese Journal of Clinical Oncology*, pii: hyz135. doi: 10.1093/jjco/hyz135. [Epub ahead of print], 2019.
- 012 **Yamauchi C, Yoshimura M, Sekiguchi K, Hamamoto Y, Nakajima N, Sanuki N, Ogo E, Oguchi M, Saji S, Iwata H** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline for radiation treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-019-01019-5. [Epub ahead of print], 2019.
- 013 **Hattori M, Nakanishi H, Yoshimura M, Iwase M, Yoshimura A, Adachi Y, Gondo N, Kotani H, Sawaki M, Fujita N, Yatabe Y, Iwata H** : Circulating tumor cells detection in tumor draining vein of breast cancer patients. *Scientific Reports*, 2019 Dec 3;9(1):18195. doi: 10.1038/s41598-019-54839-y, 2019.
- 014 **Hattori M, Hagiwara S, Kotani H, Tatematsu M, Tachi M, Hijioka S, Shimizu J, Andoh M, Mizuno Y, Sawaki M, Yoshimura A, Gondo N, Adachi Y, Yoshimura K, Iwata H** : A single-arm, phase 2 study of steroid-containing mouthwash for the prevention of everolimus-associated stomatitis in multiple tumor types. *The International Journal of Clinical Oncology*, 2019 Oct;24(10):1320-1327. doi: 10.1007/s10147-019-01476-0, 2019.
- 015 **Iwase M, Hattori M, Sawaki M, Yoshimura A, Kotani H, Gondo N, Adachi Y, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Horisawa N, Mori M, Terada M, Iwata H** : Presence of small residual malignant lesions in pathologic complete response after neo-adjuvant chemotherapy in patients with breast cancer. *The Breast Journal*, 25(6):1303-1305. doi: 10.1111/tbj.13473. Epub , 2019.
- 016 **Tamura K, Inoue K, Masuda N, Takao S, Kashiwaba M, Tokuda Y, Yamamoto N, Aogi K, Saeki T, Nakayama T, Sato N, Toyama T, Ishida T, Arioka H, Saito M, Ohno S, Yamauchi H, Yamada K, Watanabe J, Ishiguro H, Fujiwara Y, Uematsu T, Nakashima K, Kikuchi M, Kubota K, Suzuki A, Nakano S, Hirokaga K, Yamaguchi K, Saji S, Iwata H** : The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Breast Cancer Screening and Diagnosis, 2018 Edition. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-019-01025-7. [Epub ahead of print], 2019.
- 017 **Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Matsuo, K** : Impact of Germinal Center-Associated Nuclear Protein Polymorphisms on Breast Cancer Risk and Prognosis in a Japanese Population. *Breast cancer*, 26(5):562-572. doi: 10.1007/s12282-019-00956-5, 2019.
- 018 **Adachi Y, Okumura S, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Sakamoto S, Iwata H** : Effects of neoadjuvant chemotherapy on operative adverse events and chemotherapy and radiotherapy in patients undergoing immediate breast reconstruction. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-020-01065-4. Online ahead of print, 2019.
- 019 **Gondo N, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Mori M, Horisawa N, Terada M, Ozaki Y, Iwata H** : Impact of BMI for clinical outcomes in Japanese breast cancer patients. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, Volume 50 Issue 3 : 230-240, 2020.
- 020 **服部正也, 岩田広治** : 【新規抗悪性腫瘍薬の開発】 新規抗体薬 HER2-ADC(解説/特集). *腫瘍内科*, 24 巻 1 号 : 7-12, 2019.
- 021 **服部正也, 岩田広治** : 【新しいバイオマーカーとコンパニオン診断薬】 各臓器がん別にみる新しいバイオマーカーとコンパニオン診断薬 乳がん(解説/特集). *腫瘍内科*, 24 巻 5 号 : 452-458, 2019.

消化器外科部

- 001 **Iwata Y, Kinoshita T, Kimura K, Komori K, Hayashi D, Akazawa T, Shigeyoshi I, Tsutsuyama M, Kawakami J, Ouchi A, Natsume S, Uemura N, Ito S, Misawa K, Senda Y, Abe T, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yoshida K, Shimizu Y** : A long-term survival case of Sister Mary Joseph's nodule caused by colon cancer and treated with a multidisciplinary approach. *Nagoya J Med Sci*,81:325-329,2019.
- 002 **Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y** : Diagnostic ability of artificial intelligence using deep learning analysis of cyst fluid in differentiating malignant from benign pancreatic cystic lesions. *Sci Rep*,9:6893,2019.
- 003 **Oshiro T, Komori K, Kinoshita T, Ouchi A, Tsutsuyama M, Shimizu Y** : Laparoscopic Right Hemicolectomy With Radical Lymph Node Dissection Along the Superior Mesenteric Artery Using a Multidirectional Approach. *Dis Colon Rectum*,62:638,2019.
- 004 **Yoshida K, Koderu Y, Kochi M, Ichikawa W, Kakeji Y, Sano T, Nagao N, Takahashi M, Takagane A, Watanabe T, Kaji M, Okitsu H, Nomura T, Matsui T, Yoshikawa T, Matsuyama, J, Yamada M, Ito S, Takeuchi M, Fujii M** : Addition of Docetaxel to Oral Fluoropyrimidine improves Efficacy in Patients With Stage III Gastric Cancer: interim Analysis of JACCRO GC-07, a Randomized Controlled Trial. *J Clin Oncol*,37: 1296-1304, 2019
- 005 **An B, Abe T, Uemura N, Higaki E, Hosoi T, Kuroda H, Matsui T, Ishihara M, Kurita Y, Yatabe Y, Shimizu Y** : Simultaneous resections of left lung cancer and esophageal schwannoma using video-assisted thoracoscopic surgery: A case report. *Asian J Endosc Surg*,12:348-353, 2019.
- 006 **Toriyama K, Hijioka S, Oseto K, Mizuno N, Tanaka T, Ishihara M, Tajika M, Shimizu Y, Hara K, Niwa Y** : Diagnosis of pancreatic neuroendocrine tumor led to diagnosis of multiple endocrine neoplasia type 1: a report of two cases. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi*,116:531-539,2019.
- 007 **Hosoi T, Abe T, Uemura N, Higaki E, Kawai R, Kawakami J, An B, Nagino M, Shimizu Y** : The Impact of Circular Stapler Size on the Incidence of Cervical Anastomotic Stricture After Esophagectomy. *World J Surg*,43:1746-1755,2019.
- 008 **Komori K, Okuno N, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, An B, Hayashi D, Uchino T, Kunitomo A, Oki S, Takano J, Suenaga Y, Maeda S, Dei H, Numata Y, Shimizu Y** : Ileal conduit necrosis after total pelvic exenteration for recurrence of gastrointestinal stromal tumor. *Nagoya J Med Sci*,81:529-534,2019
- 009 **Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Hijioka S, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K** : Conversion surgery only for highly selected patients with unresectable pancreatic cancer: a satisfactory outcome in exchange for a lower resection rate. *Surg Today*, 49:670-677,2019.
- 010 **Kuriki R, Hata T, Nakayama K, Ito Y, Misawa K, Ito S, Tatematsu M, Kaneda N** : Tegafur and 5-fluorouracil levels in tears and changes in tear volume in long-term users of the oral anticancer drug S-1. *Nagoya J Med Sci*,81:415-425,2019.
- 011 **Iizuka A, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto Y, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Koderu Y** : Proposal of a Scoring Scale to Estimate Risk of the Discontinuation of S-1 Adjuvant Monotherapy in Patients with Stage II to III Gastric Cancer: A Multi-institutional Dataset Analysis. *World J Surg*,43:2016-2024,2019.
- 012 **Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, Nagao T, Kunitomo A, Oki S, Takano J, Suenaga Y, Maeda S, Dei H, Numata Y, Shimizu Y** : Surgical Strategy for Rectovaginal Fistula After Colorectal Anastomosis at a High-Volume Cancer Center According to Image Type and Colonoscopy Findings. *Anticancer Res*,39:5097-5103,2019.
- 013 **Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, An B, Hayashi D, Uchino T, Kunitomo A, Oki S, Takano J, Suenaga Y, Maeda S, Dei H, Numata Y, Shimizu Y** : Prognostic predictions based on pathological findings of peritoneal dissemination in patients with stage IV colorectal cancer without residual disease (R0 status). *Surg Today*,49:755-761,2019.
- 014 **Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Koderu Y** : Multi-institutional analysis of the prognostic significance of postoperative complications after curative resection for gastric cancer. *Cancer Med*,8:5194-5201,2019.
- 015 **Katai H, Mizusawa J, Katayama H, Kunisaki C, Sakuramoto S, Inaki N, Kinoshita T, Iwasaki Y, Misawa K, Takiguchi N, Kaji M, Okitsu H, Yoshikawa T, Terashima M; Stomach Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group** : Single-arm confirmatory trial of laparoscopy-assisted total or proximal gastrectomy with nodal dissection for clinical stage gastric cancer: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1401. *Gastric Cancer*, 22:999-1008,2019.
- 016 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic significance

- of sarcopenia in patients with unresectable advanced esophageal cancer. *J Clin Med*,8:1647,2020.
- 017 **Misawa K, Mochizuki Y, Sakai M, Teramoto H, Morimoto D, Nakayama H, Tanaka N, Matsui T, Ito Y, Ito S, Tanaka K, Uemura K, Morita S, Kodera Y** : Chubu Clinical Oncology Group : Randomized clinical trial of extensive intraoperative peritoneal lavage versus standard treatment for resectable advanced gastric cancer (CCOG 1102 trial). *Br J Surg*. 106:1602-1610,2019.
- 018 **Iwaya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Tamada K, Ido A, Hara K** : Usefulness of septal thickness measurement on endoscopic ultrasound as a predictor of malignancy of branched-duct and mixed-type intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Dig Endosc*,31:672-681,2019.
- 019 **Oda M, Roth HR, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Mori K** : Abdominal artery segmentation method from CT volumes using fully convolutional neural network. *Int J Comput Assist Radiol Surg*,14:2069-2081,2019.
- 020 **Chen L, Bentley P, Mori K, Misawa K, Fujiwara M, Rueckert D** :Self-supervised learning for medical image analysis using image context restoration. *Med Image Anal*, 58: 101539,2019.
- 021 **Toriyama K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Sasaki E, Abe T, Yatabe Y, Hara K, Matsuo K, Tamaki T, Niwa Y** : Clinical relevance of fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography and magnifying endoscopy with narrow band imaging in decision-making regarding the treatment strategy for esophageal squamous cell carcinoma. *World J Gastroenterol*,25:6767-6780,2019.
- 022 **Hirono S, Shimizu Y, Ohtsuka T, Kin T, Hara K, Kanno A, Koshita S, Hanada K, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Ueki T, Shimokawa T, Hijioka S, Yanagisawa A, Nakamura M, Okazaki K, Yamaue H** : Recurrence patterns after surgical resection of intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) of the pancreas; A multicenter, retrospective study of 1074 IPMN patients by the Japan Pancreas Society. *J Gastroenterol*,55:86-99,2020.
- 023 **Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Oonishi S, Hirayama Y, Tanaka T, Tajika M, Koide Y, Kodaira t, Abe T, Muro K** : Risk of second primary malignancies after definitive treatment for esophageal cancer. A competing risk analysis. *Cancer Med*,9:394-400,2020.
- 024 **Tsutsuyama M, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Tumor size  $\geq 50$  mm as an Independent Prognostic Factor for Patients with Stage II or III Gastric Cancer After Postoperative S-1 Monotherapy: Analysis of a Multi-institution Dataset. *World J Surg*,44:194-201,2020.
- 025 **Ito Y, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Prognosis After Laparoscopic Gastrectomy in Patients with Pathological Stage II or III Gastric Cancer Who Were Preoperatively Diagnosed with Clinical Stage I: Propensity Score Matching Analysis of a Multicenter Dataset. *Ann Surg Oncol*,27:268-275,2020.
- 026 **Katai H, Mizusawa J, Katayama H, Morita S, Yamada T, Bando E, Ito S, Takagi M, Takagane A, Teshima S, Koeda K, Nunobe S, Yoshikawa T, Terashima M, Sasako M** : Survival outcomes after laparoscopy-assisted distal gastrectomy versus open distal gastrectomy with nodal dissection for clinical stage IA or IB gastric cancer (JCOG0912): a multicentre, non-inferiority, phase 3 randomised controlled trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol*,5: 142-151,2020.
- 027 **Ohtsuka T, Nakamura M, Hijioka S, Shimizu Y, Unno M, Tanabe M, Nagakawa Y, Takaori K, Hirono S, Gotohda N, Kimura W, Ito K, Katanuma A, Sano T, Urata T, Kita E, Hanada K, Tada M, Aoki T, Serikawa M, Okamoto K, Isayama H, Gotoh Y, Ishigami K, Yamaguchi H, Yamao K, Sugiyama M, Okazaki K** : Prediction of the Probability of Malignancy in Mucinous Cystic Neoplasm of the Pancreas With Ovarian-Type Stroma: A Nationwide Multi-center Study in Japan. *Pancreas*,49:181-186,2020.
- 028 **Kunitomo A, Misawa K, Sato Y, Ito Y, Ito S, Hosoi T, Okuno M, Higaki E, Oshiro T, Natsume S, Kinoshita T, Senda Y, Abe T, Komori K, Inaba Y, Shimizu Y** : Gastroduodenal artery pseudoaneurysm hemorrhage 1 year after laparoscopic distal gastrectomy: a case report. *Surg Case Rep*,6:38,2020.
- 029 **Sasahara M, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : The Preoperative Prognostic Nutritional Index Predicts Short-Term and Long-Term Outcomes of Patients with Stage II / III Gastric Cancer:Analysis of a Multi-Institution Dataset. *Dis Surg*,37:135-144,2020.
- 030 **Kurita Y, Kuwahara T, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Matsumoto S, Obata M, Koda H, Tajika M, Shimizu Y, Nakajima A, Kubota K, Niwa Y** : Features of chronic pancreatitis by endoscopic ultrasound influence the diagnostic accuracy of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration of small pancreatic lesions. *Dig Endosc*,32:399-408,2020.
- 031 **Takahari D, Ito S, Mizusawa J, Katayama H, Terashima M, Sasako M, Morita S, Nomura T, Yamada M, Fujiwara Y, Kimura Y, Ikeda A, Kadokawa Y, Sano T** :Stomach Cancer Study Group of the Japan ClinicalOncology

- group : Long-term outcomes of preoperative docetaxel with cisplatin plus S-1 therapy for gastric cancer with extensive nodal metastasis (JCOG1002). Gastric Cancer,23:293-299,2020.
- 032 栗田裕介, 桑原崇通, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 松本慎平, 鳥山和浩, 孝田博輝, 小畑雅寛, 脇岡 範, 清水泰博, 稲葉吉隆, 中島 淳, 窪田賢輔, 原 和生:【膵神経内分泌腫瘍の診断と治療の最前線】膵神経内分泌腫瘍診断に対するソマトスタチン受容体シンチグラフィの有用性. 膵臓 ,34:78-85,2019.
- 033 堀口明彦, 清水泰博: わが国におけるロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術の課題は? learning curve に基づいた教育システムの構築が困難であることが最大の課題 (Q & A). 日本医事新報 ,4955号 :51-52,2019.
- 034 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 門脇重憲, 室圭, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博:【局所進行食道癌に対する治療戦略】高度局所進行食道癌に対する導入 DCF 療法後手術療法の成績. 癌の臨床 ,64:235-242,2019.
- 035 夏目誠治:【先輩が教える“現場のヒント”が満載! 図解でイメトレ! 消化器外科・内科病棟はじめてさんのケアマニュアル】(第4章) しておこう! 消化器の疾患と治療 膵臓の良性疾患と治療. 消化器ナーシング, 2019 春季増刊 :226-232,2019.
- 036 夏目誠治:【先輩が教える“現場のヒント”が満載! 図解でイメトレ! 消化器外科・内科病棟はじめてさんのケアマニュアル】(第4章) しておこう! 消化器の疾患と治療 膵臓の悪性疾患と治療. 消化器ナーシング, 2019 春季増刊 :233-239,2019.
- 037 浅井宗一郎, 深谷昌秀, 檜垣栄治, 宮田一志, 三浦泰智, 榑野正人: 胸腔鏡下に切除した初診時血中 CA19-9 高値食道 duplication cyst の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 ,80:700-706,2019.
- 038 脇岡 範, 清水泰博, 原 和生, 島田和明, 奥坂拓志: 胆嚢病変の良悪性診断における EUS および EUS-FNA の役割. 胆道 ,33:224-233,2019.
- 039 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司: 手術手技 Soft pancreas, 主膵管非拡張症例に対する陥入法 (invagination technique) による簡便な膵腸吻合, 手術 ,73: 1113-1118,2019.
- 040 鳥山和浩, 脇岡 範, 大瀬戸久美子, 水野伸匡, 田中 努, 石原 誠, 田近正洋, 清水泰博, 原 和生, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に診断に至った多発性内分泌腫瘍症 1 型の 2 例. 日本消化器病学会雑誌 ,116:531-539,2019.
- 041 鈴木拓矢, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 単眼腹腔鏡映像からの奥行き推定を利用した術具セグメンテーション. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:124-129,2019.
- 042 盛満慎太郎, 小澤卓也, 北坂孝幸, 林 雄一郎, 小田昌宏, 竹下修由, 伊藤雅昭, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡動画像からの Fully Convolutional Network による血管領域抽出. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:395-398,2019.
- 043 北坂孝幸, 伊藤幹也, 駒形和哉, 三澤一成, 森 健策: 開腹手術映像における遮蔽物除去システムの VR 化. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:488-491,2019.
- 044 申 忱, Roth Holger R, 林 雄一郎, 小田昌宏, 小田紘久, 三澤一成, 森 健策: 転移学習を用いた腹部 thick-slice CT 像における多臓器領域の自動抽出の初期検討. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:510-513,2019.
- 045 日比裕太, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 伊東隼人, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: グラフ畳み込みニューラルネットワークを用いた腹部動脈血管名自動命名の初期検討. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:615-617,2019.
- 046 林 雄一郎, 申 忱, Roth Holger R, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 深層学習を用いた非造影 CT 画像からの複数臓器領域の抽出に関する検討. 日本医用画像工学会大会予稿集 ,38:626-629,2019.
- 047 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原和生, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 丹羽康正:【術後内視鏡診療のすべて】消化器手術後の内視鏡検査 サーベイランスと異時性病変の診断 遺伝性腫瘍術後の内視鏡サーベイランス. 消化器内視鏡 ,31:1324-1330,2019.
- 048 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博:【すぐに使える周術期管理マニュアル】特殊な治療手技 CT ガイド下ドレナージ. 臨床外科 ,74:332-335,2019.
- 049 國友愛奈, 檜垣栄治, 安部哲也, 細井敬泰, 伊藤誠二, 清水泰博: 周囲臓器とともに R0 切除した横隔膜上憩室発生進行食道癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 ,80:1999-2005,2019.
- 050 小林宏寿, 固武健二郎, 浅野道雄, 石黒めぐみ, 石原聡一郎, 猪股雅史, 金光幸秀, 小森康司, 松本 寛, 杉原健一:【外科医とがん登録-NCD から見えてきたわが国のがん治療の実態-】大腸癌登録. 日本外科学会雑誌 ,120:657-662,2019.
- 051 細井敬泰, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 手術手技 食道切除後の Collard 変法を用いた頸部食道胃管吻合の方法と成績. 手術 ,73:1829-1838,2019.
- 052 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博:【遭遇の機会が増えた IPMN/ 膵嚢胞-現状と課題】IPMN/ 膵嚢胞の診療 国内外における EUS-FNA の現状と嚢胞液解析を絡めた診断の展望. 臨床消化器内科 ,34:1490-1494,2019.
- 053 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ:【膵癌治療の進歩】unresectable-locally advanced 膵癌に対する術前化学放射線療法および conversion surgery の意義. 消化器外科 ,42:1791-1801,2019.
- 054 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理 Q&A ~】導入 まずは伝えたい術後ケアにおいて大切なこと. 消化器ナーシング ,25:10-13,2020.
- 055 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理

Q&A ~】術後管理の外せないポイント Q & A 大抵のことは患者さんが教えてくれる. 消化器ナーシング,25:14-29,2020.

- 056 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理 Q&A ~】ドレーン排液の異常 Q&A 恥は一瞬、後悔は一生. 消化器ナーシング,25: 30-41,2020.
- 057 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理 Q&A ~】ドレーン管理の基本 Q&A めざせ! プロのドレーン管理人. 消化器ナーシング,25:42-53,2020.
- 058 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理 Q&A ~】術後の合併症アセスメント Q&A 患者さんの命を守るために. 消化器ナーシング,25:54-63,2020.
- 059 夏目誠治:【笑えるくらいよくわかる・使える! Dr. なつめのわくわく講義~消化器術後ケアとドレーン管理 Q&A ~】まとめ 講義のふり返り. 消化器ナーシング,25:64-67,2020.
- 060 奥野正隆, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 細田和貴, 原 和生:【IPMN・MCN 国際診療ガイドライン総まとめ】IPMN 切除断端術中迅速診断結果への対応. 胆と膵,41:73-79,2020.
- 061 藤原道隆, 岩田直樹, 三澤一成, 丹羽由起子, 高見秀樹, 田中千恵, 小寺泰弘: VR 手術シミュレータの 20 年と今日的意義. VR 医学,16:1-14,2020.
- 062 國友愛奈, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 清水泰博: 甲状腺転移をきたした胃癌の 1 例. 臨床外科,75:359-364,2020.
- 063 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 清水泰博:【EUS の現状と将来】診断 人工知能 (Deep learning) を用いた IPMN 良悪性診断の現状. 肝・胆・膵,80:427-433,2020.
- 064 安部哲也, 檜垣榮治, 細井敬泰, 安 炳九, 長尾拓哉, 清水泰博: 各分野のガイドラインを紐解く 食道癌 食道癌診療ガイドラインに基づく外科治療のエビデンス. 日本外科学会雑誌,121:230-232,2020.

## 整形外科部

- 001 Nakamura T, Tsukushi S, Asanuma K, Katagiri H, Ikuta K, Nagano A, Kozawa E, Yamada S, Shido Y, Yamada K, Kawanami K, Ishimura D, Sudo A, Nishida Y: The clinical outcome of eribulin treatment in Japanese patients with advanced soft tissue sarcoma: a Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium study. Clin Exp Metastasis, 36(4):343-350, 2019.
- 002 Nagano A, Matsumoto S, Kawai A, Okuma T, Hiraga H, Matsumoto Y, Nishida Y, Yonemoto T, Hosaka M, Takahashi M, Yoshikawa H, Kunisada T, Asanuma K, Naka N, Emori M, Kubo T, Kawashima H, Kawamoto T,

Yokoyama R, Tsukushi S, Sato K, Okamoto T, Hiraoka K, Morioka H, Tanaka K, Takagi T, Iwamoto Y, Ozaki T: Osteosarcoma in patients over 50 years of age: Multi-institutional retrospective analysis of 104 patients. J Orthop Sci, S0949-2658(19)30128-9, 2019.

- 003 Ogura K, Uehara K, Akiyama T, Shinoda Y, Iwata S, Tsukushi S, Kobayashi E, Hirose T, Yonemoto T, Endo M, Tanzawa Y, Nakatani F, Kawano H, Tanaka S, Kawai A: Minimal clinically important differences in Toronto Extremity Salvage Score for patients with lower extremity sarcoma. J Orthop Sci, S0949-2658(19)30118-6, 2019.
- 004 Shimizu K, Hamada S, Sakai T, Ito S, Urakawa H, Arai E, Ikuta K, Koike H, Ishiguro N, Nishida Y: MRI characteristics predict the efficacy of meloxicam treatment in patients with desmoid-type fibromatosis. J Med Imaging Radiat Oncol,63(6):751-757, 2019.

## 泌尿器科部

- 001 Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Tanaka H, Koide Y, Tachibana H, Kodira T: Favorable 10-year outcomes of image-guided intensity-modulated radiotherapy combined with long-term androgen deprivation for Japanese patients with nonmetastatic prostate cancer. Asia Pac J Clin Oncol. 15:18-25,2019.
- 002 Furusawa J, Yamada Y, Soga N, Kuromatsu I: Optimal Monitoring of Prostate-Specific Antigen Detects Prostate Cancer at the Localized Stage after Photoselective Vaporization for Benign Prostatic Hyperplasia. Curr Urol, 12:147-152,2019.
- 003 Soga N, Inoko A, Furusawa J, Ogura Y: Evaluation to Differentiate between Tumor Lesions and the Parenchyma in Partial Nephrectomies for Renal Tumors Based on Quantitative Fluorescence Imaging Using Indocyanine Green Dye. Curr Urol. 13:74-81,2019.
- 004 Soga N, Furusawa J, Ogura Y: Long-Term Management of Incidental Bladder Cancer Detected in Patients Undergoing Prostatectomy for Prostate Cancer. Curr Urol. 13:145-149,2019.
- 005 Soga N, Ogura Y, Wakita T, Kageyama T, Furusawa J: The GP Score, a Simplified Formula (Bioptic Gleason Score Times Prostate Specific Antigen) as a Predictor for Biochemical Failure after Prostatectomy in Prostate Cancer. Curr Urol, 13:25-30,2019.
- 006 Ishihara M, Tono Y, Miyahara Y, Muraoka D, Harada N, Kageyama S, Sasaki T, Hori Y, Soga N, Uchida K, Shiraiishi T, Sato E, Kanda H, Mizuno T, Webster GA, Ikeda H, Katayama N, Sugimura Y, Shiku H: First-in-human phase I clinical trial of the NY-ESO-1 protein cancer vaccine with NOD2 and TLR9 stimulants in

patients with NY-ESO-1-expressing refractory solid tumors. *Cancer Immunol Immunother*, 69:663-675, 2020.

- 007 **Ishihara M, Kageyama S, Miyahara Y, Ishikawa T, Ueda S, Soga N, Naota H, Mukai K, Harada N, Ikeda H, Shiku H** : MAGE-A4, NY-ESO-1 and SAGE mRNA expression rates and co-expression relationships in solid tumours. *BMC cancer*, 20:606, 2020.

## 婦人科部

- 001 **Kajiyama H, Suzuki S, Utsumi F, Nishino K, Niimi K, Mizuno M, Yoshikawa N, Kawai M, Oguchi H, Mizuno K, Yamamuro O, Shibata K, Nagasaka T, Kikkawa F** : Epidemiological overview of metastatic ovarian carcinoma: long-term experience of TOTSG database. *Nagoya J Med Sci*, 81(2):193-198, 2019.
- 002 **Coleman RL, Fleming GF, Brady MF, Swisher EM, Steffensen KD, Friedlander M, Okamoto A, Moore KN, Efrat Ben-Baruch N, Werner TL, Cloven NG, Oaknin A, DiSilvestro PA, Morgan MA, Nam JH, Leath CA 3rd, Nicum S, Hagemann AR, Littell RD, Cella D, Baron-Hay S, Garcia-Donas J, Mizuno M, Bell-McGuinn K, Sullivan DM, Bach BA, Bhattacharya S, Ratajczak CK, Ansell PJ, Dinh MH, Aghajanian C, Bookman MA** : Veliparib with First-Line Chemotherapy and as Maintenance Therapy in Ovarian Cancer. *N Engl J Med*, 19:381(25):2403-2415, 2019.
- 003 **Nomura H, Aoki D, Susumu N, Mizuno M, Nakai H, Arai M, Nishio S, Tokunaga H, Nakanishi T, Watanabe Y, Yaegashi N, Yokoyama Y, Takehara K** : Analysis of the relapse patterns and risk factors of endometrial cancer following postoperative adjuvant chemotherapy in a phase III randomized clinical trial. *Gynecol Oncol*, 2019 155(3):413-419, 2019.
- 004 **Shimizu Y, Kajiyama H, Yoshida K, Tamauchi S, Nakanishi T, Kikkawa F** : The usefulness of bevacizumab for relief from symptomatic malignant ascites in patients with heavily treated recurrent ovarian cancer. *J Obstet Gynaecol Res*, Dec;45(12):2435-2439, 2019.
- 005 **茂木一将, 長船綾子, 黒田啓太, 花谷菜也, 服部 恵, 小林祐子, 可世木 聡, 松井純子, 梅津朋和** : 卵巣子宮内膜症性嚢胞を伴う骨盤腹膜炎 70 症例の後方視的検討 . 産婦人科の実際, 68(12): 1473-1479, 2019.
- 006 **水野美香** : どうする再発婦人科がん 肺再発 . 産科と婦人科, 86(10): 1221-1225, 2019.
- 007 **水野美香** : 産婦人科領域におけるレーザー治療 子宮頸部上皮内腫瘍に対する 5-aminolevulinic acid を用いた光線力学的療法 . 日本レーザー医学会誌, 40(4): 375-380, 2020.

## 脳神経外科部

- 001 **灰本章一, 西村由介, 江口 馨, 永島吉孝, 安藤 遼, 服部和良, Howard Ginsberg** : 後方靱帯複合体損傷を伴う不安定胸腰椎移行部外傷に対する後方固定術の術後アライメント . 脊髄外科 SPINAL SURGERY, 33: 298-301, 2019.

## 放射線診断・IVR部

- 001 **Hasegawa T, Inaba Y, Takahashi M, Chatani S, Dejima I, Tsukamoto H, Murata S, Kato M, Yamaura H, Onaya H** : Pseudoaneurysm formation and hemobilia as late complications after transarterial chemoembolization and radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma. *Interventional Radiology* 4, 32-35, 2019.
- 002 **Imai Y, Hasegawa T, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Kato M, Hara K, Nitta N, Inaba Y** : Management of acute cholecystitis after biliary stenting for malignant obstruction; comparison of percutaneous gallbladder drainage and aspiration . *Japanese Journal of Radiology* 37, 719-726, 2019.
- 003 **Takahashi M, Sato Y, Hara K, Okuno N, Dejima I, Murata S, Hasegawa T, Chatani S, Onaya H, Inaba Y** : Stent-graft placement for treatment of massive hemobilia caused by porto-biliary fistula . *International Journal Gastrointestinal Intervention* 8, 168-170, 2019.
- 004 **Yamashita T, Kudo M, Ikeda K, Izumi N, Tateishi R, Ikeda M, Aikata H, Kawaguchi Y, Wada Y, Numata K, Inaba Y, Kuromatsu R, Kobayashi M, Okusaka T, Kitamura C, Saito K, Haruna K, Okita K, Kumada H** : REFLECT-a phase 3 trial comparing efficacy and safety of lenvatinib to sorafenib for the treatment of unresectable hepatocellular carcinoma; an analysis of Japanese subset. *Journal of Gastroenterology* 55, 113-122, 2020.
- 005 **Horio Y, Mizuno T, Sakao Y, Inaba Y, Yatabe Y, Hida T** : Successful salvage surgery following multimodal therapy in a patient who harboured ALK-rearranged advanced lung adenocarcinoma with multiple organ metastases . *Respirology Case Reports* 7, e00451, 2019.
- 006 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic significance of sarcopenia in patients with unresectable advanced esophageal cancer . *Journal of Clinical Medicine* 8, 1647, 2019.
- 007 **Hidaka H, Izumi N, Aramaki T, Inaba Y, Imanaka K, Okusaka T, Kanazawa S, Kaneko S, Kora S, Saito H, Furuse J, Matsui O, Yamashita T, Yokosuka O, Morita S, Arioka H, Kudo M, Arai Y** : Subgroup analysis of efficacy and safety of orantinib in combination with TACE in Japanese HCC patients in a randomized phase III trial

- (ORIENTAL). *Medical Oncology*36, 52, 2019.
- 008 **Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Yamanaka T, Nakatsuka A, Sato Y, Takao M, Katayama Y, Fukai I, Kato T, Tokui T, Tempaku H, Adachi K, Matsushima Y, Inaba Y, Yamakado K** : Three-year survival rate after radiofrequency ablation for surgically resectable colorectal lung metastases. *Radiology* 294, 686-695, 2020.
- 009 **Gotohda N, Nomura S, Doi M, Karasawa K, Ohki T, Shimizu Y, Inaba Y, Takeda A, Takaki H, Anai H, Ikeda M, Sugimoto M, Akimoto T** : Clinical impact of radiofrequency ablation and stereotactic body radiation therapy for colorectal liver metastasis as local therapies for elderly, vulnerable patients. *Open Access Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2020, 1-7, 2020.
- 010 **村田慎一, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 高橋大雄, 茶谷祥平, 塚本裕一, 出嶋育朗, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 古田裕美, 樋田豊明, 谷田部 恭** : 肺癌における画像誘導下経皮的生検の有用性についての検討. *映像情報 Medical* 51, 58-59, 2019.
- 011 **村田慎一, 今井勇伍, 佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 管腔臓器の拡張 尿管拡張の鑑別. *画像診断* 39(11) 増刊号 救急疾患の鑑別診断のポイント, A84-87, 2019.
- 012 **村田慎一, 今井勇伍, 佐藤洋造, 稲葉吉隆** : 脂肪織濃度上昇 腎周囲の脂肪織濃度上昇の鑑別. *画像診断* 39(11) 増刊号 救急疾患の鑑別診断のポイント, A120-123, 2019.
- 013 **稲葉吉隆, 佐藤洋造** : 進化する肝細胞癌の薬物療法 -2019 Update(Part2) TACE と分子標的治療薬の併用療法の臨床試験 これまでの negative 試験の総括. *肝胆膵* 79, 433-437, 2019.
- 014 **佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博** : 特殊な治療手技 CT ガイド下ドレナージ. *臨床外科* 74(1) 増刊号 すぐに使える周術期管理マニュアル, 332-335, 2019.
- 015 **長谷川貴章, 山中隆嗣, 山門享一郎** : ラジオ波焼灼術・経皮的凍結治療を考慮する患者とは? その成績は?. *臨床腫瘍プラクティス* 15, 233-236, 2019.
- 016 **稲生真夕, 村田慎一** : 急性咽頭蓋炎. *浦添 ER 診療ガイドブック*. 中外医学社, 22-25, 2019.
- 017 **稲森大治, 村田慎一** : アナフィラキシー. *浦添 ER 診療ガイドブック*. 中外医学社, 26-29, 2019.
- 018 **稲葉吉隆, 佐藤洋造** : 肝動注リザーバー療法に関するガイドライン. *クリニシアン* 66(676), 102-112, 2019.
- 019 **村田慎一, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 山浦秀和** : 腫瘍遺伝子検査のための画像下生検. *臨床放射線* 65(2), 103-109, 2020.
- 17(1) : 1384-90, 2019.
- 002 **Sawaki M, Miyamoto T, Fujisawa T, Itoh Y, Ebara T, Tachibana H, Kodaira T, Kikumori T, Yanagita Y, Iwata H** : Multicenter Phase II Study of Intraoperative Radiotherapy of Early Breast Cancer: Ipsilateral Tumor Recurrence. *Ann Surg Oncol*26(8): 2428-2434, 2019.
- 003 **Shimizu H, Sasaki K, Ito M, Aoyama T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Tanaka H, Koide Y, Iwata T, Kodaira T** : Impact of treatment planning using a structure block function on the target and organ doses related to patient movement in cervical esophageal cancer: A phantom study. *J Appl Clin Med Phys*, 20(5):75-83, 2019.
- 004 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Tanaka H, Koide Y, Tachibana H, Kodaira T** : Favorable 10-year outcomes of image-guided intensity-modulated radiotherapy combined with long-term androgen deprivation for Japanese patients with nonmetastatic prostate cancer. *Asia Pac J Clin Oncol*, 15(1):18-25, 2019.
- 005 **Monden N, Asakage T, Kiyota N, Homma A, Matsuura K, Hanai N, Kodaira T, Zenda S, Fujii H, Tahara M, Yokota T, Akimoto T, Iwae S, Onitsuka T, Ogawa T, Okano S, Takahashi S, Shimizu Y, Yonezawa K, Hayashi R** : A review of head and neck cancer staging system in the TNM classification of malignant tumors (eighth edition). *Jpn J Clin Oncol*, 49(7):589-595, 2019.
- 006 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Matsushima S, Isomura T, Fukuma H, Tachibana H, Kodaira T** : Development of twist-correction system for radiotherapy of head and neck cancer patients. *J Appl Clin Med Phys*, 20(7):128-134, 2019.
- 007 **Sawaki M, Kodaira T, Iwata H** : The Strengths and Weaknesses of Intraoperative Radiotherapy for Early Breast Cancer and Ipsilateral Tumor Recurrence. *Ann Surg Oncol*, Sup3 : 660-661, 2019.
- 008 **Kanno M, Narita N, Fujimoto Y, Wakisaka N, Yoshizaki T, Kodaira T, Makita C, Sato Y, Yamazaki K, Wakaoka T, Shimode Y, Tsuji H, Kito R, Ishinaga H, Hosokawa S, Takakura H, Nishimura K, Matoba T, Fujieda S** : Third epidemiological analysis of nasopharyngeal carcinoma in the central region of Japan from 2006 to 2015 *Cancers* . 11(8) : E1180, 2019.
- 009 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Inaba Y, Kodaira T, Abe T, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Prognostic Significance of Sarcopenia in Patients with Unresectable Advanced Esophageal Cancer. *J Clin Med*, 8(10):. E1647, 2019.
- 010 **Koide Y, Tomita N, Adachi S, Tanaka H, Tachibana H, Kodaira T** : Retrospective analysis of hypofractionated stereotactic radiotherapy for tumors larger than 2 cm. *Nagoya J Med Sci* ,81(3) : 397-406, 2019.
- 011 **Yamauchi-Kawaura C, Fujii K, Yamauchi M, Imai K, Ikeda M, Narai K, Shimizu H** : DEVELOPMENT OF A

## 放射線治療部

- 001 **Suzuki H, Terada H, Hanai N, Nishikawa, Beppu S, Kodaira T, Tachibana H, Koide Y, Tanaka H, Hasegawa Y** : Treatment package time predicts cancer-specific survival and distant metastasis in laryngeal cancer. *Oncol Lett*,



JAPANESE INFANT HEAD-CHEST PHANTOM AND INVESTIGATION OF THE CURRENT STATUS OF INFANT HEAD CT EXAMINATIONS IN JAPAN. Radiat Prot Dosimetry, 10.1093/rpd/ncz261: 2019.

- 012 **Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Oonishi S, Hirayama Y, Tanaka T, Tajika M, Koide Y, Kodaira T, Abe T, Muro K** : Risk of second primary malignancies after definitive treatment for esophageal cancer. A competing risk analysis. *Cancer Med* 2019, 9(1) : 394-400, 2020.
- 013 **Ueda Y, Takakura T, Ota S, Kito S, Sasaki K, Shimizu H, Tatsumi D, Yano S, Nakamura M** : Questionnaire survey on treatment planning techniques for lung stereotactic body radiotherapy in Japan. *J Radiat Res*, 61(1) : 104-116, 2020.
- 014 **古平 毅** : 進行頭頸部癌治療の最前線 放射線治療の最前線 —IMRTを中心に—. *癌と化学療法*, 46(1),10-13, 2019.
- 015 **古平 毅** : 頭頸部癌に対する免疫療法と放射線治療 現状と今後. *臨床放射線*, 64(11),1331-1337, 2019.
- 016 **古平 毅** : 特集 放射線治療最前線 高精度放射線治療の到達点と将来展望 III 強度変調放射線治療(IMRT)の現状と今後の展望 1. 強度変調放射線治療(IMRT)の特徴と適応. *INNERVISION*, 34(11),19-21, 2019.
- 017 **太田陽介, 古平 毅, 藤井博文, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 横田知哉, 本間明宏, 上田眞也, 秋元哲夫** : 日本人の頭頸部扁平上皮癌患者に対するCetuximab併用放射線治療の観察研究(JROSG12-2)有害事象に関する中間評価. *頭頸部癌*, 45(3),330-6, 2019.
- 018 **青山貴洋, 清水秀年, 磯村泰己, 北川智基, 田中健登, 古平 毅** : 頭尾方向に厚さが異なる寝台に対する線量減弱補正精度向上のための新しい自作の寝台モデルの考案. *日本放射線技術学会雑誌*, (75)10,1125-34, 2019.
- 019 **青山貴洋** : 解剖学的構造を考慮した新しい輪郭描出法の確立. *日本放射線技師会誌*, 66(10),1154-1165, 2019.

## 緩和ケア部

- 001 **Odagiri T, Morita T, Sakurai H, Yamada H, Matsuo N, Matsumoto Y, Matsuda Y, Yoshioka A, Watanabe H, Shimoyama S, Kohara H** : A Multicenter Cohort Study to Explore Differentiating Factors between Tumor Fever and Infection among Advanced Cancer Patients. *J Palliat Med*, 11: 1331-1336, 2019

## 精神腫瘍科部

- 001 **Komori, Y, Vorwort I** : Der weitgereiste Mr. Schizo. In Unterholzer, C.C. und Just, A.(Hrsg.) *Wie Symptome siegen und wie sie scheitern:Zur Wirksamkeit und zum*

Einsatz der DVDs Ana Ex, Morton Mies, Vreni Shizzo und Romni Rocket. Ein Handbuch. Systemische Forschung im Carl-Auer Verlag, Heiderberg, 2019.

- 002 **小森康永** : ナラティブ・セラピーの物語と語り、臨床精神病理、40(2):158-164, 2019.
- 003 **小森康永** : トータルペインを聴く、家族療法研究、36(3)234-239, 2019.
- 004 **早川裕子, 小森康永, 浅野正嗣** : 「あたかも」症例検討会を経験したソーシャルワーカーの一例、家族療法研究、36(3)273-280, 2019.
- 005 **L.ヘツキとJ.ウィンズレイド** 手作りの悲嘆(小森康永, 奥野 光, ヘミ和香訳) : 北大路書房、2019.
- 006 **MK サーウィックほか** グラフィック・メディスン・マニフェスト (小森康永ほか訳) : 北大路書房、2019.
- 007 **A.グッドヘッドとN.ハートレー** (編) みんなのスピリチュアリティ (小森康永ほか訳) : 北大路書房、2020.

## 看護部

- 001 **岩井美世子** : 「がん治療と就労の両立支援のための院内連携」,12月掲載,東和薬品HP「抗がん剤NZVI」内エキスパートコラム (<http://navitowa-oncology.jp/>), 2019.
- 002 **岩井美世子** : 臓器別がん Basic&New ~症例FILEつき~ 頭頸部がん .YORi-SOU がんナーシング, 9(4), メディカ出版 :85,100, 2019.
- 003 **久保 知** : 頭頸部がん .YORi-SOU がんナーシング,9(4), メディカ出版 :92-97, 2019.
- 004 **向井未年子** : いまこそ考えたい 苦痛スクリーニング~いかに患者ケアにつなげるか~ .がん看護, 24(5), 南江堂 : 431-527, 2019.
- 005 **青山寿昭** : 臓器別がん 頭頸部がん .YORi-SOU がんナーシング 9(4), メディカ出版 :83-100, 2019.
- 006 **青山寿昭** : 放射線治療による嚥下障害. *嚥下医学* 8(2), 中山書店 :145-146, 2019.
- 007 **藤下 礼** : 臓器別がん B a s i c & N e w ~症例FILEつき~ 頭頸部がん .YORi-SOU がんナーシング 9(4), メディカ出版 : 99-100, 2019.

## 6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（研究所）

### がん情報・対策研究分野

- 001 **Koyanagi YN, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K**: Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-Induced Digestive Tract Carcinogenesis: An Evaluation by Mediation Analysis. *Cancer Res*, 80(7):1601-10, 2020.
- 002 **Yang JJ, Yu D, Wen W, Saito E, Rahman S, Shu XO, Chen Y, Gupta PC, Gu D, Tsugane S, Xiang YB, Gao YT, Yuan JM, Tamakoshi A, Irie F, Sadakane A, Tomata Y, Kanemura S, Tsuji I, Matsuo K, Nagata C, Chen CJ, Koh WP, Shin MH, Park SK, Wu PE, Qiao YL, Pednekar MS, He J, Sawada N, Li HL, Gao J, Cai H, Wang R, Sairenchi T, Grant E, Sugawara Y, Zhang S, Ito H, Wada K, Shen CY, Pan WH, Ahn YO, You SL, Fan JH, Yoo KY, Ashan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, Zheng W**: Association of Diabetes with All-Cause and Cause-Specific Mortality in Asia: A Pooled Analysis of More Than 1 Million Participants. *JAMA Netw Open*, 2(4):e192696, 2019.
- 003 **Iwasaki Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Okada R, Hishida A, Tanaka K, Hara M, Takezaki T, Shimatani K, Ozaki E, Koyama T, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Miyagawa N, Kadota A, Ikezaki H, Furusyo N, Oze I, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Wakai K**: Associations of Nutrient Patterns with the Prevalence of Metabolic Syndrome: Results from the Baseline Data of the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Nutrients*, 11(5), 2019.
- 004 **Ishikura N, Usui Y, Ito H, Kasugai Y, Oze I, Kato S, Yatabe Y, Nakamura S, Matsuo K**: Helicobacter Pylori (Hp) Infection Alone, but Not Hp-Induced Atrophic Gastritis, Increases the Risk of Gastric Lymphoma: A Case-Control Study in Japan. *Ann Hematol*, 98(8):1981-7, 2019.
- 005 **Koyanagi YN, Ito H, Matsuo K, Sugawara Y, Hidaka A, Sawada N, Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, Lin Y, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Sadakane A, Mizoue T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Tsugane S, Inoue M**: Smoking and Pancreatic Cancer Incidence: A Pooled Analysis of 10 Population-Based Cohort Studies in Japan. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 28(8):1370-8, 2019.
- 006 **Yamagishi K, Iso H, Shimazu T, Tamakoshi A, Sawada N, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nakayama T, Kitamura Y, Sado J, Tsuji I, Sugawara Y, Mizoue T, Inoue M, Nagata C, Sadakane A, Tanaka K, Tsugane S, Sasazuki S**: Fish Intake and Risk of Mortality Due to Aortic Dissection and Aneurysm: A Pooled Analysis of the Japan Cohort Consortium. *Clin Nutr*, 38(4):1678-83, 2019.
- 007 **Dörk T, Peterlongo P, Mannermaa A, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Ahearn T, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Aronson KJ, Augustinsson A, Freeman LEB, Beckmann MW, Beeghly-Fadiel A, Behrens S, Bermisheva M, Blomqvist C, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Burwinkel B, Canzian F, Chan TL, Chang-Claude J, Chanock SJ, Choi JY, Christiansen H, Clarke CL, Couch FJ, Czene K, Daly MB, Dos-Santos-Silva I, Dwek M, Eccles DM, Ekici AB, Eriksson M, Evans DG, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fritschi L, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, Gao C, Gapstur SM, Garcia-Closas M, Garcia-Saenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Goldberg MS, Goldgar DE, Guenel P, Haeberle L, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Hartman M, Hauke J, Hein A, Hillemanns P, Hogervorst FBL, Hooning MJ, Hopper JL, Howell T, Huo D, Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jung A, Kaaks R, Kang D, Kapoor PM, Khusnutdinova E, Kim SW, Kitahara CM, Koutros S, Kraft P, Kristensen VN, Kwong A, Lambrechts D, Marchand LL, Li J, Lindström S, Linet M, Lo WY, Long J, Lophatananon A, Lubinski J, Manoochchri M, Manoukian S, Margolin S, Martinez E, Matsuo K, Mavroudis D, Meindl A, Menon U, Milne RL, Mohd Taib NA, Muir K, Mulligan AM, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Neven P, Newman WG, Offit K, Olopade OI, Olshan AF, Olson JE, Olsson H, Park SK, Park-Simon TW, Peto J, Plaseska-Karanfilska D, Pohl-Rescigno E, Presneau N, Rack B, Radice P, Rashid MU, Rennert G, Rennert HS, Romero A, Ruebner M, Saloustros E, Schmidt MK, Schmutzler RK, Schneider MO, Schoemaker MJ, Scott C, Shen CY, Shu XO, Simard J, Slager S, Smichkoska S, Southey MC, Spinelli JJ, Stone J, Surowy H, Swerdlow AJ, Tamimi RM, Tapper WJ, Teo SH, Terry MB, Toland AE, Tollenaar R, Torres D, Torres-Mejia G, Troester MA, Truong T, Tsugane S, Untch M, Vachon CM, Ouweland A, Veen EMV, Vijai J, Wendt C, Wolk A, Yu JC, Zheng W, Ziogas A, Ziv E, Dunning AM, Pharoah PDP, Schindler D, Devilee P, Easton DF**: Two Truncating Variants in Fancc and Breast Cancer Risk. *Sci Rep*, 9(1):12524, 2019.
- 008 **Liu R, Kitamura Y, Kitamura T, Sobue T, Sado J, Sugawara Y, Matsuo K, Nakayama T, Tsuji I, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Tominaga S**: Reproductive and Lifestyle Factors Related to Breast Cancer among Japanese Women: An Observational Cohort Study. *Medicine (Baltimore)*, 98(51):e18315, 2019.
- 009 **Usui Y, Matsuo K, Oze I, Ugai T, Koyanagi Y, Maeda Y, Ito H, Hishida A, Takeuchi K, Tamura T, Tsukamoto**

- M, Kadomatsu Y, Hara M, Nishida Y, Shimoshikiryo I, Takezaki T, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Nakagawa-Senda H, Mikami H, Nakamura Y, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Ikezaki H, Murata M, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K*: Impact of Psca Polymorphisms on the Risk of Duodenal Ulcer. *J Epidemiol*, 2019.
- 010 *Hosgood HD, 3rd, Klugman M, Matsuo K, White AJ, Sadakane A, Shu XO, Lopez-Ridaura R, Shin A, Tsuji I, Malekzadeh R, Noisel N, Bhatti P, Yang G, Saito E, Rahman S, Hu W, Bassig B, Downward G, Vermeulen R, Xue X, Rohan T, Abe SK, Broët P, Grant EJ, Dummer TJB, Rothman N, Inoue M, Lajous M, Yoo KY, Ito H, Sandler DP, Ashan H, Zheng W, Boffetta P, Lan Q*: The Establishment of the Household Air Pollution Consortium (Hapco). *Atmosphere (Basel)*, 10(7), 2019.
- 011 *Hishida A, Ugai T, Fujii R, Nakatochi M, Wu MC, Ito H, Oze I, Tajika M, Niwa Y, Nishiyama T, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Koyama T, Matsui D, Watanabe Y, Kawaguchi T, Matsuda F, Momozawa Y, Kubo M, Naito M, Matsuo K, Wakai K*: Gwas Analysis Reveals a Significant Contribution of Psca to the Risk of Helicobacter Pylori-Induced Gastric Atrophy. *Carcinogenesis*, 40(5):661-8, 2019.
- 012 *Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Ito H, Naito M, Wada K, Nagata C, Nakayama T, Kitamura Y, Sadakane A, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Sawada N, Mizoue T, Inoue M, Tanaka K, Tsugane S, Shimazu T*: Alcohol Drinking and Bladder Cancer Risk from a Pooled Analysis of Ten Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 30(7):309-13, 2020.
- 013 *Abe SK, Saito E, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Lin Y, Tamakoshi A, Sado J, Kitamura Y, Sugawara Y, Tsuji I, Nagata C, Sadakane A, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M*: Coffee Consumption and Mortality in Japanese Men and Women: A Pooled Analysis of Eight Population-Based Cohort Studies in Japan (Japan Cohort Consortium). *Prev Med*, 123:270-7, 2019.
- 014 *Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Furusyo N, Murata M, Tanaka K, Shimano C, Suzuki S, Watanabe M, Kuriyama N, Koyama T, Takezaki T, Shimoshikiryo I, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takashima N, Turin TC, Kuriki K, Endoh K, Mikami H, Nakamura Y, Oze I, Ito H, Kubo M, Momozawa Y, Kondo T, Naito M, Wakai K*: Association of Genetic Risk Score and Chronic Kidney Disease in a Japanese Population. *Nephrology (Carlton)*, 24(6):670-3, 2019.
- 015 *Uemura H, Katsuura-Kamano S, Iwasaki Y, Arisawa K, Hishida A, Okada R, Tamura T, Kubo Y, Ito H, Oze I, Shimano C, Nishida Y, Nakamura Y, Takashima N, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Nishimoto D, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Furusyo N, Ikezaki H, Ozaki E, Koyama T, Kuriki K, Endoh K, Naito M, Wakai K*: Independent Relationships of Daily Life Activity and Leisure-Time Exercise with Metabolic Syndrome and Its Traits in the General Japanese Population. *Endocrine*, 64(3):552-63, 2019.
- 016 *Ugai T, Milne RL, Ito H, Aronson KJ, Bolla MK, Chan T, Chan CW, Choi JY, Conroy DM, Dennis J, Dunning AM, Easton DF, Gaborieau V, Gonzalez-Neira A, Hartman M, Healey CS, Iwasaki M, John EM, Kang D, Kim SW, Kwong A, Lophatananon A, Michailidou K, Taib NAM, Muir K, Park SK, Pharoah PDP, Sangrajrang S, Shen CY, Shu XO, Spinelli JJ, Teo SH, Tessier DC, Tseng CC, Tsugane S, Vincent D, Wang Q, Wu AH, Wu PE, Zheng W, Matsuo K*: The Functional Aldh2 Polymorphism Is Associated with Breast Cancer Risk: A Pooled Analysis from the Breast Cancer Association Consortium. *Mol Genet Genomic Med*, 7(6):e707, 2019.
- 017 *Ishiguro J, Ito H, Tsukamoto M, Iwata H, Nakagawa H, Matsuo K*: A Functional Single Nucleotide Polymorphism in Abcc11, Rs17822931, Is Associated with the Risk of Breast Cancer in Japanese. *Carcinogenesis*, 40(4):537-43, 2019.
- 018 *Nishiyama T, Nakatochi M, Goto A, Iwasaki M, Hachiya T, Sutoh Y, Shimizu A, Wang C, Tanaka H, Watanabe M, Hosono A, Tamai Y, Yamada T, Yamaji T, Sawada N, Fukumoto K, Otsuka K, Tanno K, Tomita H, Kojima K, Nagasaki M, Hozawa A, Hishida A, Sasakabe T, Nishida Y, Hara M, Ito H, Oze I, Nakamura Y, Mikami H, Ibusuki R, Takezaki T, Koyama T, Kuriyama N, Endoh K, Kuriki K, Turin TC, Naoyuki T, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Okada R, Kawai S, Naito M, Momozawa Y, Kubo M, Sasaki M, Yamamoto M, Tsugane S, Wakai K, Suzuki S*: Genome-Wide Association Meta-Analysis and Mendelian Randomization Analysis Confirm the Influence of Aldh2 on Sleep Duration in the Japanese Population. *Sleep*, 42(6), 2019.
- 019 *Wong JYY, Zhang H, Hsiung CA, Shiraishi K, Yu K, Matsuo K, Wong MP, Hong YC, Wang J, Seow WJ, Wang Z, Song M, Kim HN, Chang IS, Chatterjee N, Hu W, Wu C, Mitsudomi T, Zheng W, Kim JH, Seow A, Caporaso NE, Shin MH, Chung LP, An SJ, Wang P, Yang Y, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Cai Q, Yin Z, Kim YC, Bassig BA, Chang J, Ho JCM, Ji BT, Daigo Y, Ito H, Momozawa Y, Ashikawa K, Kamatani Y, Honda T, Hosgood HD, Sakamoto H, Kunitoh H, Tsuta K, Watanabe SI, Kubo M, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Shi J, Song L, Hua X, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wei F, Matsuda F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Song F, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Chien LH, Xiang YB, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Lee KM, Blechter B, Li H, Gao YT, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Wang WC, Chung CC, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt SI, Wu W, Pang H, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Zhu M, Chen CH*

- Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Hsin M, Sit KY, Ho J, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Lin CC, Park IK, Xu P, Wang Y, He Q, Perng RP, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Li YJ, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Chen TY, Jiang SS, Liu J, Yamaji T, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Cui P, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Chen Y, Yang K, Jiang G, Fei K, Wu G, Lin HC, Chen HL, Fang YH, Tsai FY, Hsieh WS, Yu J, Stevens VL, Laird-Offringa IA, Marconett CN, Rieswijk L, Chao A, Yang PC, Shu XO, Wu T, Wu YL, Lin D, Chen K, Zhou B, Huang YC, Kohno T, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q: Tuberculosis Infection and Lung Adenocarcinoma: Mendelian Randomization and Pathway Analysis of Genome-Wide Association Study Data from Never-Smoking Asian Women. *Genomics*, 112(2):1223-32, 2020.
- 020 Shu X, Long J, Cai Q, Kweon SS, Choi JY, Kubo M, Park SK, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Yang Y, Shi J, Guo X, Li B, Tao R, Aronson KJ, Chan KYK, Chan TL, Gao YT, Hartman M, Kee Ho W, Ito H, Iwasaki M, Iwata H, John EM, Kasuga Y, Soon Khoo U, Kim MK, Kong SY, Kurian AW, Kwong A, Lee ES, Li J, Lophatananon A, Low SK, Mariapun S, Matsuda K, Matsuo K, Muir K, Noh DY, Park B, Park MH, Shen CY, Shin MH, Spinelli JJ, Takahashi A, Tseng C, Tsugane S, Wu AH, Xiang YB, Yamaji T, Zheng Y, Milne RL, Dunning AM, Pharoah PDP, Garcia-Closas M, Teo SH, Shu XO, Kang D, Easton DF, Simard J, Zheng W: Identification of Novel Breast Cancer Susceptibility Loci in Meta-Analyses Conducted among Asian and European Descendants. *Nat Commun*, 11(1):1217, 2020.
- 021 Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimano C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Naoyuki T, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K: Differential Effect of Polymorphisms on Body Mass Index across the Life Course of Japanese: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 2020.
- 022 Nakagawa-Senda H, Hori M, Matsuda T, Ito H: Prognostic Impact of Tumor Location in Colon Cancer: The Monitoring of Cancer Incidence in Japan (MCIJ) Project. *BMC Cancer*, 19(1):431, 2019.
- 023 Islam Z, Akter S, Kashino I, Mizoue T, Sawada N, Mori N, Yamagiwa Y, Tsugane S, Naito M, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Sugawara Y, Tsuji I, Matsuo K, Ito H, Lin Y, Kitamura Y, Sadakane A, Tanaka K, Shimazu T, Inoue M: Meat Subtypes and Colorectal Cancer Risk: A Pooled Analysis of 6 Cohort Studies in Japan. *Cancer Sci*, 110(11):3603-14, 2019.
- 024 Ugai T, Ito H, Oze I, Saito E, Rahman MS, Boffetta P, Gupta PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Gao YT, Sadakane A, Tsuji I, Park SK, Nagata C, You SL, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Xiang YB, Ozasa K, Tomata Y, Kanemura S, Sugawara Y, Wada K, Chen CJ, Yoo KY, Chia KS, Ahsan H, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter J, Matsuo K: Association of Bmi, Smoking, and Alcohol with Multiple Myeloma Mortality in Asians: A Pooled Analysis of More Than 800,000 Participants in the Asia Cohort Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 28(11):1861-7, 2019.
- 025 Low SK, Chin YM, Ito H, Matsuo K, Tanikawa C, Matsuda K, Saito H, Sakurai-Yageta M, Nakaya N, Shimizu A, Nishizuka SS, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Takezaki T, Suzuki S, Naito M, Wakai K, Kamatani Y, Momozawa Y, Murakami Y, Inazawa J, Nakamura Y, Kubo M, Katagiri T, Miki Y: Identification of Two Novel Breast Cancer Loci through Large-Scale Genome-Wide Association Study in the Japanese Population. *Sci Rep*, 9(1):17332, 2019.
- 026 Abe SK, Saito E, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Lin Y, Tamakoshi A, Sado J, Kitamura Y, Sugawara Y, Tsuji I, Nagata C, Sadakane A, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M: Green Tea Consumption and Mortality in Japanese Men and Women: A Pooled Analysis of Eight Population-Based Cohort Studies in Japan. *Eur J Epidemiol*, 34(10):917-26, 2019.
- 027 Oze I, Charvat H, Matsuo K, Ito H, Tamakoshi A, Nagata C, Wada K, Sugawara Y, Sawada N, Yamaji T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Mizoue T, Tsugane S, Inoue M: Revisit of an Unanswered Question by Pooled Analysis of Eight Cohort Studies in Japan: Does Cigarette Smoking and Alcohol Drinking Have Interaction for the Risk of Esophageal Cancer? *Cancer Med*, 8(14):6414-25, 2019.
- 028 Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Mizoue T, Inoue M, Sawada N, Matsuo K, Ito H, Naito M, Nagata C, Kitamura Y, Sadakane A, Tsugane S, Shimazu T: Coffee, Green Tea and Liver Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 49(10):972-84, 2019.
- 029 Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Matsuo K: Impact of Germinal Center-Associated Nuclear Protein Polymorphisms on Breast Cancer Risk and Prognosis in a Japanese Population. *Breast Cancer*, 26(5):562-72, 2019.
- 030 Oze I, Ito H, Nishino Y, Hattori M, Nakayama T, Miyashiro I, Matsuo K, Ito Y: Trends in Small-Cell Lung Cancer Survival in 1993-2006 Based on Population-Based Cancer Registry Data in Japan. *J Epidemiol*, 29(9):347-53, 2019.

- 001 **Nakatochi M, Kanai M, Nakayama A, Hishida A, Kawamura Y, Ichihara S, Akiyama M, Ikezaki H, Furusyo N, Shimizu S, Yamamoto K, Hirata M, Okada R, Kawai S, Kawaguchi M, Nishida Y, Shimano C, Ibusuki R, Takezaki T, Nakajima M, Takao M, Ozaki E, Matsui D, Nishiyama T, Suzuki S, Takashima N, Kita Y, Endoh K, Kuriki K, Uemura H, Arisawa K, Oze I, Matsuo K, Nakamura Y, Mikami H, Tamura T, Nakashima H, Nakamura T, Kato N, Matsuda K, Murakami Y, Matsubara T, Naito M, Kubo M, Kamatani Y, Shinomiya N, Yokota M, Wakai K, Okada Y, Matsuo H:** Genome-Wide Meta-Analysis Identifies Multiple Novel Loci Associated with Serum Uric Acid Levels in Japanese Individuals. *Commun Biol*, 2115, 2019.
- 002 **Akizuki S, Ishigaki K, Kochi Y, Law SM, Matsuo K, Ohmura K, Suzuki A, Nakayama M, Iizuka Y, Koseki H, Ohara O, Hirata J, Kamatani Y, Matsuda F, Sumida T, Yamamoto K, Okada Y, Mimori T, Terao C:** Pld4 Is a Genetic Determinant to Systemic Lupus Erythematosus and Involved in Murine Autoimmune Phenotypes. *Ann Rheum Dis*, 78(4):509-18, 2019.
- 003 **Lu Y, Kweon SS, Tanikawa C, Jia WH, Xiang YB, Cai Q, Zeng C, Schmit SL, Shin A, Matsuo K, Jee SH, Kim DH, Kim J, Wen W, Shi J, Guo X, Li B, Wang N, Zhang B, Li X, Shin MH, Li HL, Ren Z, Oh JH, Oze I, Ahn YO, Jung KJ, Conti DV, Schumacher FR, Rennert G, Jenkins MA, Campbell PT, Hoffmeister M, Casey G, Gruber SB, Gao J, Gao YT, Pan ZZ, Kamatani Y, Zeng YX, Shu XO, Long J, Matsuda K, Zheng W:** Large-Scale Genome-Wide Association Study of East Asians Identifies Loci Associated with Risk for Colorectal Cancer. *Gastroenterology*, 156(5):1455-66, 2019.
- 004 **Koyanagi YN, Suzuki E, Imoto I, Kasugai Y, Oze I, Ugai T, Iwase M, Usui Y, Kawakatsu Y, Sawabe M, Hirayama Y, Tanaka T, Abe T, Ito S, Komori K, Hanai N, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Ito H, Matsuo K:** Across-Site Differences in the Mechanism of Alcohol-Induced Digestive Tract Carcinogenesis: An Evaluation by Mediation Analysis. *Cancer Res*, 80(7):1601-10, 2020.
- 005 **Yang JJ, Yu D, Wen W, Saito E, Rahman S, Shu XO, Chen Y, Gupta PC, Gu D, Tsugane S, Xiang YB, Gao YT, Yuan JM, Tamakoshi A, Irie F, Sadakane A, Tomata Y, Kanemura S, Tsuji I, Matsuo K, Nagata C, Chen CJ, Koh WP, Shin MH, Park SK, Wu PE, Qiao YL, Pednekar MS, He J, Sawada N, Li HL, Gao J, Cai H, Wang R, Sairenchi T, Grant E, Sugawara Y, Zhang S, Ito H, Wada K, Shen CY, Pan WH, Ahn YO, You SL, Fan JH, Yoo KY, Ashan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, Zheng W:** Association of Diabetes with All-Cause and Cause-Specific Mortality in Asia: A Pooled Analysis of More Than 1 Million Participants. *JAMA Netw Open*, 2(4):e192696, 2019.
- 006 **Nagamatsu Y, Oze I, Aoe K, Hotta K, Kato K, Nakagawa J, Hara K, Kishimoto T, Fujimoto N:** Physician Requests by Patients with Malignant Pleural Mesothelioma in Japan. *BMC Cancer*, 19(1):383, 2019.
- 007 **Iwasaki Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Okada R, Hishida A, Tanaka K, Hara M, Takezaki T, Shimatani K, Ozaki E, Koyama T, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Miyagawa N, Kadota A, Ikezaki H, Furusyo N, Oze I, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Wakai K:** Associations of Nutrient Patterns with the Prevalence of Metabolic Syndrome: Results from the Baseline Data of the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Nutrients*, 11(5), 2019.
- 008 **Harada D, Kozuki T, Nogami N, Bessho A, Hosokawa S, Fukamatsu N, Hotta K, Ohashi K, Kubo T, Yoshioka H, Yokoyama T, Sone N, Kuyama S, Kudo K, Yasugi M, Takigawa N, Oze I, Kiura K:** A Phase I/II Trial of Weekly Nab-Paclitaxel for Pretreated Non-Small-Cell Lung Cancer Patients without Epidermal Growth Factor Receptor Mutations and Anaplastic Lymphoma Kinase Rearrangement. *Asia Pac J Clin Oncol*, 15(4):250-6, 2019.
- 009 **Ishikura N, Usui Y, Ito H, Kasugai Y, Oze I, Kato S, Yatabe Y, Nakamura S, Matsuo K:** Helicobacter Pylori (Hp) Infection Alone, but Not Hp-Induced Atrophic Gastritis, Increases the Risk of Gastric Lymphoma: A Case-Control Study in Japan. *Ann Hematol*, 98(8):1981-7, 2019.
- 010 **Koyanagi YN, Ito H, Matsuo K, Sugawara Y, Hidaka A, Sawada N, Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, Lin Y, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Sadakane A, Mizoue T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Tsugane S, Inoue M:** Smoking and Pancreatic Cancer Incidence: A Pooled Analysis of 10 Population-Based Cohort Studies in Japan. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 28(8):1370-8, 2019.
- 011 **Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Hijioka S, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K:** Conversion Surgery Only for Highly Selected Patients with Unresectable Pancreatic Cancer: A Satisfactory Outcome in Exchange for a Lower Resection Rate. *Surg Today*, 49(8):670-7, 2019.
- 012 **Yamagishi K, Iso H, Shimazu T, Tamakoshi A, Sawada N, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nakayama T, Kitamura Y, Sado J, Tsuji I, Sugawara Y, Mizoue T, Inoue M, Nagata C, Sadakane A, Tanaka K, Tsugane S, Sasazuki S:** Fish Intake and Risk of Mortality Due to Aortic Dissection and Aneurysm: A Pooled Analysis of the Japan Cohort Consortium. *Clin Nutr*, 38(4):1678-83, 2019.
- 013 **Dörk T, Peterlongo P, Mannermaa A, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Ahearn T, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Aronson KJ, Augustinsson A, Freeman LEB, Beckmann MW, Beeghly-Fadiel A, Behrens S, Bermisheva M, Blomqvist C, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Burwinkel B, Canzian F, Chan TL, Chang-**

- Claude J, Chanock SJ, Choi JY, Christiansen H, Clarke CL, Couch FJ, Czene K, Daly MB, Dos-Santos-Silva I, Dwek M, Eccles DM, Ekici AB, Eriksson M, Evans DG, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fritschi L, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, Gao C, Gapstur SM, García-Closas M, García-Sáenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Goldberg MS, Goldgar DE, Guénel P, Haeberle L, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Hartman M, Hauke J, Hein A, Hillemanns P, Hogervorst FBL, Hoening MJ, Hopper JL, Howell T, Huo D, Ito H, Iwasaki M, Jakubowska A, Janni W, John EM, Jung A, Kaaks R, Kang D, Kapoor PM, Khusnutdinova E, Kim SW, Kitahara CM, Koutros S, Kraft P, Kristensen VN, Kwong A, Lambrechts D, Marchand LL, Li J, Lindström S, Linet M, Lo WY, Long J, Lophatananon A, Lubinski J, Manoochehri M, Manoukian S, Margolin S, Martinez E, Matsuo K, Mavroudis D, Meindl A, Menon U, Milne RL, Mohd Taib NA, Muir K, Mulligan AM, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Neven P, Newman WG, Offit K, Olopade OI, Olshan AF, Olson JE, Olsson H, Park SK, Park-Simon TW, Peto J, Plaseska-Karanfilska D, Pohl-Rescigno E, Presneau N, Rack B, Radice P, Rashid MU, Rennert G, Rennert HS, Romero A, Ruebner M, Saloustros E, Schmidt MK, Schmutzler RK, Schneider MO, Schoemaker MJ, Scott C, Shen CY, Shu XO, Simard J, Slager S, Smichkoska S, Southey MC, Spinelli JJ, Stone J, Surowy H, Swerdlow AJ, Tamimi RM, Tapper WJ, Teo SH, Terry MB, Toland AE, Tollenaar R, Torres D, Torres-Mejia G, Troester MA, Truong T, Tsugane S, Untch M, Vachon CM, Ouweland A, Veen EMV, Vijai J, Wendt C, Wolk A, Yu JC, Zheng W, Ziogas A, Ziv E, Dunning AM, Pharoah PDP, Schindler D, Devilee P, Easton DF: Two Truncating Variants in *Fancc* and Breast Cancer Risk. *Sci Rep*, 9(1):12524, 2019.
- 014 Chang CP, Chang SC, Chuang SC, Berthiller J, Ferro G, Matsuo K, Wunsch-Filho V, Toporcov TN, de Carvalho MB, La Vecchia C, Olshan AF, Zevallos JP, Serraino D, Muscat J, Sturgis EM, Li G, Morgenstern H, Levi F, Dal Maso L, Smith E, Kelsey K, McClean M, Vaughan TL, Lazarus P, Ramroth H, Chen C, Schwartz SM, Winn DM, Bosetti C, Edefonti V, Garavello W, Negri E, Hayes RB, Purdue MP, Boccia S, Cadoni G, Shangina O, Koifman R, Curado MP, Vilensky M, Swiatkowska B, Herrero R, Franceschi S, Benhamou S, Fernandez L, Menezes AMB, Daudt AW, Mates D, Schantz S, Yu GP, Lissowska J, Brenner H, Fabianova E, Rudnai P, Brennan P, Boffetta P, Zhang ZF, Hashibe M, Lee YA: Age at Start of Using Tobacco on the Risk of Head and Neck Cancer: Pooled Analysis in the International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium (Inhance). *Cancer Epidemiol*, 63:101615, 2019.
- 015 Liu R, Kitamura Y, Kitamura T, Sobue T, Suga-wara Y, Matsuo K, Nakayama T, Tsuji I, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Tominaga S: Reproductive and Lifestyle Factors Related to Breast Cancer among Japanese Women: An Observational Cohort Study. *Medicine (Baltimore)*, 98(51):e18315, 2019.
- 016 Toriyama K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Sasaki E, Abe T, Yatabe Y, Hara K, Matsuo K, Tamaki T, Niwa Y: Clinical Relevance of Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography and Magnifying Endoscopy with Narrow Band Imaging in Decision-Making Regarding the Treatment Strategy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *World J Gastroenterol*, 25(46):6767-80, 2019.
- 017 Usui Y, Matsuo K, Oze I, Ugai T, Koyanagi Y, Maeda Y, Ito H, Hishida A, Takeuchi K, Tamura T, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Hara M, Nishida Y, Shimoshikiryō I, Takezaki T, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Nakagawa-Senda H, Mikami H, Nakamura Y, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Ikezaki H, Murata M, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K: Impact of *Pcsa* Polymorphisms on the Risk of Duodenal Ulcer. *J Epidemiol*, 2019.
- 018 Camargo MC, Kim KM, Matsuo K, Torres J, Liao LM, Morgan D, Michel A, Waterboer T, Song M, Gulley ML, Dominguez RL, Yatabe Y, Kim S, Cortes-Martinez G, Lisowska J, Zabaleta J, Pawlita M, Rabkin CS: Circulating Antibodies against Epstein-Barr Virus (Ebv) and P53 in Ebv-Positive and -Negative Gastric Cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 29(2):414-9, 2020.
- 019 Lu Y, Kweon SS, Cai Q, Tanikawa C, Shu XO, Jia WH, Xiang YB, Huyghe JR, Harrison TA, Kim J, Shin A, Kim DH, Matsuo K, Jee SH, Guo X, Wen W, Shi J, Li B, Wang N, Shin MH, Li HL, Ren Z, Oh JH, Oze I, Ahn YO, Jung KJ, Gao J, Gao YT, Pan ZZ, Kamatani Y, Chan AT, Gsur A, Hampe J, Le Marchand L, Li L, Lindblom A, Moreno V, Newcomb PA, Offit K, Pharoah PDP, van Duijnhoven FJB, Van Guelpen B, Vodicka P, Weinstein SJ, Wolk A, Wu AH, Hsu L, Zeng YX, Long J, Peters U, Matsuda K, Zheng W: Identification of Novel Loci and New Risk Variant in Known Loci for Colorectal Cancer Risk in East Asians. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 29(2):477-86, 2020.
- 020 Okada R, Kadomatsu Y, Tsukamoto M, Sasakabe T, Kawai S, Tamura T, Hishida A, Ikezaki H, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Suzuki S, Watanabe M, Takezaki T, Nishimoto D, Matsui D, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Mikami H, Nakamura Y, Oze I, Koyanagi YN, Naito M, Wakai K: Combined Effect of Weight Gain within Normal Weight Range and Parental Hypertension on the Prevalence of Hypertension; from the J-Micc Study. *J Hum Hypertens*, 34(2):125-

- 021 *Fachal L, Aschard H, Beesley J, Barnes DR, Allen J, Kar S, Pooley KA, Dennis J, Michailidou K, Turman C, Soucy P, Lemaçon A, Lush M, Tyrer JP, Ghoussaini M, Moradi Marjaneh M, Jiang X, Agata S, Aittomäki K, Alonso MR, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arason A, Arndt V, Aronson KJ, Arun BK, Auber B, Auer PL, Azzollini J, Balmaña J, Barkardottir RB, Barrowdale D, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Bermisheva M, Biłkowska K, Blanco AM, Blomqvist C, Blot W, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bolla MK, Bonanni B, Borg A, Bosse K, Brauch H, Brenner H, Briceno I, Brock IW, Brooks-Wilson A, Brüning T, Burwinkel B, Buys SS, Cai Q, Caldés T, Caligo MA, Camp NJ, Campbell I, Canzian F, Carroll JS, Carter BD, Castelao JE, Chiquette J, Christiansen H, Chung WK, Claes KBM, Clarke CL, Collée JM, Cornelissen S, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Cybulski C, Czene K, Daly MB, de la Hoya M, Devilee P, Diez O, Ding YC, Dite GS, Domchek SM, Dörk T, Dos-Santos-Silva I, Droit A, Dubois S, Dumont M, Duran M, Durcan L, Dwek M, Eccles DM, Engel C, Eriksson M, Evans DG, Fasching PA, Fletcher O, Floris G, Flyger H, Foretova L, Foulkes WD, Friedman E, Fritschi L, Frost D, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, Gambino G, Ganz PA, Gapstur SM, Garber J, García-Saenz JA, Gaudet MM, Georgoulas V, Giles GG, Glendon G, Godwin AK, Goldberg MS, Goldgar DE, González-Neira A, Tibiletti MG, Greene MH, Grip M, Gronwald J, Grundy A, Guénel P, Hahnen E, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Harrington PA, Hartikainen JM, Hartman M, He W, Healey CS, Heemskerk-Gerritsen BAM, Heyworth J, Hillemanns P, Hogervorst FBL, Hollestelle A, Hooning MJ, Hopper JL, Howell A, Huang G, Hulick PJ, Ilyanitov EN, Isaacs C, Iwasaki M, Jager A, Jakimovska M, Jakubowska A, James PA, Janavicius R, Jankowitz RC, John EM, Johnson N, Jones ME, Jukkola-Vuorinen A, Jung A, Kaaks R, Kang D, Kapoor PM, Karlan BY, Keeman R, Kerin MJ, Khusnutdinova E, Kiiski JJ, Kirk J, Kitahara CM, Ko YD, Konstantopoulou I, Kosma VM, Koutros S, Kubelka-Sabit K, Kwong A, Kyriacou K, Laitman Y, Lambrechts D, Lee E, Leslie G, Lester J, Lesueur F, Lindblom A, Lo WY, Long J, Lophatananon A, Loud JT, Lubiński J, MacInnis RJ, Maishman T, Makalic E, Mannermaa A, Manoochehri M, Manoukian S, Margolin S, Martinez ME, Matsuo K, Maurer T, Mavroudis D, Mayes R, McGuffog L, McLean C, Mebirouk N, Meindl A, Miller A, Miller N, Montagna M, Moreno F, Muir K, Mulligan AM, Muñoz-Garzon VM, Muranen TA, Narod SA, Nassir R, Nathanson KL, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Neven P, Nielsen FC, Nikitina-Zake L, Norman A, Offit K, Olah E, Olopade OI, Olsson H, Orr N, Osorio A, Pankratz VS, Papp J, Park SK, Park-Simon TW, Parsons MT, Paul J, Pedersen IS, Peissel B, Peshkin B, Peterlongo P, Peto J, Plaseska-Karanfilska D, Prajzencanc K, Prentice R, Presneau N, Prokofyeva D, Pujana MA, Pyrkás K, Radice P, Ramus SJ, Rantala J, Rau-Murthy R, Rennert G, Risch HA, Robson M, Romero A, Rossing M, Saloustros E, Sánchez-Herrero E, Sandler DP, Santamariña M, Saunders C, Sawyer EJ, Scheuner MT, Schmidt DF, Schmutzler RK, Schneeweiss A, Schoemaker MJ, Schöttker B, Schürmann P, Scott C, Scott RJ, Senter L, Seynaeve CM, Shah M, Sharma P, Shen CY, Shu XO, Singer CF, Slavin TP, Smichkoska S, Southey MC, Spinelli JJ, Spurdle AB, Stone J, Stoppa-Lyonnet D, Sutter C, Swerdlow AJ, Tamimi RM, Tan YY, Tapper WJ, Taylor JA, Teixeira MR, Tengström M, Teo SH, Terry MB, Teulé A, Thomassen M, Thull DL, Tischkowitz M, Toland AE, Tollenaar R, Tomlinson I, Torres D, Torres-Mejía G, Troester MA, Truong T, Tung N, Tzardi M, Ulmer HU, Vachon CM, van Asperen CJ, van der Kolk LE, van Rensburg EJ, Vega A, Viel A, Vijai J, Vogel MJ, Wang Q, Wappenschmidt B, Weinberg CR, Weitzel JN, Wendt C, Wildiers H, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Yannoukakos D, Zhang Y, Zheng W, Hunter D, Pharoah PDP, Chang-Claude J, García-Closas M, Schmidt MK, Milne RL, Kristensen VN, French JD, Edwards SL, Antoniou AC, Chenevix-Trench G, Simard J, Easton DF, Kraft P, Dunning AM: Fine-Mapping of 150 Breast Cancer Risk Regions Identifies 191 Likely Target Genes. *Nat Genet*, 52(1):56-73, 2020.*
- 022 *Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Bando H, Oonishi S, Hirayama Y, Tanaka T, Tajika M, Koide Y, Kodaira T, Abe T, Muro K: Risk of Second Primary Malignancies after Definitive Treatment for Esophageal Cancer: A Competing Risk Analysis. *Cancer Med*, 9(1):394-400, 2020.*
- 023 *Nishida Y, Hachiya T, Hara M, Shimanoe C, Tanaka K, Sutoh Y, Shimizu A, Hishida A, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Oze I, Koyanagi YN, Kuriyama N, Koyama T, Ibusuki R, Takezaki T, Ikezaki H, Furusyo N, Takashima N, Kadota A, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Kuriki K, Mikami H, Nakamura Y, Momozawa Y, Kubo M, Nakatochi M, Naito M, Wakai K: The Interaction between Abca1 Polymorphism and Physical Activity on the Hdl-Cholesterol Levels in a Japanese Population. *J Lipid Res*, 61(1):86-94, 2020.*
- 024 *Di Credico G, Edefonti V, Polesel J, Pauli F, Torelli N, Serraino D, Negri E, Luce D, Stucker I, Matsuo K, Brennan P, Vilensky M, Fernandez L, Curado MP, Menezes A, Daudt AW, Koifman R, Wunsch-Filho V, Holcatova I, Ahrens W, Lagiou P, Simonato L, Richiardi L, Healy C, Kjaerheim K, Conway DI, Macfarlane TV, Thomson P, Agudo A, Znaor A, Boaventura Rios LF, Toporcov TN, Franceschi S, Herrero R, Muscat J, Olshan AF, Zavallos JP, La Vecchia C, Winn DM, Sturgis EM, Li G, Fabiano-*

- va E, Lissowska J, Mates D, Rudnai P, Shangina O, Swiatkowska B, Moysich K, Zhang ZF, Morgenstern H, Levi F, Smith E, Lazarus P, Bosetti C, Garavello W, Kelsey K, McClean M, Ramroth H, Chen C, Schwartz SM, Vaughan TL, Zheng T, Menvielle G, Boccia S, Cadoni G, Hayes RB, Purdue M, Gillison M, Schantz S, Yu GP, Brenner H, D'Souza G, Gross ND, Chuang SC, Boffetta P, Hashibe M, Lee YA, Dal Maso L: Joint Effects of Intensity and Duration of Cigarette Smoking on the Risk of Head and Neck Cancer: A Bivariate Spline Model Approach. *Oral Oncol*, 9447-57, 2019.
- 025 Hosgood HD, 3rd, Klugman M, Matsuo K, White AJ, Sadakane A, Shu XO, Lopez-Ridaura R, Shin A, Tsuji I, Malekzadeh R, Noisel N, Bhatti P, Yang G, Saito E, Rahman S, Hu W, Bassig B, Downward G, Vermeulen R, Xue X, Rohan T, Abe SK, Broët P, Grant EJ, Dummer TJB, Rothman N, Inoue M, Lajous M, Yoo KY, Ito H, Sandler DP, Ashan H, Zheng W, Boffetta P, Lan Q: The Establishment of the Household Air Pollution Consortium (Hapco). *Atmosphere (Basel)*, 10(7), 2019.
- 026 Onishi S, Sawaki M, Ishiguro J, Kataoka A, Iwase M, Sugino K, Adachi Y, Gondo N, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Matsuo K, Yatabe Y, Iwata H: The Overall Survival of Breast Cancer Patients without Adjuvant Therapy. *Surg Today*, 49(7):610-20, 2019.
- 027 Hishida A, Ugai T, Fujii R, Nakatochi M, Wu MC, Ito H, Oze I, Tajika M, Niwa Y, Nishiyama T, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Koyama T, Matsui D, Watanabe Y, Kawaguchi T, Matsuda F, Momozawa Y, Kubo M, Naito M, Matsuo K, Wakai K: Gwas Analysis Reveals a Significant Contribution of PscA to the Risk of Helicobacter Pylori-Induced Gastric Atrophy. *Carcinogenesis*, 40(5):661-8, 2019.
- 028 Masaoka H, Matsuo K, Oze I, Ito H, Naito M, Wada K, Nagata C, Nakayama T, Kitamura Y, Sadakane A, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Sawada N, Mizoue T, Inoue M, Tanaka K, Tsugane S, Shimazu T: Alcohol Drinking and Bladder Cancer Risk from a Pooled Analysis of Ten Cohort Studies in Japan. *J Epidemiol*, 30(7):309-13, 2020.
- 029 Abe SK, Saito E, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Lin Y, Tamakoshi A, Sado J, Kitamura Y, Sugawara Y, Tsuji I, Nagata C, Sadakane A, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M: Coffee Consumption and Mortality in Japanese Men and Women: A Pooled Analysis of Eight Population-Based Cohort Studies in Japan (Japan Cohort Consortium). *Prev Med*, 123270-7, 2019.
- 030 Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Furusyo N, Murata M, Tanaka K, Shimanoe C, Suzuki S, Watanabe M, Kuriyama N, Koyama T, Takezaki T, Shimoshikiryo I, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takashima N, Turin TC, Kuriki K, Endoh K, Mikami H, Nakamura Y, Oze I, Ito H, Kubo M, Momozawa Y, Kondo T, Naito M, Wakai K: Association of Genetic Risk Score and Chronic Kidney Disease in a Japanese Population. *Nephrology (Carlton)*, 24(6):670-3, 2019.
- 031 Uemura H, Katsuura-Kamano S, Iwasaki Y, Arisawa K, Hishida A, Okada R, Tamura T, Kubo Y, Ito H, Oze I, Shimanoe C, Nishida Y, Nakamura Y, Takashima N, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Nishimoto D, Takezaki T, Mikami H, Nakamura Y, Furusyo N, Ikezaki H, Ozaki E, Koyama T, Kuriki K, Endoh K, Naito M, Wakai K: Independent Relationships of Daily Life Activity and Leisure-Time Exercise with Metabolic Syndrome and Its Traits in the General Japanese Population. *Endocrine*, 64(3):552-63, 2019.
- 032 Ugai T, Milne RL, Ito H, Aronson KJ, Bolla MK, Chan T, Chan CW, Choi JY, Conroy DM, Dennis J, Dunning AM, Easton DF, Gaborieau V, Gonzalez-Neira A, Hartman M, Healey CS, Iwasaki M, John EM, Kang D, Kim SW, Kwong A, Lophatananon A, Michailidou K, Taib NAM, Muir K, Park SK, Pharoah PDP, Sangrajrang S, Shen CY, Shu XO, Spinelli JJ, Teo SH, Tessier DC, Tseng CC, Tsugane S, Vincent D, Wang Q, Wu AH, Wu PE, Zheng W, Matsuo K: The Functional Aldh2 Polymorphism Is Associated with Breast Cancer Risk: A Pooled Analysis from the Breast Cancer Association Consortium. *Mol Genet Genomic Med*, 7(6):e707, 2019.
- 033 Kuwahara K, Kiyohara K, Kikuchi H, Villalonga-Olives E, Brewer N, Aman-Oloniyi A, Aggarwal P, Restrepo-Mendez MC, Oze I: Networks for Early Career Epidemiologists around the World: The Current Status and Future Directions. *Int J Epidemiol*, 48(3):1021-3, 2019.
- 034 Ishiguro J, Ito H, Tsukamoto M, Iwata H, Nakagawa H, Matsuo K: A Functional Single Nucleotide Polymorphism in Abcc11, Rs17822931, Is Associated with the Risk of Breast Cancer in Japanese. *Carcinogenesis*, 40(4):537-43, 2019.
- 035 Nishiyama T, Nakatochi M, Goto A, Iwasaki M, Hachiya T, Sutoh Y, Shimizu A, Wang C, Tanaka H, Watanabe M, Hosono A, Tamai Y, Yamada T, Yamaji T, Sawada N, Fukumoto K, Otsuka K, Tanno K, Tomita H, Kojima K, Nagasaki M, Hozawa A, Hishida A, Sasakabe T, Nishida Y, Hara M, Ito H, Oze I, Nakamura Y, Mikami H, Ibusuki R, Takezaki T, Koyama T, Kuriyama N, Endoh K, Kuriki K, Turin TC, Naoyuki T, Katsuura-Kamano S, Uemura H, Okada R, Kawai S, Naito M, Momozawa Y, Kubo M, Sasaki M, Yamamoto M, Tsugane S, Wakai K, Suzuki S: Genome-Wide Association Meta-Analysis and Mendelian Randomization Analysis Confirm the Influence of Aldh2 on Sleep Duration in the Japanese Population. *Sleep*, 42(6), 2019.
- 036 Makimoto G, Hotta K, Oze I, Ninomiya K, Nakanishi M, Hara N, Kano H, Watanabe H, Hata Y, Nishii K, Nakasuka T, Itano J, Ninomiya T, Kubo T, Ohashi K, Ichihara E, Minami D, Sato A, Tabata M, Maeda Y, Kiura K: Patients' Preferences and Perceptions of Lung Cancer Treatment



- Decision Making: Results from Okayama Lung Cancer Study Group Trial 1406. *Acta Oncol*, 59(3):324-8, 2020.
- 037 **Ninomiya K, Oze I, Kato Y, Kubo T, Ichihara E, Rai K, Ohashi K, Kozuki T, Tabata M, Maeda Y, Kiura K, Hotta K:** Influence of Age on the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors in Advanced Cancers: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Acta Oncol*, 59(3):249-56, 2020.
- 038 **Wong JYY, Zhang H, Hsiung CA, Shiraishi K, Yu K, Matsuo K, Wong MP, Hong YC, Wang J, Seow WJ, Wang Z, Song M, Kim HN, Chang IS, Chatterjee N, Hu W, Wu C, Mitsudomi T, Zheng W, Kim JH, Seow A, Caporaso NE, Shin MH, Chung LP, An SJ, Wang P, Yang Y, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Cai Q, Yin Z, Kim YC, Bassig BA, Chang J, Ho JCM, Ji BT, Daigo Y, Ito H, Momozawa Y, Ashikawa K, Kamatani Y, Honda T, Hosgood HD, Sakamoto H, Kunitoh H, Tsuta K, Watanabe SI, Kubo M, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Shi J, Song L, Hua X, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wei F, Matsuda F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Song F, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Chien LH, Xiang YB, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Lee KM, Blechter B, Li H, Gao YT, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Wang WC, Chung CC, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt SI, Wu W, Pang H, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Zhu M, Chen CH, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Hsin M, Sit KY, Ho J, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Lin CC, Park IK, Xu P, Wang Y, He Q, Perng RP, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Li YJ, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Chen TY, Jiang SS, Liu J, Yamaji T, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Cui P, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Chen Y, Yang K, Jiang G, Fei K, Wu G, Lin HC, Chen HL, Fang YH, Tsai FY, Hsieh WS, Yu J, Stevens VL, Laird-Offringa IA, Marconett CN, Rieswijk L, Chao A, Yang PC, Shu XO, Wu T, Wu YL, Lin D, Chen K, Zhou B, Huang YC, Kohno T, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q:** Tuberculosis Infection and Lung Adenocarcinoma: Mendelian Randomization and Pathway Analysis of Genome-Wide Association Study Data from Never-Smoking Asian Women. *Genomics*, 112(2):1223-32, 2020.
- 039 **Shu X, Long J, Cai Q, Kweon SS, Choi JY, Kubo M, Park SK, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Yang Y, Shi J, Guo X, Li B, Tao R, Aronson KJ, Chan KYK, Chan TL, Gao YT, Hartman M, Kee Ho W, Ito H, Iwasaki M, Iwata H, John EM, Kasuga Y, Soon Khoo U, Kim MK, Kong SY, Kurian AW, Kwong A, Lee ES, Li J, Lophatananon A, Low SK, Mariapun S, Matsuda K, Matsuo K, Muir K, Noh DY, Park B, Park MH, Shen CY, Shin MH, Spinelli JJ, Takahashi A, Tseng C, Tsugane S, Wu AH, Xiang YB, Yamaji T, Zheng Y, Milne RL, Dunning AM, Pharoah PDP, Garcia-Closas M, Teo SH, Shu XO, Kang D, Easton DF, Simard J, Zheng W:** Identification of Novel Breast Cancer Susceptibility Loci in Meta-Analyses Conducted among Asian and European Descendants. *Nat Commun*, 11(1):1217, 2020.
- 040 **Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimano C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Naoyuki T, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K:** Differential Effect of Polymorphisms on Body Mass Index across the Life Course of Japanese: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 2020 (in press).
- 041 **Lawrenson K, Song F, Hazelett DJ, Kar SP, Tyrer J, Phelan CM, Corona RI, Rodríguez-Malavé NI, Seo JH, Adler E, Coetzee SG, Segato F, Fonseca MAS, Amos CI, Carney ME, Chenevix-Trench G, Choi J, Doherty JA, Jia W, Jin GJ, Kim BG, Le ND, Lee J, Li L, Lim BK, Adenan NA, Mizuno M, Park B, Pearce CL, Shan K, Shi Y, Shu XO, Sieh W, Thompson PJ, Wilkens LR, Wei Q, Woo YL, Yan L, Karlan BY, Freedman ML, Noushmehr H, Goode EL, Berchuck A, Sellers TA, Teo SH, Zheng W, Matsuo K, Park S, Chen K, Pharoah PDP, Gayther SA, Goodman MT:** Genome-Wide Association Studies Identify Susceptibility Loci for Epithelial Ovarian Cancer in East Asian Women. *Gynecol Oncol*, 153(2):343-55, 2019.
- 042 **Nomura M, Oze I, Masuishi T, Yokota T, Satake H, Iwasawa S, Kato K, Andoh M:** Multicenter Prospective Phase II Trial of Nivolumab in Patients with Unresectable or Metastatic Mucosal Melanoma. *Int J Clin Oncol*, 25(5):972-7, 2020.
- 043 **Sueoka E, Watanabe T, Mashima T, Shirakami Y, Komori A, Matsuo K, Yoshikawa HY, Cho KA, Park TJ, Seimiya H, Kim EG, Suganuma M, Chung J:** Meeting Report of the 14th Japan-Korea Joint Symposium on Cancer and Aging Research: Current Status of Translational Research and Approaches to Precision Medicine. *J Cancer Res Clin Oncol*, 145(5):1263-71, 2019.
- 044 **Tanikawa C, Kamatani Y, Terao C, Usami M, Takahashi A, Momozawa Y, Suzuki K, Ogishima S, Shimizu A, Sato M, Matsuo K, Mikami H, Naito M, Wakai K, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Kohri K, Yu ASL, Yasui T, Murakami Y, Kubo M, Matsuda K:** Novel Risk Loci Identified in a Genome-Wide Association Study of Urolithiasis in a Japanese Population. *J Am Soc Nephrol*, 30(5):855-64, 2019.
- 045 **Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Furukawa M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Tsuchiya Y,**

- Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Sakaguchi M, Ishii H, Kojima Y, Matsuo K, Yoshitomi H, Nakamori S, Yanagimoto H, Yatabe Y, Furuse J, Mizuno N:** Surgery for Pancreatic Neuroendocrine Tumor G3 and Carcinoma G3 Should Be Considered Separately. *Ann Surg Oncol*, 26(5):1385-93, 2019.
- 046 **Islam Z, Akter S, Kashino I, Mizoue T, Sawada N, Mori N, Yamagiwa Y, Tsugane S, Naito M, Tamakoshi A, Wada K, Nagata C, Sugawara Y, Tsuji I, Matsuo K, Ito H, Lin Y, Kitamura Y, Sadakane A, Tanaka K, Shimazu T, Inoue M:** Meat Subtypes and Colorectal Cancer Risk: A Pooled Analysis of 6 Cohort Studies in Japan. *Cancer Sci*, 110(11):3603-14, 2019.
- 047 **Ugai T, Ito H, Oze I, Saito E, Rahman MS, Boffetta P, Gupta PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Gao YT, Sadakane A, Tsuji I, Park SK, Nagata C, You SL, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Xiang YB, Ozasa K, Tomata Y, Kanemura S, Sugawara Y, Wada K, Chen CJ, Yoo KY, Chia KS, Ahsan H, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter J, Matsuo K:** Association of Bmi, Smoking, and Alcohol with Multiple Myeloma Mortality in Asians: A Pooled Analysis of More Than 800,000 Participants in the Asia Cohort Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 28(11):1861-7, 2019.
- 048 **Low SK, Chin YM, Ito H, Matsuo K, Tanikawa C, Matsuda K, Saito H, Sakurai-Yageta M, Nakaya N, Shimizu A, Nishizuka SS, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Takezaki T, Suzuki S, Naito M, Wakai K, Kamatani Y, Momozawa Y, Murakami Y, Inazawa J, Nakamura Y, Kubo M, Katagiri T, Miki Y:** Identification of Two Novel Breast Cancer Loci through Large-Scale Genome-Wide Association Study in the Japanese Population. *Sci Rep*, 9(1):17332, 2019.
- 049 **Abe SK, Saito E, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Lin Y, Tamakoshi A, Sado J, Kitamura Y, Sugawara Y, Tsuji I, Nagata C, Sadakane A, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Inoue M:** Green Tea Consumption and Mortality in Japanese Men and Women: A Pooled Analysis of Eight Population-Based Cohort Studies in Japan. *Eur J Epidemiol*, 34(10):917-26, 2019.
- 050 **Mori M, Hira A, Yoshida K, Muramatsu H, Okuno Y, Shiraishi Y, Anmae M, Yasuda J, Tadaka S, Kinoshita K, Osumi T, Noguchi Y, Adachi S, Kobayashi R, Kawabata H, Imai K, Morio T, Tamura K, Takaori-Kondo A, Yamamoto M, Miyano S, Kojima S, Ito E, Ogawa S, Matsuo K, Yabe H, Yabe M, Takata M:** Pathogenic Mutations Identified by a Multimodality Approach in 117 Japanese Fanconi Anemia Patients. *Haematologica*, 104(10):1962-73, 2019.
- 051 **Oze I, Charvat H, Matsuo K, Ito H, Tamakoshi A, Nagata C, Wada K, Sugawara Y, Sawada N, Yamaji T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Mizoue T, Tsugane S, Inoue M:** Re-visit of an Unanswered Question by Pooled Analysis of Eight Cohort Studies in Japan: Does Cigarette Smoking and Alcohol Drinking Have Interaction for the Risk of Esophageal Cancer? *Cancer Med*, 8(14):6414-25, 2019.
- 052 **Yang Y, Shu X, Shu XO, Bolla MK, Kweon SS, Cai Q, Michailidou K, Wang Q, Dennis J, Park B, Matsuo K, Kwong A, Park SK, Wu AH, Teo SH, Iwasaki M, Choi JY, Li J, Hartman M, Shen CY, Muir K, Lophatananon A, Li B, Wen W, Gao YT, Xiang YB, Aronson KJ, Spinell JJ, Gago-Dominguez M, John EM, Kurian AW, Chang-Claude J, Chen ST, Dörk T, Evans DGR, Schmidt MK, Shin MH, Giles GG, Milne RL, Simard J, Kubo M, Kraft P, Kang D, Easton DF, Zheng W, Long J:** Re-Evaluating Genetic Variants Identified in Candidate Gene Studies of Breast Cancer Risk Using Data from Nearly 280,000 Women of Asian and European Ancestry. *EBioMedicine*, 48:203-11, 2019.
- 053 **Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Mizoue T, Inoue M, Sawada N, Matsuo K, Ito H, Naito M, Nagata C, Kitamura Y, Sadakane A, Tsugane S, Shimazu T:** Coffee, Green Tea and Liver Cancer Risk: An Evaluation Based on a Systematic Review of Epidemiologic Evidence among the Japanese Population. *Jpn J Clin Oncol*, 49(10):972-84, 2019.
- 054 **Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Matsuo K:** Impact of Germinal Center-Associated Nuclear Protein Polymorphisms on Breast Cancer Risk and Prognosis in a Japanese Population. *Breast Cancer*, 26(5):562-72, 2019.
- 055 **Oze I, Ito H, Nishino Y, Hattori M, Nakayama T, Miyashiro I, Matsuo K, Ito Y:** Trends in Small-Cell Lung Cancer Survival in 1993-2006 Based on Population-Based Cancer Registry Data in Japan. *J Epidemiol*, 29(9):347-53, 2019.
- 056 **Takata R, Takahashi A, Fujita M, Momozawa Y, Saunders EJ, Yamada H, Maejima K, Nakano K, Nishida Y, Hishida A, Matsuo K, Wakai K, Yamaji T, Sawada N, Iwasaki M, Tsugane S, Sasaki M, Shimizu A, Tanno K, Minegishi N, Suzuki K, Matsuda K, Kubo M, Inazawa J, Egawa S, Haiman CA, Ogawa O, Obara W, Kamatani Y, Akamatsu S, Nakagawa H:** 12 New Susceptibility Loci for Prostate Cancer Identified by Genome-Wide Association Study in Japanese Population. *Nat Commun*, 10(1):4422, 2019.

#### 分子遺伝学分野

- 001 **Akahane T, Hirasawa A, Imoto I, Okubo A, Itoh M, Nanki Y, Yoshihama T, Tominaga E, Aoki D:** Establishment and characterization of a new malignant peritoneal mesothelioma cell line, KOG-1, from the ascitic fluid of a patient with pemetrexed chemotherapy resistance. *Hum Cell*, 33:272-282, 2020.

- 002 **Miyake K, Sakane A, Tsuchiya Y, Sagawa I, Tomida Y, Kasahara J, Imoto I, Watanabe S, Higo D, Mizuguchi K, Sasaki T**: Actin cytoskeletal reorganization function of JRB/MICAL-L2 is fine-tuned by intramolecular interaction between first LIM zinc finger and C-terminal coiled-coil domains. *Sci Rep*, 2019;9:12794, 2019.
- 003 **Mori T, Goji A, Toda Y, Ito H, Mori K, Kohmoto T, Imoto I, Kagami S**: A 16q22.2-q23.1 deletion identified in a male infant with West syndrome. *Brain Dev*, 41:888-893, 2019.
- 004 **Taguchi I, Yamada T, Akaishi R, Imoto I, Kurosawa K, Nakatani K, Nomura F, Hamanoue H, Hyodo M, Murakami H, Yoshihashi H, Yotsumoto J, Kosugi S**: Attitudes of clinical geneticists and certified genetic counselors to genome editing and its clinical applications: A nation-wide questionnaire survey in Japan. *J Hum Genet*, 64:945-954, 2019.
- 005 **Tsuboi M, Kondo K, Masuda K, Tange S, Kajiura K, Kohmoto T, Takizawa H, Imoto I, Tangoku A**: Prognostic significance of GAD1 overexpression in patients with resected lung adenocarcinoma. *Cancer Med*, 8:4189-4199, 2019.
- 006 **Kikuchi-Koike R, Nagasaka K, Tsuda H, Ishii Y, Sakamoto M, Kikuchi Y, Fukui S, Miyagawa Y, Hiraike H, Kobayashi T, Kinoshita T, Kanai Y, Shibata T, Imoto I, Inazawa J, Matsubara O, Ayabe T**: Array comparative genomic hybridization analysis discloses chromosome copy number alterations as indicators of patient outcome in lymph node-negative breast cancer. *BMC Cancer*, 19:521, 2019.
- 007 **Fukuda D, Nishimoto S, Aini K, Tanaka A, Nishiguchi T, Kim-Kaneyama J, Lei XF, Masuda K, Naruto T, Tanaka K, Higashikuni Y, Hirata Y, Yagi S, Kusunose K, Yamada H, Soeki T, Imoto I, Akasaka T, Shimabukuro M, Sata M**: Toll-like receptor 9 plays a pivotal role in angiotensin II-induced atherosclerosis. *J Am Heart Assoc*, 8:e010860, 2019.
- 008 **井本逸勢, 高磯伸枝**: 遺伝性腫瘍診療の現状と課題. 癌と化学療法, 46: 1093-1096, 2019.

## がん病態生理学分野

### 【原著】

- 001 **Kojima Y, Kondo Y, Fujishita T, Mishiro-Sato E, Kaji-no-Sakamoto R, Taketo MM, Aoki M**: Stromal iodothyronine deiodinase 2 (DIO2) promotes the growth of intestinal tumors in Apc  $\Delta$  716 mutant mice. *Cancer Sci*, 110:2520-2528, 2019.

## 分子腫瘍学分野

- 001 **Ito T, Nakamura A, Tanaka I, Tsuboi Y, Morikawa T, Nakajima J, Takai D, Fukayama M, Sekido Y, Niki T, Matsubara D, Murakami Y**: CADM1 associates with Hippo pathway core kinases; membranous co-expression of CADM1 and LATS2 in lung tumors predicts good prognosis. *Cancer Sci*, 110:2284-2295, 2019.
- 002 **Li Z, Jiang L, Chew SH, Hirayama T, Sekido Y, Toyokuni S**: Carbonic anhydrase 9 confers resistance to ferroptosis/apoptosis in malignant mesothelioma under hypoxia. *Redox Biol*, 26:101297, 2019.
- 003 **Okazaki Y, Misawa N, Akatsuka S, Kohyama N, Sekido Y, Takahashi T, Toyokuni S**: Frequent homozygous deletion of Cdkn2a/2b in tremolite-induced malignant mesothelioma in rats. *Cancer Sci*, 111:1180-1192, 2019.

## システム解析学分野

- 001 **Yoshino T, Katayama K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Watanabe K**: Classification of patients with cold sensation by a review of systems database: A single-centre observational study. *Complement Ther Med*, 45:7-13, 2019.
- 002 **Yamaguchi K, Shimizu E, Yamaguchi R, Imoto S, Komura M, Hatakeyama S, Noguchi R, Takane K, Ikenoue T, Gohda Y, Yano H, Miyano S, Furukawa Y**: Development of an MSI-positive colon tumor with aberrant DNA methylation in a PPAP patient. *J Hum Genet*, 64(8):729-40, 2019.
- 003 **Tsuda Y, Hirata M, Katayama K, Motoi T, Matsubara D, Oda Y, Fujita M, Kobayashi H, Kawano H, Nishida Y, Sakai T, Okuma T, Goto T, Ogura K, Kawai A, Ae K, Anazawa U, Suehara Y, Iwata S, Miyano S, Imoto S, Shibata T, Nakagawa H, Yamaguchi R, Tanaka S, Masuda K**: Massively parallel sequencing of tenosynovial giant cell tumors reveals novel CSF1 fusion transcripts and novel somatic CBL mutations. *Int J Cancer*, 145(12):3276-84, 2019.
- 004 **Takeda R, Yokoyama K, Ogawa M, Kawamata T, Fukuyama T, Kondoh K, Takei T, Nakamura S, Ito M, Yusa N, Shimizu E, Ohno N, Uchimaru K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A**: The first case of elderly TCF3-HLF-positive B-cell acute lymphoblastic leukemia. *Leuk Lymphoma*, 60(11):2821-4, 2019.
- 005 **Takeda R, Yokoyama K, Kobayashi S, Kawamata T, Nakamura S, Fukuyama T, Ito M, Yusa N, Shimizu E, Ohno N, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Uchimaru K, Tojo A**: An Unusually Short Latent Period of Therapy-Related Myeloid Neoplasm Harboring a Rare MLL-EP300 Rearrangement: Case Report and Literature Review. *Case*

Rep Hematol. 2019;4532434, 2019.

- 006 **Nakamura S, Yokoyama K, Shimizu E, Yusa N, Kondoh K, Ogawa M, Takei T, Kobayashi A, Ito M, Isobe M, Konuma T, Kato S, Kasajima R, Wada Y, Nagamura-Inoue T, Yamaguchi R, Takahashi S, Imoto S, Miyano S, Tojo A** : Prognostic impact of circulating tumor DNA status post-allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in AML and MDS. *Blood*. 133(25):2682-95, 2019.
- 007 **Moriyama T, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R** : Accurate and Flexible Bayesian Mutation Call from Multi-regional Tumor Samples. *Lecture Notes in Computer Science*. 11826:47-61, 2019.
- 008 **Maeda-Minami A, Yoshino T, Katayama K, Horiba Y, Hikiami H, Shimada Y, Namiki T, Tahara E, Minamizawa K, Muramatsu S, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Mimura M, Nakamura T, Watanabe K** : Prediction of deficiency-excess pattern in Japanese Kampo medicine: Multi-centre data collection. *Complement Ther Med*. 45:228-33, 2019.
- 009 **Konishi H, Komura D, Katoh H, Atsumi S, Koda H, Yamamoto A, Seto Y, Fukayama M, Yamaguchi R, Imoto S, Ishikawa S** : Capturing the differences between humoral immunity in the normal and tumor environments from repertoire-seq of B-cell receptors using supervised machine learning. *BMC Bioinformatics*. 20(1):267, 2019.
- 010 **Ito S, Yadome M, Nishiki T, Ishiduki S, Inoue H, Yamaguchi R, Miyano S** : Virtual Grid Engine: a simulated grid engine environment for large-scale supercomputers. *BMC Bioinformatics*. 20(Suppl 16):591, 2019.
- 011 **Hosono Y, Masuishi T, Mitani S, Yamaguchi R, Kato S, Yoshino T, Ebi H** : Evaluation of ALK Fusion Newly Identified in Colon Cancer by a Comprehensive Genomic Analysis. *JCO Precision Oncology*. 2019(3):1-5, 2019.
- 012 **Hirata M, Asano N, Katayama K, Yoshida A, Tsuda Y, Sekimizu M, Mitani S, Kobayashi E, Komiyama M, Fujimoto H, Goto T, Iwamoto Y, Naka N, Iwata S, Nishida Y, Hiruma T, Hiraga H, Kawano H, Motoi T, Oda Y, Matsubara D, Fujita M, Shibata T, Nakagawa H, Nakayama R, Kondo T, Imoto S, Miyano S, Kawai A, Yamaguchi R, Ichikawa H, Matsuda K** : Integrated exome and RNA sequencing of dedifferentiated liposarcoma. *Nat Commun*. 10(1):5683, 2019.
- 013 **Hayashi S, Moriyama T, Yamaguchi R, Mizuno S, Komura M, Miyano S, Nakagawa H, Imoto S** : ALPHLARD-NT: Bayesian Method for Human Leukocyte Antigen Genotyping and Mutation Calling through Simultaneous Analysis of Normal and Tumor Whole-Genome Sequence Data. *J Comput Biol*. 26(9):923-37, 2019.
- 014 **Hasegawa T, Yamaguchi R, Niida A, Miyano S, Imoto S** : Ensemble Smoothers for Inference of Hidden States and Parameters in Combinatorial Regulatory Model. *Journal of the Franklin Institute*. 357(5):2916-2933, 2020.
- 015 **Sato N, Kakuta M, Hasegawa T, Yamaguchi R, Uchino E, Kobayashi W, Sawada K, Tamura Y, Tokuda I, Murashita K, Nakaji S, Imoto S, Yanagita M, Okuno Y** : Metagenomic analysis of bacterial species in tongue microbiome of current and never smokers. *NPJ Biofilms Microbiomes*. 2020;6(1):11, 2020.
- 016 **Maeda-Minami A, Yoshino T, Katayama K, Horiba Y, Hikiami H, Shimada Y, Namiki T, Tahara E, Minamizawa K, Muramatsu S, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Mimura M, Nakamura T, Watanabe K** : Discrimination of prediction models between cold-heat and deficiency-excess patterns. *Complement Ther Med*. 49:102353, 2020.
- 017 **Kasajima R, Yamaguchi R, Shimizu E, Tamada Y, Niida A, Tremmel G, Kishida T, Aoki I, Imoto S, Miyano S, Uemura H, Miyagi Y** : Variant analysis of prostate cancer in Japanese patients and a new attempt to predict related biological pathways. *Oncol Rep*. 43(3):943-52, 2020.
- 018 **Hasegawa T, Yamaguchi R, Kakuta M, Sawada K, Kawatani K, Murashita K, Nakaji S, Imoto S** : Prediction of blood test values under different lifestyle scenarios using time-series electronic health record. *PLoS One*. 15(3):e0230172, 2020.
- 019 **Fujita M, Yamaguchi R, Hasegawa T, Shimada S, Arihiro K, Hayashi S, Maejima K, Nakano K, Fujimoto A, Ono A, Aikata H, Ueno M, Hayami S, Tanaka H, Miyano S, Yamaue H, Chayama K, Kakimi K, Tanaka S, Imoto S, Nakagawa H** : Classification of primary liver cancer with immunosuppression mechanisms and correlation with genomic alterations. *EBioMedicine*. 53:102659, 2020.
- 020 **ICGC/TCGA Pan-Cancer Analysis of Whole Genomes Consortium** : Pan-cancer analysis of whole genomes. *Nature*. 578(7793):82-93, 2020.

## 腫瘍制御学分野

- 001 **Hikita T, Kuwahara A, Watanabe R, Miyata M, Oneyama C** : Src in endosomal membranes promotes exosome secretion and tumor progression. *Sci Rep*. 9: 3265, 2019.
- 002 **Yajima M, Miyata M, Ikuta K, Hasegawa Y, Oneyama C, Kanda T** : Efficient Epstein-Barr virus progeny production mediated by cancer-derived LMP1 and virally-encoded microRNAs. *Microorganisms*, 7(5): 119, 2019
- 003 **Okuzaki D, Yamauchi T, Mitani F, Miyata M, Ninomiya Y, Watanabe R, Akamatsu H, Oneyama C** : c-Src promotes tumor progression via downregulation of miR-129-1-3p. *Cancer Sci*. 111(2): 418-428, 2019

## 腫瘍免疫応答研究分野

- 001 **Kagoya Y, Guo T, Yeung B, Saso K, Anczurowski M, Wang CH, Murata K, Sugata K, Saijo H, Matsunaga Y, Ohashi Y, Butler MO, Hirano N** : Genetic ablation of HLA Class I, Class II, and the T-cell receptor enables allogeneic T cells to be used for adoptive T-cell therapy. *Cancer Immunol Res*, 8: 926-936, 2020.

## 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

### 【原著】

- 001 **Ohue Y, Kurose K, Karasaki T, Isobe M, Yamaoka T, Futami J, Irei I, Masuda T, Fukuda M, Kinoshita A, Matsushita H, Shimizu K, Nakata M, Hattori N, Yamaguchi H, Fukuda M, Nozawa R, Kakimi K, Oka M.** : Serum Antibody Against NY-ESO-1 and XAGE1 Antigens Potentially Predicts Clinical Responses to Anti-Programmed Cell Death-1 Therapy in NSCLC. *J Thorac Oncol*. 14(12):2071-2083, 2019.
- 002 **Emoto K, Eguchi T, Tan KS, Takahashi Y, Aly RG, Rekhtman N, Travis WD, Adusumilli PS.** : Expansion of the Concept of Micropapillary Adenocarcinoma to Include a Newly Recognized Filigree Pattern as Well as the Classical Pattern Based on 1468 Stage I Lung Adenocarcinomas. *J Thorac Oncol* 14(11):1948-1961, 2019.
- 003 **Aly RG, Rekhtman N, Li X, Takahashi Y, Eguchi T, Tan KS, Rudin CM, Adusumilli PS, Travis WD.** : Spread Through Air Spaces (STAS) Is Prognostic in Atypical Carcinoid, Large Cell Neuroendocrine Carcinoma, and Small Cell Carcinoma of the Lung. *J Thorac Oncol* 14(9):1583-1593, 2019.
- 004 **Kataoka K, Miyoshi H, Sakata S, Dobashi A, Couronne L, Kogure Y, Sato Y, Nishida K, Gion Y, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Watatani Y, Kakiuchi N, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Sanada M, Onozawa M, Teshima T, Yoshiki Y, Ishida T, Suzuki K, Shimada K, Tomita A, Kato M, Ota Y, Izutsu K, Demachi-Okamura A, Akatsuka Y, Miyano S, Yoshino T, Gaulard P, Hermine O, Takeuchi K, Ohshima K, Ogawa S.** : Frequent structural variations involving programmed death ligands in Epstein-Barr virus-associated lymphomas. *Leukemia*. 33(7):1687, 2019.
- 005 **Takahashi Y, Kuroda H, Oya Y, Matsutani N, Matsushita H, Kawamura M.** : Challenges for real-time intraoperative diagnosis of high risk histology in lung adenocarcinoma: A necessity for sublobar resection. *Thorac Cancer* 10(8):1663-1668, 2019.
- 006 **Kobayashi Y, Yamada D, Kawai T, Sato Y, Teshima T, Yamada Y, Nakamura M, Suzuki M, Matsumoto A, Nakagawa T, Hosoi A, Nagaoka K, Karasaki T, Matsushita H,**

**Kume H, Kakimi K** : Different immunological effects of the molecular targeted agents sunitinib, everolimus and temsirolimus in patients with renal cell carcinoma. *Int J Oncol*. 56(4):999-1013, 2020.

- 007 **Matsushita H, Hasegawa K, Oda K, Yamamoto S, Asada K, Karasaki T, Yabuno A, Nishijima A, Nejo T, Kobayashi Y, Sato S, Ikeda Y, Miyai M, Takahashi Y, Yamaguchi R, Fujiwara K, Aburatani H, Kakimi K.** : Neoantigen load and HLA-class I expression identify a subgroup of tumors with a T cell-inflamed phenotype and favorable prognosis in homologous recombination-proficient high-grade serous ovarian carcinoma. *J Immunother Cancer*, 2020.
- 008 **高橋祐介, 岡村文子, 松下博和** : がん抗原と T 細胞による認識機構 実験医学増刊 37(15): 28-32, 2019.
- 009 **松下博和, 岡村文子, 高橋祐介** : ネオアンチゲンはがんに対するナチュラルに誘導されるあるいは治療により誘導される免疫応答の重要な標的である . 癌と化学療法, 46(9): 1372-1376, 2019.

## 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Taguchi A, Fahrman JF, Hanash SM** : A Promising CPS1 Inhibitor Keeping Ammonia from Fueling Cancer. *Cell Chem Biol*, 27:253-254, 2020.
- 002 **Pichler M, Rodriguez-Aguayo C, Nam SY, Dragomir MP, Bayraktar R, Anfossi S, Knutsen E, Ivan C, Fuentes-Matei E, Lee SK, Ling H, Catela Ivkovic T, Huang G, Huang L, Okugawa Y, Katayama H, Taguchi A, Bayraktar E, Bhattacharya R, Amero P, He WR, Tran AM, Vychytilova-Faltejskova P, Klec C, Bonilla DL, Zhang X, Kapitanovic S, Loncar B, Gafà R, Wang Z, Cristini V, Hanash SM, Bar-Eli M, Lanza G, Slaby O, Goel A, Rigoutsos I, Lopez-Berestein G, Calin GA** : Therapeutic potential of FLANC, a novel primate-specific long non-coding RNA in colorectal cancer. *Gut*, gutjnl-2019-318903, 2020. Online ahead of print.
- 003 **Taguchi A, Arenberg D** : Harnessing Immune Response to Malignant Lung Nodules. Promise and Challenges. *Am J Respir Crit Care Med*, 199:1184-1186, 2019.
- 004 **Fahrman JF, Bantis LE, Capello M, Scelo G, Dennison JB, Patel N, Murage E, Vykoukal J, Kundnani DL, Foretova L, Fabianova E, Holcatova I, Janout V, Feng Z, Yip-Schneider M, Zhang J, Brand R, Taguchi A, Maitra A, Brennan P, Max Schmidt C, Hanash S** : A Plasma-Derived Protein-Metabolite Multiplexed Panel for Early-Stage Pancreatic Cancer. *J Natl Cancer Inst*, 111:372-379, 2019.
- 005 **Yao W, Rose JL, Wang W, Seth S, Jiang H, Taguchi A, Liu J, Yan L, Kapoor A, Hou P, Chen Z, Wang Q, Nezi L, Xu Z, Yao J, Hu B, Pettazoni PF, Ho IL, Feng N, Ramamoorthy V, Jiang S, Deng P, Ma GJ, Den P, Tan Z, Zhang**

- SX, Wang H, Wang YA, Deem AK, Fleming JB, Carugo A, Heffernan TP, Maitra A, Viale A, Ying H, Hanash S, DePinho RA, Draetta GF* : Syndecan 1 is a critical mediator of macropinocytosis in pancreatic cancer. *Nature*, 568:410-414, 2019.
- 006 *Kajino T, Shimamura T, Gong S, Yanagisawa K, Ida L, Nakatochi M, Griesing S, Shimada Y, Kano K, Suzuki M, Miyano S, Takahashi T* : Divergent lncRNA MYMLR regulates MYC by eliciting DNA looping and promoter-enhancer interaction. *EMBO J*, 38:e98441, 2019.
- 007 *Hirata SI, Nagatake T, Sawane K, Hosomi K, Honda T, Ono S, Shibuya N, Saito E, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Suzuki H, Matsunaga A, Tomonaga T, Kiyono H, Kabashima K, Arita M, Kunisawa J* : Maternal  $\omega$  3 docosapentaenoic acid inhibits infant allergic dermatitis through TRAIL-expressing plasmacytoid dendritic cells in mice. *Allergy*, 75:1935-1951, 2020.
- 008 *Abe Y, Hirano H, Shoji H, Tada A, Isoyama J, Kakudo A, Gunji D, Honda K, Boku N, Adachi J, Tomonaga T* : Comprehensive characterization of the phosphoproteome of gastric cancer from endoscopic biopsy specimens. *Theranostics*, 10:2115-2129, 2020.
- 009 *Sawane K, Nagatake T, Hosomi K, Hirata SI, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Suzuki H, Matsunaga A, Fukumitsu S, Aida K, Tomonaga T, Arita M, Kunisawa J* : Dietary Omega-3 Fatty Acid Dampens Allergic Rhinitis via Eosinophilic Production of the Anti-Allergic Lipid Mediator 15-Hydroxyeicosapentaenoic Acid in Mice. *Nutrients*, 11:2868, 2019.
- 010 *Tiwari P, Nagatake T, Hirata SI, Sawane K, Saika A, Shibata Y, Morimoto S, Honda T, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Tomonaga T, Kiyono H, Kabashima K, Kunisawa J* : Dietary coconut oil ameliorates skin contact hypersensitivity through mead acid production in mice. *Allergy*, 74:1522-1532, 2019.
- 011 *Sato Y, Watanabe T, Suzuki C, Abe Y, Masud HMAA, Inagaki T, Yoshida M, Suzuki T, Goshima F, Adachi J, Tomonaga T, Murata T, Kimura H* : S-Like-Phase Cyclin-Dependent Kinases Stabilize the Epstein-Barr Virus BDLF4 Protein To Temporally Control Late Gene Transcription. *J Virol*, 93:e01707-18, 2019.
- wanpura S, Sagi I, Rose-John S, Jenkins BJ* : ADAM17 selectively activates the IL-6 trans-signaling/ERK MAPK axis in KRAS-addicted lung cancer. *EMBO Mol Med*, 11:e9976, 2019.
- 003 *Saad MI, McLeod L, Yu L, Ebi H, Ruwanpura S, Sagi I, Rose-John S, Jenkins BJ* : The ADAM17 Protease Promotes Tobacco Smoke Carcinogen-induced Lung Tumorigenesis. *Carcinogenesis*, bgz123, 2019.
- 004 *Yaeger R, Kotani D, Mondaca S, Parikh AR, Bando H, Van Seventer EE, Taniguchi H, Zhao H, Thant CN, de Stanchina E, Rosen N, Corcoran RB, Yoshino T, Yao Z, Ebi H* : Response to Anti-EGFR Therapy in Patients with BRAF non-V600-Mutant Metastatic Colorectal Cancer. *Clin Cancer Res*, 25:7089-7097, 2019.
- 005 *Costa C, Wang Y, Ly A, Hosono Y, Ellen M, Walmsley CS, Huynh T, Healy C, Peterson R, Yanase S, Jakubik CT, Henderson LE, Damon LJ, Timonina D, Sanidas I, Pinto CJ, Mino-Kenudson M, Stone JR, Dyson NJ, Ellisen LW, Bardia A, Ebi H, Benes CH, Engelman JA, Juric D* : PTEN loss mediates clinical cross-resistance to CDK4/6 and PI3Kalpha inhibitors in breast cancer. *Cancer Discov*, 10(1):72-85, 2020.
- 006 *Hosono Y, Masuishi T, Mitani S, Yamaguchi R, Kato S, Yoshino T, Ebi H* : Evaluation of ALK fusion newly identified in colon cancer by a comprehensive genomic analysis. *JCO Precision Oncology*, 3:1-5, 2019.
- 007 *Ebi H, Boikos S, Faber AC* : Respecting your elders: osimertinib demonstrates preferential activity in elderly patients with T790M positive non-small cell lung cancers. *Journal of Thoracic Disease*, (Suppl 15):S1844-S1846, 2019.
- 008 *Ebi H, Bando H* : Precision Oncology and the Universal Health Coverage System in Japan. *JCO Precision Oncology*, 3:1-12, 2019.
- 009 **衣斐寛倫** : 分子標的薬の併用 2) BRAF 変異腫瘍に対する併用療法 . 腫瘍内科 , 24:32-38, 2019.

#### がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 *Kondoh C, Horio Y, Hayashi Y, Ebi H, Hida T, Hasegawa Y, Yatabe Y* : Anaplastic lymphoma kinase expression in small-cell lung cancer. *Histopathology*, 75:20-28, 2019.
- 002 *Saad MI, Alhassani S, McLeod L, Yu L, Alanazi M, Deswaerte V, Tang K, Jarde T, Smith JA, Prodanovic Z, Tate MD, Balic JJ, Watkins DN, Cain JE, Bozinovski S, Algar E, Kohmoto T, Ebi H, Ferlin W, Garbers C, Ru-*